茨城県教育財団文化財調査報告第174集

島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書V

熊の山遺跡
(上巻)

平成13年3月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第174集

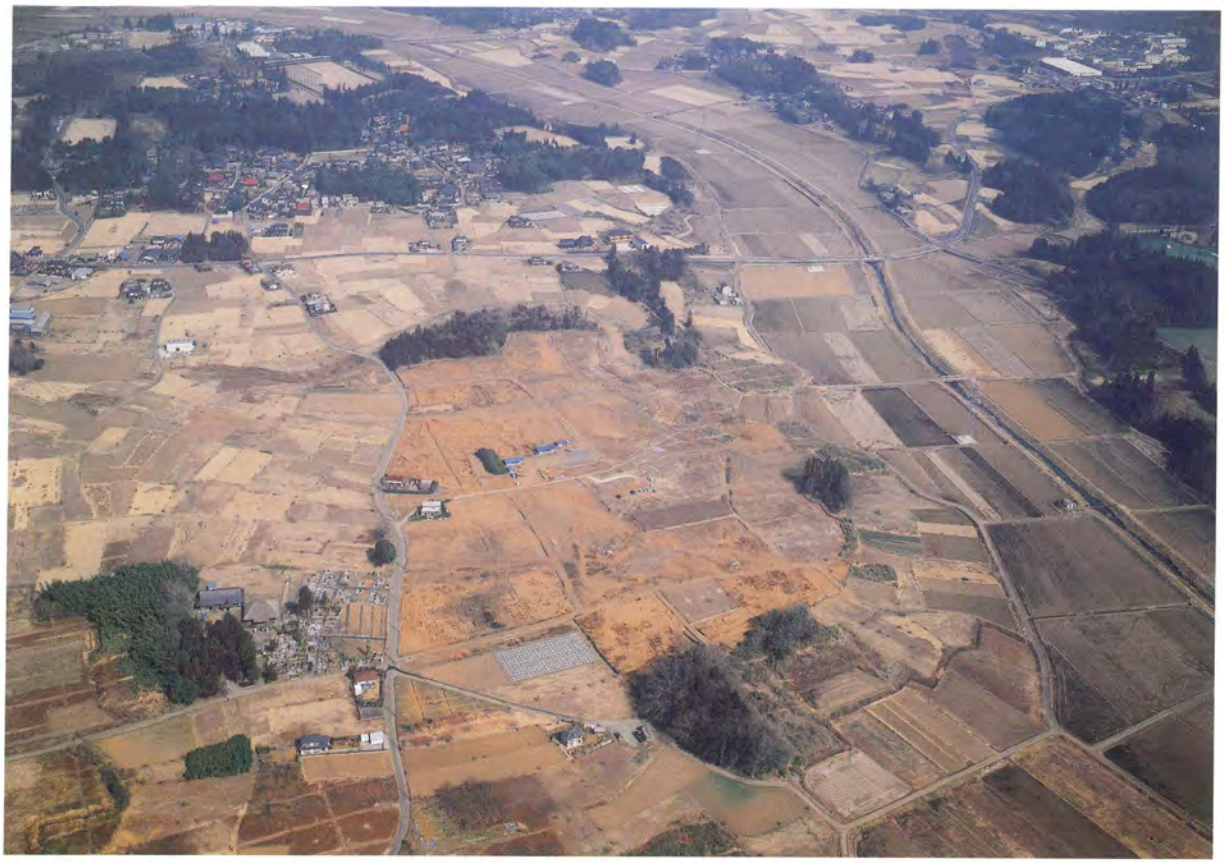
島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

熊の山遺跡
（上巻）

平成13年3月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

8区出土の須恵器大甕



熊の山遺跡遠景（南から）

8区遺構群（北から）

序

茨城県は，昭和38年に筑波研究学園都市計画地域の指定を受けて以来，日本の科学技術の研究開発の核として，さらには，国際交流の拠点都市としてふさわしい町づくりを進めております。

この新しい町づくりに欠かせない交通機関である常磐新線の整備は，つくば市と東京圏を直結し，人・物・情報の交流を盛んにするだけでなく，地域活性化の大きな力となります。そこで，平成６年７月に県，市，地権者が三者協議で合意に達したのを受け，新線整備と沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業が進められております。

この予定地内に熊の山遺跡が存在していたため，財団法人茨城県教育財団は，茨城県から埋蔵文化財発掘調査についての委託を受け，平成７年４月から発掘調査を実施してまいりました。その成果の一部は，既に平成８年度に「（仮称）島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」，平成９年度に「（仮称）島名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」，平成10年度に「（仮称）島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」，平成11年度に「島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」として刊行いたしました。

本書は，平成10年度と平成11年度に調査を行った熊の山遺跡の成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより，教育・文化の向上の一助として，御活用いただければ幸いです。

なお，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である茨城県からいただいた多大なる御協力に対し，心から御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，つくば市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から御指導，御協力をいただいたことに対し，衷心より感謝の意を表します。

平成13年３月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　齋　藤　佳　郎

例　　言

1　本書は，茨城県の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成10年度及び平成11年度に発掘調査を実施した，茨城県つくば市大字島名に所在する熊の山遺跡の一部（２・４・５・８区）の発掘調査報告書である。

2　当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査　平成10年４月1日～平成12年３月31日

整理　平成12年４月1日～平成13年３月31日

3　当遺跡の発掘調査は，平成10年度においては調査第二課長小泉光正の指揮のもと，調査第二課第一班長横堀孝徳，主任調査員江幡良夫，藤田哲也，三谷正，川上直登，稲田義弘が担当した。平成11年度においては調査第二課長小泉光正の指揮のもと，調査第二課第二班長横堀孝徳，主任調査員原信田正夫が４月１日から11月30日まで，主任調査員平松孝志が４月１日から９月30日まで，主任調査員三谷正，稲田義弘が４月１日から６月30日，10月１日から11月30日まで担当した。

4　当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は，整理課長川井正一，首席調査員萩野谷悟の指揮のもと，主任調査員藤田哲也，三谷正，原信田正夫，川上直登，稲田義弘が担当した。執筆分担は，以下のとおりである。なお，第３章第３節１～４(1)竪穴住居跡，(2)掘立柱建物跡及びその他の主な遺構については，遺構番号を記した。

藤　田　第３章第３節２

第407・963・968・971・1016・1021・1023・1024・1027～1029・1037・1043・1049・1053・1059～1061・1157～1159・1162～1169・1171～1173・1176号住居跡

第55～57号掘立柱建物跡

その他の主な遺構（第１号鍛冶工房跡，第12・60号溝，第21号地下式壙，第９～15号方形竪穴状遺構，第５号柵列跡，第２・３号ピット群，第917～919号土坑）

第３章第３節４

第514・1200～1222・1231・1232・1235・1239・1241～1243号住居跡

第72～81・88・89・100～110号掘立柱建物跡

その他の主な遺構（第16号溝，第21号方形竪穴状遺構，第４・31～33号井戸跡，第847・881・886号土坑）

三　谷　第３章第３節２

第20～23・29・954～961・964～967・969・970・972～1014・1017～1020・1030～1035・1039・1040・1042・1044～1048・1051・1052・1054・1062～1080号住居跡

第53・54・59・60・130号掘立柱建物跡

その他の主な遺構（第35Ａ号溝，第28号井戸跡，第３・４号柵列跡，第４号ピット群）

第３章第４節まとめ

２　古墳時代の集落の様相(1)

３　奈良・平安時代の集落の様相(3)

原信田　第１章～第３章第１・２節，第３節４

第504・508・509・520・918・919・926・927・931・933・939・941・943～945・1223～1228・

1230・1233・1234・1236～1238・1401・1404・1405・1408～1415・1420～1432・1434・1438～1444・1445A・B・1447号住居跡

第37・41・42・44～47・70・71・82～87A・B・118～121・123～127号掘立柱建物跡

その他の主な遺構（第35B号溝，第29・30号井戸跡，第5・9号道路状遺構）

第3章第4節まとめ

3　奈良・平安時代の集落の様相(1)，(2)

川　上　第3章第3節1

第1244・1245・1246号住居跡，第80号溝

第3章第3節3

第748・1451～1455・1458～1460号住居跡，第128号掘立柱建物跡

その他の主な遺構（第18・91号溝，第1408・1409号土坑）

稲　田　第3章第3節2

第129・130・1055・1056・1100～1156・1160・1161・1170・1456・1461～1465号住居跡

第58・129号掘立柱建物跡

その他の主な遺構（第22～26号地下式壙，第16～19号方形竪穴状遺構，第736・812号土坑）

第3章第4節まとめ

2　古墳時代の集落の様相(2)

5　本書の作成にあたり，郡衙周辺域の様相及び末端支配機構については奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センターの集落遺跡研究室長山中敏史氏に，律令期における地方社会の構造及び河内郡における集落構成については，埼玉県埋蔵文化財調査事業団の主任調査員田中広明氏に，御教示いただいた。墨書・刻書の判読については国立歴史民俗博物館教授の平川南氏に，住居跡から検出された人骨片については国立歴史民俗博物館教授の西本豊弘氏に鑑定・分析をいただいた。第30号井戸跡から出土した馬骨については茨城大学農学部教授の足立吉藪氏，同教授の松澤安夫氏に御教示いただいた。

6　当遺跡から出土した炭化物・灰の材質の自然科学分析は，パリノ・サーヴェイ株式会社の考古学研究室に，木製品の樹種の同定は株式会社吉田生物研究所に依頼して実施し，成果は付章として収録した。

7　発掘調査及び整理に際し御指導・御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，X＝＋7,320m，Y＝＋20,160mの交点を基準点（A1a1）とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C……，西から東へ1，2，3……とし，「A1区」，「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は，北から南へa，b，c……j，西から東へ1，2，3……0とし，名称は，大調査区の名称を冠して「A1a1区」，「B2b2区」のように呼称した。

その他，調査年次等による調査区の名称は第4図に示した。

2　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　住居跡－SI　掘立柱建物跡－SB　柵列跡－SA　土坑－SK　井戸跡－SE　溝－SD
道路状遺構－SF　不明遺構－SX　ピット－P

遺物　土器・陶器－P　土製品－DP　石器・石製品－Q　金属製品・古銭－M　拓本記録土器－TP

土層　撹乱－K

計測値　現存値－（　）　推定値－［　］

3　遺構番号は平成7年度調査からの継続である。

4　土層観察と遺物における色調の判定には，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

（1）　遺跡全体図は600分の1，調査区ごとの遺構全体図は，調査2・4・5・8区を300分の1とした。遺構は60分の1，または80分の1に縮尺して掲載した。

（2）　遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もある。

（3）　遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

竈・粘土　黒色処理　焼土・施釉・赤彩　竈覆土・柱痕・柱抜き取り痕　炉・鍛冶炉　油煙　漆・煤

● 土器　○ 土製品　□ 石器・石製品　△ 金属製品　▲ 拓本記録土器　-·-·- 硬化面範囲

6　遺物観察表の作成方法については，次のとおりである。

（1）　土器の計測値の表示は，口径－A　器高－B　底径－C　高台径－D　高台高－E　つまみ径－F　つまみ高－Gとし，単位はcmである。

（2）　備考の欄は，残存率，実測番号（Pなど）及びその他必要と思われる事項を記した。

7　「主軸」は，竈を持つ竪穴住居跡については竈を通る軸線とし，他の遺構については長軸（径）を主軸とみなした。「主軸・長軸方向」は主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N－10°－E）。

抄　　録

ふりがな	しまな・ふくだつぼいったいがたとくていとちくかくせいりじぎょうちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
副書名	熊の山遺跡
巻次	V
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第174集
著者名	藤田　哲也，三谷　正，原信田正夫，川上　直登，稲田　義弘
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL 029－225－6587
発行機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL 029－225－6587
発行日	2001（平成13）年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
くまのやまいせき 熊の山遺跡	いばらきけんつくばし 茨城県つくば市 おおあざしまなあざごう 大字島名字道 じょうまえばんち 場前1640番地 ほか	08220－214	36度 3分 41秒	140度 3分 46秒	19 ～ 22m	19980401 ～ 20000331	21,381㎡	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
熊の山遺跡	集落跡	古墳	竪穴住居跡　134軒 掘立柱建物跡　7棟	土師器　須恵器　土製品（土錘・土玉・支脚）石器・石製品（紡錘車・勾玉・砥石・石製模造品）鉄製品（鏃・鎌）	熊の山遺跡では，平成12年度整理分を含めて過去5か年間で，古墳時代から平安時代に位置づけられる1300軒以上の竪穴住居跡，120棟以上の掘立柱建物跡が調査されている。県内でも最大規模の集落跡といえる。この地域は，古代の行政組織で常陸国河内郡島名郷に属しており，熊の山遺跡はその中心的集落跡になるものと考えられる。
		奈良・平安	竪穴住居跡　171軒 掘立柱建物跡　53棟 鍛冶工房跡　1軒 溝　3条 井戸跡　1基 土坑　2基	土師器　須恵器　土製品（土錘・支脚）石器・石製品（砥石・腰帯具・紡錘車）鉄器・鉄製品（刀子・鎌・鏃・紡錘車・鋤先・釘・閂金具・馬具・腰帯具）灰釉陶器　馬骨　皇朝十二銭（長年大寶）	
		中世	地下式壙　6基 井戸跡　1基 方形竪穴状遺構　1基 道路状遺構　2条 火葬施設　4基 土坑　1基	陶器　磁器　古銭	
		時期不明	竪穴住居跡　4軒 方形竪穴状遺構　12基 土坑　388基 溝　26条 井戸跡　5基		
	その他	縄文	陥し穴　1基	縄文土器片 石鏃	

総　目　次

－上　巻－

序
例　言
凡　例
抄　録
第1章　調査経緯 …… 1
　第1節　調査に至る経過 …… 1
　第2節　調査経過 …… 1
第2章　位置と環境 …… 3
　第1節　地理的環境 …… 3
　第2節　歴史的環境 …… 3
第3章　調査の成果 …… 9
　第1節　遺跡の概要 …… 9
　第2節　基本層序の検討 …… 9
　第3節　遺構と遺物 …… 11
　　1　2区の遺構と遺物 …… 11
　　(1)　竪穴住居跡 …… 11
　　①　古墳時代 …… 11
　　②　奈良・平安時代 …… 13
　　(2)　溝 …… 16
　　(3)　遺構外出土遺物 …… 16
　　2　4区の遺構と遺物 …… 18
　　(1)　竪穴住居跡 …… 18
　　①　古墳時代 …… 18
　　②　奈良・平安時代 …… 263

－中　巻－

　　②　奈良・平安時代 …… 445
　　(2)　掘立柱建物跡 …… 485
　　①　古墳時代 …… 485
　　②　奈良・平安時代 …… 498
　　(3)　鍛冶工房跡 …… 507
　　(4)　柵列跡 …… 510
　　(5)　溝 …… 513
　　(6)　井戸跡 …… 519
　　(7)　地下式壙 …… 520
　　(8)　方形竪穴状遺構 …… 526
　　(9)　ピット群 …… 537

(10) 土坑 …… 538
① 陥し穴 …… 538
② 火葬施設 …… 539
③ 墓壙 …… 541
④ 墓壙の可能性がある土坑 …… 542
(11) 遺構外出土遺物 …… 551
3 5区の遺構と遺物 …… 557
(1) 竪穴住居跡 …… 557
① 古墳時代 …… 557
② 奈良・平安時代 …… 569
(2) 掘立柱建物跡 …… 575
① 奈良・平安時代 …… 575
(3) 溝 …… 577
(4) 土坑 …… 578
(5) 遺構外出土遺物 …… 579
4 8区の遺構と遺物 …… 581
(1) 竪穴住居跡 …… 581
① 古墳時代 …… 581
② 奈良・平安時代 …… 701

－下 巻－

(2) 掘立柱建物跡 …… 853
① 古墳時代 …… 853
② 奈良・平安時代 …… 854
(3) 溝 …… 927
(4) 井戸跡 …… 949
(5) 道路状遺構 …… 966
(6) 方形竪穴状遺構 …… 968
(7) 土坑 …… 970
① 火葬施設 …… 970
② 墓壙 …… 971
③ その他の土坑 …… 972
(8) 遺構外出土遺物 …… 982
第4節 まとめ …… 985
付 章
熊の山遺跡の自然科学分析 …… パリノ・サーヴェイ株式会社
1 熊の山遺跡第1425A号住居跡から出土した炭化物の分析
2 熊の山遺跡第881号土坑覆土中の灰の材質について
熊の山遺跡第31号井戸出土木製品の樹種調査 …… 株式会社吉田生物研究所
3 熊の山遺跡第31号井戸出土木製品の樹種同定結果
写真図版

挿図目次

－上　巻－

第 1 図　周辺遺跡位置図 …… 6
第 2 図　熊の山遺跡グリッド設定図 …… 8
第 3 図　基本土層図 …… 9
第 4 図　熊の山遺跡調査区設定図 …… 10
第 5 図　第1244号住居跡実測図 …… 11
第 6 図　第1244号住居跡出土遺物実測図 …… 12
第 7 図　第1245号住居跡実測図 …… 13
第 8 図　第1245号住居跡出土遺物実測図 …… 14
第 9 図　第1246号住居跡実測図 …… 14
第10図　第1246号住居跡出土遺物実測図 …… 15
第11図　第80号溝土層断面図 …… 16
第12図　2区遺構外出土遺物実測図 …… 16
第13図　熊の山遺跡2区遺構全体図 …… 17
第14図　第20号住居跡・出土遺物実測図 …… 19
第15図　第21・22号住居跡実測図，第21号住居跡出土遺物実測図 …… 21
第16図　第22号住居跡出土遺物実測図 …… 23
第17図　第29号住居跡出土遺物実測図 …… 24
第18図　第29号住居跡実測図 …… 25
第19図　第130号住居跡・出土遺物実測図 …… 26
第20図　第407号住居跡・出土遺物実測図 …… 29
第21図　第956号住居跡実測図 …… 31
第22図　第956号住居跡出土遺物実測図(1) …… 32
第23図　第956号住居跡出土遺物実測図(2) …… 33
第24図　第957号住居跡実測図 …… 36
第25図　第957号住居跡出土遺物実測図 …… 37
第26図　第958号住居跡・出土遺物実測図 …… 39
第27図　第959号住居跡出土遺物実測図 …… 41
第28図　第959・992号住居跡実測図 …… 41
第29図　第960号住居跡出土遺物実測図 …… 42
第30図　第960号住居跡実測図 …… 43
第31図　第961・964号住居跡実測図，第961号住居跡出土遺物実測図 …… 44
第32図　第963号住居跡・出土遺物実測図 …… 46
第33図　第964号住居跡出土遺物実測図 …… 47
第34図　第966号住居跡・出土遺物実測図 …… 48
第35図　第968号住居跡実測図 …… 51
第36図　第968号住居跡出土遺物実測図(1) …… 52
第37図　第968号住居跡出土遺物実測図(2) …… 53
第38図　第969号住居跡・出土遺物実測図 …… 55
第39図　第970号住居跡・出土遺物実測図 …… 57
第40図　第971号住居跡・出土遺物実測図 …… 59
第41図　第972・973号住居跡実測図 …… 61
第42図　第972・973号住居跡実測図，第972号住居跡出土遺物実測図 …… 62
第43図　第973号住居跡出土遺物実測図(1) …… 64
第44図　第973号住居跡出土遺物実測図(2) …… 65
第45図　第974・975号住居跡実測図 …… 67
第46図　第974・975号住居跡実測図，第974号住居跡出土遺物実測図 …… 68
第47図　第975号住居跡出土遺物実測図 …… 70
第48図　第978号住居跡・出土遺物実測図 …… 72
第49図　第979号住居跡実測図 …… 75
第50図　第979号住居跡・出土遺物実測図 …… 76
第51図　第980号住居跡・出土遺物実測図 …… 77
第52図　第981号住居跡実測図 …… 79
第53図　第981号住居跡出土遺物実測図(1) …… 80
第54図　第981号住居跡出土遺物実測図(2) …… 81
第55図　第983号住居跡実測図 …… 82
第56図　第983号住居跡出土遺物実測図 …… 83
第57図　第984号住居跡・出土遺物実測図 …… 84
第58図　第987号住居跡実測図 …… 87
第59図　第987号住居跡出土遺物実測図(1) …… 88
第60図　第987号住居跡出土遺物実測図(2) …… 89
第61図　第990号住居跡実測図 …… 91
第62図　第990号住居跡出土遺物実測図 …… 92
第63図　第991号住居跡実測図 …… 94
第64図　第991号住居跡・出土遺物実測図 …… 95
第65図　第994号住居跡実測図 …… 97
第66図　第994号住居跡出土遺物実測図 …… 98

第 67 図　第998号住居跡・出土遺物実測図 … 100
第 68 図　第1001号住居跡・出土遺物実測図 … 101
第 69 図　第1002・1004号住居跡実測図(1) …… 104
第 70 図　第1002・1004号住居跡実測図(2),
第1002号住居跡出土遺物実測図(1) … 105
第 71 図　第1002号住居跡出土遺物実測図(2) … 106
第 72 図　第1006号住居跡実測図 …… 110
第 73 図　第1007号住居跡出土遺物実測図 …… 111
第 74 図　第1007号住居跡実測図 …… 111
第 75 図　第1008号住居跡実測図 …… 113
第 76 図　第1008号住居跡出土遺物実測図 …… 114
第 77 図　第1010号住居跡実測図 …… 116
第 78 図　第1010号住居跡出土遺物実測図 …… 117
第 79 図　第1011号住居跡・出土遺物実測図 … 119
第 80 図　第1012号住居跡実測図 …… 122
第 81 図　第1012号住居跡出土遺物実測図 …… 123
第 82 図　第1018号住居跡実測図 …… 125
第 83 図　第1024号住居跡・出土遺物実測図 … 126
第 84 図　第1029号住居跡・出土遺物実測図 … 128
第 85 図　第1032号住居跡実測図 …… 129
第 86 図　第1032号住居跡出土遺物実測図 …… 130
第 87 図　第1034号住居跡実測図 …… 131
第 88 図　第1034号住居跡出土遺物実測図 …… 132
第 89 図　第1037号住居跡・出土遺物実測図 … 134
第 90 図　第1040号住居跡実測図 …… 138
第 91 図　第1040号住居跡・出土遺物実測図 … 139
第 92 図　第1044・1045号住居跡実測図(1) …… 141
第 93 図　第1044・1045号住居跡実測図(2) …… 142
第 94 図　第1044号住居跡出土遺物実測図 …… 143
第 95 図　第1045号住居跡出土遺物実測図 …… 146
第 96 図　第1048号住居跡・出土遺物実測図 … 149
第 97 図　第1049号住居跡実測図 …… 152
第 98 図　第1049号住居跡出土遺物実測図 …… 153
第 99 図　第1051号住居跡実測図 …… 155
第100図　第1051号住居跡出土遺物実測図 …… 156
第101図　第1054号住居跡・出土遺物実測図 … 158
第102図　第1055号住居跡・出土遺物実測図 … 160
第103図　第1055号住居跡出土遺物実測図 …… 161
第104図　第1061号住居跡実測図 …… 163
第105図　第1061号住居跡出土遺物実測図 …… 164
第106図　第1063号住居跡実測図 …… 166
第107図　第1063号住居跡出土遺物実測図 …… 167
第108図　第1064号住居跡実測図 …… 169
第109図　第1064号住居跡出土遺物実測図 …… 170
第110図　第1067号住居跡出土遺物実測図 …… 172
第111図　第1067号住居跡実測図 …… 172
第112図　第1074号住居跡・出土遺物実測図 … 174
第113図　第1075・1076号住居跡実測図 …… 177
第114図　第1075・1076号住居跡実測図,
第1075号住居跡出土遺物実測図 …… 178
第115図　第1076号住居跡出土遺物実測図 …… 180
第116図　第1078号住居跡実測図 …… 182
第117図　第1078号住居跡出土遺物実測図 …… 183
第118図　第1079号住居跡実測図 …… 185
第119図　第1079号住居跡出土遺物実測図 …… 186
第120図　第1080号住居跡実測図 …… 189
第121図　第1080号住居跡出土遺物実測図(1) … 190
第122図　第1080号住居跡出土遺物実測図(2) … 191
第123図　第1102号住居跡実測図(1) …… 193
第124図　第1102号住居跡実測図(2) …… 194
第125図　第1102号住居跡出土遺物実測図 …… 195
第126図　第1103号住居跡実測図 …… 196
第127図　第1103号住居跡出土遺物実測図 …… 197
第128図　第1106号住居跡・出土遺物実測図 … 198
第129図　第1110号住居跡実測図 …… 200
第130図　第1110号住居跡・出土遺物実測図(1)
…… 201
第131図　第1110号住居跡出土遺物実測図(2) … 203
第132図　第1110号住居跡出土遺物実測図(3) … 204
第133図　第1115号住居跡・出土遺物実測図 … 207
第134図　第1115号住居跡出土遺物実測図 …… 208
第135図　第1119号住居跡実測図 …… 210
第136図　第1119号住居跡出土遺物実測図 …… 211
第137図　第1121号住居跡実測図 …… 213
第138図　第1121号住居跡出土遺物実測図 …… 214
第139図　第1122・1123号住居跡実測図 …… 216

第140図　第1122・1123号住居跡実測図，
第1122号住居跡出土遺物実測図 …… 217
第141図　第1122号住居跡出土遺物実測図 …… 218
第142図　第1123号住居跡出土遺物実測図 …… 220
第143図　第1133・1134号住居跡実測図 …… 222
第144図　第1133・1134号住居跡実測図，
第1133号住居跡出土遺物実測図 …… 223
第145図　第1134号住居跡出土遺物実測図 …… 225
第146図　第1139号住居跡実測図 …… 227
第147図　第1139号住居跡出土遺物実測図 …… 228
第148図　第1144号住居跡実測図 …… 230
第149図　第1144号住居跡出土遺物実測図(1) … 231
第150図　第1144号住居跡出土遺物実測図(2) … 232
第151図　第1145号住居跡実測図 …… 234
第152図　第1145号住居跡・出土遺物実測図 … 235
第153図　第1145号住居跡出土遺物実測図 …… 237
第154図　第1154号住居跡・出土遺物実測図 … 240
第155図　第1154号住居跡出土遺物実測図 …… 241
第156図　第1155号住居跡実測図 …… 242
第157図　第1155号住居跡出土遺物実測図 …… 243
第158図　第1159号住居跡実測図 …… 245
第159図　第1159号住居跡出土遺物実測図 …… 246
第160図　第1163号住居跡実測図 …… 249
第161図　第1163号住居跡出土遺物実測図(1) … 251
第162図　第1163号住居跡出土遺物実測図(2) … 252
第163図　第1165・1166号住居跡実測図 …… 254
第164図　第1165・1166号住居跡実測図，
第1165号住居跡出土遺物実測図 …… 255
第165図　第1166号住居跡出土遺物実測図 …… 256
第166図　第1456号住居跡・出土遺物実測図 … 258
第167図　第1463号住居跡実測図 …… 259
第168図　第1463号住居跡出土遺物実測図 …… 260
第169図　第1465号住居跡実測図 …… 261
第170図　第1465号住居跡出土遺物実測図 …… 262
第171図　第23号住居跡・出土遺物実測図 …… 264
第172図　第129号住居跡・出土遺物実測図 … 266
第173図　第954号住居跡実測図 …… 268
第174図　第954号住居跡出土遺物実測図 …… 269
第175図　第955・977・995号住居跡実測図 … 270
第176図　第955号住居跡出土遺物実測図 …… 271
第177図　第965号住居跡実測図 …… 272
第178図　第965号住居跡出土遺物実測図 …… 273
第179図　第967号住居跡・出土遺物実測図 … 274
第180図　第976号住居跡・出土遺物実測図 … 276
第181図　第977号住居跡出土遺物実測図 …… 278
第182図　第982号住居跡・出土遺物実測図 … 280
第183図　第985号住居跡実測図 …… 282
第184図　第985号住居跡出土遺物実測図 …… 283
第185図　第986号住居跡・出土遺物実測図 … 284
第186図　第988号住居跡実測図 …… 286
第187図　第988号住居跡出土遺物実測図 …… 287
第188図　第989号住居跡・出土遺物実測図 … 288
第189図　第993号住居跡実測図 …… 290
第190図　第993号住居跡出土遺物実測図(1) … 291
第191図　第993号住居跡出土遺物実測図(2) … 292
第192図　第996号住居跡・出土遺物実測図 … 293
第193図　第997号住居跡実測図 …… 295
第194図　第997号住居跡出土遺物実測図(1) … 296
第195図　第997号住居跡出土遺物実測図(2) … 297
第196図　第999号住居跡実測図 …… 300
第197図　第999号住居跡遺物出土状況・出土
遺物実測図 …… 301
第198図　第999号住居跡出土遺物実測図 …… 302
第199図　第1000号住居跡実測図 …… 305
第200図　第1003号住居跡実測図 …… 306
第201図　第1003号住居跡出土遺物実測図(1) … 307
第202図　第1003号住居跡出土遺物実測図(2) … 308
第203図　第1005号住居跡・出土遺物実測図 … 309
第204図　第1009号住居跡・出土遺物実測図 … 311
第205図　第1009号住居跡出土遺物実測図 …… 312
第206図　第1013号住居跡・出土遺物実測図 … 313
第207図　第1014号住居跡・出土遺物実測図 … 315
第208図　第1017号住居跡実測図 …… 316
第209図　第1017号住居跡出土遺物実測図 …… 317
第210図　第1019号住居跡実測図 …… 319
第211図　第1019号住居跡出土遺物実測図 …… 320

第212図　第1020号住居跡・出土遺物実測図 … 321
第213図　第1023号住居跡実測図 …… 322
第214図　第1023号住居跡出土遺物実測図 …… 323
第215図　第1027号住居跡実測図 …… 324
第216図　第1027号住居跡出土遺物実測図 …… 325
第217図　第1028号住居跡実測図 …… 326
第218図　第1028号住居跡出土遺物実測図 …… 327
第219図　第1030号住居跡・出土遺物実測図 … 329
第220図　第1030号住居跡出土遺物実測図 …… 330
第221図　第1031号住居跡実測図 …… 332
第222図　第1031号住居跡出土遺物実測図 …… 333
第223図　第1033号住居跡・出土遺物実測図 … 334
第224図　第1035号住居跡・出土遺物実測図 … 336
第225図　第1039・1047号住居跡実測図 …… 338
第226図　第1039号住居跡出土遺物実測図 …… 339
第227図　第1042号住居跡実測図 …… 340
第228図　第1042号住居跡出土遺物実測図 …… 341
第229図　第1043号住居跡・出土遺物実測図 … 343
第230図　第1046号住居跡実測図 …… 344
第231図　第1046号住居跡出土遺物実測図 …… 345
第232図　第1047号住居跡出土遺物実測図 …… 347
第233図　第1052号住居跡・出土遺物実測図 … 349
第234図　第1053号住居跡実測図 …… 351
第235図　第1053号住居跡出土遺物実測図 …… 352
第236図　第1056号住居跡実測図 …… 354
第237図　第1056号住居跡出土遺物実測図 …… 355
第238図　第1059号住居跡・出土遺物実測図 … 357
第239図　第1059号住居跡出土遺物実測図 …… 358
第240図　第1060号住居跡実測図 …… 360
第241図　第1060号住居跡出土遺物実測図(1) … 361
第242図　第1060号住居跡出土遺物実測図(2) … 362
第243図　第1062号住居跡・出土遺物実測図 … 363
第244図　第1065・1066号住居跡実測図 …… 366
第245図　第1065・1066号住居跡実測図，
第1065号住居跡出土遺物実測図 …… 367
第246図　第1066号住居跡出土遺物実測図 …… 368
第247図　第1068号住居跡実測図 …… 370
第248図　第1068号住居跡出土遺物実測図 …… 371
第249図　第1069号住居跡実測図 …… 373
第250図　第1069号住居跡出土遺物実測図 …… 374
第251図　第1070号住居跡実測図 …… 376
第252図　第1070号住居跡出土遺物実測図 …… 377
第253図　第1071号住居跡・出土遺物実測図 … 379
第254図　第1071号住居跡出土遺物実測図 …… 380
第255図　第1072・1073号住居跡実測図 …… 382
第256図　第1072・1073号住居跡実測図，
第1072号住居跡出土遺物実測図 …… 383
第257図　第1073号住居跡出土遺物実測図 …… 385
第258図　第1077号住居跡実測図 …… 388
第259図　第1077号住居跡・出土遺物実測図 … 389
第260図　第1077号住居跡出土遺物実測図 …… 390
第261図　第1100・1101号住居跡実測図，
第1100号住居跡出土遺物実測図 …… 391
第262図　第1101号住居跡出土遺物実測図 …… 393
第263図　第1104号住居跡・出土遺物実測図 … 395
第264図　第1107号住居跡・出土遺物実測図 … 396
第265図　第1108・1111号住居跡実測図 …… 398
第266図　第1108号住居跡出土遺物実測図 …… 399
第267図　第1109号住居跡・出土遺物実測図 … 400
第268図　第1111号住居跡出土遺物実測図 …… 401
第269図　第1112号住居跡実測図 …… 402
第270図　第1112号住居跡出土遺物実測図 …… 403
第271図　第1113号住居跡実測図 …… 404
第272図　第1113号住居跡出土遺物実測図 …… 405
第273図　第1114号住居跡・出土遺物実測図 … 406
第274図　第1116号住居跡実測図 …… 407
第275図　第1120号住居跡・出土遺物実測図 … 408
第276図　第1124・1125号住居跡実測図，
第1124号住居跡出土遺物実測図 …… 410
第277図　第1125号住居跡出土遺物実測図 …… 411
第278図　第1126・1127号住居跡実測図 …… 412
第279図　第1126号住居跡出土遺物実測図 …… 413
第280図　第1127号住居跡出土遺物実測図 …… 414
第281図　第1128号住居跡・出土遺物実測図 … 416
第282図　第1129号住居跡実測図 …… 417
第283図　第1130号住居跡・出土遺物実測図 … 418

第284図　第1131・1136号住居跡実測図，第1131号住居跡出土遺物実測図 …… 420
第285図　第1135号住居跡・出土遺物実測図 … 422
第286図　第1136号住居跡出土遺物実測図 …… 424
第287図　第1138号住居跡・出土遺物実測図 … 425
第288図　第1140号住居跡実測図 …… 427
第289図　第1140号住居跡出土遺物実測図 …… 428
第290図　第1141号住居跡・出土遺物実測図 … 430
第291図　第1141号住居跡出土遺物実測図 …… 431
第292図　第1142号住居跡・出土遺物実測図 … 432
第293図　第1143号住居跡・出土遺物実測図 … 433
第294図　第1146号住居跡・出土遺物実測図 … 435
第295図　第1146号住居跡出土遺物実測図 …… 436
第296図　第1147号住居跡実測図 …… 439
第297図　第1147号住居跡出土遺物実測図 …… 440
第298図　第1148号住居跡・出土遺物実測図 … 442
第299図　第1148号住居跡出土遺物実測図 …… 443

－中　巻－

第300図　第1149号住居跡・出土遺物実測図 … 446
第301図　第1149号住居跡出土遺物実測図 …… 447
第302図　第1151号住居跡実測図 …… 449
第303図　第1151号住居跡出土遺物実測図 …… 450
第304図　第1152号住居跡・出土遺物実測図 … 452
第305図　第1153号住居跡・出土遺物実測図 … 453
第306図　第1156号住居跡・出土遺物実測図 … 455
第307図　第1157号住居跡・出土遺物実測図 … 456
第308図　第1158号住居跡・出土遺物実測図 … 458
第309図　第1158号住居跡出土遺物実測図 …… 459
第310図　第1160号住居跡実測図 …… 460
第311図　第1160号住居跡出土遺物実測図 …… 461
第312図　第1161号住居跡実測図 …… 461
第313図　第1161号住居跡出土遺物実測図 …… 462
第314図　第1162号住居跡・出土遺物実測図 … 463
第315図　第1164号住居跡・出土遺物実測図 … 464
第316図　第1167・1169号住居跡実測図 …… 465
第317図　第1168号住居跡実測図 …… 466
第318図　第1168号住居跡出土遺物実測図 …… 467
第319図　第1169号住居跡出土遺物実測図 …… 468
第320図　第1170号住居跡・出土遺物実測図 … 469
第321図　第1171号住居跡実測図 …… 471
第322図　第1172号住居跡・出土遺物実測図 … 473
第323図　第1173号住居跡実測図 …… 474
第324図　第1173号住居跡出土遺物実測図 …… 475
第325図　第1176号住居跡・出土遺物実測図 … 476
第326図　第1461号住居跡実測図 …… 477
第327図　第1461号住居跡出土遺物実測図 …… 478
第328図　第1462号住居跡実測図 …… 479
第329図　第1464号住居跡・出土遺物実測図 … 480
第330図　第53号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 486
第331図　第54号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 488
第332図　第55号掘立柱建物跡実測図(1) …… 490
第333図　第55号掘立柱建物跡実測図(2) …… 491
第334図　第56号掘立柱建物跡実測図 …… 492
第335図　第57号掘立柱建物跡実測図 …… 494
第336図　第57号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 495
第337図　第130号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 497
第338図　第58号掘立柱建物跡実測図 …… 498
第339図　第58号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 499
第340図　第59号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 502
第341図　第60号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 504
第342図　第129号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 505
第343図　第１号鍛冶工房跡実測図 …… 508
第344図　第１号鍛冶工房跡出土遺物実測図 … 509
第345図　第３号柵列跡実測図 …… 511
第346図　第４号柵列跡実測図 …… 512
第347図　第５号柵列跡実測図 …… 513

第348図　第12号溝土層断面図 …… 514
第349図　第35Ａ号溝上層断面図 …… 515
第350図　第35Ａ号溝出土遺物実測図 …… 516
第351図　第60号溝断面図 …… 517
第352図　その他の溝断面図 …… 517
第353図　第28号井戸跡実測図 …… 519
第354図　第28号井戸跡出土遺物実測図 …… 520
第355図　第21号地下式壙実測図 …… 521
第356図　第22号地下式壙実測図 …… 522
第357図　第23号地下式壙実測図 …… 523
第358図　第24号地下式壙実測図 …… 524
第359図　第25号地下式壙実測図 …… 525
第360図　第26号地下式壙実測図 …… 525
第361図　第９号方形竪穴状遺構実測図 …… 527
第362図　第10号方形竪穴状遺構実測図 …… 528
第363図　第11号方形竪穴状遺構実測図 …… 529
第364図　第12号方形竪穴状遺構実測図 …… 530
第365図　第13号方形竪穴状遺構実測図 …… 531
第366図　第14号方形竪穴状遺構実測図 …… 532
第367図　第15号方形竪穴状遺構実測図 …… 533
第368図　第16号方形竪穴状遺構実測図 …… 534
第369図　第17号方形竪穴状遺構実測図 …… 535
第370図　第18号方形竪穴状遺構実測図 …… 535
第371図　第19号方形竪穴状遺構実測図 …… 536
第372図　第６号ピット群出土遺物実測図 …… 538
第373図　第812号土坑実測図 …… 539
第374図　第917号土坑実測図 …… 540
第375図　第918号土坑実測図 …… 540
第376図　第919号土坑実測図 …… 541
第377図　第736号土坑実測図 …… 541
第378図　墓壙の可能性がある土坑実測図(1) … 542
第379図　墓壙の可能性がある土坑実測図(2) … 543
第380図　墓壙の可能性がある土坑・第794号土坑出土遺物実測図 …… 544
第381図　第755・762・1416号土坑出土遺物実測図 …… 547
第382図　４区遺構外出土遺物実測図(1) …… 551
第383図　４区遺構外出土遺物実測図(2) …… 552
第384図　４区遺構外出土遺物実測図(3) …… 553
第385図　４区遺構外出土遺物実測図(4) …… 554
第386図　第748号住居跡実測図 …… 557
第387図　第748号住居跡出土遺物実測図 …… 558
第388図　第1451号住居跡実測図 …… 559
第389図　第1451号住居跡出土遺物実測図 …… 560
第390図　第1453・1458号住居跡実測図(1) …… 562
第391図　第1453・1458号住居跡出土遺物実測図(2) …… 563
第392図　第1453号住居跡出土遺物実測図(1) … 563
第393図　第1453号住居跡出土遺物実測図(2) … 564
第394図　第1454号住居跡実測図 …… 565
第395図　第1458号住居跡出土遺物実測図 …… 567
第396図　第1459号住居跡出土遺物実測図 …… 568
第397図　第1459号住居跡実測図 …… 569
第398図　第1452・1457号住居跡実測図 …… 570
第399図　第1452号住居跡出土遺物実測図 …… 571
第400図　第1455号住居跡・出土遺物実測図 … 572
第401図　第1460号住居跡・出土遺物実測図 … 574
第402図　第128号掘立柱建物跡実測図 …… 575
第403図　第128号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 576
第404図　第18号溝・出土遺物実測図 …… 577
第405図　第91号溝実測図 …… 578
第406図　第1408号土坑実測図 …… 578
第407図　第1409号土坑実測図 …… 579
第408図　５区遺構外出土遺物実測図 …… 579
第409図　５区遺構全体図 …… 580
第410図　第504・508号住居跡実測図 …… 581
第411図　第508号住居跡出土遺物実測図 …… 582
第412図　第509号住居跡・出土遺物実測図 … 584
第413図　第509号住居跡出土遺物実測図 …… 585
第414図　第919・1448号住居跡実測図，第919号住居跡出土遺物実測図 …… 586
第415図　第926号住居跡実測図 …… 588
第416図　第926号住居跡出土遺物実測図 …… 589
第417図　第927号住居跡実測図 …… 590

第418図　第927号住居跡出土遺物実測図 …… 591
第419図　第933号住居跡・出土遺物実測図 … 593
第420図　第939・943号住居跡実測図 …… 595
第421図　第943号住居跡出土遺物実測図 …… 596
第422図　第941・944号住居跡実測図 …… 597
第423図　第944号住居跡住居跡実測図 …… 598
第424図　第945号住居跡実測図 …… 599
第425図　第945号住居跡出土遺物実測図 …… 600
第426図　第1200号住居跡実測図 …… 601
第427図　第1200号住居跡出土遺物実測図(1) … 602
第428図　第1200号住居跡出土遺物実測図(2) … 603
第429図　第1202号住居跡実測図 …… 604
第430図　第1202号住居跡出土遺物実測図 …… 605
第431図　第1207号住居跡・出土遺物実測図 … 606
第432図　第1211号住居跡実測図 …… 609
第433図　第1211号住居跡出土遺物実測図(1) … 610
第434図　第1211号住居跡出土遺物実測図(2) … 611
第435図　第1211号住居跡出土遺物実測図(3) … 612
第436図　第1216号住居跡・出土遺物実測図 … 614
第437図　第1216号住居跡出土遺物実測図 …… 615
第438図　第1219号住居跡実測図 …… 616
第439図　第1219号住居跡出土遺物実測図(1) … 617
第440図　第1219号住居跡出土遺物実測図(2) … 618
第441図　第1219号住居跡出土遺物実測図(3) … 619
第442図　第1224・1225・1230号住居跡実測図
…… 621
第443図　第1224・1225・1230号住居跡実測図，
第1224号住居跡出土遺物実測図 …… 622
第444図　第1224号住居跡出土遺物実測図 …… 623
第445図　第1230号住居跡出土遺物実測図 …… 625
第446図　第1235号住居跡実測図 …… 627
第447図　第1235号住居跡出土遺物実測図 …… 628
第448図　第1243号住居跡・出土遺物実測図 … 630
第449図　第1401号住居跡実測図 …… 632
第450図　第1401号住居跡出土遺物実測図(1) … 633
第451図　第1401号住居跡出土遺物実測図(2) … 634
第452図　第1404号住居跡実測図 …… 636
第453図　第1404号住居跡出土遺物実測図 …… 637
第454図　第1405号住居跡実測図 …… 639
第455図　第1405号住居跡出土遺物実測図 …… 640
第456図　第1409号住居跡・出土遺物実測図 … 642
第457図　第1416号住居跡・出土遺物実測図 … 643
第458図　第1417号住居跡実測図 …… 645
第459図　第1417号住居跡出土遺物実測図 …… 646
第460図　第1419号住居跡実測図 …… 648
第461図　第1419号住居跡出土遺物実測図 …… 649
第462図　第1421号住居跡実測図 …… 651
第463図　第1421号住居跡出土遺物実測図(1) … 652
第464図　第1421号住居跡出土遺物実測図(2) … 653
第465図　第1422号住居跡実測図 …… 656
第466図　第1422号住居跡出土遺物実測図 …… 657
第467図　第1423号住居跡実測図 …… 659
第468図　第1423号住居跡出土遺物実測図 …… 660
第469図　第1424号住居跡実測図 …… 662
第470図　第1424号住居跡出土遺物実測図 …… 663
第471図　第1426・1434号住居跡実測図(1) …… 664
第472図　第1426・1434号住居跡実測図(2) …… 665
第473図　第1426号住居跡出土遺物実測図 …… 667
第474図　第1427号住居跡実測図 …… 669
第475図　第1427号住居跡出土遺物実測図 …… 670
第476図　第1429号住居跡実測図 …… 671
第477図　第1429号住居跡遺物出土状況図 …… 672
第478図　第1429号住居跡出土遺物実測図(1) … 673
第479図　第1429号住居跡出土遺物実測図(2) … 674
第480図　第1430号住居跡・出土遺物実測図 … 677
第481図　第1430号住居跡出土遺物実測図 …… 678
第482図　第1434号住居跡出土遺物実測図 …… 680
第483図　第1438号住居跡実測図 …… 681
第484図　第1439号住居跡実測図 …… 682
第485図　第1439号住居跡出土遺物実測図(1) … 683
第486図　第1439号住居跡出土遺物実測図(2) … 684
第487図　第1440号住居跡・出土遺物実測図 … 686
第488図　第1441号住居跡実測図 …… 688
第489図　第1441号住居跡出土遺物実測図 …… 689
第490図　第1445A号住居跡実測図(1) …… 692
第491図　第1445A号住居跡実測図(2) …… 693

第492図　第1445Ａ号住居跡遺物出土状況・出土遺物実測図 …… 694
第493図　第1445Ａ号住居跡出土遺物実測図(1) …… 695
第494図　第1445Ａ号住居跡出土遺物実測図(2) …… 696
第495図　第1445Ｂ号住居跡実測図 …… 699
第496図　第1445Ｂ号住居跡出土遺物実測図 … 700
第497図　第514号住居跡・出土遺物実測図 … 702
第498図　第520号住居跡実測図 …… 703
第499図　第520号住居跡出土遺物実測図 …… 704
第500図　第918号住居跡実測図 …… 706
第501図　第918号住居跡出土遺物実測図 …… 707
第502図　第931号住居跡・出土遺物実測図 … 708
第503図　第936号住居跡実測図 …… 710
第504図　第936号住居跡出土遺物実測図 …… 711
第505図　第941号住居跡出土遺物実測図 …… 713
第506図　第1201号住居跡・出土遺物実測図 … 714
第507図　第1203号住居跡・出土遺物実測図 … 716
第508図　第1204・1205号住居跡実測図 …… 718
第509図　第1204号住居跡出土遺物実測図 …… 719
第510図　第1205号住居跡出土遺物実測図 …… 720
第511図　第1208・1209号住居跡実測図 …… 721
第512図　第1208号住居跡出土遺物実測図 …… 722
第513図　第1209号住居跡出土遺物実測図(1) … 723
第514図　第1209号住居跡出土遺物実測図(2) … 724
第515図　第1210号住居跡実測図 …… 725
第516図　第1210号住居跡出土遺物実測図 …… 726
第517図　第1212号住居跡・出土遺物実測図 … 727
第518図　第1213号住居跡・出土遺物実測図 … 729
第519図　第1214号住居跡実測図 …… 731
第520図　第1214号住居跡出土遺物実測図 …… 732
第521図　第1215号住居跡・出土遺物実測図 … 733
第522図　第1217・1218号住居跡実測図 …… 735
第523図　第1218号住居跡出土遺物実測図 …… 736
第524図　第1220号住居跡実測図 …… 737
第525図　第1220号住居跡出土遺物実測図(1) … 738
第526図　第1220号住居跡出土遺物実測図(2) … 739
第527図　第1221号住居跡実測図 …… 741
第528図　第1221号住居跡出土遺物実測図 …… 742
第529図　第1222号住居跡実測図 …… 744
第530図　第1222号住居跡出土遺物実測図 …… 745
第531図　第1223号住居跡実測図 …… 747
第532図　第1223号住居跡出土遺物実測図 …… 748
第533図　第1225号住居跡出土遺物実測図 …… 750
第534図　第1226号住居跡・出土遺物実測図 … 752
第535図　第1226号住居跡出土遺物実測図 …… 753
第536図　第1227号住居跡実測図 …… 755
第537図　第1227号住居跡出土遺物実測図 …… 756
第538図　第1228号住居跡実測図 …… 758
第539図　第1228号住居跡出土遺物実測図 …… 759
第540図　第1231号住居跡実測図 …… 760
第541図　第1231号住居跡出土遺物実測図 …… 761
第542図　第1232号住居跡実測図 …… 762
第543図　第1232号住居跡出土遺物実測図 …… 763
第544図　第1233号住居跡実測図(1) …… 766
第545図　第1233号住居跡実測図(2) …… 767
第546図　第1233号住居跡出土遺物実測図(1) … 768
第547図　第1233号住居跡出土遺物実測図(2) … 769
第548図　第1233号住居跡出土遺物実測図(3) … 770
第549図　第1234号住居跡実測図 …… 774
第550図　第1234号住居跡出土遺物実測図 …… 775
第551図　第1236号住居跡実測図(1) …… 778
第552図　第1236号住居跡実測図(2) …… 779
第553図　第1236号住居跡出土遺物実測図(1) … 779
第554図　第1236号住居跡出土遺物実測図(2) … 780
第555図　第1237号住居跡・出土遺物実測図 … 783
第556図　第1238号住居跡・出土遺物実測図 … 785
第557図　第1238号住居跡出土遺物実測図 …… 786
第558図　第1239号住居跡実測図 …… 788
第559図　第1239号住居跡出土遺物実測図(1) … 789
第560図　第1239号住居跡出土遺物実測図(2) … 790
第561図　第1241号住居跡実測図 …… 793
第562図　第1241号住居跡出土遺物実測図(1) … 794
第563図　第1241号住居跡出土遺物実測図(2) … 795
第564図　第1241号住居跡出土遺物実測図(3) … 796

第565図　第1242号住居跡実測図 …… 798
第566図　第1242号住居跡出土遺物実測図 …… 799
第567図　第1408号住居跡実測図 …… 801
第568図　第1408号住居跡出土遺物実測図 …… 802
第569図　第1410号住居跡実測図 …… 804
第570図　第1410号住居跡出土遺物実測図 …… 805
第571図　第1411号住居跡・出土遺物実測図 … 807
第572図　第1412号住居跡実測図 …… 809
第573図　第1412号住居跡出土遺物実測図 …… 810
第574図　第1413号住居跡実測図 …… 812
第575図　第1413号住居跡出土遺物実測図 …… 813
第576図　第1414号住居跡実測図 …… 815
第577図　第1414号住居跡出土遺物実測図 …… 816
第578図　第1415号住居跡実測図 …… 818
第579図　第1415号住居跡出土遺物実測図 …… 819
第580図　第1420号住居跡実測図 …… 820
第581図　第1420号住居跡出土遺物実測図 …… 821
第582図　第1425Ａ・Ｂ号住居跡実測図 …… 824
第583図　第1425Ａ・Ｂ号住居跡遺物出土状況図 …… 825
第584図　第1425Ａ号住居跡出土遺物実測図(1) …… 825
第585図　第1425Ａ号住居跡出土遺物実測図(2) …… 826
第586図　第1425Ｂ号住居跡出土遺物実測図 … 829
第587図　第1428号住居跡実測図 …… 831
第588図　第1428号住居跡・出土遺物実測図 … 832
第589図　第1428号住居跡出土遺物実測図 …… 833
第590図　第1431号住居跡実測図 …… 836
第591図　第1431号住居跡出土遺物実測図 …… 837
第592図　第1432号住居跡実測図 …… 839
第593図　第1432号住居跡出土遺物実測図 …… 840
第594図　第1442号住居跡実測図 …… 843
第595図　第1442号住居跡出土遺物実測図(1) … 844
第596図　第1442号住居跡出土遺物実測図(2) … 845
第597図　第1443号住居跡・出土遺物実測図 … 848
第598図　第1447号住居跡・出土遺物実測図 … 850

－下　巻－

第599図　第120号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 853
第600図　第37号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 855
第601図　第41号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 856
第602図　第42号掘立柱建物跡実測図 …… 858
第603図　第44号掘立柱建物跡実測図 …… 859
第604図　第45号掘立柱建物跡実測図 …… 860
第605図　第46号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 861
第606図　第47号掘立柱建物跡実測図 …… 862
第607図　第47号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 863
第608図　第70号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 864
第609図　第70号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 865
第610図　第71号掘立柱建物跡実測図 …… 866
第611図　第71号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 867
第612図　第72号掘立柱建物跡実測図 …… 868
第613図　第73号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 870
第614図　第74号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 871
第615図　第75号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 873
第616図　第76号掘立柱建物跡実測図 …… 875
第617図　第77号掘立柱建物跡実測図 …… 876
第618図　第78・81号掘立柱建物跡実測図 …… 877
第619図　第78号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 878
第620図　第79号掘立柱建物跡実測図 …… 879
第621図　第79号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 880

第622図　第80Ａ・Ｂ号掘立柱建物跡実測図(1) …… 881
第623図　第80Ａ・Ｂ号掘立柱建物跡実測図(2) …… 882
第624図　第80Ａ号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 883
第625図　第80Ａ・Ｂ号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 884
第626図　第81号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 885
第627図　第82号掘立柱建物跡実測図 …… 886
第628図　第83号掘立柱建物跡実測図 …… 887
第629図　第84号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 888
第630図　第85号掘立柱建物跡実測図 …… 889
第631図　第85号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 890
第632図　第86号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 891
第633図　第87Ａ・Ｂ号掘立柱建物跡実測図，第87Ａ号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 893
第634図　第87Ｂ号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 894
第635図　第88号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 895
第636図　第89号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 897
第637図　第100・101号掘立柱建物跡実測図 … 898
第638図　第100号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 899
第639図　第101号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 900
第640図　第102号掘立柱建物跡実測図 …… 901
第641図　第103・104号掘立柱建物跡実測図 … 903
第642図　第103号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 904
第643図　第105号掘立柱建物跡実測図 …… 905
第644図　第106号掘立柱建物跡実測図 …… 907
第645図　第107号掘立柱建物跡実測図 …… 908
第646図　第108号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 909
第647図　第109号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 911
第648図　第110号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 912
第649図　第118号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 914
第650図　第119号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 915
第651図　第121号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 917
第652図　第123号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 919
第653図　第124号掘立柱建物跡実測図 …… 920
第654図　第124号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 921
第655図　第125号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 922
第656図　第125号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 923
第657図　第126号掘立柱建物跡実測図 …… 924
第658図　第127号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 925
第659図　第16号溝・須恵器大甕㊴出土状況図 …… 928
第660図　第16号溝実測図(1) …… 929
第661図　第16号溝実測図(2) …… 930
第662図　第16号溝出土遺物実測図(1) …… 930
第663図　第16号溝出土遺物実測図(2) …… 931
第664図　第16号溝出土遺物実測図(3) …… 932
第665図　第16号溝出土遺物実測図(4) …… 933
第666図　第16号溝出土遺物実測図(5) …… 934
第667図　第35Ｂ号溝実測図(1) …… 938
第668図　第35Ｂ号溝遺物出土状況図 …… 939
第669図　第35Ｂ号溝実測図(2) …… 940

第670図　第35Ｂ号溝出土遺物実測図(1) …… 941
第671図　第35Ｂ号溝出土遺物実測図(2) …… 942
第672図　第35Ｂ号溝出土遺物実測図(3) …… 943
第673図　第35Ｂ号溝出土遺物実測図(4) …… 944
第674図　第82号溝土層断面図 …… 947
第675図　第83号溝実測図 …… 947
第676図　第84Ａ・Ｂ号溝実測図 …… 948
第677図　第67・81号溝土層断面図 …… 948
第678図　第４号井戸跡実測図 …… 949
第679図　第29号井戸跡実測図 …… 950
第680図　第30号井戸跡実測図(1) …… 952
第681図　第30号井戸跡実測図(2) …… 953
第682図　第30号井戸跡遺物出土状況図(1) …… 954
第683図　第30号井戸跡遺物出土状況図(2) …… 955
第684図　第30号井戸跡出土遺物実測図(1) …… 956
第685図　第30号井戸跡出土遺物実測図(2) …… 957
第686図　第30号井戸跡出土遺物実測図(3) …… 958
第687図　第30号井戸跡出土遺物実測図(4) …… 959
第688図　第30号井戸跡出土遺物実測図(5) …… 960
第689図　第31号井戸跡実測図 …… 963
第690図　第31号井戸跡出土遺物実測図(1) …… 963
第691図　第31号井戸跡出土遺物実測図(2) …… 964
第692図　第32号井戸跡実測図 …… 965
第693図　第33号井戸跡実測図 …… 965
第694図　第５号道路状遺構実測図 …… 966
第695図　第９号道路状遺構実測図 …… 967
第696図　第20号方形竪穴状遺構・出土遺物実測図 …… 968
第697図　第21号方形竪穴状遺構・出土遺物実測図 …… 969
第698図　第847号土坑実測図 …… 971
第699図　第863号土坑・出土遺物実測図 …… 971
第700図　第881・886号土坑実測図 …… 972
第701図　第881号土坑出土遺物実測図(1) …… 973
第702図　第881号土坑出土遺物実測図(2) …… 974
第703図　第886号土坑出土遺物実測図 …… 976
第704図　第857・860Ｂ・1026・1344号土坑出土遺物実測図 …… 976
第705図　第856・1355号土坑出土遺物実測図 …… 977
第706図　８区遺構外出土遺物実測図(1) …… 982
第707図　８区遺構外出土遺物実測図(2) …… 983
第708図　第Ⅰ期出土土器 …… 987
第709図　第Ⅱ期出土土器 …… 988
第710図　第Ⅲ期出土土器 …… 988
第711図　第Ⅳ期出土土器 …… 989
第712図　第Ⅴ期出土土器 …… 989
第713図　砥石集成図(1) …… 991
第714図　砥石集成図(2) …… 992
第715図　鍬（鋤）先形土製品集成図 …… 995
第716図　鉄製農具集成図 …… 997
第717図　調査８区（８世紀）遺構配置図(1) … 1002
第718図　調査８区（８世紀）遺構配置図(2) … 1003
第719図　調査８区（８世紀）遺構配置図(3) … 1004
第720図　硯集成図 …… 1007
第721図　腰帯具集成図 …… 1008
第722図　文字資料集成図(1) …… 1010
第723図　文字資料集成図(2) …… 1011
第724図　文字資料集成図(3) …… 1012
第725図　硯，腰帯具，文字資料出土位置図 … 1013

表　目　次

－上　巻－

表１　周辺遺跡一覧表 …… 7
表２　２区住居跡一覧表 …… 17

－中　巻－

表３　４区住居跡一覧表 …… 481
表４　４区掘立柱建物跡一覧表 …… 506
表５　４区溝一覧表 …… 518
表６　４区地下式壙一覧表 …… 526
表７　４区方形竪穴状遺構一覧表 …… 536
表８　４区土坑一覧表 …… 548
表９　５区住居跡一覧表 …… 579
表10　５区溝一覧表 …… 580
表11　５区土坑一覧表 …… 580

－下　巻－

表12　８区住居跡一覧表 …… 851
表13　８区掘立柱建物跡一覧表 …… 926
表14　８区溝一覧表 …… 948
表15　８区井戸一覧表 …… 966
表16　８区道路状遺構一覧表 …… 968
表17　８区方形竪穴状遺構一覧表 …… 970
表18　８区土坑一覧表 …… 977
表19　各期・各区住居跡数 …… 986
表20　石器・石製品一覧表 …… 992
表21　土製品一覧表 …… 995
表22　鉄製農具一覧表 …… 997
表23　硯一覧表 …… 1007
表24　腰帯具一覧表 …… 1008
表25　文字資料一覧表 …… 1014

写真図版目次

－下　巻－

ＰＬ 1　2区遺構群，4区北部遺構群

ＰＬ 2　4区北西部遺構群，4区中央部遺構群(1)

ＰＬ 3　4区中央部遺構群(2)，5区遺構群

ＰＬ 4　8区北部遺構群

ＰＬ 5　8区全景，8区南部遺構群

ＰＬ 6　第80Ａ・Ｂ号掘立柱建物跡完掘状況，第35Ｂ号溝遺物出土状況

2区

ＰＬ 7　第1244号住居跡完掘状況，第1245号住居跡完掘状況，第1246号住居跡遺物出土状況

4区

ＰＬ 8　第20・21号住居跡完掘状況，第20号住居跡竈遺物出土状況・第21号住居跡竈完掘状況，第22号住居跡完掘状況

ＰＬ 9　第22号住居跡竈完掘状況，第23号住居跡完掘状況，第23号住居跡遺物出土状況

ＰＬ 10　第29号住居跡完掘状況，第129号住居跡完掘状況，第130号住居跡完掘状況

ＰＬ 11　第130号住居跡竈完掘状況，第407号住居跡完掘状況，第954号住居跡完掘状況

ＰＬ 12　第954号住居跡竈遺物出土状況，第955・977・995号住居跡完掘状況，第956号住居跡完掘状況

ＰＬ 13　第956号住居跡遺物出土状況，第956号住居跡貯蔵穴遺物出土状況，第957号住居跡完掘状況

ＰＬ 14　第958号住居跡完掘状況，第959号住居跡完掘状況，第960号住居跡完掘状況

ＰＬ 15　第960号住居跡竈遺物出土状況，第961号住居跡完掘状況，第961号住居跡竈完掘状況

ＰＬ 16　第963号住居跡完掘状況，第965・966号住居跡完掘状況，第967号住居跡完掘状況

ＰＬ 17　第968号住居跡完掘状況，第968号住居跡竈完掘状況，第969号住居跡完掘状況

ＰＬ 18　第970・972・973号住居跡完掘状況，第970・972・973号住居跡遺物出土状況，第970号住居跡遺物出土状況

ＰＬ 19　第973号住居跡竈完掘状況，第971号住居跡完掘・遺物出土状況，第974号住居跡完掘状況

ＰＬ 20　第975号住居跡完掘状況，第975号住居跡竈完掘状況，第976号住居跡完掘状況

ＰＬ 21　第976号住居跡竈土層断面・遺物出土状況，第976号住居跡竈完掘状況，第977号住居跡完掘状況

ＰＬ 22　第977号住居跡竈遺物出土状況，第978号住居跡完掘状況，第978号住居跡竈完掘状況

ＰＬ 23　第979・985号住居跡完掘状況，第979号住居跡竈完掘状況，第980号住居跡完掘状況

ＰＬ 24　第981号住居跡完掘状況，第983号住居跡完掘状況，第984号住居跡完掘状況

ＰＬ 25　第987号住居跡完掘状況，第987号住居跡貯蔵穴遺物出土状況，第988号住居跡完掘状況

ＰＬ 26　第988号住居跡竈遺物出土状況，第989号住居跡完掘状況，第990号住居跡完掘状況

ＰＬ 27　第991号住居跡完掘状況，第993号住居跡完掘状況，第993号住居跡竈完掘状況

ＰＬ 28　第993号住居跡竈遺物出土状況，第994号住居跡完掘状況，第994号住居跡竈完掘状況

ＰＬ 29　第996号住居跡完掘状況，第997号住居跡完掘状況，第997号住居跡遺物出土状況(1)

ＰＬ 30　第997号住居跡遺物出土状況(2)，第997号住居跡竈遺物出土状況，第998号住居跡完掘状況

ＰＬ 31　第999号住居跡完掘状況，第999号住居跡遺物出土状況，第999号住居跡竈遺物出土状況

ＰＬ 32　第1000号住居跡完掘状況，第1001号住居跡遺物出土状況，第1002号住居跡完掘状況

ＰＬ 33　第1002号住居跡竈完掘状況，第1003号住居跡完掘状況，第1003号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 34　第1006号住居跡完掘状況，第1007号住居跡完掘・遺物出土状況，第1008号住居跡完掘状況
ＰＬ 35　第1009号住居跡完掘状況，第1011号住居跡完掘状況，第1012号住居跡完掘状況
ＰＬ 36　第1012号住居跡遺物出土状況，第1012号住居跡竈完掘状況，第1013号住居跡完掘状況
ＰＬ 37　第1014号住居跡完掘状況，第1017号住居跡完掘状況，第1018号住居跡竈完掘状況
ＰＬ 38　第1019号住居跡完掘状況，第1019号住居跡竈灰出土状況，第1020号住居跡完掘状況
ＰＬ 39　第1023号住居跡完掘状況，第1024号住居跡完掘状況，第1027号住居跡完掘状況
ＰＬ 40　第1027号住居跡遺物出土状況，第1028号住居跡完掘状況，第1028号住居跡竈完掘状況
ＰＬ 41　第1030号住居跡完掘状況，第1030号住居跡竈灰出土状況，第1031号住居跡完掘状況
ＰＬ 42　第1032号住居跡完掘状況，第1032号住居跡竈遺物出土状況，第1033号住居跡完掘状況
ＰＬ 43　第1033号住居跡竈遺物出土状況，第1034号住居跡完掘状況，第1034号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 44　第1035号住居跡完掘状況，第1035号住居跡竈完掘状況，第1037号住居跡完掘状況
ＰＬ 45　第1040号住居跡完掘状況，第1040号住居跡竈遺物出土状況，第1042号住居跡完掘状況
ＰＬ 46　第1043号住居跡完掘状況，第1044・1045号住居跡完掘状況，第1045号住居跡竈完掘状況
ＰＬ 47　第1046号住居跡完掘状況，第1047号住居跡完掘状況，第1047号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 48　第1047・1048号住居跡完掘状況，第1049号住居跡完掘状況，第1049号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 49　第1049号住居跡遺物出土状況，第1049号住居跡竈完掘状況，第1051号住居跡完掘状況
ＰＬ 50　第1052号住居跡完掘状況，第1053号住居跡完掘状況，第1053号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 51　第1054号住居跡完掘状況，第1054号住居跡遺物出土状況，第1055号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 52　第1055号住居跡ピット３遺物出土状況，第1055号住居跡ピット４遺物出土状況，第1056号住居跡完掘状況
ＰＬ 53　第1056号住居跡竈完掘状況，第1059号住居跡完掘状況，第1059号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 54　第1060号住居跡完掘状況，第1060号住居跡遺物出土状況，第1060号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 55　第1061号住居跡完掘状況，第1061号住居跡遺物出土状況，第1062号住居跡完掘状況
ＰＬ 56　第1063号住居跡完掘状況，第1063号住居跡壁掘り方状況，第1063号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 57　第1064号住居跡完掘状況，第1064号住居跡遺物出土状況，第1065号住居跡完掘状況
ＰＬ 58　第1065号住居跡遺物出土状況，第1067号住居跡完掘状況，第1067号住居跡竈完掘状況
ＰＬ 59　第1068号住居跡完掘状況，第1068号住居跡遺物出土状況，第1068号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 60　第1069号住居跡完掘状況，第1069号住居跡竈完掘状況，第1069号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 61　第1070号住居跡完掘状況，第1070号住居跡竈遺物出土状況，第1071号住居跡完掘状況
ＰＬ 62　第1071号住居跡竈遺物出土状況，第1072号住居跡完掘状況，第1073号住居跡完掘状況
ＰＬ 63　第1073号住居跡竈遺物出土状況，第1074号住居跡完掘状況，第1074号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 64　第1075号住居跡遺物出土状況(1)・(2)，第

1075号住居跡竈灰出土状況
ＰＬ 65　第1076号住居跡完掘状況，第1076号住居跡遺物出土状況，第1077号住居跡完掘状況
ＰＬ 66　第1077号住居跡竈遺物出土状況，第1077号住居跡竈袖部内遺物出土状況，第1078号住居跡完掘状況
ＰＬ 67　第1078号住居跡竈完掘状況，第1080号住居跡完掘状況，第1080号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 68　第1080号住居跡竈完掘状況，第1100号住居跡完掘状況，第1101号住居跡完掘状況
ＰＬ 69　第1102号住居跡完掘状況，第1104号住居跡完掘状況，第1106号住居跡完掘状況
ＰＬ 70　第1107号住居跡完掘状況，第1109号住居跡完掘状況，第1110号住居跡完掘状況
ＰＬ 71　第1110号住居跡貯蔵穴完掘状況，第1110号住居跡遺物出土状況，第1113号住居跡完掘状況
ＰＬ 72　第1115号住居跡完掘状況，第1115号住居跡遺物出土状況(1)・(2)
ＰＬ 73　第1116号住居跡完掘状況，第1119号住居跡完掘状況，第1120号住居跡完掘状況
ＰＬ 74　第1121号住居跡完掘状況，第1122号住居跡完掘状況，第1122号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 75　第1123号住居跡完掘状況，第1123号住居跡遺物出土状況，第1123号住居跡竈完掘状況
ＰＬ 76　第1128号住居跡完掘状況，第1131・1136・1138・1139号住居跡完掘(1)・(2)
ＰＬ 77　第1133号住居跡完掘状況，第1134号住居跡完掘状況，第1133・1134号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 78　第1140号住居跡完掘状況，第1144号住居跡完掘状況，第1144号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 79　第1144号住居跡竈完掘状況，第1145号住居跡完掘状況，第1145号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 80　第1145号住居跡竈遺物出土状況，第1146号住居跡完掘状況，第1146号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 81　第1147号住居跡完掘状況，第1148号住居跡完掘状況，第1148号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 82　第1149号住居跡遺物出土状況，第1149号住居跡竈完掘状況，第1154号住居跡完掘状況
ＰＬ 83　第1154号住居跡竈完掘状況，第1155号住居跡完掘状況，第1157号住居跡完掘状況
ＰＬ 84　第1158号住居跡完掘状況，第1159号住居跡完掘状況，第1161号住居跡完掘状況
ＰＬ 85　第1162号住居跡完掘状況，第1163号住居跡完掘状況，第1163号住居跡遺物出土状況(1)
ＰＬ 86　第1163号住居跡遺物出土状況(2)，第1163号住居跡竈完掘状況，第1164号住居跡完掘状況
ＰＬ 87　第1165号住居跡完掘状況，第1165号住居跡遺物出土状況，第1166号住居跡完掘状況
ＰＬ 88　第1166号住居跡竈完掘状況，第1168号住居跡完掘状況，第1170号住居跡完掘状況
ＰＬ 89　第1171号住居跡完掘状況，第1172号住居跡・第821号土坑完掘状況，第1172号住居跡竈完掘状況
ＰＬ 90　第1173号住居跡遺物出土状況，第1456号住居跡完掘状況，第1461号住居跡完掘状況
ＰＬ 91　第1463号住居跡完掘状況，第1464号住居跡完掘状況，第1465号住居跡完掘状況
ＰＬ 92　第1465号住居跡竈遺物出土状況，第53号掘立柱建物跡完掘状況，第54号掘立柱建物跡完掘状況
ＰＬ 93　第55号掘立柱建物跡完掘状況，第55号掘立柱建物跡ピット７完掘状況，第56号掘立柱建物跡完掘状況
ＰＬ 94　第57号掘立柱建物跡完掘状況，第57号掘立柱建物跡堀り方完掘状況，第57号掘立柱建物跡ピット６掘り方完掘状況
ＰＬ 95　第58号掘立柱建物跡完掘状況，第59号掘立柱建物跡完掘状況，第60号掘立柱建物跡完掘状況
ＰＬ 96　第129号掘立柱建物跡完掘状況，第１号鍛冶工房跡完掘状況，第９号方形竪穴状遺構完掘状況

ＰＬ 97　第10号方形竪穴状遺構完掘状況，第11号方形竪穴状遺構完掘状況，第12号方形竪穴状遺構完掘状況
ＰＬ 98　第13号方形竪穴状遺構完掘状況，第14号方形竪穴状遺構完掘状況，第15号方形竪穴状遺構完掘状況
ＰＬ 99　第16号方形竪穴状遺構完掘状況，第17号方形竪穴状遺構完掘状況，第18号方形竪穴状遺構完掘状況
ＰＬ100　第19号方形竪穴状遺構完掘状況，第35Ａ号溝完掘状況(1)・(2)
ＰＬ101　第59号溝完掘状況，第60号溝完掘状況(1)・(2)・(3)，第62号溝完掘状況，第63号溝完掘状況，第65号溝完掘状況，第28号井戸跡完掘状況(1)
ＰＬ102　第28号井戸跡完掘状況(2)，第21号地下式壙完掘状況，第22号地下式壙完掘状況，第23号地下式壙完掘状況，第24号地下式壙完掘状況，第25号地下式壙完掘状況，第26号地下式壙完掘状況，第４号ピット群完掘状況
ＰＬ103　第５号ピット群完掘状況，第６号ピット群完掘状況，第120号土坑完掘状況，第723号土坑完掘状況，第736号土坑遺物出土状況，第742号土坑完掘状況，第754号土坑完掘状況，第755号土坑遺物出土状況
ＰＬ104　第766・769号土坑完掘状況，第775号土坑完掘状況，第776・777号土坑完掘状況，第778・785号土坑完掘状況，第781・782号土坑完掘状況，第788～790・792・793・795号土坑完掘状況，第794号土坑完掘状況，第809号土坑完掘状況
ＰＬ105　第811号土坑完掘状況，第812号土坑完掘状況，第814・815号土坑完掘状況，第833号土坑完掘状況，第900号土坑完掘状況，第903号土坑完掘状況，第906号土坑完掘状況，第913号土坑完掘状況
５区
ＰＬ106　第748号住居跡ピット２遺物出土状況，第1451号住居跡完掘状況，第1451号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ107　第1452号住居跡完掘状況，第1453号住居跡完掘状況，第1453号住居跡竈完掘状況
ＰＬ108　第1454号住居跡完掘状況，第1455号住居跡完掘状況，第1458号住居跡完掘・遺物出土状況
ＰＬ109　第1458号住居跡遺物出土状況，第1459号住居跡完掘状況，第128号掘立柱建物跡完掘状況
８区
ＰＬ110　第520号住居跡完掘状況，第520号住居跡遺物出土状況，第520号住居跡竈完掘状況
ＰＬ111　第926号住居跡完掘状況，第931号住居跡遺物出土状況，第933号住居跡完掘状況
ＰＬ112　第933号住居跡遺物出土状況(1)・(2)，第936号住居跡完掘状況
ＰＬ113　第939・941・944号住居跡完掘状況，第941号住居跡遺物出土状況，第945号住居跡完掘状況
ＰＬ114　第1200号住居跡完掘状況，第1200号住居跡遺物出土状況(1)・(2)
ＰＬ115　第1200号住居跡竈完掘状況，第1201号住居跡完掘状況，第1201号住居跡竈完掘状況
ＰＬ116　第1202号住居跡完掘状況，第1203号住居跡完掘状況，第1203号住居跡竈完掘状況
ＰＬ117　第1204号住居跡完掘状況，第1204号住居跡竈完掘状況，第1207号住居跡完掘状況
ＰＬ118　第1207号住居跡竈完掘状況，第1208・1209号住居跡完掘状況，第1208号住居跡遺物出土状況
ＰＬ119　第1208号住居跡竈完掘状況，第1209号住居跡竈完掘状況，第1209号住居跡遺物出土状況
ＰＬ120　第1210号住居跡完掘状況，第1210号住居跡竈完掘状況，第1210号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ121　第1211号住居跡完掘状況，第1211号住居跡

遺物出土状況(1)・(2)

ＰＬ122　第1211号住居跡竈完掘状況，第1211号住居跡竈遺物出土状況，第1214号住居跡完掘状況

ＰＬ123　第1214号住居跡遺物出土状況，第1214号住居跡竈遺物出土状況，第1215号住居跡完掘状況

ＰＬ124　第1215号住居跡遺物出土状況，第1215号住居跡竈完掘状況，第1216号住居跡完掘状況

ＰＬ125　第1219号住居跡完掘状況，第1219号住居跡遺物出土状況，第1219号住居跡竈完掘状況

ＰＬ126　第1220号住居跡完掘状況，第1220号住居跡遺物出土状況(1)・(2)

ＰＬ127　第1220号住居跡竈完掘状況，第1221号住居跡完掘状況，第1221号住居跡遺物出土状況

ＰＬ128　第1221号住居跡竈完掘状況，第1221号住居跡竈袖部断割・遺物出土状況，第1222号住居跡完掘状況

ＰＬ129　第1222号住居跡遺物出土状況，第1222号住居跡竈完掘状況，第1223号住居跡完掘状況

ＰＬ130　第1223号住居跡遺物出土状況，第1223号住居跡竈完掘状況，第1223号住居跡竈遺物出土状況

ＰＬ131　第1224・1225・1230号住居跡完掘状況，第1224・1225・1230号住居跡遺物出土状況，第1226号住居跡完掘状況

ＰＬ132　第1226号住居跡遺物出土状況，第1226号住居跡竈完掘状況，第1227号住居跡完掘状況

ＰＬ133　第1227号住居跡遺物出土状況，第1227号住居跡竈完掘状況，第1228号住居跡完掘状況

ＰＬ134　第1228号住居跡遺物出土状況，第1228号住居跡竈完掘状況，第1231号住居跡完掘状況

ＰＬ135　第1231号住居跡遺物出土状況，第1231号住居跡竈付近遺物出土状況，第1231号住居跡竈遺物出土状況

ＰＬ136　第1233号住居跡完掘状況，第1233号住居跡遺物出土状況，第1233号住居跡竈完掘状況

ＰＬ137　第1234号住居跡完掘状況，第1234号住居跡遺物出土状況，第1234号住居跡竈遺物出土状況

ＰＬ138　第1235号住居跡完掘状況，第1235号住居跡遺物出土状況，第1235号住居跡竈完掘状況

ＰＬ139　第1236号住居跡完掘状況，第1236号住居跡遺物出土状況，第1236号住居跡竈完掘状況

ＰＬ140　第1238号住居跡・第880号土坑完掘状況，第1238号住居跡遺物出土状況(1)・(2)

ＰＬ141　第1239号住居跡完掘状況，第1239号住居跡遺物出土状況，第1239号住居跡竈遺物出土状況

ＰＬ142　第1241号住居跡完掘状況，第1241号住居跡遺物出土状況，第1241号住居跡竈遺物出土状況

ＰＬ143　第1242号住居跡完掘状況，第1242号住居跡遺物出土状況，第1243号住居跡完掘状況

ＰＬ144　第1401号住居跡完掘状況，第1401号住居跡遺物出土状況(1)・(2)

ＰＬ145　第1401号住居跡遺物出土状況(3)，第1404号住居跡完掘状況，第1404号住居跡遺物出土状況

ＰＬ146　第1405号住居跡完掘状況，第1405号住居跡遺物出土状況，第1407号住居跡完掘状況

ＰＬ147　第1408・1409・1420号住居跡完掘状況，第1410号住居跡完掘状況，第1410号住居跡遺物出土状況

ＰＬ148　第1410号住居跡竈完掘状況，第1411号住居跡完掘状況，第1411号住居跡遺物出土状況(1)

ＰＬ149　第1411号住居跡遺物出土状況(2)，第1412号住居跡完掘状況，第1412号住居跡遺物出土状況

ＰＬ150　第1413号住居跡完掘状況，第1413号住居跡遺物出土状況，第1413号住居跡竈完掘状況

ＰＬ151　第1414号住居跡完掘状況，第1414・1415号住居跡遺物出土状況，第1414号住居跡竈遺物出土状況

ＰＬ152　第1415号住居跡完掘状況，第1417号住居跡

完掘状況，第1419号住居跡完掘状況

ＰＬ153　第1420号住居跡完掘状況，第1421号住居跡完掘状況，第1421号住居跡遺物出土状況(1)

ＰＬ154　第1421号住居跡遺物出土状況(2)，第1422号住居跡完掘状況，第1423号住居跡遺物出土状況

ＰＬ155　第1424号住居跡完掘状況，第1424号住居跡遺物出土状況，第1424号住居跡竈完掘状況

ＰＬ156　第1424号住居跡竈遺物出土状況，第1425Ａ・Ｂ号住居跡完掘状況，第1425Ａ号住居跡遺物出土状況

ＰＬ157　第1425Ａ号住居跡炭化材・炭化物出土状況，第1425Ａ・Ｂ号住居跡竈完掘状況，第1426号住居跡完掘状況

ＰＬ158　第1427号住居跡完掘状況，第1427号住居跡竈完掘状況，第1428号住居跡完掘状況

ＰＬ159　第1428号住居跡遺物出土状況，第1428号住居跡竈遺物出土状況，第1429号住居跡完掘状況

ＰＬ160　第1429号住居跡遺物出土状況(1)・(2)，第1429・1430・1432号住居跡完掘状況

ＰＬ161　第1430号住居跡竈完掘状況，第1431号住居跡完掘状況，第1431号住居跡遺物出土状況

ＰＬ162　第1431号住居跡竈完掘状況，第1432号住居跡完掘状況，第1439号住居跡完掘状況

ＰＬ163　第1439号住居跡遺物出土状況，第1440号住居跡完掘状況，第1441号住居跡完掘状況

ＰＬ164　第1441号住居跡遺物出土状況，第1442号住居跡完掘状況，第1442号住居跡遺物出土状況

ＰＬ165　第1442号住居跡竈遺物出土状況，第1443号住居跡完掘状況，第1443号住居跡遺物出土状況

ＰＬ166　第1445Ａ号住居跡完掘状況，第1445Ａ号住居跡遺物出土状況，第1445Ａ号住居跡竈完掘状況

ＰＬ167　第37号掘立柱建物跡完掘状況，第41号掘立柱建物跡完掘状況，第44・45号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ168　第46号掘立柱建物跡完掘状況，第46・121・123号掘立柱建物跡完掘状況，第47号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ169　第70号掘立柱建物跡完掘状況，第71号掘立柱建物跡完掘状況，第72号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ170　第73号掘立柱建物跡完掘状況，第74号掘立柱建物跡完掘状況，第75号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ171　第77号掘立柱建物跡完掘状況，第78号掘立柱建物跡完掘状況，第79号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ172　第81号掘立柱建物跡完掘状況，第82号掘立柱建物跡完掘状況，第83号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ173　第84号掘立柱建物跡完掘状況，第85号掘立柱建物跡完掘状況，第87号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ174　第88号掘立柱建物跡完掘状況，第89号掘立柱建物跡完掘状況，第100号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ175　第101号掘立柱建物跡完掘状況，第102号掘立柱建物跡完掘状況，第103号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ176　第104号掘立柱建物跡完掘状況，第105号掘立柱建物跡完掘状況，第106号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ177　第107号掘立柱建物跡完掘状況，第108号掘立柱建物跡完掘状況，第109号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ178　第110号掘立柱建物跡完掘状況，第118・127号掘立柱建物跡完掘状況，第119号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ179　第120号掘立柱建物跡完掘状況，第121号掘立柱建物跡完掘状況，第123号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ180　第124号掘立柱建物跡完掘状況，第125・

126号掘立柱建物跡完掘，８区遺構群

ＰＬ181　第16号溝完掘状況，第16・35Ｂ号溝完掘状況，第16号溝遺物出土状況(1)・(2)・(3)

ＰＬ182　第35Ｂ号溝北側完掘状況，第35Ｂ号溝遺物出土状況(1)・(2)

ＰＬ183　第35Ｂ号溝遺物出土状況(3)・(4)，第35Ｂ号溝覆土堆積状況

ＰＬ184　第67号溝完掘状況，第81号溝完掘状況，第82号溝完掘状況

ＰＬ185　第84号溝遺物出土状況，第86号溝１～３区完掘状況，第86号溝２・３区完掘状況

ＰＬ186　第30号井戸跡完掘状況，第30号井戸跡遺物出土状況(1)・(2)

ＰＬ187　第30号井戸跡馬骨出土状況(1)・(2)，第30号井戸跡完掘状況(1)・(2)，第30号井戸跡遺物出土状況(1)・(2)

ＰＬ188　第29号井戸跡完掘状況，第31号井戸跡完掘状況，第32号井戸跡完掘状況

ＰＬ189　第690号土坑完掘状況，第834号土坑完掘状況，第835号土坑完掘状況，第836号土坑完掘状況，第839号土坑完掘状況，第841・842号土坑完掘状況，第845号土坑完掘状況，第846号土坑完掘状況

ＰＬ190　第848号土坑完掘状況，第850号土坑完掘状況，第851号土坑完掘状況，第852号土坑完掘状況，第853号土坑完掘状況，第855号土坑完掘状況，第856号土坑完掘状況，第857号土坑完掘状況

ＰＬ191　第858号土坑完掘状況，第860Ａ・Ｂ号土坑完掘状況，第861号土坑完掘状況，第862号土坑完掘状況，第863号土坑完掘状況，第864号土坑完掘状況，第865号土坑完掘状況，第865号土坑遺物出土状況

ＰＬ192　第866号土坑完掘状況，第867号土坑完掘状況，第867号土坑遺物出土状況，第868号土坑完掘状況，第869号土坑完掘状況，第870号土坑完掘状況，第871号土坑完掘状況，第872号土坑完掘状況

ＰＬ193　第881・884・886・887号土坑完掘状況，第881号土坑灰出土状況，第881・884・886・887号土坑遺物出土状況，第885号土坑完掘状況，第889号土坑完掘状況

ＰＬ194　第892号土坑完掘状況，第893号土坑完掘状況，第895号土坑完掘状況，第898号土坑完掘状況，第980号土坑完掘状況，第981号土坑完掘状況，第983号土坑完掘状況，第987号土坑完掘状況

ＰＬ195　第989号土坑完掘状況，第991号土坑完掘状況，第994号土坑完掘状況，第995号土坑完掘状況，第996号土坑完掘状況，第998号土坑完掘状況，第999号土坑完掘状況，第1000号土坑完掘状況

ＰＬ196　第1003号土坑完掘状況，第1006号土坑完掘状況，第1010号土坑完掘状況，第1013号土坑完掘状況，第1014号土坑完掘状況，第1015号土坑完掘状況，第1025号土坑完掘状況，第1026号遺物出土状況

ＰＬ197　第1027号土坑完掘状況，第1028号土坑完掘状況，第1029号土坑完掘状況，第1030号土坑完掘状況，第1032号土坑完掘状況，第1037号土坑遺物出土状況，第1041・1042号土坑完掘状況，第1046Ａ・Ｂ号土坑完掘状況

ＰＬ198　第1049号土坑完掘状況，第1051号土坑完掘状況，第1052号土坑遺物出土状況，第1053号土坑完掘状況，第1054号土坑完掘状況，第1055号土坑完掘状況，第1056号土坑完掘状況，第1061号土坑完掘状況

ＰＬ199　第1057号土坑完掘状況，第1069号土坑完掘状況，第1079号土坑完掘状況，第1081号土坑完掘状況，第1082号土坑完掘状況，第1083号土坑完掘状況，第1084号土坑完掘状況，第1098号土坑完掘状況

ＰＬ200　第1250号土坑完掘状況，第1259号土坑完掘状況，第1263号土坑完掘状況，第1270号土坑完掘状況，第1331号土坑完掘状況，第

1343号土坑完掘状況，第1344号土坑遺物出土状況，第1345号土坑完掘状況
2区
ＰＬ201　第1244・1245・1246号住居跡出土土器，遺構外出土土器
4区
ＰＬ202　第20・21・22・407・956・966号住居跡出土土器
ＰＬ203　第956・957・958号住居跡出土土器
ＰＬ204　第960・963・964・968・970・971号住居跡出土土器
ＰＬ205　第970・971・972・973・974・975・978・979号住居跡出土土器
ＰＬ206　第974・975・978・979・981・987号住居跡出土土器
ＰＬ207　第987・990・991・994・998・1002号住居跡出土土器
ＰＬ208　第1001・1002・1007・1008・1010・1012号住居跡出土土器
ＰＬ209　第1012・1029・1032・1034・1037・1040号住居跡出土土器
ＰＬ210　第1032・1034・1044・1045・1048・1049・1051号住居跡出土土器
ＰＬ211　第1049・1051・1055・1061・1063・1064号住居跡出土土器
ＰＬ212　第1064・1074・1075・1076・1078号住居跡出土土器
ＰＬ213　第1078・1079・1080・1103・1110号住居跡出土土器
ＰＬ214　第1078・1080・1110・1115号住居跡出土土器
ＰＬ215　第1110・1115・1119・1121・1122・1123号住居跡出土土器
ＰＬ216　第1122・1123・1133・1134・1139・1144・1145・1154号住居跡出土土器
ＰＬ217　第1144・1145・1159・1163号住居跡出土土器
ＰＬ218　第1163・1165・1166号住居跡出土土器
ＰＬ219　第1163・1166・1463・1465号住居跡出土土器，出土土製品
ＰＬ220　出土土製品・鉄器・鉄製品
ＰＬ221　出土鉄器・鉄製品・石製品
ＰＬ222　出土土製品・石器・石製品
ＰＬ223　第129・954・965・976・977・982号住居跡出土土器
ＰＬ224　第985・988・989・993・997号住居跡出土土器
ＰＬ225　第997・999・1003号住居跡出土土器
ＰＬ226　第1003・1009・1013・1014・1017・1019・1027号住居跡出土土器
ＰＬ227　第1003・1027・1028・1030・1039・1042・1059号住居跡出土土器
ＰＬ228　第1030・1035・1042・1043・1046・1052・1053・1056・1059号住居跡出土土器
ＰＬ229　第1042・1052・1053・1056・1059・1060・1062・1065号住居跡出土土器
ＰＬ230　第1046・1060・1065・1066・1068・1069・1070号住居跡出土土器
ＰＬ231　第1069・1070・1071・1072・1073号住居跡出土土器
ＰＬ232　第1073・1077・1101・1104・1109・1113号住居跡出土土器
ＰＬ233　第1104・1112・1120・1124・1126・1128・1135・1136・1138・1140・1141号住居跡出土土器
ＰＬ234　第1140・1146・1147・1149号住居跡出土土器
ＰＬ235　第1146・1148・1149・1151・1153・1157・1158・1168・1169・1172・1173・1176・1461号住居跡出土土器
ＰＬ236　第1158・1169号住居跡出土土器，出土土製品，出土鉄器・鉄製品，第1号鍛冶工房跡出土鞴羽口
ＰＬ237　出土鉄器・鉄製品
ＰＬ238　出土鉄器・鉄製品，第1号鍛冶工房跡出土粒状滓・鍛造剥片（大・中・小）

ＰＬ239　出土石器・石製品
ＰＬ240　第28・59号掘立柱建物跡出土土器，第28号井戸跡出土土器，第755・1416号土坑出土土器，第57号掘立柱建物跡出土土製品，第35Ａ号溝・第794号出土古銭，第35Ａ号溝出土石製品，遺構外出土遺物
ＰＬ241　遺構外出土遺物
5区
ＰＬ242　第748・1451・1452・1453・1458・1459・1460号住居跡出土土器，第128号掘立柱建物跡出土土器
8区
ＰＬ243　第509・919・926・927・933・943・1200号住居跡出土土器
ＰＬ244　第943・1200・1207・1211号住居跡出土土器
ＰＬ245　第1211・1216・1219号住居跡出土土器
ＰＬ246　第1216・1219・1224・1235・1243・1401号住居跡出土土器
ＰＬ247　第1401・1405・1409・1416・1417・1419・1421号住居跡出土土器
ＰＬ248　第1421・1422号住居跡出土土器
ＰＬ249　第1422・1423・1424・1426・1427・1429号住居跡出土土器
ＰＬ250　第1429・1430・1434・1439号住居跡出土土器
ＰＬ251　第1439・1441・1445Ａ号住居跡出土土器
ＰＬ252　第1441・1445Ａ号住居跡出土土器
ＰＬ253　出土土製品
ＰＬ254　出土土製品・鉄器・鉄製品・石器・石製品
ＰＬ255　第514・520・918・931・936・1201・1203号住居跡出土土器
ＰＬ256　第1203・1204・1205・1208・1209・1210・1213号住居跡出土土器
ＰＬ257　第1210・1212・1213・1214・1215・1218・1220・1221号住居跡出土土器
ＰＬ258　第1220・1221・1222・1223・1226・1231号住居跡出土土器
ＰＬ259　第1222・1225・1226・1227・1231・1232・1233号住居跡出土土器
ＰＬ260　第1226・1232・1233・1234号住居跡出土土器
ＰＬ261　第1234・1236・1238号住居跡出土土器
ＰＬ262　第1237・1238・1239・1241号住居跡出土土器
ＰＬ263　第1237・1241・1242号住居跡出土土器
ＰＬ264　第1242・1408・1410・1411・1412号住居跡出土土器
ＰＬ265　第1408・1410・1412・1413・1414・1415・1420号住居跡出土土器
ＰＬ266　第1413・1420・1425Ａ・1425Ｂ号住居跡出土土器
ＰＬ267　第1425Ａ・1428・1431号住居跡出土土器
ＰＬ268　第1431・1432・1442・1443・1447号住居跡出土土器
ＰＬ269　第37・47・70・71・73・74・75・78・79・80Ａ・80Ｂ・81号掘立柱建物跡出土土器
ＰＬ270　第81・86・88・109・124・125号掘立柱建物跡出土土器，第16号溝出土土器
ＰＬ271　第75・84・85・86・87Ａ・89・100・101・103・108・109・118・121・127号掘立柱建物跡出土土器，第16号溝出土土器
ＰＬ272　第16号溝出土土器
ＰＬ273　第16・35Ｂ号溝出土土器
ＰＬ274　第16・35Ｂ号溝出土土器
ＰＬ275　第35Ｂ号溝出土土器
ＰＬ276　第30号井戸跡出土土器
ＰＬ277　第30号井戸跡出土土器，第856・857・881号土坑出土土器
ＰＬ278　第30号井戸跡出土土器，第881・886号土坑出土土器
ＰＬ279　第31号井戸跡出土土器，第881・886・1026・1344・1355号土坑出土土器，第21号方形竪穴状遺構出土土器，遺構外出土土器
ＰＬ280　出土土製品・鉄器

ＰＬ281　出土鉄器・鉄製品・銅製品
ＰＬ282　出土鉄器・鉄製品・古銭
ＰＬ283　出土鉄器・鉄製品・鉄滓
ＰＬ284　出土石器・石製品・木製品

付　　図

付図１　熊の山遺跡４区遺構全体図
付図２　熊の山遺跡８区遺構全体図
付図３　熊の山遺跡遺構全体図

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

茨城県では，首都圏とつくば研究学園都市を結ぶ常磐新線の早期開通をめざし，常磐新線の建設とそれに伴う沿線開発に取り組んでいる。

平成6年8月18日，茨城県知事は茨城県教育委員会あてに，常磐新線沿線地域の土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の有無及びその取り扱いについて照会した。これに対して茨城県教育委員会は，平成6年9月19日から27日にかけて現地踏査を行い，平成7年3月8日，島名・福田坪地区一体型特定土地区画整理事業地内に熊の山遺跡が所在する旨回答した。同日，茨城県知事から茨城県教育委員会あてに，同事業に係わる熊の山遺跡の取り扱いについて協議があった。

その結果，現状保存が困難であることから，平成7年3月9日，茨城県教育委員会は茨城県知事あてに，熊の山遺跡を記録保存とする旨回答し，調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県教育財団は，茨城県から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受け，平成7年4月1日から熊の山遺跡の発掘調査を開始した。平成7年度は，17,167㎡の調査を終了した。同様に平成8年度は16,050㎡，平成9年度は33,421㎡の調査を実施した。

平成10年度は，当初の調査予定面積は36,451㎡であったが，遺構が多数確認されたことから，茨城県と協議の上，24,904㎡に面積を縮小して調査した。平成11年度は，4,263㎡の調査を実施した。

第2節　調　査　経　過

平成10年度の発掘調査は，平成10年4月1日から平成11年3月31日までの1年間にわたって，2・4・8・10区を，平成11年度は平成11年4月1日から11月30日の8か月間にわたって，4・5・8区の調査を実施した。以下，調査経過について，その概要を記述する。

平成10年度

4月　初旬に，現地踏査及び調査器材の搬入，補助員雇用事務等発掘調査を開始するための諸準備を行った。中旬に4区の遺構調査を開始した。10日に茨城県県南都市建設事務所と茨城県教育財団による今後の調査の打ち合わせを行った。

5月　4月に引き続き，4区の遺構調査を行った。遺構が重複しているため，調査が難航した。

6月　引き続き，4区の遺構調査を行った。9日からは8区南部の遺構調査に入った。中旬から今年度の調査区になっている当遺跡の北西部及び南部のトレンチによる試掘調査を行い，月末までに終了した。

7月　17日までに4区北部の遺構調査が終了した。これまでの調査で遺物が多量に出土し，今後の調査においてもさらに多量の遺物が出土することが予想されたため，27日から自動注記機を導入した。引き続き4区南部と8区南部の遺構調査を行った。

8月　引き続き，4区南部・8区南部の遺構調査を行った。8区は黒色土中に遺構が確認されているため，調査が難航した。

9月　引き続き，4区南部・8区南部の遺構調査を行った。10日からは10区西部の遺構調査を並行して行った。

24日に茨城県県南都市建設事務所，茨城県教育庁文化課と協議を行い，今後の調査面積の変更が決定した。

10月　引き続き，４区南部・８区南部・10区西部の遺構調査を行った。21日に重機による表土除去（２・８区の一部，10区東部）を開始した。

11月　９日に２区の遺構確認をした。17日に重機による表土除去を終了した。引き続き４区南部・８区南部・10区の遺構調査を行った。今年度の調査区域は竪穴住居跡370軒，掘立柱建物跡57棟，土坑526基など遺構が多く，また重複が激しいため，期間内に調査を終了することが困難との見通しから対策案の検討を進め，24日に茨城県県南都市建設事務所，茨城県教育庁文化課と三者協議を行い，その結果，調査面積を縮小して平成10年度は24,904㎡の調査を行うことになった。

12月　引き続き，４区南部・８区南部・10区の遺構調査を行った。

１月　引き続き，４区南部・８区南部・10区の遺構調査を行った。中旬には４区南部の調査を終了し，調査の主力は10区に移った。

２月　引き続き，８区南部と10区の遺構調査を並行して行った。15日に２区の遺構調査を開始した。18日に委託者に対する報告会を行った。20日に現地説明会を実施し，280名の見学者が訪れた。

３月　１日から航空写真撮影のため，調査と並行して清掃を行った。４日に航空写真撮影を実施した。その後補足調査を行い，23日までに遺構調査を終了した。諸帳簿や諸記録の点検，調査区の安全対策を行い，24日に現場での作業を終了した。

平成11年度

４月　初旬に，現地踏査及び調査器材の搬入，補助員雇用事務等発掘調査を開始するための諸準備を行った。中旬に８区の遺構調査を開始した。12日に，熊の山遺跡・島名前野遺跡・島名前野東遺跡の表土除去を含めた調査区域の境界確認を茨城県県南都市建設事務所と行った。

５月　４月に引き続き，８区の遺構調査を行った。

６月　引き続き８区の遺構調査を行い，４・５区の小グリットを設定した。並行して３日から重機による表土除去（４・５区の一部）を開始し，４日に終了した。

７月　引き続き，８区の遺構調査を行った。

８月　引き続き８区の遺構調査を行い，並行して４区西部の一部と５区東部の一部の遺構調査を開始した。

９月　引き続き，４・５・８区の遺構調査を行った。５区の遺構調査は月末までに終了した。10日に茨城県県南都市建設事務所と茨城県企画部常磐新線整備推進課つくば用地管理事務所，茨城県教育財団による今後の調査についての打ち合わせを行った。

10月　引き続き４・８区の遺構調査を行い，中旬には４区の遺構調査が終了した。12日から航空写真撮影のための清掃を遺構調査と並行して行い，19日に航空写真撮影を実施した。16日に現地説明会を実施し，百数十名の見学者が訪れた。

11月　月末まで８区の遺構調査を行い，終了した。

12月　６日から10日まで調査区の重機による埋め戻し作業及び安全対策を行った。10日には茨城県県南都市建設事務所とつくば用地管理事務所立ち会いのもと，土地引き渡しを行った。

３月　６日に委託者に対する報告会を，島名前野遺跡・島名前野東遺跡と合わせて実施した。

第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

熊の山遺跡は，茨城県つくば市大字島名字道場前1640番地ほかに所在している。

つくば市は，茨城県南西部に位置し，北は真壁郡明野町，同郡真壁町，新治郡八郷町に，東は新治郡新治村，上浦市，南は牛久市，稲敷郡茎崎町，筑波郡伊奈町，同郡谷和原村に，西は水海道市，結城郡石下町，同郡千代川村，下妻市に接している。

つくば市の地形は，北は茨城県と福島県境にある八溝山から南に伸びる八溝山地の南端部に位置する筑波山を中心とする筑波山塊に接し，東側を東流して霞ヶ浦に流入する桜川と，西端を緩流して利根川に合流する小貝川の低地，及びそれらに挟まれた，筑波・稲敷台地からなる。筑波・稲敷台地は常総台地の一部で，標高20～25m前後の平坦な台地であり，花室川，東谷田川，西谷田川などの中小河川によって，浅く開析されている。この台地は，成田層及び竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層が主体で，その上に板橋層または常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層（0.3～5.0m），その上に関東ローム層（0.5～2.5m）が堆積し，最上部は腐植土層となっている。

当遺跡は，筑波研究学園都市の西部を北から南に流れる東谷田川右岸の標高約20mの台地上に立地している。この台地は東を東谷田川，西を西谷田川に挟まれ，南東方向に牛久沼付近まで細長く舌状に伸びている。両河川の沖積低地は，主に水田に利用されている。水田との比高は約８ｍである。調査前の現況は畑であった。

第2節　歴史的環境

つくば市谷田部地区には，東谷田川，西谷田川流域の台地上縁辺部や中央部と，東谷田川支流の蓮沼川右岸台地上に遺跡が数多く存在している。

旧石器時代については，つくば市苅間に所在する神田遺跡の調査で，ナイフ形石器，尖頭器，スクレーパー及び剥片が出土している。また，同市大字根崎字新畑に所在する根崎遺跡ではナイフ形石器と大形剥片がそれぞれ１点ずつ，同市大字西栗山字台代畑に所在する西栗山遺跡では尖頭器１点及び細石刃２点が出土している。

縄文時代の遺跡は，境松貝塚〈１〉，山田遺跡〈３〉など中期から後期にかけての遺跡が中心である。境松貝塚は谷田部地区の代表的な貝塚であり，縄文時代中期から後期の土器や石器が出土している。貝類は，オキシジミ，ヤマトシジミ，ムラサキガイ，シオフキなどで構成されている。山田遺跡からは縄文時代中期から後期の土器や石器が広範囲にわたって出土し，大規模な集落跡の可能性がある。熊の山遺跡周辺では，当遺跡から約１㎞南下した東谷田川と西谷田川に挟まれた台地の中央部に島名前野遺跡〈２〉，島名前野東遺跡〈35〉，さらに500m南にタカドロ遺跡〈22〉，一町田遺跡〈23〉が確認されている。島名前野東遺跡からは後期の土器，タカドロ遺跡と一町田遺跡からは中期から後期にかけての遺物が出土しており，小貝川左岸の台地と東谷田川，西谷田川に挟まれた台地では縄文時代中期から人々の生活が営まれていたと考えられる。

弥生時代の遺跡は，谷田部地区には２か所確認されているが，熊の山遺跡周辺にはない。

古墳時代の遺跡は，下横場古墳群，面の井古墳群〈10〉，関の台古墳群〈９〉，下河原崎古墳群〈12〉などの中小の古墳群が数多く確認されている。古墳は大半が径７～25mの円墳である。当遺跡周辺では，当遺跡の北側

に島名熊の山古墳群〈17〉，約1㎞北に関の台古墳群と関の台遺跡〈26〉がある。特に，島名熊の山古墳群は，径7～12m，高さ0.5～1.2mの円墳が11基群在している。当遺跡の南東約500mには薬師遺跡〈6〉，南東約1.5㎞には榎内遺跡〈7〉がある。平成11年度の茨城県教育財団の調査により，当遺跡の南約1㎞の島名前野遺跡，島名前野東遺跡にこの時代の遺構が存在することが明らかになった。いずれの遺跡も東谷田川と西谷田川に挟まれた台地上に位置している。また，東谷田川左岸の台地上には，東南東約1㎞に水堀遺跡〈28〉，南東約1.5㎞に柳橋遺跡〈29〉がある。

平安時代は，『和名類聚抄』によれば，谷田部地区は河内郡八部郷といい，仁徳天皇の妃八田若郎女のため八田部を置いた所と言われる。また，島名も『和名類聚抄』にある「嶋名郷」に比定されている。

奈良・平安時代の遺跡はこれまで確認されていなかったが，平成7年度からの茨城県教育財団の調査により，当遺跡の他に，当遺跡から北東約3㎞の神田遺跡〈30〉，約3.5㎞の六十目遺跡〈36〉，約1㎞南の島名前野遺跡〈2〉，島名前野東遺跡〈35〉，約3.5㎞南の西栗山遺跡〈32〉，根崎遺跡〈31〉にこの時代の遺構が存在することが明らかになった。平安時代末には苅間，谷田部，小野崎などに開発領主が出現したと伝えられており，今後の調査の成果が期待できる。

12世紀後半，常陸西南部をおおう広大な常安保は南野牧とともに村田荘の一部であったが，南野牧の分離とともに村田荘そのものになり，12世紀末にはさらに下妻荘，田中荘を分出し，八条院領として伝領された。谷田部地区の大部分は田中荘域に入る。常安保の開発領主は平直幹と考えられ，下妻荘，村田荘の下司職は下妻広幹に，田中荘の下司職は多気義幹に伝えられたと推測されている。しかし，鎌倉幕府の成立後，八田知家の入部により義幹は没落し，田中荘は小田氏の支配下に入る。霜月騒動（1285年）により，一時北条得宗家の手に移るが，室町時代になり，また小田氏の手に戻る。当時，小田氏配下の土豪に小野崎の荒井氏，苅間の野中瀬氏，島名・面野井の平井手氏がいたと伝えられる。

中世以降の確認された遺跡は城館跡がほとんどであり，熊の山遺跡周辺では北北東へ約2㎞の位置に平井手氏の居城と伝えられる面野井城跡が確認されており，当遺跡との関連も考えられる。

参考文献

・大山年次，蜂須紀夫　『茨城県　地学のガイド』　コロナ社　1977年8月

・蜂須紀夫，大森昌衛　『茨城の地質をめぐって』　築地書館　1979年9月

・谷田部の歴史編さん委員会　『谷田部の歴史』　谷田部町教育委員会　1975年9月

・茨城県史編集委員会　『茨城県史　中世編』　茨城県　1976年3月

・池邊彌　『和名類聚抄郡郷里驛名考證』　吉川弘文館　1981年2月

・竹内理三　『角川日本地名大辞典　8茨城県』　角川書店　1973年12月

・中山信名・栗田寛　『新編常陸国誌』　復刻版　崙書房　1978年12月

・鬼澤大海　『常陸旧地考』　崙書房　1976年10月

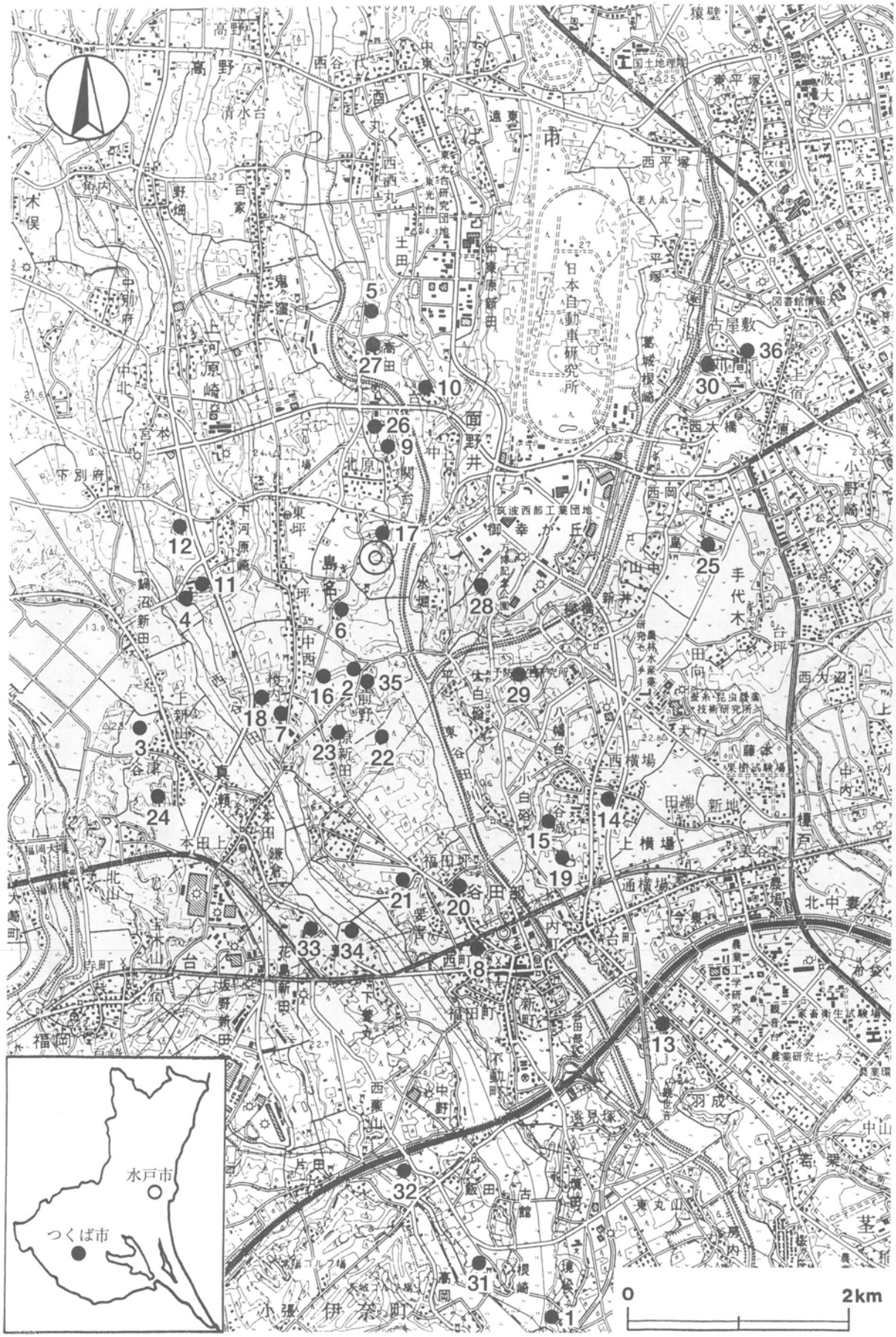
・江原忠昭　『増補　茨城の地名』　耕人社　1976年1月

・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）」
『茨城県教育財団文化財調査報告』第54集　1989年9月

・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅱ）」
『茨城県教育財団文化財調査報告』第63集　1991年3月

・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅲ）」

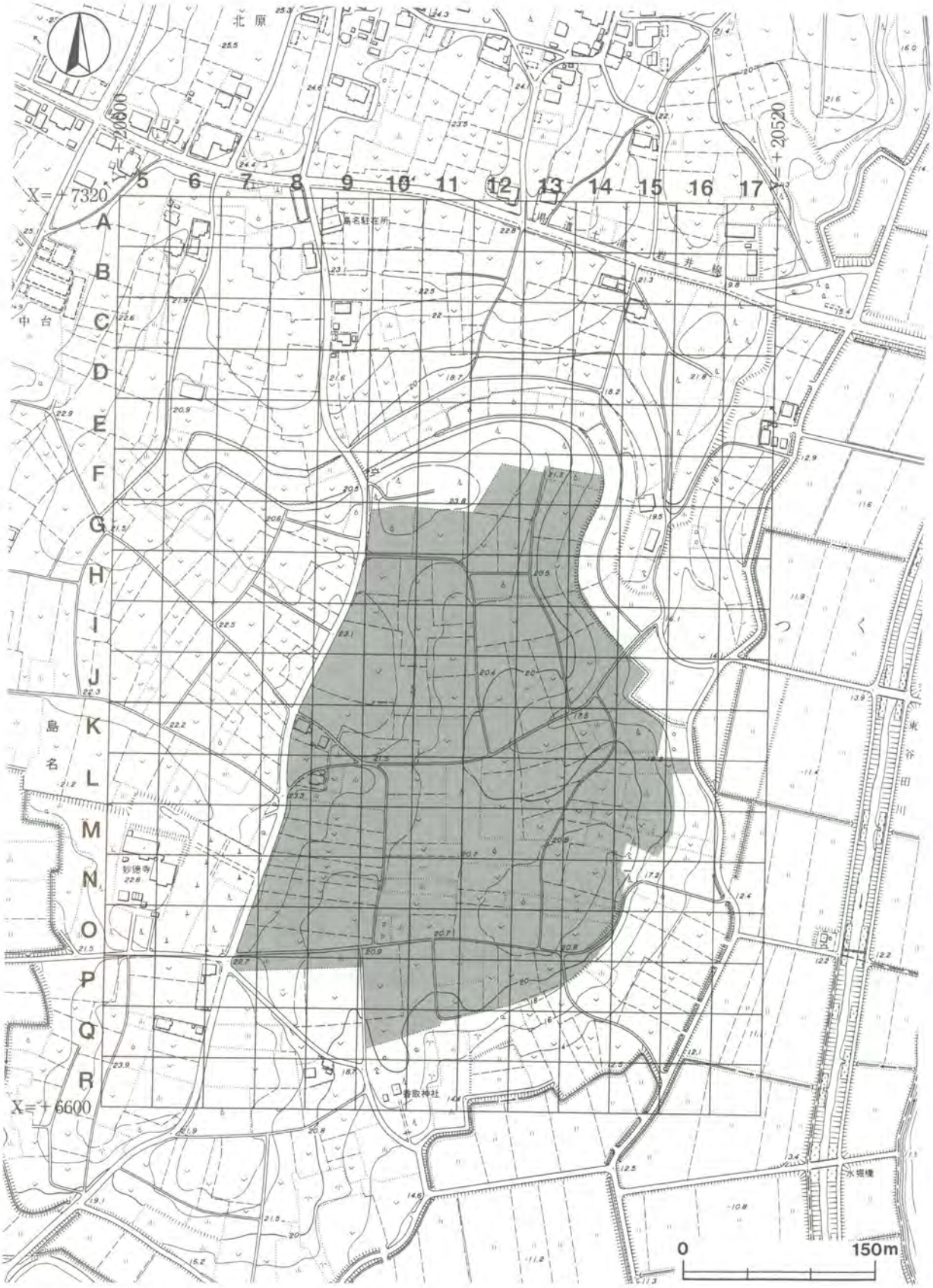
『茨城県教育財団文化財調査報告』第72集　1992年３月
・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）」
『茨城県教育財団文化財調査報告』第93集　1994年９月
・茨城県教育庁文化課　『茨城県遺跡地図』２版　茨城県教育委員会　1990年３月


高野
清水台
西谷
中東
西丸
西酒丸
土田
中別府
上河原崎
中北
宮本
下別府
下河原崎
東坪
島名
中西
上新田
谷津
本田上
福田坪
谷田部
西町
福田町
新町
不動町
中野
西裏山
片田
飯田
古館
高岡
伊奈町
小張
福岡
北山
玉林
台
坂野新田
鎌倉
真鶴
桜内
京新田
前野
南野井
北原
関谷
筑波西部工業団地
御幸が丘
水畑
新井
八幡台
白砂
谷城
西横場
上横場
通横場
美谷
北中妻
田端
新地
藤本
犬村
田向
西大沼
台坪
手代木
西岡
山中
西大橋
葛城根崎
古屋敷
上宿
小野崎
東平塚
西平塚
下平塚
日本自動車研究所
国土地理院
猿壁
筑波大学
遠見塚
羽成
若栗
中山
茎
根崎
0
2km
水戸市
つくば市

第1図　周辺遺跡位置図

表1　熊の山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	鎌・室	江戸
◎	熊の山遺跡				○	○	○	○
1	境松貝塚		○					
2	島名前野遺跡		○		○	○	○	
3	山田遺跡		○					
4	高山遺跡			○				
5	和田台遺跡				○			
6	薬師遺跡				○			
7	榎内遺跡				○			
8	谷田部城跡						○	
9	関の台古墳群				○			
10	面の井古墳群				○			
11	高山古墳群				○			
12	下河原崎古墳群				○			
13	羽成古墳群				○			
14	道心塚古墳群				○			
15	台町古墳群				○			
16	榎内古墳群				○			
17	島名熊の山古墳群				○			
18	ツバタ遺跡				○			
19	台成井遺跡		○					
20	福田前遺跡		○					
21	福田坪池の台遺跡		○					
22	タカドロ遺跡		○					
23	一町田遺跡		○					
24	真瀬新田谷津遺跡		○					
25	苅間遺跡				○			
26	関の台遺跡				○			
27	高田遺跡				○			
28	永堀遺跡				○			
29	柳橋遺跡				○			
30	神田遺跡	○	○	○	○	○	○	○
31	根崎遺跡	○	○		○	○	○	
32	西栗山遺跡	○	○		○			
33	三度山遺跡		○		○			
34	古屋敷遺跡		○		○		○	○
35	島名前野東遺跡		○		○	○	○	
36	六十目遺跡				○	○	○	



第２図　熊の山遺跡グリッド設定図

第3章　調査の成果

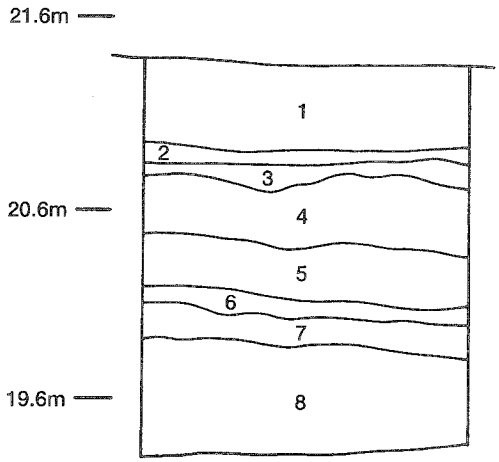
第1節　遺跡の概要

調査区は，便宜上1～11区に分けられている（第4図）。平成7年度の調査区は1～4区，平成8年度の調査区は5～8区，平成9年度の調査区は2～11区である（2～6・8区は複数年度にわたり調査した）。平成10年度の調査区は2・4・8・10区，平成11年度の調査区は4・5・8区である。平成10・11年度に調査した総面積は29,167㎡で，その内，今回報告するのは21,381㎡分についてである。調査前の現況は畑地で，主に芝畑として利用されていた。今回の調査の結果，古墳時代，奈良・平安時代の集落跡であることが確認できた。遺構は，竪穴住居跡309軒（古墳時代133軒，奈良・平安時代172軒，時期不明4軒），掘立柱建物跡60棟，土坑391基，地下式壙6基，井戸跡6基，溝29条，方形竪穴状遺構13基，鍛冶工房跡1軒，火葬施設4基，道路状遺構2条を確認した。

遺物は，遺物収納箱（60×40×20cm）に540箱出土している。遺物の大部分は，古墳時代から奈良・平安時代にかけての土師器，須恵器（坏，椀，皿，高坏，甕，壺，甑，硯など），灰釉陶器である。その他の遺物として，管状土錘，球状土錘，支脚，紡錘車，鞴羽口，砥石，腰帯具，石製模造品，鉄鏃，刀子，鎌，小刀，古銭，獣骨などが出土している。

第2節　基本層序の検討

調査区内（6区L14d7区）にテストピットを設定して基本土層の観察を行い，第3図に示すような土層堆積状況を確認した。



第3図　基本土層図

第1層は，暗褐色の耕作土層で粘性は弱く，しまりもあまりない。層厚は40～50cmである。芝畑であったところは，耕作によって削平されたため確認できなかった。

第2層は，褐色をしたソフトローム層への漸移層である。層厚は5～10cmである。

第3層は，明褐色をしたソフトローム層である。層厚は15cmほどで，しまっている。

第4層は，明褐色をしたハードローム層である。層厚は30cmほどで，しまっている。

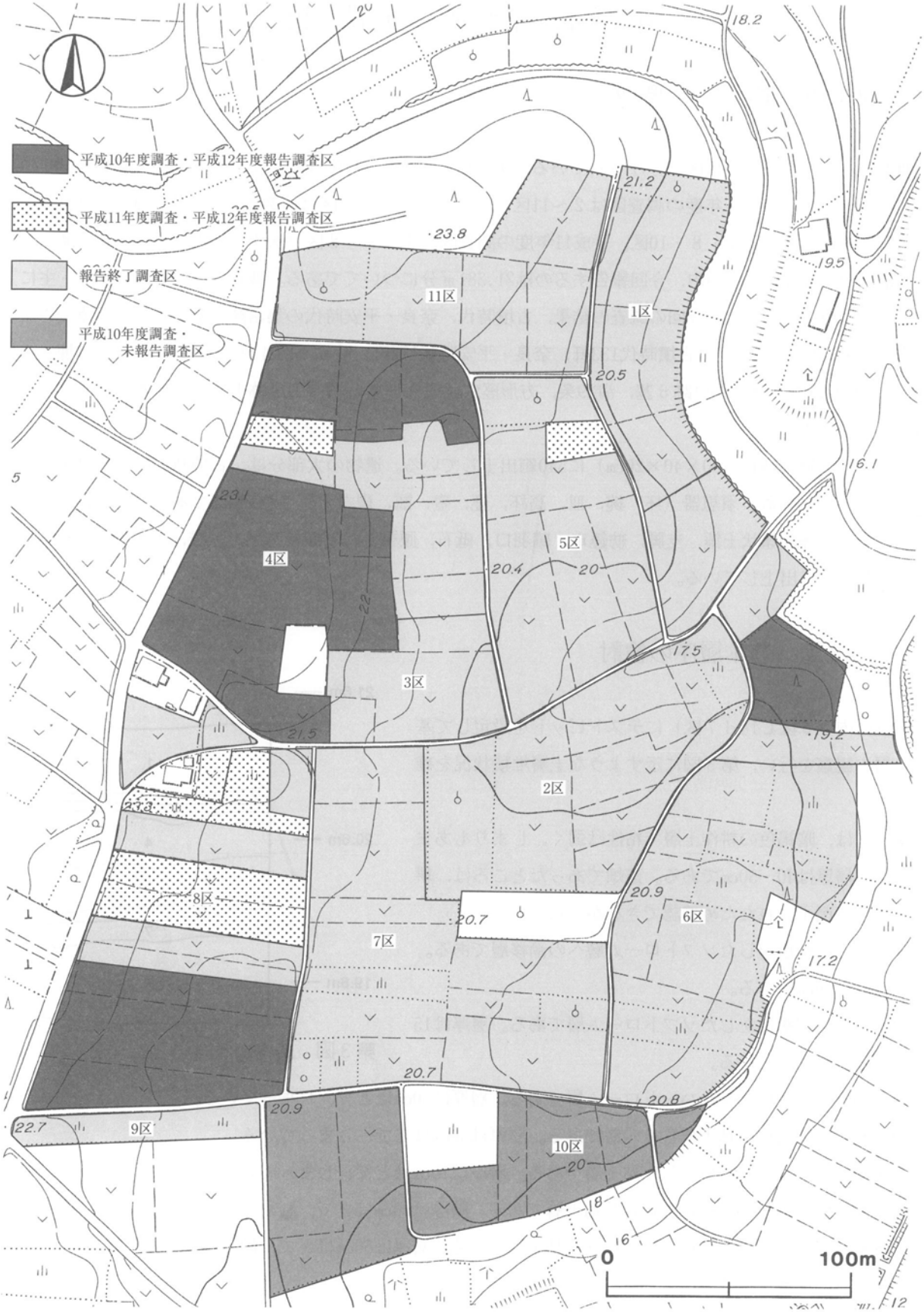
第5層は，暗褐色の粘土混じりの層である。層厚は30cmほどで，しまっている。

第6層は，にぶい黄橙色をした粘土層である。層厚は10cmほどで，しまっている。

第7層は，黄橙色の砂粒を少量含む粘土層である。層厚は20cmほどで，しまっている。

第8層は，明黄橙色の砂粒を大量に含む粘土層である。層厚は60cmほどで，硬くしまっている。

遺構は，第2層上面で確認できた。



第4図　熊の山遺跡調査区設定図

第3節　遺構と遺物

1　2区の遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

①　古墳時代

第1244号住居跡（第5・6図）

位置　調査2区の北部，K15e1区。

重複関係　北東部を第1245号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　東西軸4.82mと復元され，南北軸3.58mが確認できた。南部が調査区域外に延びている。また，西部は壁の立ち上がりが不明確のため，土層面に表れた覆土の変化と床面のわずかの高低差で東西軸を推定した。平面形は方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は20cmで，外傾して立ち上がる。壁溝は確認できなかった。

床　ほぼ平坦である。ピットは確認できなかった。

炉　中央部からやや西寄りに設けられている。長径90cm，短径55cmの楕円形に焼土が広がり，中央部は深さ35cmほど掘り下げられて，焼土ブロックが炉床面を形成している。

第5図　第1244号住居跡実測図

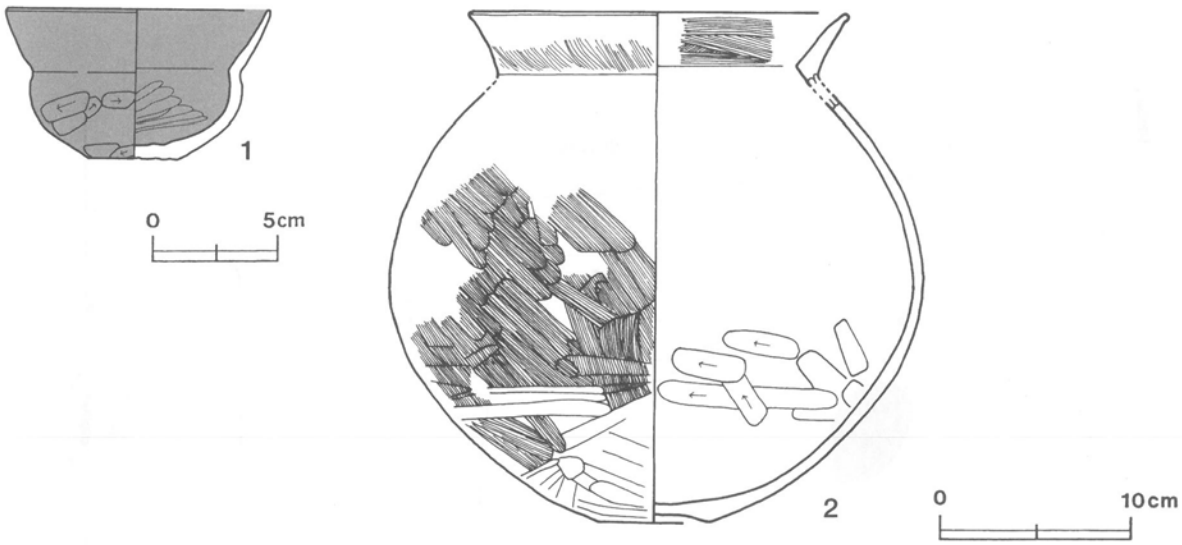
炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，炭化物微量
5　にぶい赤褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

覆土　8層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック少量，炭化物微量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
6　暗 褐 色　ローム小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量
7　黒 褐 色　ローム小ブロック少量
8　褐　　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子微量

遺物　土師器片104点，須恵器片1点，陶器片1点が出土している。第6図1の土師器坩は，中央部からやや北西寄りの床面から逆位で出土している。2の土師器甕は，中央部からやや北東寄りの床面から出土した破片と炉内から出土した破片が接合したものである。須恵器片および陶器片は撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から4世紀後半と考えられる。



第6図　第1244号住居跡出土遺物実測図

第1244号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第6図 1	坩 土師器	A［10.5］ B　6.0 C　3.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内面ヘラナデ，外面ハケ目調整。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・赤色粒子 明赤褐色 普通	P2001 40% PL201
2	甕 土師器	A［19.8］ B［26.5］ C　5.4	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径をもつ。頸部で「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ハケ目調整。体部内面ヘラ削り，外面ハケ目調整。体部外面中位ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P2002 45% PL201

② 奈良・平安時代

第1245号住居跡（第７・８図）

位置　調査２区の北部，K15d1区。

重複関係　南西部で第1244号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.15m，短軸2.90mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は８～16cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北部が撹乱を受けているため確認できなかったが，それ以外の壁下において確認できた。規模は上幅10～25cm，下幅３～10cm，深さ約12cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。

竈　北壁中央が撹乱を受けており，竈は確認できなかった。その他の部分においても竈は確認されなかった。また，粘土ブロックなど竈の存在を推測されるようなものも出土していない。

ピット　南壁中央から約55cmほど中央部寄りに位置するＰ１は，上端径約35cm，下端径約20cmのほぼ円形で，深さは20cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

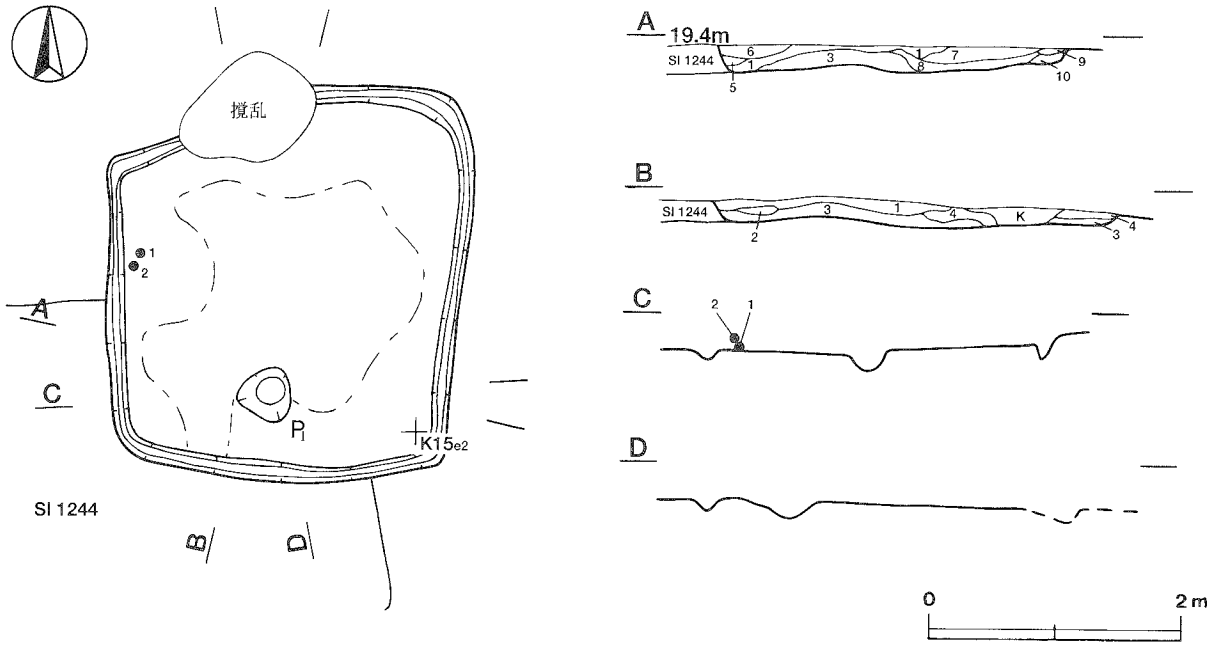
覆土　10層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

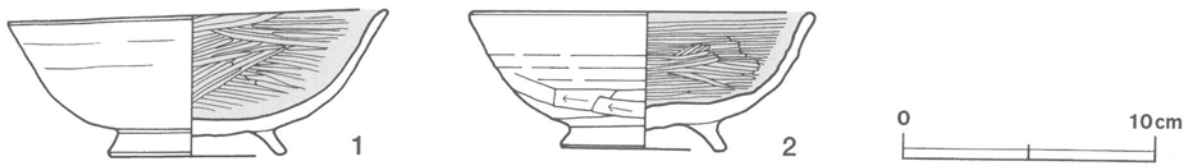
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック少量
5　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化物微量
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
8　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック微量
9　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

遺物　土師器片344点，須恵器片74点，陶器片２点，磁器17点，鉄滓３点が出土している。第８図１の土師器高台付坏は，西壁際の床面から横位で出土している。２の土師器高台付坏は，１と重なり合って西壁際の床面から横位で出土している。覆土中から出土した土師器片の大部分は甕体部の小片や細片である。陶器片が撹乱層から出土しているが細片のため器種は不明である。磁器細片と鉄滓は撹乱による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から９世紀後葉から10世紀前葉と考えられる。



第７図　第1245号住居跡実測図



第８図　第1245号住居跡出土遺物実測図

第 1245 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第８図 1	高台付坏 土師器	A 15.0 B 5.8 D 7.0 E 1.1	口縁部一部欠損。平底。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内面丁寧なヘラ磨き。口縁部外面横ナデ。体部外面ナデ。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色 普通	P 2003 95% P L 201
2	高台付坏 土師器	A 13.4 B 5.5 D 6.4 E 1.1	口縁部一部欠損。平底。高台は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内面丁寧なヘラ磨き。口縁部外面横ナデ。体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・白色粒子 にぶい橙色 普通	P 2004 95% P L 201

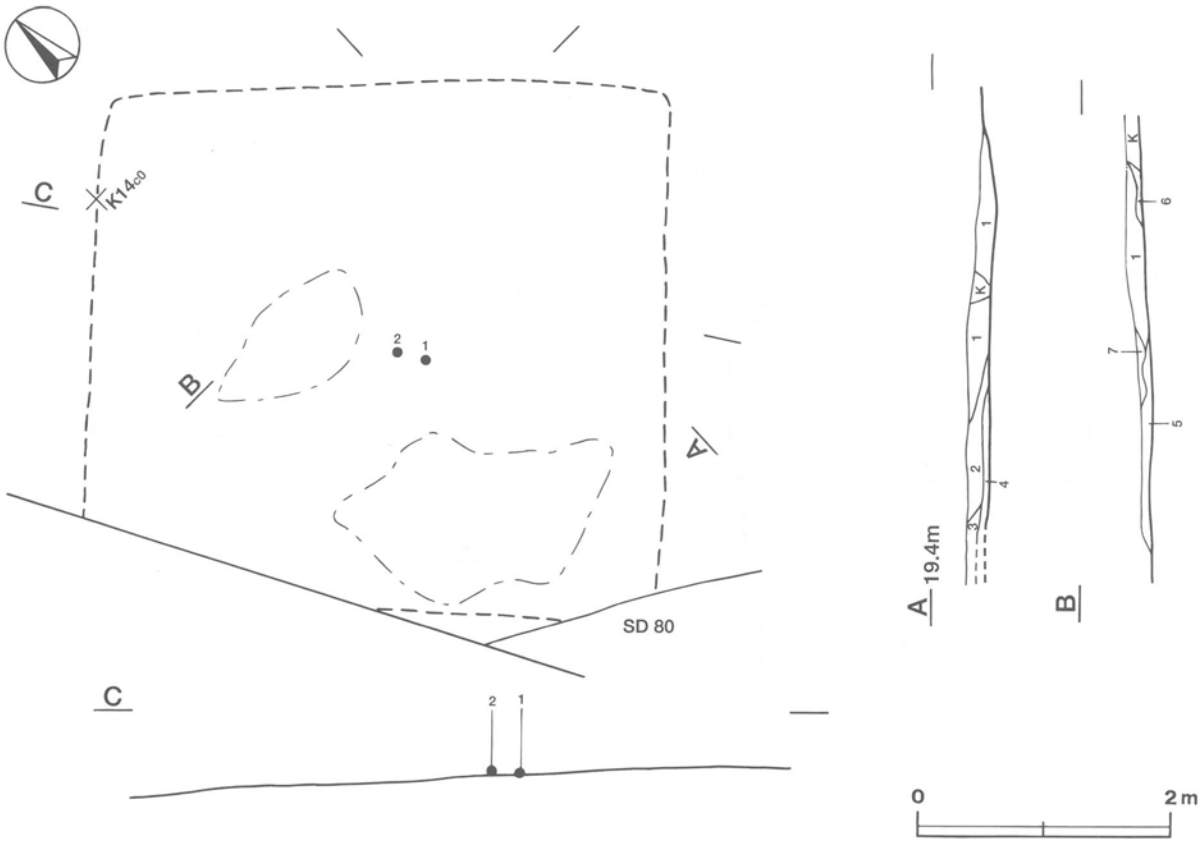
第1246号住居跡（第９・10図）

位置　調査２区の北部，K14c0区。西コーナー部は調査区域外のため確認できなかった。

重複関係　南コーナー部を第80号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.55m，短軸4.25mの方形と推定される。壁の立ち上がりが不明確のため，一部確認できた東壁と床面と思われる硬化面の広がりから推定した。

主軸方向　N－42°－W



第９図　第1246号住居跡実測図

壁　東部で壁の一部が確認されただけである。壁高は約15cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。中央部と南部が踏み固められている。ピットは確認できなかった。

竈　床面や壁・覆土を精査したが，竈やその存在を推定させるようなものは確認できなかった。

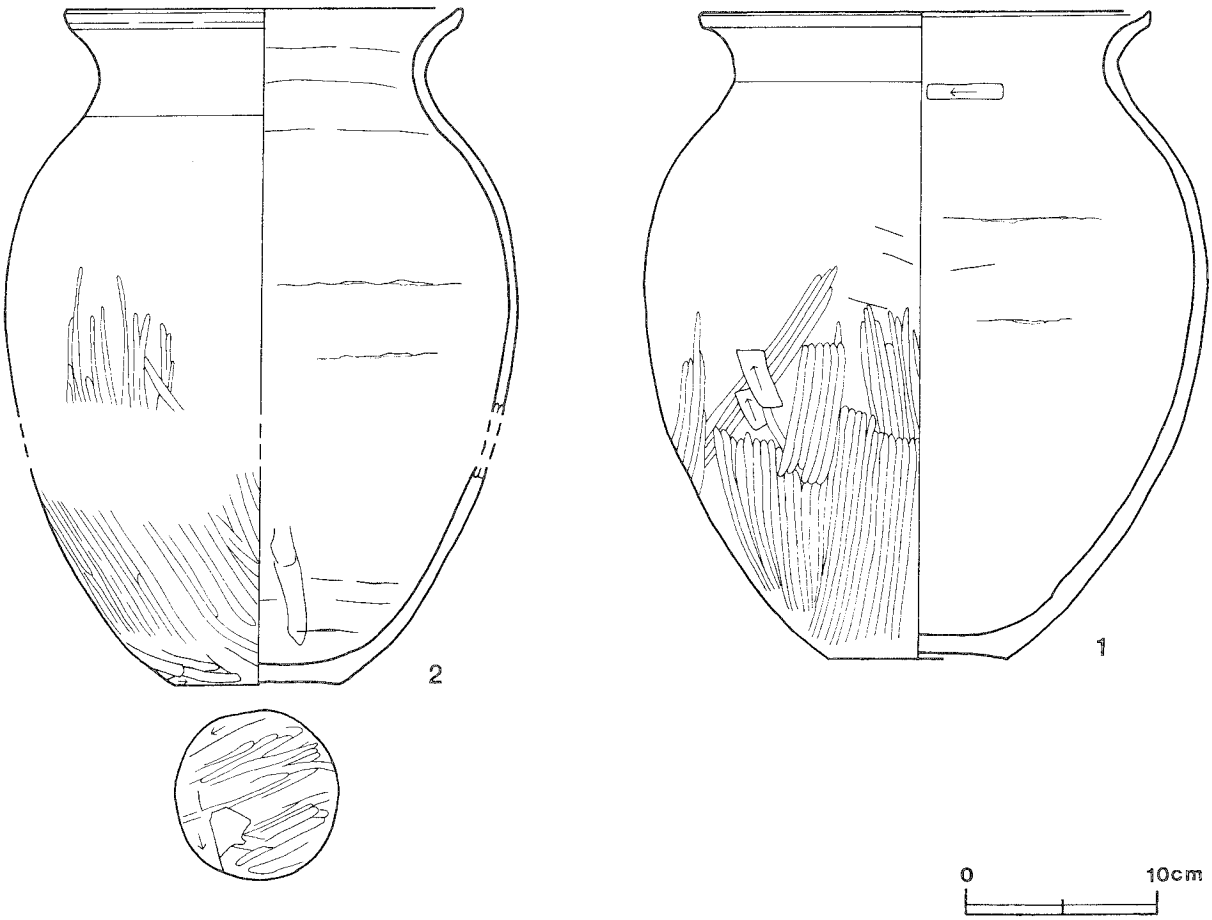
覆土　全体的に覆土は薄く，7～15cmで7層からなる。特に北西部は薄く，部分的に床面がほぼ露出した状態で確認された。不連続な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子少量
5　褐　色　ローム粒子中量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック微量
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片213点，須恵器片28点，磁器片2点，鉄滓1点が出土している。第10図1の土師器甕は，中央部の床面から出土している。2の土師器甕は，中央部の床面および覆土中から出土した破片が接合したものである。図示しなかった土師器片の大部分は，覆土中から出土した甕の体部および底部の小片や細片である。また，覆土中から出土した須恵器片は細片のため器種は特定できなかった。磁器細片は撹乱による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀前半と考えられる。



第10図　第1246号住居跡出土遺物実測図

第1246号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第10図 1	甕 土師器	A［23.4］ B　33.5 C　9.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ，中位から下位ヘラ磨き。体部内面中位に輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P2005 55% PL201
2	甕 土師器	A［20.5］ B［35.0］ C　8.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，上位に最大径をもつ。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面中位から下位ヘラ磨き。底部ヘラ磨き。頸部・体部内面下位に輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P2006 35% PL201

(2)　溝

第80号溝（第11・13図）

位置　調査2区の北部，K14d0～K14e0区。

重複関係　第1246号住居跡の南西コーナー部を掘り込んでいる。

規模と形状　確認できた長さは5.50m，規模は上幅49～73cm，下幅22～43cm，深さ17～48cmであり，断面形はU字形をしている。

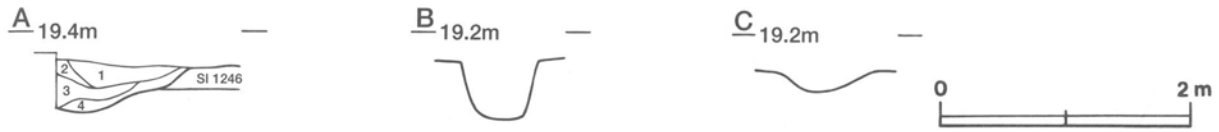
方向　K14e0区から北西方向（N－10°－W）に，3.5mほど延び，K14d0区で西方向（N－60°－W）に折れて，調査区域外へ延びている。

覆土　4層からなる。土層断面図中，第3層にローム小ブロックが中量含まれているものの，レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

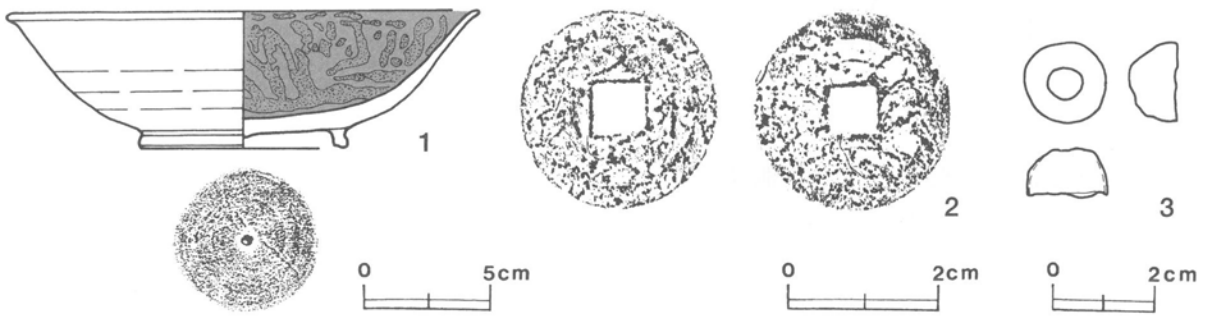
遺物　土師器片5点，須恵器片1点が覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器が細片のため判断できない。重複している第1246号住居跡が8世紀前半と考えられ，それより新しい。比較的浅いことから，区画溝と考えられる。



第11図　第80号溝土層断面図

(3)　遺構外出土遺物



第12図　2区遺構外出土遺物実測図

2区遺構外出土遺物観察表

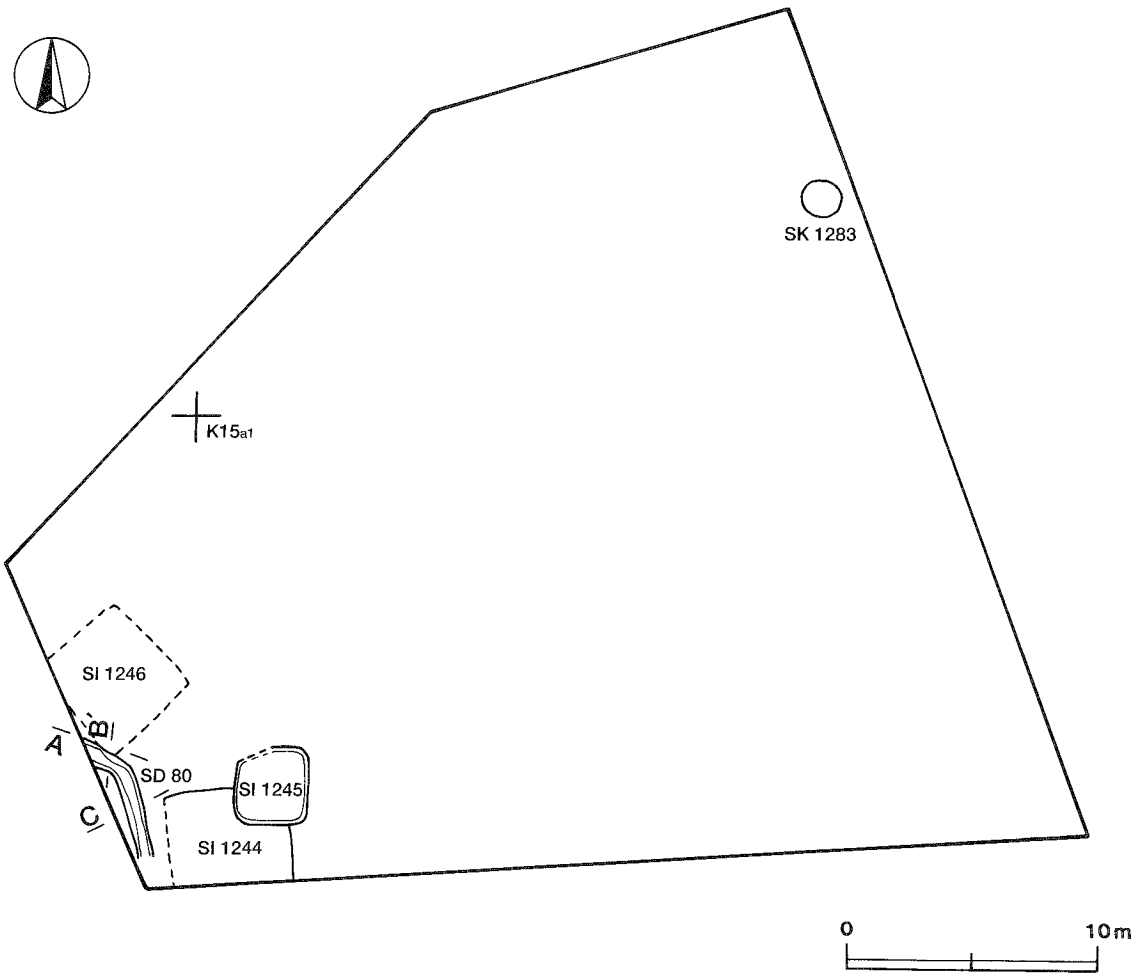
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第12図 1	椀 灰釉陶器	A 18.5 B 5.4 D 8.2 E 0.7	口縁部・体部一部欠損。高台は断面四角形で「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ロクロナデ。口縁部・体部内面釉刷毛塗り。	砂粒 胎土　灰白色 釉　灰オリーブ 良好	P2007　60% PL201 黒笹90号窯式並行 宮口窯カ

図版番号	器　種	計測値			特　徴	備　考
		径 (cm)	孔 (cm)	重さ(g)		
第12図2	文久永寶	2.7	0.6	3.3	円体方形。初鋳年1863年	M2001

図版番号	器　種	計測値					特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔　径	重量(g)		
第12図3	不明銅製品	1.7	1.0	0.1	0.7	(2.0)	半球形，上部に径7mmの円孔有り。	M2002

表2　2区住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
							壁溝	ピット	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴			
1244	K15e1	N-5°-W	−	(4.82)×(3.58)	0〜20	平坦	−	−	−	−	炉	−	人為	土師器（坩・甕）	本跡→SI1245
1245	K15d1	N-0°	方　形	3.15 × 2.90	0	平坦	−	1	−	−	−	−	人為	土師器（高台付坏）	SI1244→本跡
1246	K14c0	N-42°-W	[方　形]	[4.55]×[4.25]	0	平坦	−	−	−	−	−	−	−	土師器（甕）	本跡→SD80



第13図　熊の山遺跡2区遺構全体図

2　4区の遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

①　古墳時代

第20号住居跡（第14図）

位置　調査4区の南部，K10c0区。平成7年度と平成10年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査も南部は平成7年度，竈を含む北部は平成10年度と，両年度にわたった。

重複関係　第21～23号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　全体的に第21号住居に掘り込まれているものの，遺存する南・西・北壁と東壁の一部からみて，長軸6.58m，短軸6.12mの長方形である。

主軸方向　N－21°－W

壁　壁高は20～45cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っており，全周していたと考えられる。上幅14～31cm，下幅3～16cm，深さ5～10cmで，断面形はU字形である。

床　確認された床面はほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁の中央部からやや北西コーナー寄りを壁外へ49cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口端部は第21号住居に掘り込まれ，東袖端部も第21号住居跡の西袖部と一部重複している。確認できた範囲は，焚口部から煙道部まで126cm，両袖部幅118cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第1～3・8層が粘土粒子・砂粒を比較的多めに含んでいることから，崩落土層と考えられる。第14層は焼土粒子を多量に含み，赤変硬化していることから，火床部と考えられる。第10層の灰の中から，小動物のものと思われる骨の細片が検出されている。煙道は，火床面から外傾して緩やかに立ち上がる。

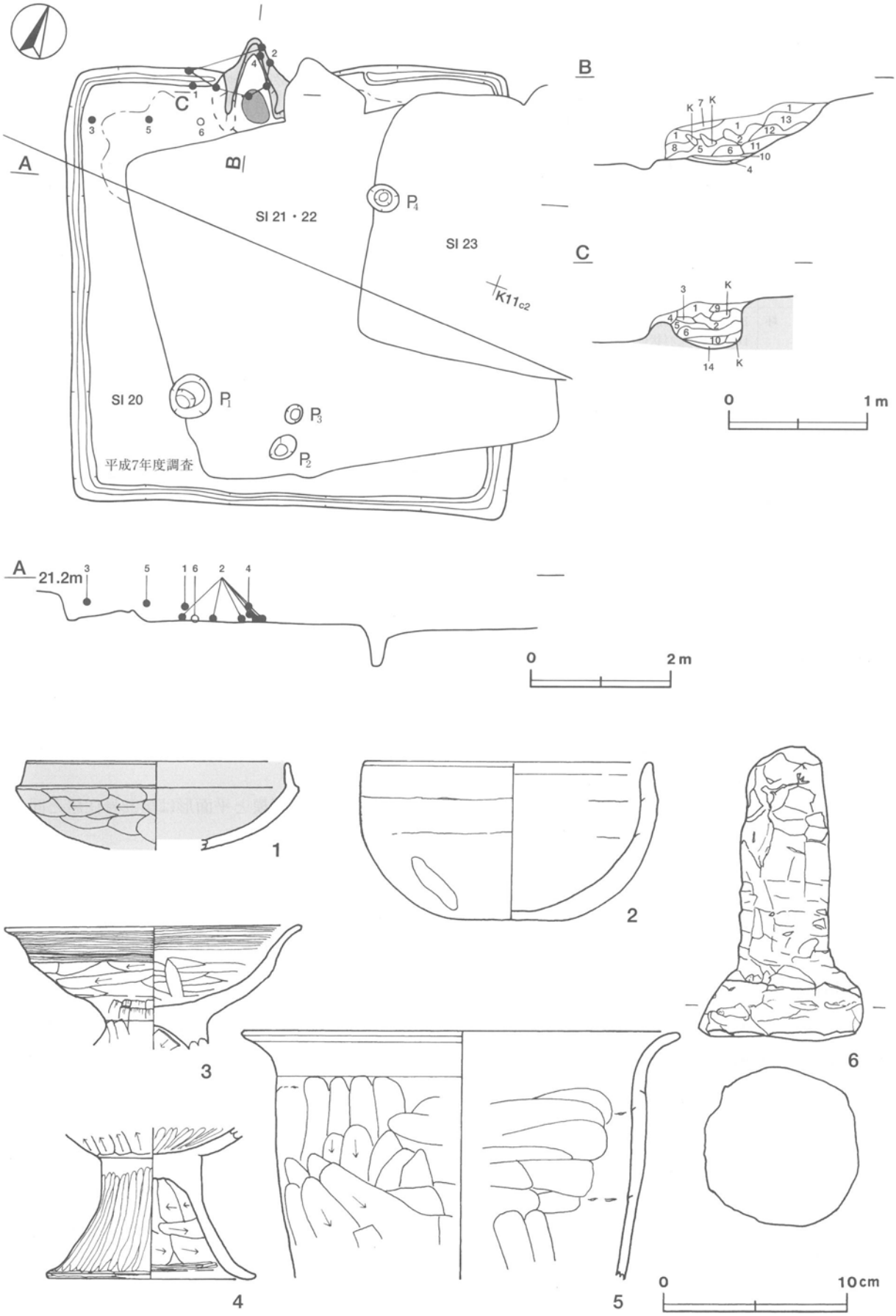
竈土層解説

1	暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量
2	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，炭化材・炭化粒子・粘土粒子微量
3	灰褐色	砂粒・粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4	にぶい赤褐色	砂粒・粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	焼土粒子多量，炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子微量
6	極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒・灰微量
7	黒褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
8	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物少量，ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒微量
9	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
10	灰褐色	灰多量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒・動物骨細片微量
11	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック微量
12	暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
13	暗赤褐色	炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒・粘土粒子少量
14	暗赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック少量・ローム粒子微量

ピット　4か所（P1～P4）。P1～P3は，平成7年度の調査区で検出されており，主柱穴と考えられる。南西コーナーからやや中央寄りに位置するP4は，径42cmの円形で，深さ62cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。

遺物　平成10年度の調査では，土師器148点，土製品1点（支脚）が出土している。第14図の1～5は，いずれも土師器である。1の坏は，竈西側の北壁際の覆土中層から正位で出土している。2の椀は，竈内と竈の西側の床面から出土した破片が接合したものである。3の高坏は，北西部の西壁際の覆土中層から正位で出土している。4の高坏は，竈の西袖部の覆土中層から出土している。5の甑は，北西部の覆土中層から破片で出土している。6の支脚は，竈の東側の床面から出土している。

所見　本跡の南半分は，平成7年度に調査が終了しており，その部分については，『茨城県教育財団文化財調査報告』第120集を参照されたい。時期は，出土土器から6世紀後半と考えられる。



第14図　第20号住居跡・出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第14図 1	坏 土師器	A [14.2] B (4.7)	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 橙色 普通	P41001 30% PL202
2	椀 土師器	A 15.4 B 8.6 C 6.5	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。内面横位のヘラナデ後，縦位のヘラ磨き。内面に輪積み痕を残す。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P41002 70% PL202 二次焼成 外面剥離
3	高坏 土師器	A 16.0 B (6.6)	坏部の破片。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面丁寧なヘラ磨き。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 赤色粒子 明褐色，普通	P41003 40% PL202
4	高坏 土師器	B (8.2) D [11.0]	坏部から脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	坏部内面放射状のヘラ磨き。坏部から脚部外面縦位のヘラ磨き。脚部内面横位のヘラ削り。裾部内・外面横位のヘラ磨き。	砂粒・石英 黄橙色 普通	P41004 30% PL202
5	甑 土師器	A [23.4] B (13.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位と斜位のヘラ削り，内面横位と斜位のナデ。内面に輪積み痕を残す。	石英・長石 にぶい黄橙色 普通	P41005 10%

図版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ(cm)	径 (cm)	重量(g)			
第14図6	土製支脚	15.8	4.2 ～ 8.2	629.0	円柱状で，裾部に段をもつ。	砂粒・長石，にぶい橙色	DP41001 98% PL219

第21号住居跡（第15図）

位置　調査4区の南部，K11c1区。平成7年度と平成10年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査も南部は平成7年度，竈を含む北部は平成10年度と，両年度にわたった。

重複関係　第20号住居跡を掘り込み，第22・23号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　本跡上に第22号住居が建て替えられたと考えられるため，規模と平面形は第22号住居と同じである。

主軸方向　N－34°－W

床　第22号住居の貼り床面下に確認されている。ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北西壁の中央部を壁外へ65cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで140cm，両袖部幅110cmである。第22号住居の竈の北側に検出されている。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第2・3・5～8層が粘土粒子と砂粒を比較的多めに含んでいることから，崩落土層と考えられる。第4・9層は焼土粒子を比較的多く含み，赤変硬化していることから，火床部の土層と考えられる。煙道は，火床面から外傾して緩やかに立ち上がる。

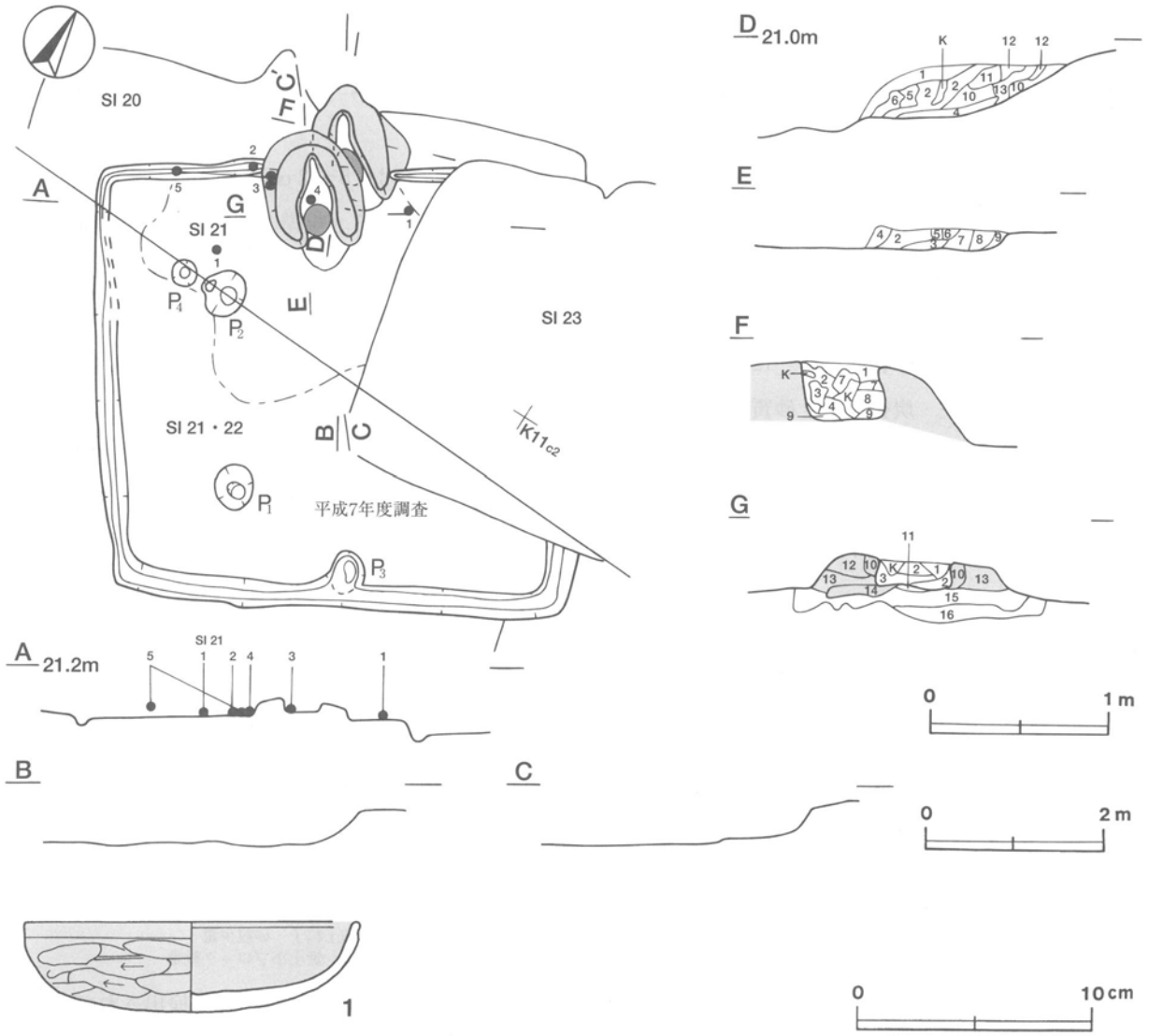
竈土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　灰褐色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
4　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子・砂粒微量
5　にぶい赤褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
8　灰褐色　粘土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
9　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量
10　暗赤褐色　炭化粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
11　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
12　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
13　暗赤褐色　炭化粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量

ピット　平成７年度調査区でＰ１～Ｐ３が検出されているが，平成10年度の調査結果から，第22号住居は本跡上に建て替えした住居跡であることが確認された。Ｐ１～Ｐ３は，本跡で付設したものをそのまま第22号住居跡で利用していたものと考えられるが，第22号住居の方が新しく第22号住居のピットと考えたほうが妥当である。

遺物　平成10年度の調査では，土師器片101点が出土している。第15図１の土師器坏は，北西部の床面から正位で出土している。

所見　本跡の南半分は，平成７年度に調査が終了しており，その部分については，『茨城県教育財団文化財調査報告』第120集を参照されたい。時期は，出土土器と重複関係から６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる。



第15図　第21・22号住居跡実測図，第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第15図 1	坏 土師器	A 14.0 B 3.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P41006 95% PL202

第22号住居跡（第15・16図）

位置　調査４区の南部，K11c1区。平成７年度と平成10年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査も南部は平成７年度，竈を含む北部は平成10年度と，両年度にわたった。

重複関係　平成10年度の調査の結果，本跡は第21号住居跡の壁と壁溝を利用し，床面の上に貼床をし，竈を再構築した住居跡であることが確認されたことから，建て替えの住居跡と考えられる。東部を第23号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　全体的に第23号住居に掘り込まれているものの，遺存する南東・南西・北西壁の一部からみて，長軸6.43m，短軸5.02mの長方形である。

主軸方向　N－35°－W

壁　北コーナー部の北西壁から東コーナー部の北東壁までは，第23号住居に掘り込まれているため確認することはできなかった。壁高は34～45cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っており，全周していたと考えられる。上幅12～31cm，下幅３～９cm，深さ６～９cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，竈の前から中央部にかけて踏み固められている。貼床は1.5～２cmほどの厚さである。

竈　北西壁の中央部を壁外へ30cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで112cm，両袖部幅118cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，焼土粒子・粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第１・２・５～７層が崩落土層と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており，ローム粒子・粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第10・12～14層が袖部の土層である。竈の構築を土層断面図からみると，地山を掘り込んだ後に焼土・炭化粒子と砂質粘土が混じったローム土で埋めた後に火床面を作り，その両脇に粘土粒子・砂粒を多めに混ぜ込んだローム土の部材を積み上げるように重ねて袖部を構築している。土層断面図中，第３・11層が焼土と灰を多く含むことから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から外傾して緩やかに立ち上がる。天井部の崩落土層中から，甕片が出土している。

竈土層解説

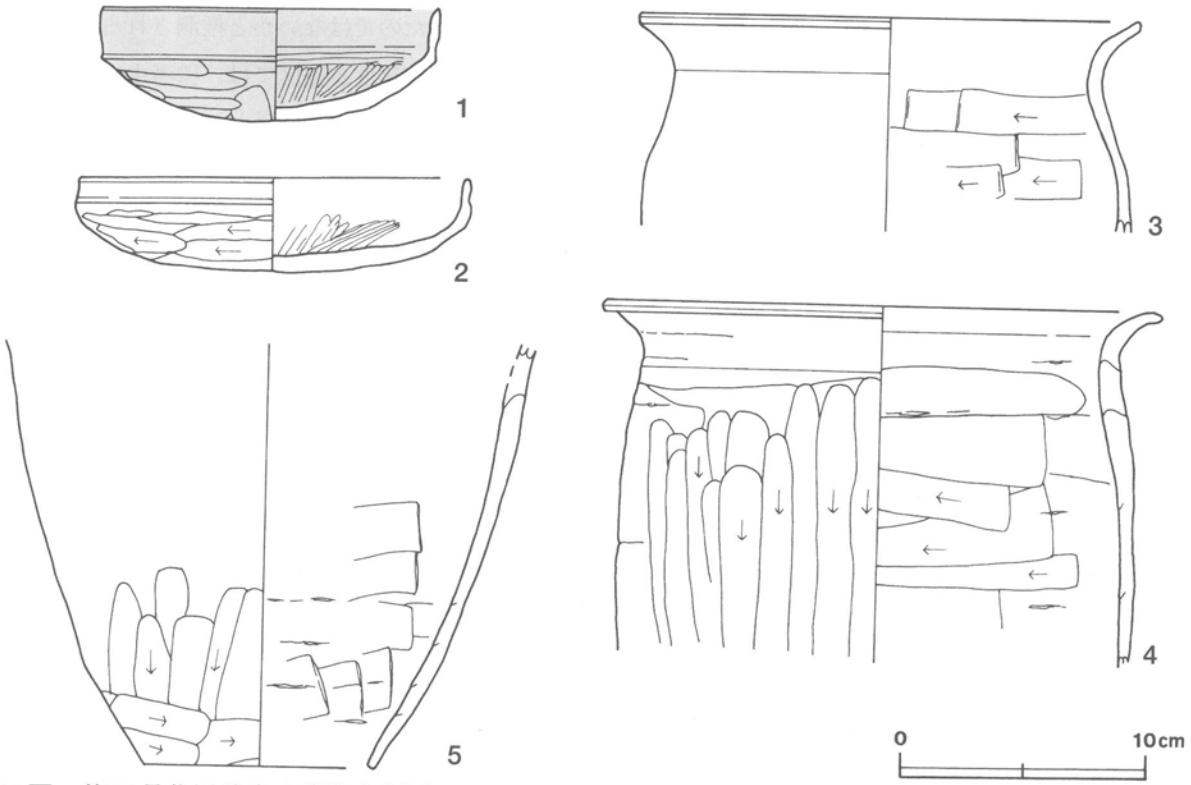
1	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量，粘土粒子微量
2	暗赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒微量
3	灰褐色	灰中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒微量
4	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
5	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
6	灰褐色	粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子微量
7	暗褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
8	灰褐色	粘土粒子多量，砂粒中量，炭化粒子微量
9	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
10	褐色	砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
11	赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量
12	にぶい褐色	砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
13	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
14	褐色	砂粒中量，ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
15	暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
16	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量

ピット　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１～Ｐ３は，平成７年度調査区では第21号住居跡として検出されているが，新旧関係から，第22号住居跡のピットと考えられる。Ｐ２の西側に位置するＰ４は径24cmの円形で，深さ32cmである。位置的に補助柱穴と考えられる。

遺物　平成７年度の調査では，土師器片64点が出土している。平成10年度の調査では，土師器208点が出土している。第16図の１～５は，いずれも土師器である。１の坏は，竈の東側の床面から正位で出土している。２の坏は，竈の西側の北壁際から正位で出土している。３の甕片は，竈の崩落した天井部の崩落土層から出土している。４の甑は，竈の西袖上部の覆土から破片で出土している。５の甑は，北西部の北壁際の覆土中層から

破片で出土している。

所見　平成７年度に調査が終了している部分については，『茨城県教育財団文化財調査報告』第120集を参照されたい。時期は，出土土器と重複関係から７世紀前半と考えられる。



第16図　第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第16図 1	坏 土師器	A［13.3］ B　4.5	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ヘラ磨き。内面横ナデ後，縦位のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色 普通	P41007 70% PL202
2	坏 土師器	A　15.4 B　3.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。内面横位のヘラナデ後，縦位のヘラ磨き。	砂粒・雲母・石英 にぶい赤褐色 普通	P41008 90% PL202
3	甕 土師器	A［19.8］ B（8.4）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は上方へわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面横位のヘラナデ後，ナデ。	砂粒・小礫・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P41010 10%
4	甑 土師器	A［21.8］ B（14.2）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面横位のヘラナデ後，ナデ。内面に輪積み痕を残す。	砂粒・石英 黄橙色 普通	P41009 30% PL202
5	甑 土師器	B（16.8） C［9.0］	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位と斜位のヘラ削り，内面横位と斜位のナデ。	砂粒・石英・長石 にぶい黄橙色 普通	P41011 20% PL202

第29号住居跡（第17・18図）

位置　調査４区の南部，K10h6区。南東部は平成７年度調査区に，南西部は平成10年度調査区に位置しているため，平成７・10年度の両年度にわたって調査をしている。また約５分の３は，未調査区域に位置している。

重複関係　南西部を第1013・1014号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　確認されたのは南東軸が6.85m，南西軸4.90mである。方形または長方形と考えられる。

主軸方向　N－32°－W

壁　壁高は9～22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　平成10年度調査区では，壁の下に巡っており，ほぼ全周していたのではないかと推測される。上幅28～42cm，下幅12～18cm，深さ5～9cmで，断面形はU字形である。平成10年度調査区では，壁溝中にP3を有しているほか，径4～6cmほどの小ピットが，12か所壁に沿うように並ぶことが確認された。壁材を固定した杭跡ではないかと推測される。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

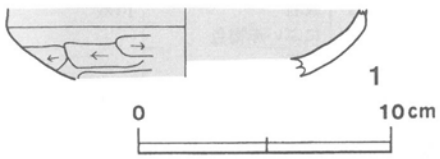
ピット　4か所（P1～P4）。南コーナーからやや中央寄りに位置するP1は，径86cmの円形で，深さ67cmである。規模と配置から主柱穴の一つと考えられる。南東壁際のほぼ中央に位置するP2は，径68cmの円形で深さ63cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。南コーナー部の壁溝中に位置するP3は，径42cmの円形で，深さ40cmである。位置的に壁柱穴と考えられる。北東壁際に位置するP4は，上端が一部未調査区域にかかるため規模が確定できないものの，短径28cmの楕円形で，深さ46cmである。規模と配置から補助柱穴ではないかと考えられる。

P1土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
2　黒褐色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量

P2土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
7　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
8　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

覆土　3層からなる。壁際からの堆積状況と平成7年度の調査結果から，自然堆積と考えられる。

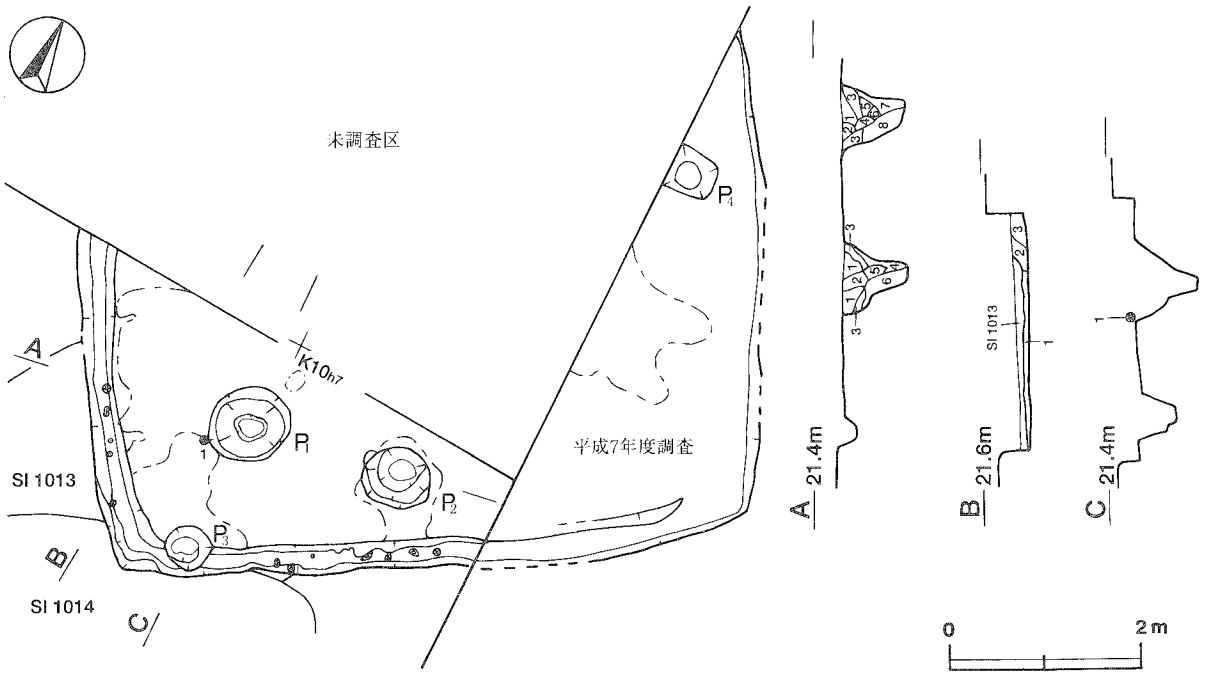
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量



第17図　第29号住居跡出土遺物実測図

遺物　平成10年度の調査では，土師器片31点が出土している。第17図1の土師器坏は，南西部の床面から破片で出土したものである。

所見　本跡は中央部から北部にかけての約5分の3が未調査区域に位置しているため，竈等については確認することができなかった。本跡の南東部については，平成7年度に調査が終了しており，その部分については，『茨城県教育財団文化財調査報告』第120集を参照されたい。時期は，出土土器から6世紀後半から7世紀前半にかけての古墳時代後期と考えられる。



第18図　第29号住居跡実測図

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第18図 1	坏 土師器	B（2.7）	体部から口縁部にかけての破片。口縁端部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P41204 10%

第130号住居跡（第19図）

位置　調査4区の北部，I10a0区。平成7年度と平成10年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査も南部は平成7年度，北部は平成10年度と両年度にわたった。

重複関係　西部を第129号住居に，東部を第1112号住居に，南西部を第3号地下式壙に北西部を第60号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　西部を第129号住居に，南西部を第3号地下式壙に掘り込まれているために，全容は不明である。南北軸は5.93mで，東西軸は5.44mが確認できただけであり，南東コーナーと北東コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

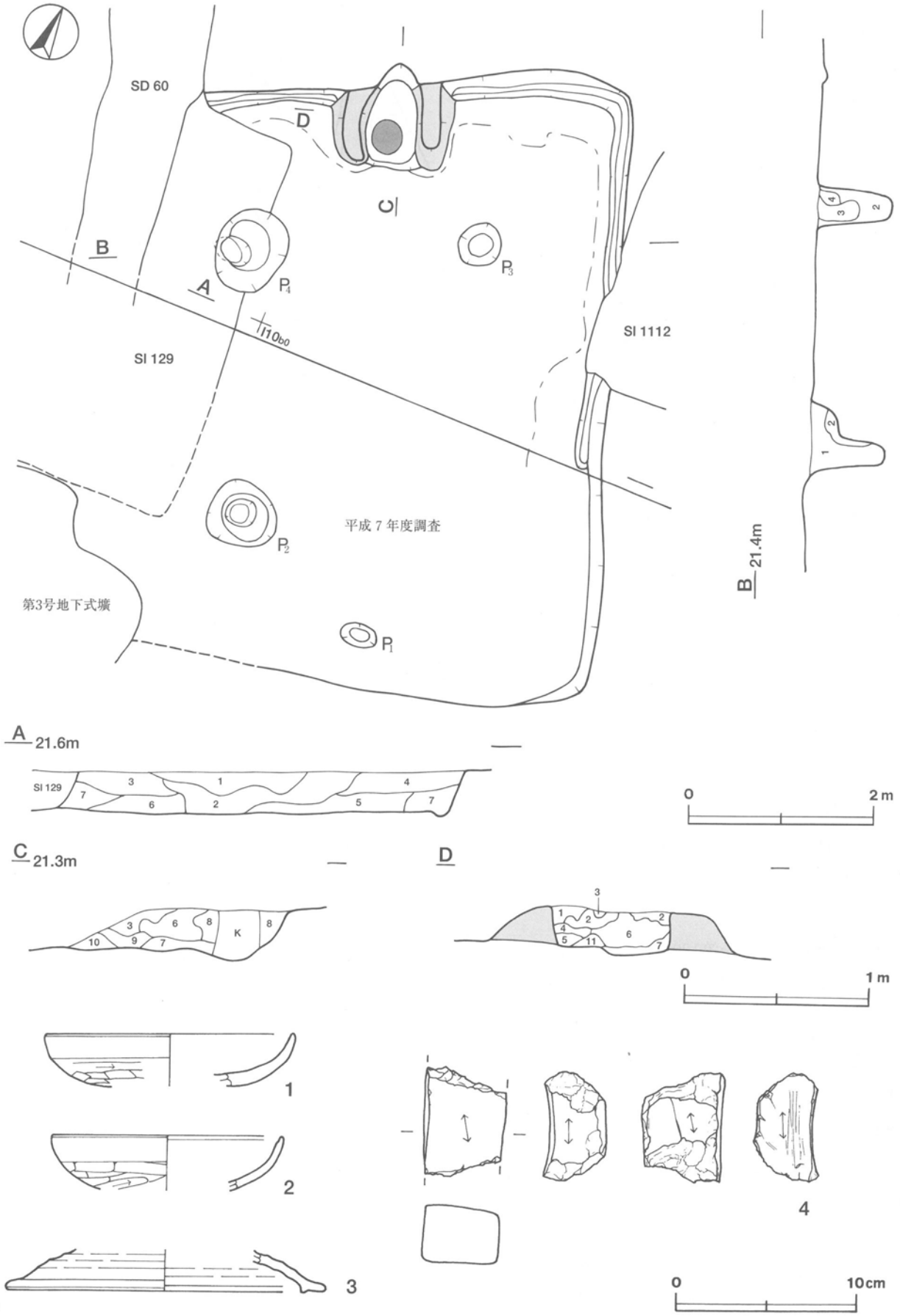
主軸方向　N－18°－W

壁　壁高は14～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁際から東壁際にかけて検出されている。上幅13～17cm，下幅5～8cm，深さ5～8cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ28cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで98cm，両袖部幅134cmである。天井部は崩落しており，土層断面図中，第6層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから，崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており，内側が火熱を受けて赤変硬化している。また，第7層の下面が赤変硬化していることから，火床面と考えられる。火床面は，床面から5cmほど掘りくぼ



第19図　第130号住居跡・出土遺物実測図

められて，浅い皿状を呈している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，砂粒中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
5　極暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
6　灰　褐　色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・砂粒中量，焼土中ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量
9　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
10　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量
11　極 暗 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子・粘土粒子微量

ピット　4か所（P1～P4）。P1・P2は平成7年度に調査している。P1は南西コーナー寄りに位置しており，主柱穴と考えられる。P2は，南壁中央部の壁際に位置している。第120集では，性格不明としているが，位置から判断して，出入り口施設に伴うピットと訂正したい。平成10年度に調査したP3は径48cmの円形，深さ83cmで，P4は径78cmの円形，深さ85cmである。それぞれ北東コーナー寄り，北西コーナー寄りに位置することから，主柱穴と考えられる。

ピット土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
3　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

覆土　7層からなる。ロームブロックを含み，ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
3　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量
6　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
7　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量

遺物　今回の調査では，土師器片60点，須恵器片23点が出土している。第19図1の土師器坏片と2の土師器坏片は，いずれも竈内の覆土中から出土している。3の須恵器蓋片は，P2内の覆土中から出土している。図示した土器は，出土位置から，いずれも本跡に伴うものと考えられる。4の砥石は南東部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から，7世紀末葉から8世紀初頭と考えられる。

第130号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第19図 1	坏 土師器	A［13.4］ B（2.8）	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。端部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P40004 10%
2	坏 土師器	A［12.4］ B（3.0）	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。端部内面に沈線1条が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40005 10%
3	蓋 須恵器	A［12.4］ B（3.0）	外周部から口縁部にかけての破片。外周部は緩やかに下降し，口縁部はわずかに外方に屈曲する。内面に短いかえりが付く。	口縁部，外周部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄色 普通	P40006 10%

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	特　　徴	備　　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第19図4	砥　石	(5.9)	4.5	3.1	(109.5)	凝灰岩	直方体。側面4面を砥面とする。中央部薄い。	Q40002　PL239

第407号住居跡（第20図）

位置　調査4区の中央部，J11g4区。平成9年度の調査区と平成10年度の調査区にまたがって位置している。そのため，調査も竈を含む大半を平成9年度，北西コーナー部を平成10年度と，両年度にわたった。

重複関係　前報告書，第166集では第387号住居跡と重複していると報告されているが，平成10年度調査では確認できなかった。

規模と平面形　長軸6.28m，短軸6.24mの方形である。

主軸方向　N－6°－W

壁　壁高は54cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁際を全周している。規模は上幅10～34cm，下幅4～12cm，深さ約6cmで，断面形はU字形を呈している。

床　ほぼ平坦である。

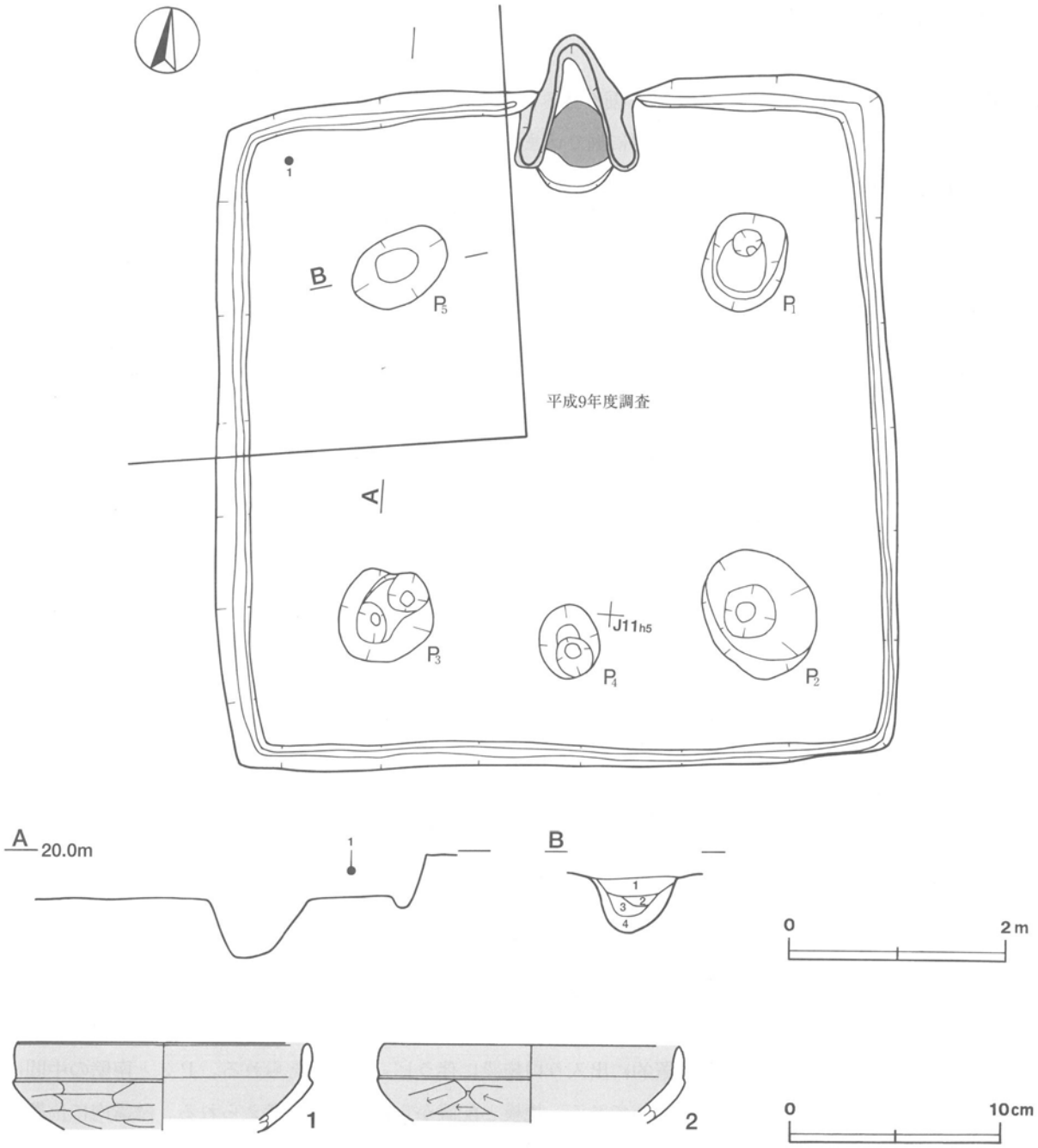
ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は平成9年度の調査区で検出されている。P5は長径94cm，短径64cmの楕円形で，深さ56cmである。P1～P3，P5は各コーナー寄りに位置し，規模と配置から主柱穴と考えられる。P4は，南壁中央部の壁際に位置し，竈と対する位置にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

覆土　平成9年度調査では，9層からなる人為堆積と確認されている。

遺物　平成9年度の調査区からは，土師器片956点，須恵器片17点，土製品1点（勾玉），鉄滓1点，撹乱による混入したものと考えられる灰釉陶器片1点と陶器片1点が出土している。平成10年度の調査区からは，土師器片159点，撹乱により混入したとみられる須恵器片5点が出土しており，出土土器の様相は平成9年度と相違していない。第19図1の土師器坏は，北西コーナー部の覆土中層から出土している。2の土師器坏は，覆土中から出土している。

所見　本跡の北西コーナー部以外の部分は平成9年度に調査が終了しており，その部分については，『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集を参照されたい。時期は，第166集で報告されていると同様に6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第20図　第407号住居跡・出土遺物実測図

第407号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第20図 1	坏 土師器	A［13.4］ B（4.1）	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40501 10% PL202
2	坏 土師器	A［13.6］ B（3.6）	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 黒褐色 普通	P40502 5%

第956号住居跡（第21～23図）

位置　調査４区の西部，J9g5区。

重複関係　本跡が第995号住居跡の南東部を掘り込み，南東コーナー部を第954号住居・第758号土坑に，西部を第978号住居に，北部を第955・977号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.72m，短軸6.27mの方形である。

主軸方向　N－２°－W

壁　壁高は15～45cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下を巡っている。上幅12～32cm，下幅４～８cm，深さ６～11cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。東壁下からＰ１に延びる溝ａと同じく東壁下からＰ２の北部に延びる溝ｂ，西壁下からＰ３の北部に延びる溝ｃと同じく北壁下からＰ４に延びる溝ｄの４条が検出されている。住居跡に伴うものと推定されるが，性格は不明である。

竈　北壁の中央部を壁外へ30cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで110cm，両袖部幅140cmである。第955・977号住居との重複のため，残存状況が悪い。竈土層断面図中，第４・５層は粘土小ブロック・粒子，砂粒を比較的多く含むことから，崩落した天井部と考えられる。第３層は焼土粒子を多量に含み，下部が赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子・砂粒少量
4　極暗褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量
5　灰褐色　砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子・粘土少量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
7　黒褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
8　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
10　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

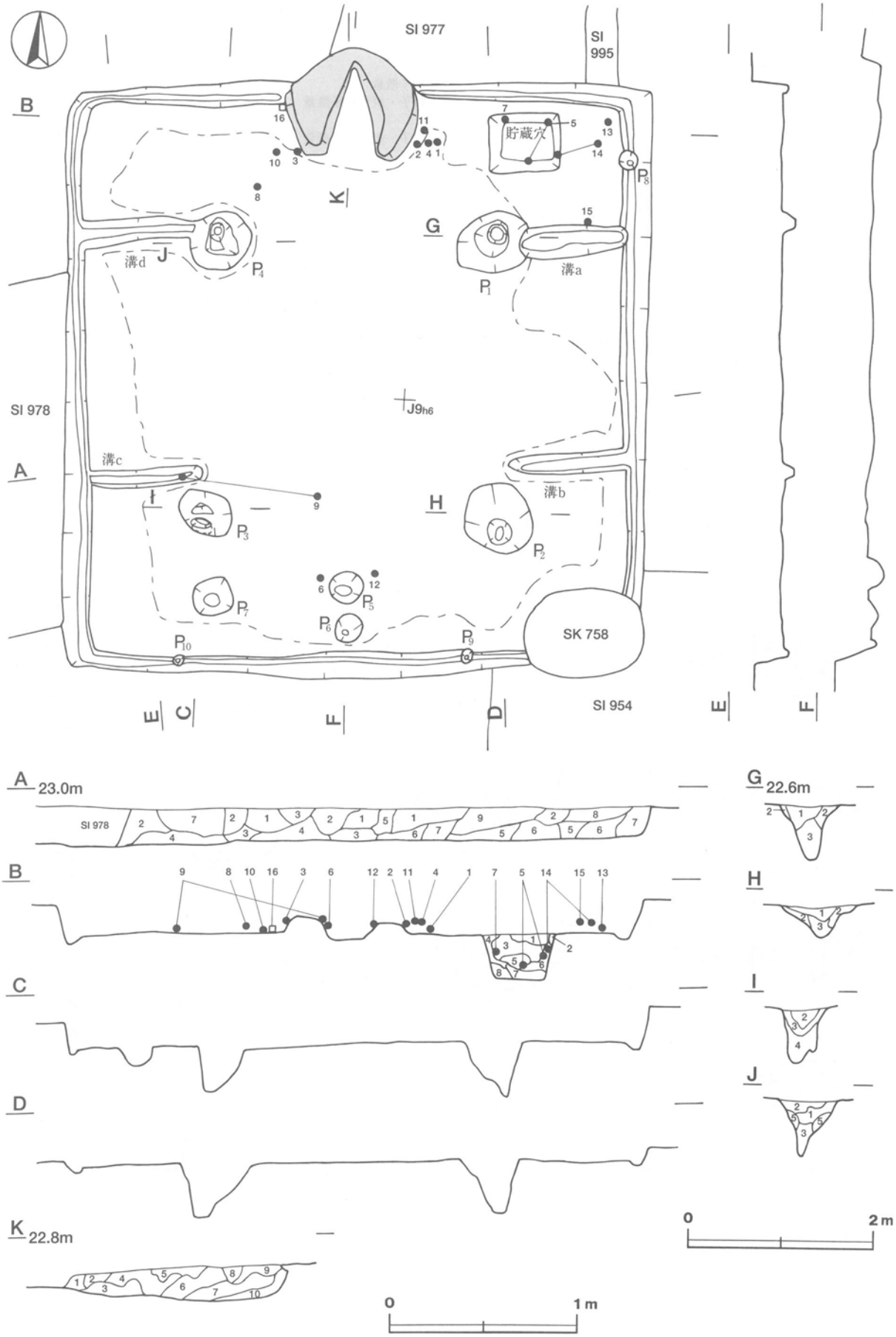
ピット　10か所（Ｐ１～Ｐ10）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，上端径51～78cm，下端径10～14cmの円形で，深さ51～61cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５・Ｐ６は，南壁際の中央部に南北に隣接して位置する。Ｐ５は径36cmのほぼ円形で，深さ19cmである。Ｐ６は径30cmのほぼ円形で，深さ14cmである。Ｐ５・Ｐ６とも，位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ３と南壁の中間に位置するＰ７は，径30cmの円形で，深さ44cmである。規模と配置から補助柱穴と考えられる。壁溝内に位置するＰ８～Ｐ10は，径10～20cmの円形で，深さ13～25cmである。性格は不明である。

Ｐ１～Ｐ４土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐色　ローム粒子多量
5　灰黄褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

貯蔵穴　竈と北東コーナーの間に設けられている。長軸75cm，短軸60cmの長方形で，深さ54cmである。底部は平坦で，断面形は「∪」形である。

貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐色　ローム粒子多量，焼土小ブロック少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
7　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
8　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

覆土　９層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

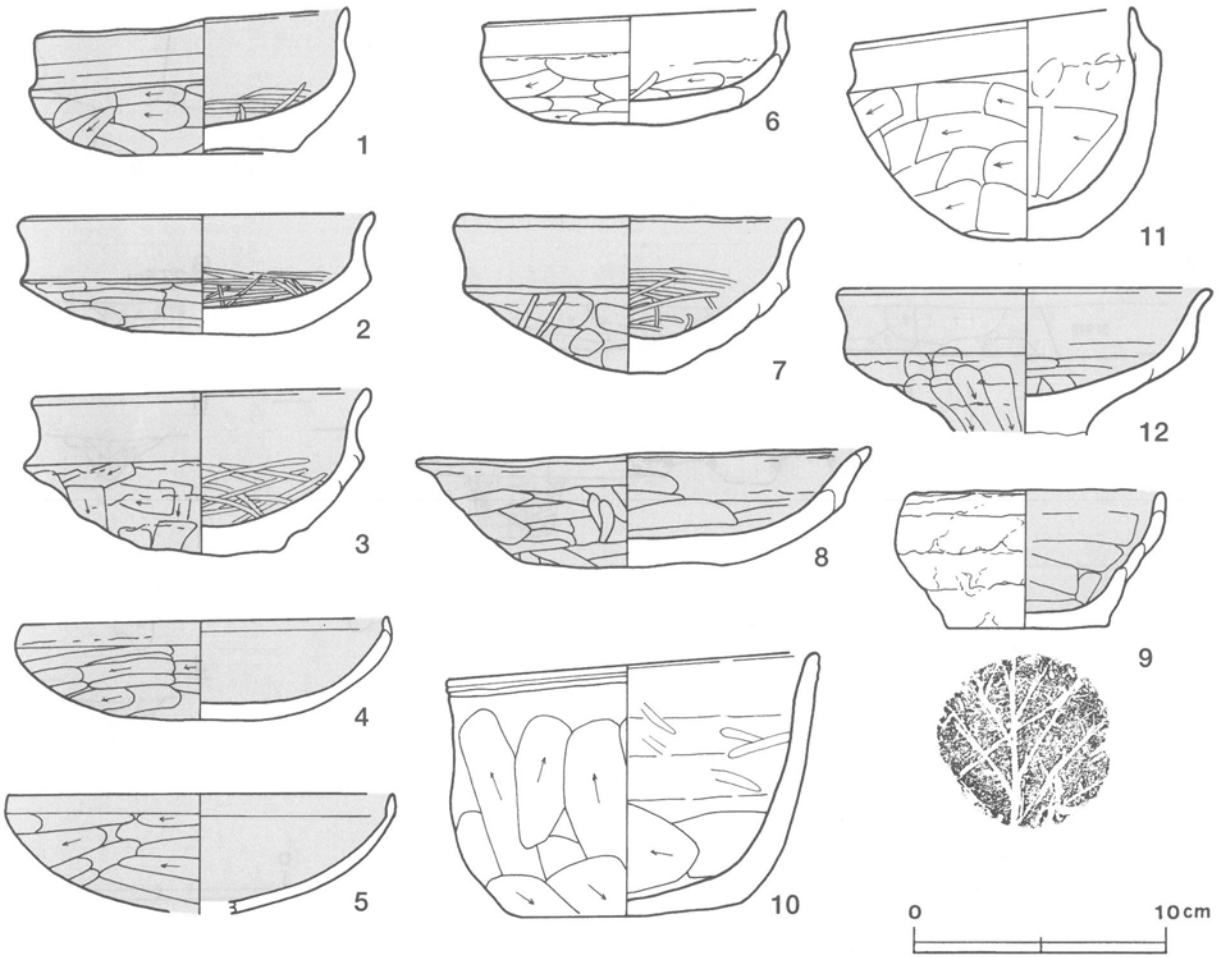


第21図　第956号住居跡実測図

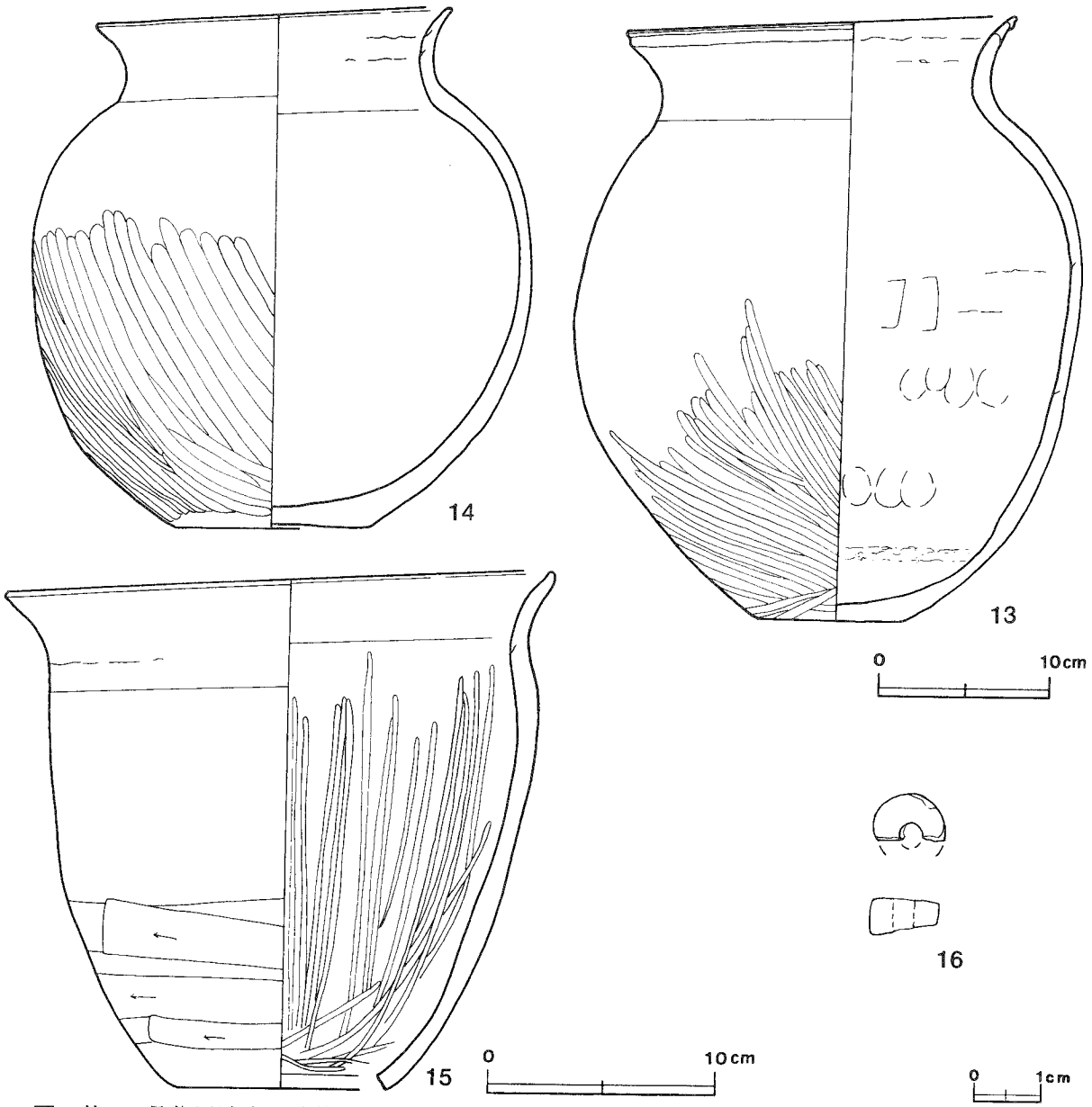
土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
9　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片282点，土製品１点（支脚片），石製品１点（臼玉），礫１点が出土している。第22・23図で図示した土器は，１～15は土師器である。１・２・４の坏，11の椀は，竈東側の床面から集中して，いずれも正位で出土している。１は，４の上に重なって出土している。３の土師器坏は，竈西袖端部付近の床面から正位で出土している。５・７の坏は，貯蔵穴の覆土中層から出土した破片が接合したものである。６の坏は，Ｐ５西側の床面から正位で出土している。８の坏と10の鉢は，竈西袖の西側床面から逆位で出土している。９の坏は，中央部南寄りの覆土下層から出土している。12の高坏は，Ｐ５東側の床面から斜位で出土している。13・14の甕は，北東コーナー部壁際の覆土下層から横位で出土している。15の甑は，北東コーナー部の覆土下層から横位で出土している。16の臼玉は，竈西側の北壁際床面から出土している。支脚は小片である。

所見　本跡の時期は，出土土器から６世紀後半と考えられる。



第22図　第956号住居跡出土遺物実測図（１）



第23図　第956号住居跡出土遺物実測図（2）

第956号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第22図 1	坏 土師器	A 12.4 B 5.8 C 7.2	口縁部一部欠損。平底。底面は不整円形。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面雑な横位のヘラ削り。内面ヘラナデ後，ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・赤色粒子 橙色 普通	P41021 80% PL202
2	坏 土師器	A 13.7 B 5.1 C 5.1	口縁部一部欠損。平底。底面は不整円形。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面雑なヘラ削り。内面ヘラナデ後，ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・小礫・雲母 にぶい橙色 普通	P41022 90% PL202
3	坏 土師器	A 13.4 B 6.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面輪積み痕を残す雑なヘラ削り。内面ヘラナデ後，ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P41023 80% PL202

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 4	坏 土師器	A 14.6 B 4.1	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 黒色 普通	P41024 80% PL202
5	坏 土師器	A [15.4] B (4.8)	底部・体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 橙色 普通	P41025 40% PL202
6	坏 土師器	A 11.9 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面輪積み痕を残す雑なヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・小礫・長石・石英 橙色，普通	P41026 95% PL202
7	坏 土師器	A 13.5 B 7.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面輪積み痕を残す雑なヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・小礫・長石 にぶい褐色 普通	P41027 90% PL203
8	坏 土師器	A 17.8 B 4.7 C 8.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面輪積み痕を残す雑なヘラ削り。内面ヘラナデ後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P41028 90% PL203
9	坏 土師器	A [9.9] B 5.4 C 6.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面輪積み痕を残す雑なヘラ削り。内面ヘラナデ後，ナデ。底部に木葉痕。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P41029 70% PL203
10	鉢 土師器	A 14.7 B 10.5 C 9.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。端部外面に沈線1条を巡らされている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面横位のヘラナデ後，ナデ。	砂粒・小礫・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P41030 98% PL203 二次焼成 外面剥離
11	椀 土師器	A 11.5 B 9.1 C 4.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。内面ヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。	砂粒・小礫・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P41031 98% PL203 二次焼成 外面剥離
12	高坏 土師器	A [14.7] B (5.8)	坏部の破片。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ後，横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・小礫・長石 にぶい赤褐色 普通	P41032 60% PL203
第23図 13	甕 土師器	A 22.4 B 35.1 C 8.5	底部・体部・口縁部の一部欠損。平底。倒卵形を呈する体部から，頸部は緩やかにくびれて，口縁部は外反する。端部は外方へわずかにつまみ出されている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，中位以下斜位のヘラ磨き。体部内面横位のヘラナデ及び指頭痕を残すナデ。輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P41033 70% PL203 体部下半 二次焼成
14	甕 土師器	A 15.7 B 23.1 C 8.4	底部・体部・口縁部の一部欠損。平底。球形を呈する体部から，頸部は緩やかにくびれて，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，中位以下斜位のヘラ磨き。体部内面輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石 赤褐色 普通	P41034 80% PL203 二次焼成 外面剥離
15	甑 土師器	A 23.9 B 23.1 C 9.2	頸部から口縁部にかけて一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ後，丁寧な縦位のヘラナデ。下半横位のヘラ削り。体部内面ナデ後，輪積み痕を残す縦位のヘラ磨き。	砂粒・長石・赤色粒子 橙色 普通	P41035 90% PL203

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		径(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第23図16	臼玉	(1.1)	(0.3)	0.5	(0.55)	滑石	扁平な円筒形。灰白色	Q41002 50% PL221

第957号住居跡（第24・25図）

位置　調査4区西部，J9i1区。

規模と平面形　長軸6.38m，短軸5.70mの長方形である。

主軸方向　N－13°－W

壁　壁高は28～32cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅22～32cm，下幅８～14cm，深さ８～12cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ45cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで170cm，両袖部幅160cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第２・４層が崩落土と考えられる。第12層は焼土粒子を多量に含み，下部が赤変していることから，火床部と考えられる。竈の構築は土層断面からみると，ハードロームの地山を基礎にし，礫の少量混じった山砂と粘土を合わせて袖部を構築したと考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子・粘土粒子微量
2　赤褐色　砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　にぶい橙色　粘土大ブロック
4　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，砂粒中量，粘土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子・焼土中ブロック少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
7　暗褐色　砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
8　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
9　にぶい赤褐色　ローム粒子・砂粒中量，粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，砂粒少量，炭化粒子微量
11　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・粘土粒子微量
12　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，砂粒少量，焼土大ブロック微量
13　暗褐色　砂粒中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
14　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
15　赤褐色　焼土大ブロック・焼土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
16　灰褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
17　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒微量
18　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
19　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
20　暗褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・礫少量
21　暗褐色　粘土小ブロック中量，焼土粒子・粘土粒子少量
22　暗褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量
23　暗褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・粘土小ブロック微量

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径78～90cmのほぼ円形で，深さ52～77cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は，径36cmの円形で，深さ41cmである。南壁際の中央部に位置するＰ６は，径28cmのほぼ円形で，深さ16cmである。南北に隣接して位置するＰ５・Ｐ６は，位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

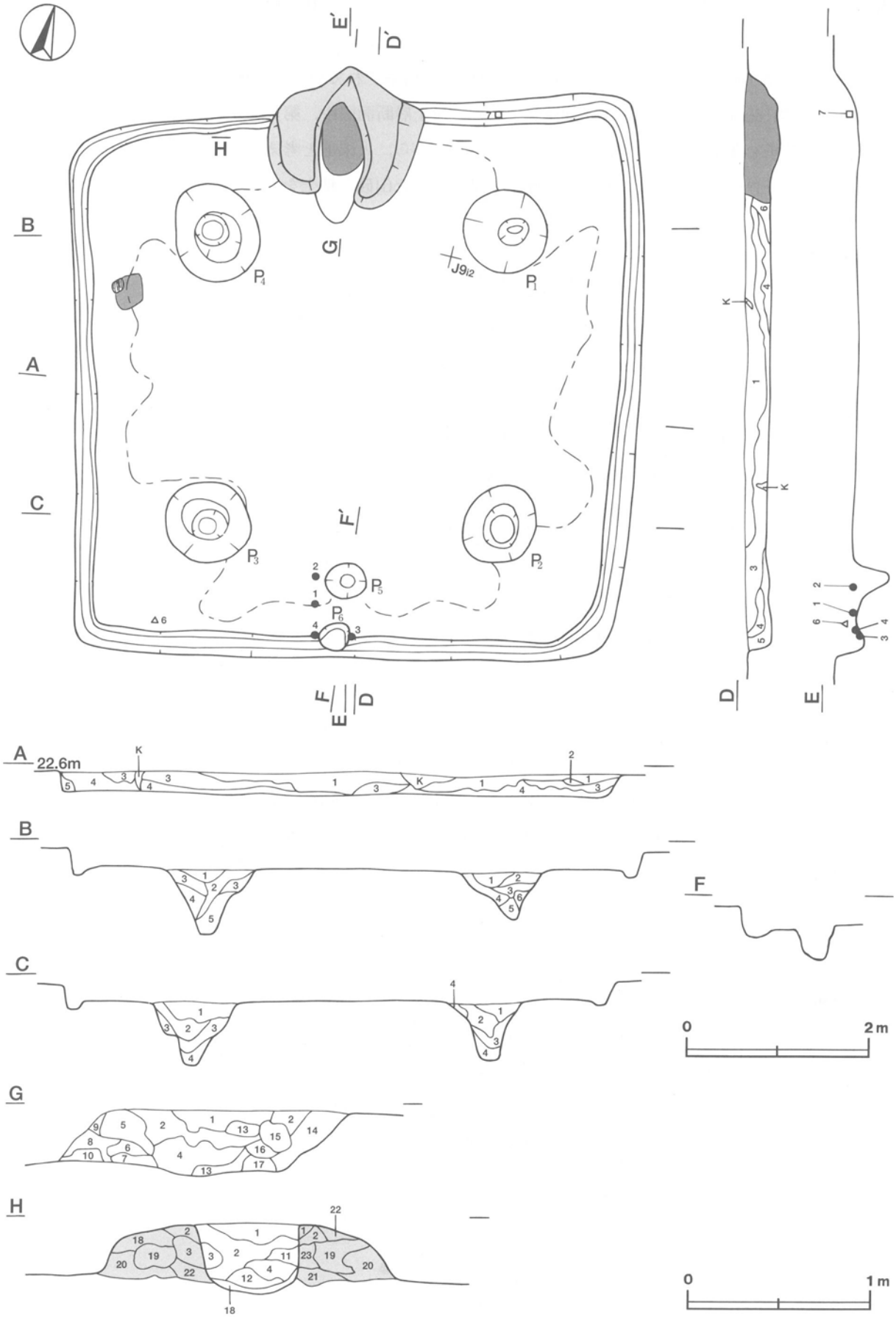
Ｐ１土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック微量

Ｐ２土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・炭化粒子微量

Ｐ３土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量

Ｐ４土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　６層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

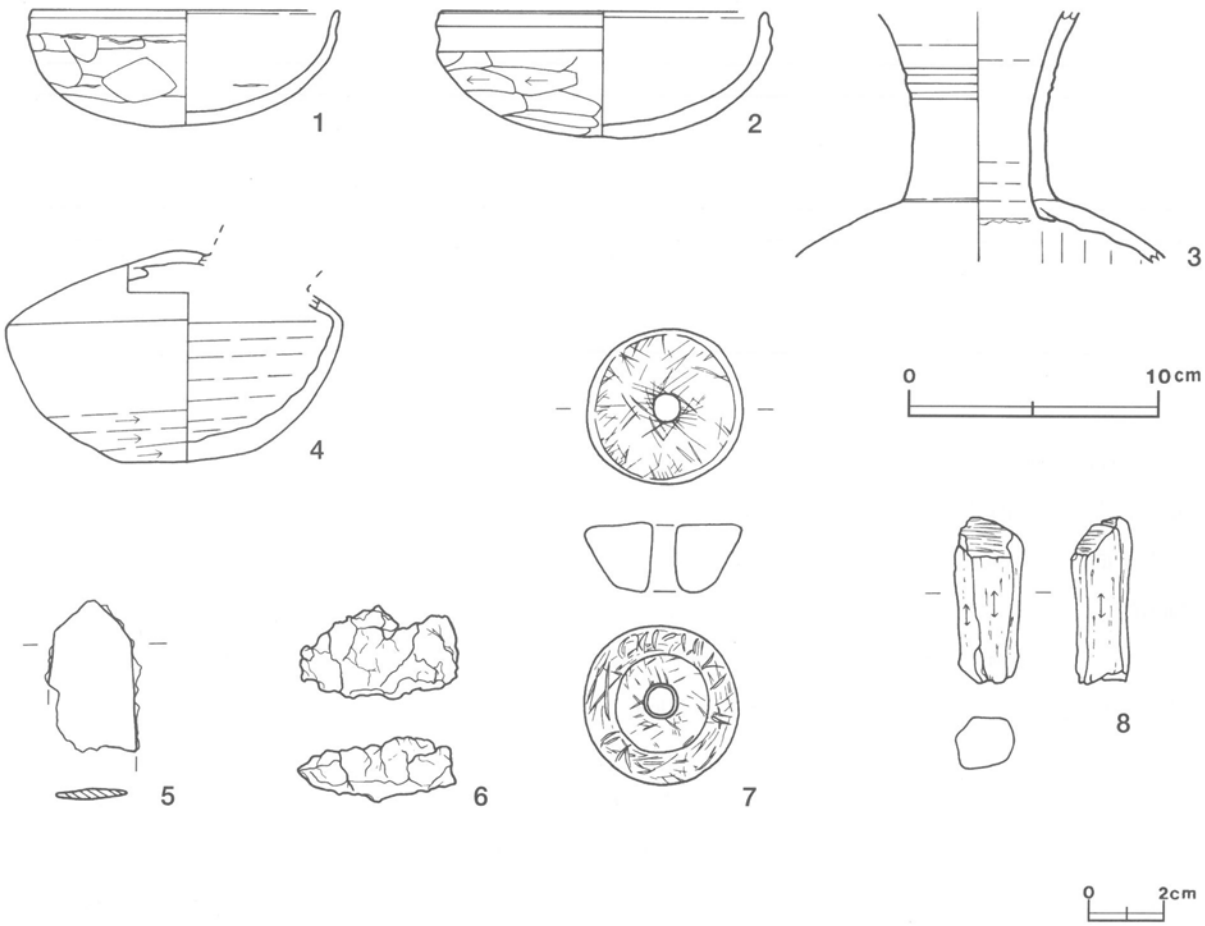


第24図　第957号住居跡実測図

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　にぶい褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片963点，須恵器片６点，土製品１点（支脚），石製品２点（紡錘車１，砥石１），鉄器１点（鏃），鉄滓１点，礫７点が出土している。第25図１の土師器坏は，Ｐ５とＰ６の間の床面から，逆位でつぶれた状態で出土している。２の土師器坏は，Ｐ５西側の覆土下層から出土した破片とＰ５付近の覆土中から出土した破片が接合したものである。３の須恵器は長頸瓶（フラスコ瓶）の破片で，Ｐ５とＰ６の間の床面から出土している。４の須恵器平瓶は，３と同じ位置の床面から斜位で出土している。５の鏃は，南西部の覆土中から出土している。６の鉄滓は，南西コーナー部の覆土下層から出土している。７の紡錘車は，竈東側の北壁際床面から出土している。８の砥石は，南西部の覆土中から出土している。焼土と炭化物は，北西部の西壁際床面から長径35cm，短径31cmの範囲で出土している。また，礫のうち６点は，二次焼成を受けた雲母片岩が割れたもので，中央部の床面と覆土中から出土している。鉄滓との関係から小鍛冶の可能性も考えられるものの，詳細は不明である。土製品は，支脚小片である。

所見　本跡の時期は，出土土器から７世紀前半と考えられる。



第25図　第957号住居跡出土遺物実測図

第957号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第25図 1	坏 土師器	A 12.2 B 4.7	体部・口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部外面に1条の弱い稜を巡らす。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P41037 80% PL203
2	坏 土師器	A [12.9] B 5.0	体部・口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。口縁部外面に弱い1条の稜を巡らす。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P41038 70% PL203
3	長頸瓶 須恵器	B (10.6)	フラスコ長頸瓶の体部上位から頸部にかけての破片。頸部外面中程に2条の沈線を巡らす。	ロクロ成形の体部に頸部接合。	砂粒，灰白色，良好 頸部から体部上半に自然釉。	P41039 10% PL203
4	平瓶 須恵器	B (8.4) C 5.3	体部の一部・頸部・口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，体部上位で内傾する。体部上面はドーム状を呈している。	ロクロ成形。体部下半回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。体部上面を粘土板で塞ぐ。	砂粒 灰黄色，普通 体部上半の一部に自然釉。	P41040 60% PL203

図版番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		全長(cm)	鏃身長(cm)	鏃身幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第25図5	鏃	(4.0)	(4.0)	(2.3)	(0.2)	(6.60)	鉄	三角形鏃の鏃身部片。	M41001 50%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第25図6	鉄滓	4.2	2.5	1.7	19.1	鉄	塊状で硬質。気泡痕少ない。	M41002 100% PL221

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第25図7	石製紡錘車	4.1	1.8	0.9	46.5	蛇紋岩	断面逆台形。表面研磨。多数擦痕有り。	Q41003 100% PL222

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第25図8	砥石	4.4	1.8	1.6	15.1	凝灰岩	砥面3面，中央部が薄くなっている。	Q41004 100% PL222

第958号住居跡（第26図）

位置　調査4区の西部，J9j3区。

規模と平面形　長軸5.09m，短軸4.78mの方形である。

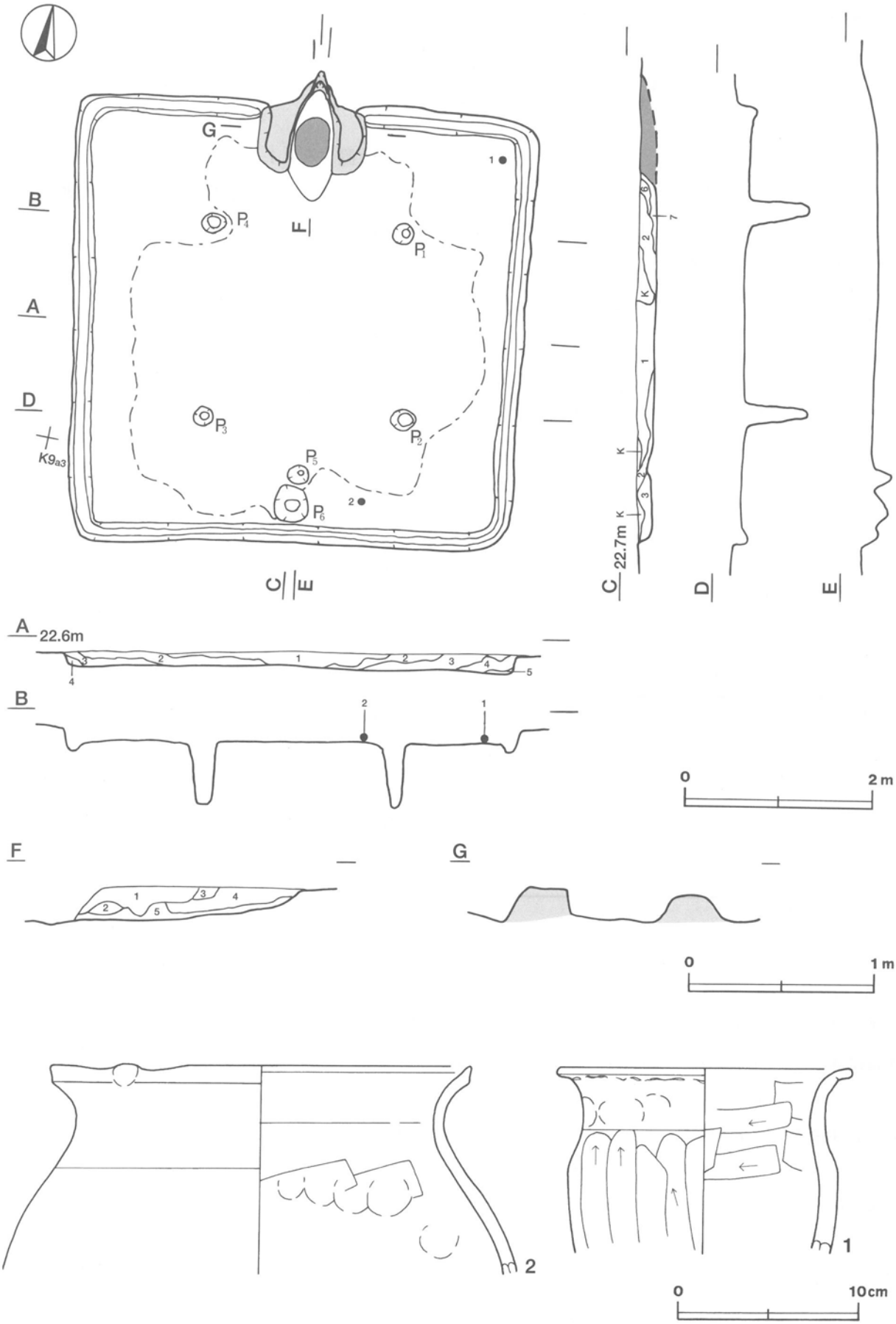
主軸方向　N－9°－W

壁　壁高は18～25cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅20～35cm，下幅8～13cm，深さ8～10cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ34cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで135cm，両袖部幅105cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第1～4層が崩落土と考えられる。第5層は焼土粒子を多量に含み赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やな傾斜で立ち上がる。



第26図　第958号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説
1　黄　褐　色　砂粒多量，粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
4　にぶい褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・砂粒少量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック少量

ピット　6か所（P1～P6）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P4は，上端径22～25cm，下端径約10cmの円形で，深さ65～74cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5・P6は南壁際の中央部に，南北に並んで位置する。P5は径20cmの円形で，深さ21cmである。P6は径53cmの円形で，深さ18cmである。P5・P6は，位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　7層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，砂質粘土ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子中量
6　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，砂粒微量
7　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片371点が，出土している。第26図1の土師器甕は，北東コーナー部の床面からつぶれた状態で出土している。2の土師器甕は，南東部の南壁寄りの床面からつぶれた状態で出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から7世紀前半と考えられる。

第958号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第26図 1	甕 土師器	A［15.6］ B（10.0）	体部上位から口縁部にかけての破片。頸部はくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部内面横位のヘラナデ後，ナデ。頸部外面指頭痕を残すナデ。体部外面縦位のヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄褐色 普通	P41041 20% PL203
2	甕 土師器	A［22.6］ B（11.3）	体部上位から口縁部にかけての破片。頸部はくびれ，口縁部は外反する。端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。体部内面横位のヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P41042 20%

第959号住居跡（第27・28図）

位置　調査4区の西部，J8j9区。

重複関係　第992号住居跡，第54号掘立柱建物跡のP6・P7を掘り込み，第960号住居，第961号住居，第965号住居，第54号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　南東部から南西部までを第960・961・965号住居に，北壁と西壁の中央部を第54号溝に掘り込まれているため規模を確定することは難しい。確認されたのは南北軸3.50m，東西軸3.22mである。

主軸方向　N－13°－W

壁　確認された壁高は10～27cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南東部から南西部までの重複している部分は，確認できなかった。確認された壁下を巡っている。上幅12～32cm，下幅4～8cm，深さ6～9cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

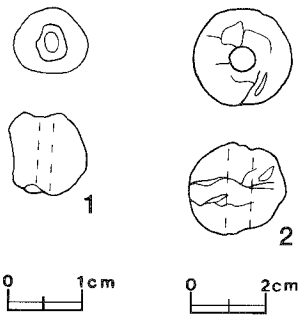
ピット　9か所（P 1～P 9）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP 1～P 4は，径20～45cmの円形で，深さ18～21cmである。規模と配置から判断して主柱穴と考えられる。P 5とP 6は，P 1とP 2の間に南北に位置する。P 5は径25cmの円形で，深さ12cmである。P 6は径35cmの円形で，深さ15cmである。P 7～P 9は，P 3とP 4の間に南北に位置する。P 7は径55cmのほぼ円形で，深さ20cmである。P 8は径35cmの円形で，深さ24cmである。P 9は径29cmの円形で，深さ13cmである。P 5～P 9とも，補助柱穴の可能性が推測される。

覆土　6層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

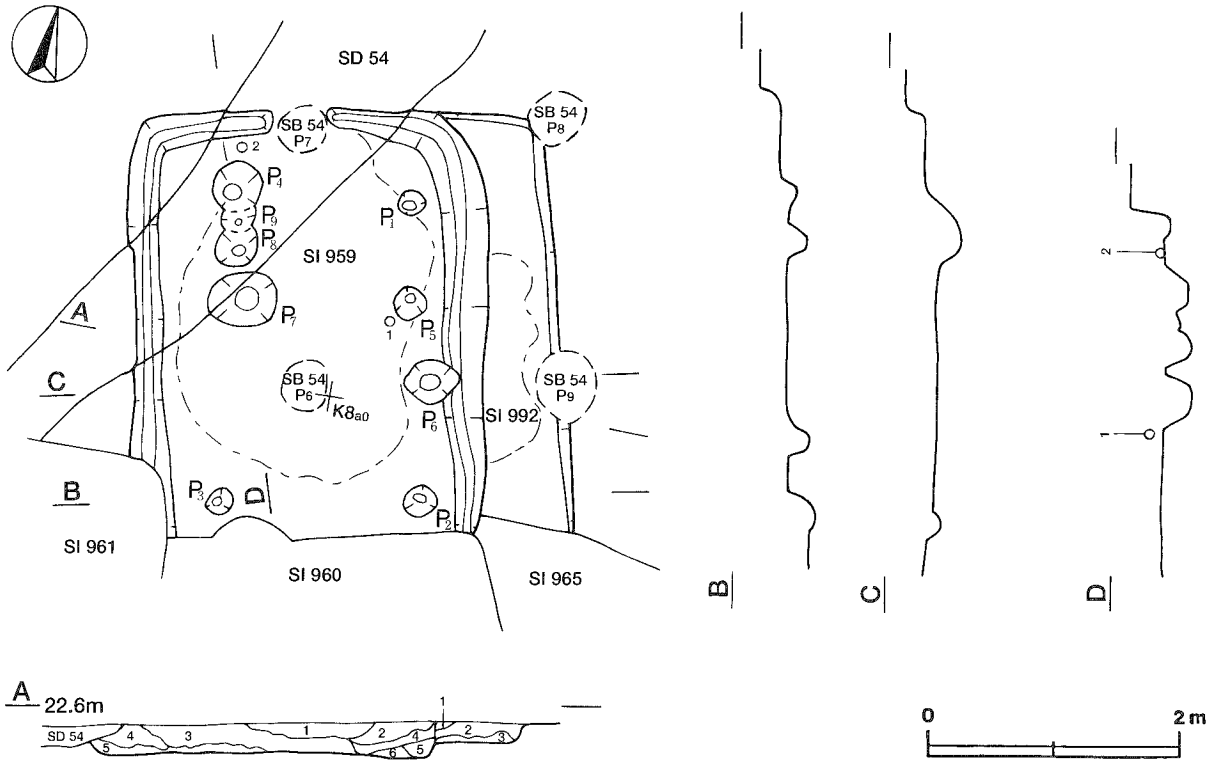
土層解説
1　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
4　褐　色　ローム粒子中量，砂粒微量
5　暗褐色　ローム粒子少量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片223点，須恵器片3点，土製品3点（土玉・球状土錘・鞴羽口片），鉄滓1点が出土している。第27図1の土玉は，中央部の覆土中層から出土している。2の球状土錘は，北西部の覆土下層から出土している。鞴羽口片と鉄滓の小片は，南西部の覆土中から出土している。土師器片・須恵器片はいずれも細片で，覆土上・中層から出土したものが多い。

所見　竈は検出されなかった。時期は，重複関係から6世紀中葉から後葉と考えられる。鞴羽口片と鉄滓が出土しているものの，焼土も認められず鍛冶の形跡は検出されなかった。



第27図　第959号住居跡出土遺物実測図



第28図　第959・992号住居跡実測図

第959号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第27図1	土玉	0.9～1.0	1.1	0.3	1.0	球体，ナデ	細砂粒，黒褐色	DP41003 100% PL219
2	球状土錘	2.6～2.7	2.5	0.7	16.3	球体，ナデ	細砂粒，暗褐色	DP41004 100% PL219

第960号住居跡（第29・30図）

位置　調査4区の西部，K8a0区。

重複関係　本跡が第959号住居跡，第54号掘立柱建物跡のP5を掘り込み，第961・964・965号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　北西コーナー部から西壁の中央部にかけて第961・964号住居に掘り込まれているものの，長軸2.83m，短軸2.55mの長方形と確認された。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は10～25cmで，外傾して立ち上がる。

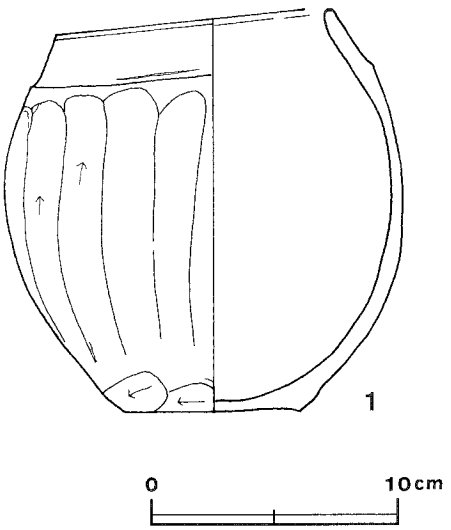
壁溝　北東コーナー部から南部まで確認された。確認された壁の下を巡っている。上幅14～30cm，下幅5～8cm，深さ6～10cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部から竈の前にかけて踏み固められている。

竈　北壁の中央部から北西コーナー寄りに，白色の砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで90cm，両袖部幅90cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第2層が砂粒と粘土粒子を比較的多く含んでいることから，崩落土層と考えられる。第3層は焼土粒子を中量含み，赤変していることから，火床部と考えられる。火床部はわずかに赤変している。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　にぶい褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土中ブロック微量
4　灰褐色　砂粒多量，粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　1か所。P1は径28cmの円形で，深さは14cmである。南壁際のほぼ中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。



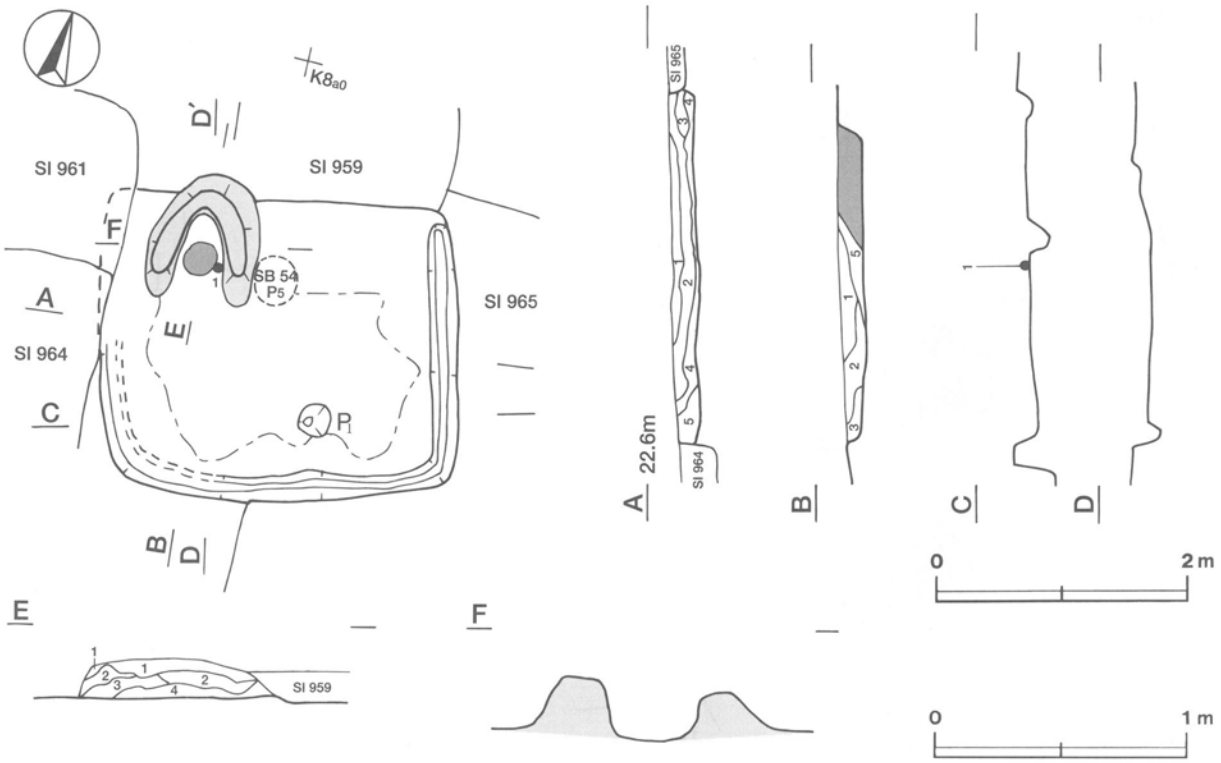
第29図　第960号住居跡出土遺物実測図

覆土　5層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量
2　褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
3　明褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，砂粒微量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片80点が出土している。第29図1の土師器甕は，竈の火床面直上から，逆位でつぶれた状態で出土している。二次焼成を受けており，支脚に転用されていたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第30図　第960号住居跡実測図

第960号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第29図 1	甕 土師器	A 10.9 B 16.1 C 7.0	体部一部欠損。平底。体部は球体を呈し，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り後，ナデ。下端横位のヘラ削り。体部内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P41043　95% PL204 支脚転用，二次焼成，外面剥離

第961号住居跡（第31・32図）

位置　調査4区の西部，K8a9区。

重複関係　本跡が第959・960号住居跡を掘り込み，第964号住居・第54号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　南部を第964号住居に掘り込まれており，西部が調査区域外に位置するため遺構全体を調査することができなかった。確認されたのは，東西3.30m，南北1.65mであり，方形または長方形と推測される。

主軸方向　N－7°－W

壁　壁高は40～42cmで，外傾して立ち上がる。

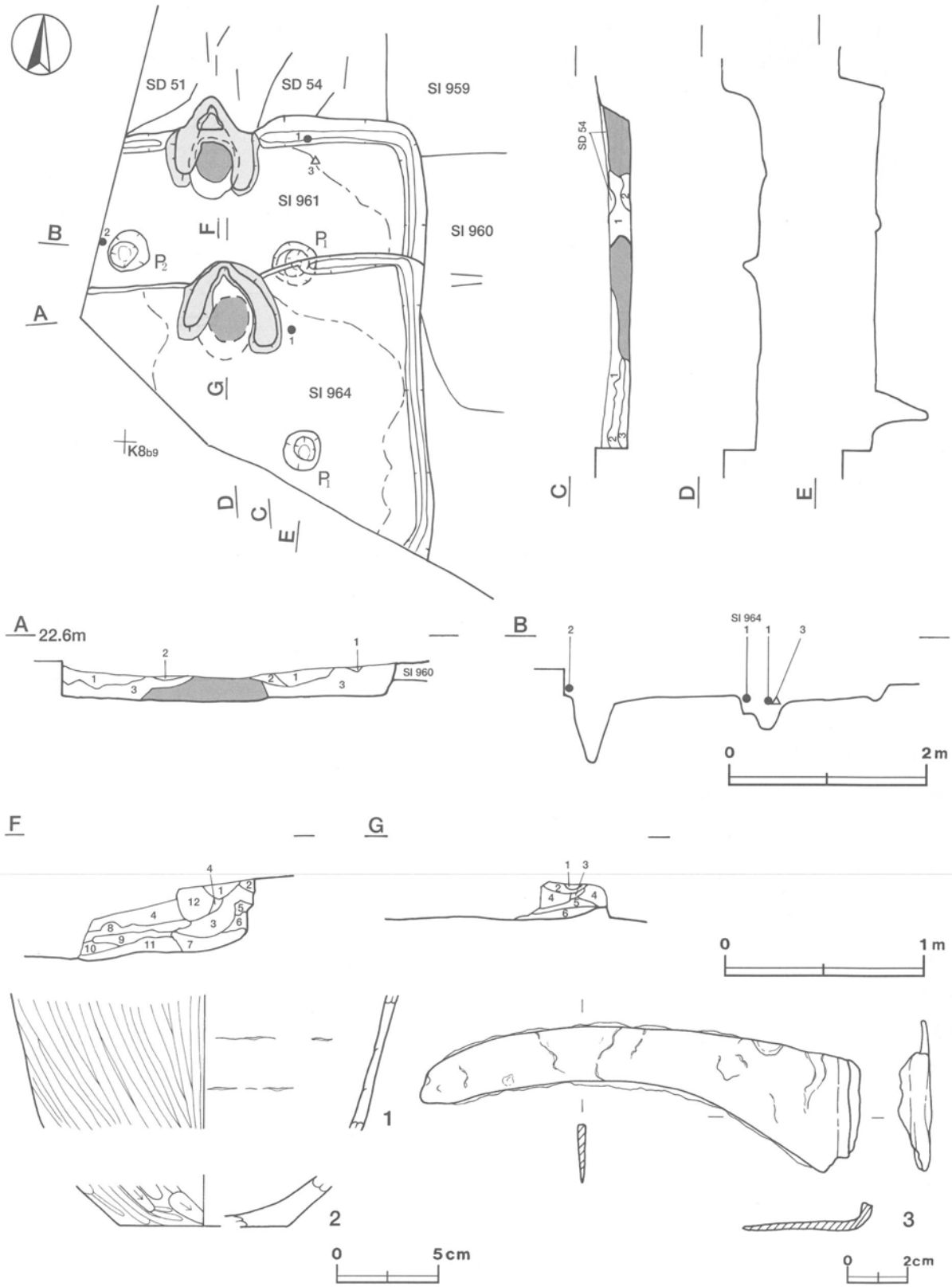
壁溝　確認された壁の下を巡っている。上幅20～28cm，下幅6～10cm，深さ4～5cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，竈の前面を中心に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ30cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで110cm，両袖部幅92cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第8・9・12層が粘土粒子・砂粒を比較的多量に含んでいることから，崩落土層と考えられる。第11層は焼土粒子を中量に含み赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　赤　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，粘土粒子微量
4　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
6　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量



第31図　第961・964号住居跡実測図，第961号住居跡出土遺物実測図

7　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・砂粒微量
8　にぶい褐色　砂粒中量，ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
9　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・砂粒少量，炭化物微量
10　暗赤褐色　ローム中ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
11　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
12　灰褐色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子微量

ピット　2か所（P1・P2）。北東コーナーからやや中央寄りに位置するP1は，径44cmの円形で，深さ39cmである。北西コーナーからやや中央寄りに位置するP2は，径41cmの円形で，深さは67cmである。P1・P2とも規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土　2層からなる。1・2層とも含有物から竈が壊れて堆積したものと考えられる。1・2層ともに自然堆積と考えられる。

土層解説
1　にぶい褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
2　赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量

遺物　土師器片68点，鉄器1点（鎌）が出土している。第31図1の土師器甕は，竈東側の北壁際の覆土下層から出土している。2の土師器甕は，北西部の覆土下層から出土している。3の鎌は，北東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土遺物と重複関係から7世紀前葉から中葉と考えられる。

第961号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図 1	甕 土師器	B（6.8）	体部下位の破片。体部は外傾気味に立ち上がる。	体部内面横位のヘラナデ後，ナデ。体部外面縦位と斜位のヘラ磨き。内面に輪積み痕。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P41044 5%
2	甕 土師器	B（2.5） C［8.4］	底部から体部下端の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面横位のヘラナデ後，ナデ。体部外面斜位のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P41045 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	背幅(cm)	刃幅(cm)	重量(g)			
第31図3	鎌	(14.8)	2.0	0.2	(35.8)	鉄	着柄部一部欠損。着柄部全面折り返し。	M41003 95% PL220

第963号住居跡（第32図）

位置　調査4区の西部，I9d7区。

規模と平面形　北部及び西部が調査区域外に位置しているため全容は不明である。南北は4.50mで，東西は2.72mだけが確認できた。南東コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－11°－W

壁　壁高は54～66cmで，ほぼ直立する。

壁溝　確認できた壁下に巡っている。規模は上幅20～25cm，下幅8～15cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。

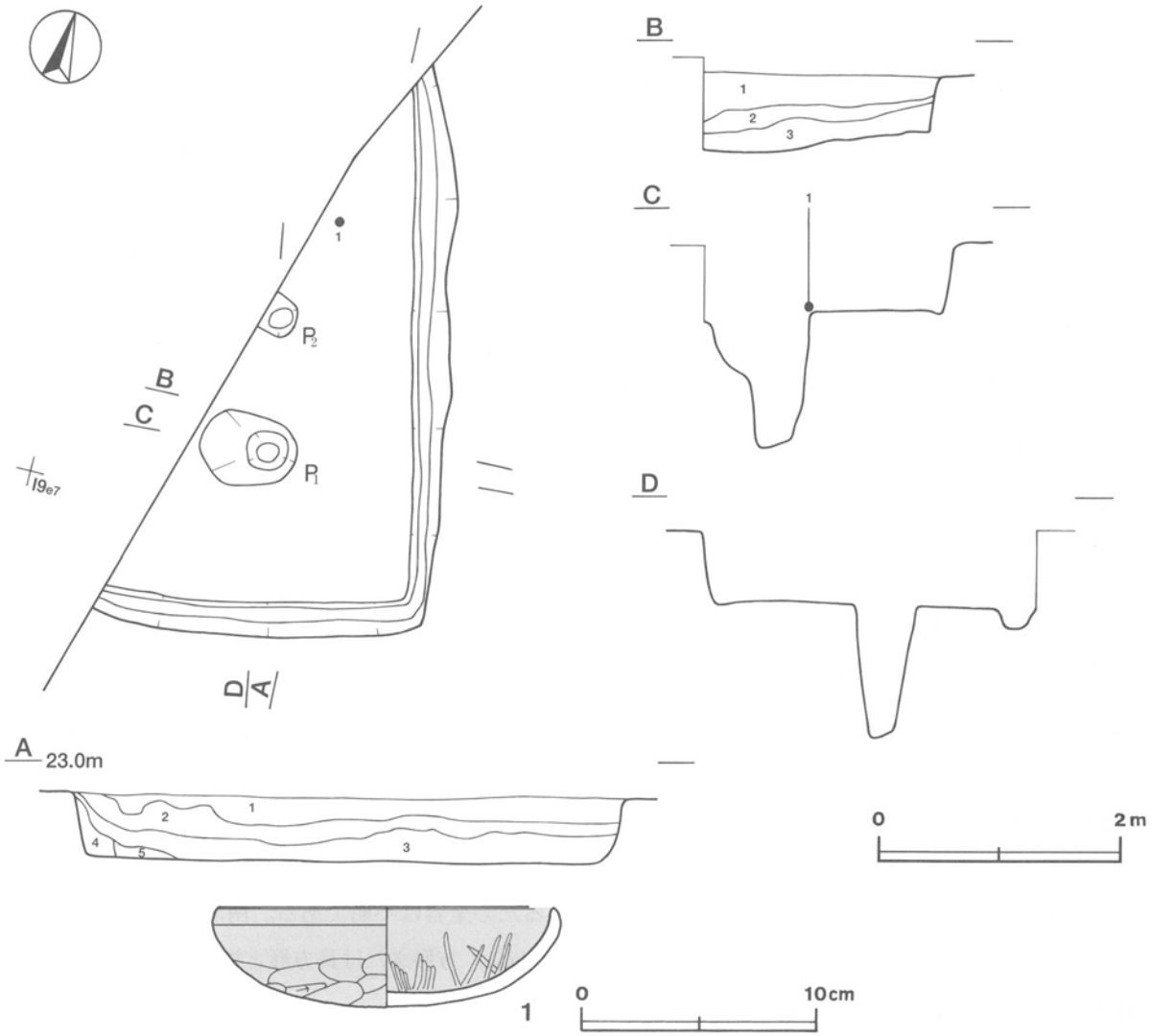
ピット　2か所（P1・P2）。P1は南東コーナーから中央部寄りに位置し，長径80cm，短径60cmの楕円形で，深さ112cmである。規模と位置から主柱穴と考えられる。P2は，径32cmの円形で，深さ17cmである。性格は不明である。

覆土　5層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
5　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片39点，撹乱により混入したとみられる須恵器片１点が出土している。第32図１の土師器坏は，東壁際の覆土下層から正位で出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から６世紀後半と考えられる。



第32図　第963号住居跡・出土遺物実測図

第963号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第32図 1	坏 土師器	A　14.2 B　4.1	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P 40505 40% P L 204

第964号住居跡（第31・33図）

位置　調査４区の西部，K8a9区。

重複関係　第960・961号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　南部から西部にかけて調査区域外に位置するため，遺構全体の調査ができなかった。確認された規模は東西軸が3.00m，南北軸が1.85mである。方形または長方形と推測される。

主軸方向　N－５°－W

壁　壁高は最大14cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された北壁から東壁までの壁の下を巡っている。上幅14～24cm，下幅５～７cm，深さ４～５cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，竈の付近を中心に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ20cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで95cm，両袖部幅98cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第２～５層が粘土粒子・砂粒を比較的多く含んでいることから，崩落土層と考えられる。第６層は焼土粒子を中量含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　黒　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　粘土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　にぶい褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
4　暗　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子・粘土小ブロック・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　極暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量
6　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量

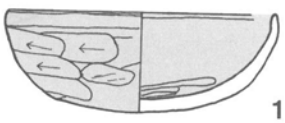
ピット　１か所。Ｐ１は北東コーナーからやや中央寄りに位置し，径40cmの円形で，深さ55cmである。規模と位置から，主柱穴の一つと考えられる。

覆土　３層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量
2　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量
3　暗褐色　ローム粒子中量

遺物　土師器片68点が，出土している。第33図１の土師器坏は，竈東袖端部の床面から，逆位で出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から７世紀後半と考えられる。



第33図　第964号住居跡出土遺物実測図

第964号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第33図 1	坏 土師器	A　10.7 B　3.9	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P41046 95% PL204

第966号住居跡（第34図）

位置　調査４区の西部，K8b0区。

重複関係　北壁際から北東コーナー部にかけて，第965号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　第965号住居に掘り込まれ，３分の２ほどが調査区域外に位置するため遺構全体の調査ができなかった。確認されたのは，東西2.49m，南北1.15mである。方形または長方形と推測される。

主軸方向　N－19°－W

壁　壁高は10～27cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っている。上幅20～26cm，下幅８～12cm，深さ６～９cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁際は第965号住居に掘り込まれており，北壁際から竈の構築材の一部が残存しているだけである。

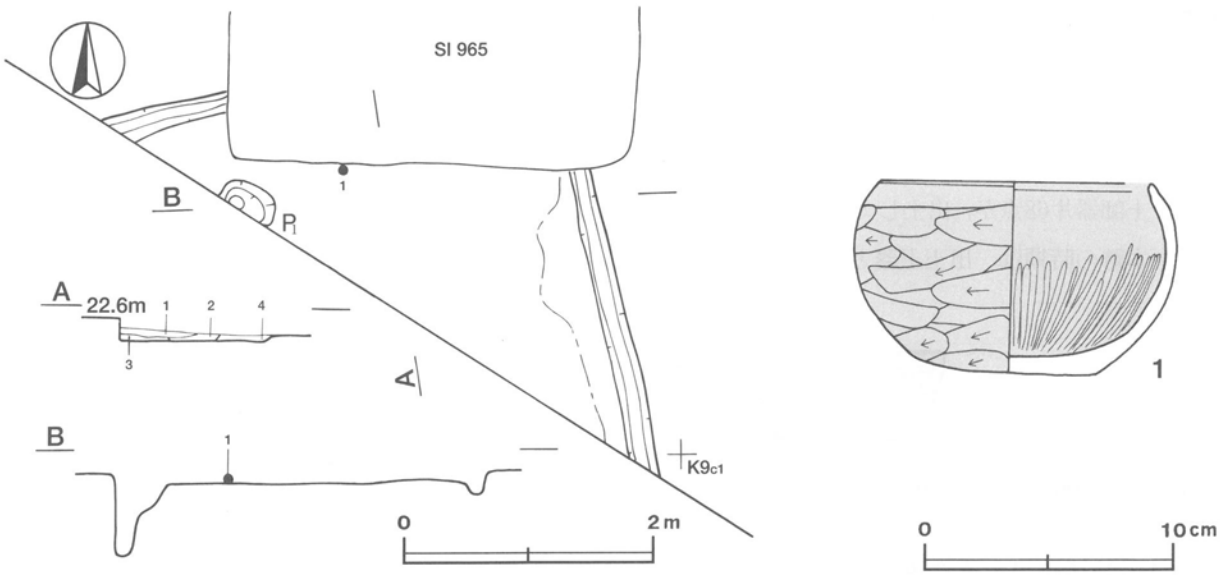
ピット　１か所。調査区域外にかかるため，Ｐ１は上端の半分しか確認できなかった。Ｐ１は上端径43cm，下端径約14cmの円形で，深さ59cmである。規模と位置から主柱穴の一つと考えられる。

覆土　４層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

遺物　土師器片１点が出土している。第34図１の椀は，竈跡の東側の床面から出土したものである。

所見　時期は，出土土器と重複関係から古墳時代後期と考えられる。



第34図　第966号住居跡・出土遺物実測図

第966号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第34図 1	椀 土師器	A［10.8］ B　7.6 C　6.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P41048 50% PL202

第968号住居跡（第35～37図）

位置　調査４区の西部，J9c4区。

重複関係　第50・51・53・54号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸9.41m，短軸9.35mの方形である。

主軸方向　N－11°－W

壁　壁高は35～40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。規模は上幅15～41cm，下幅５～14cm，深さ約５cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。

竈　北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。規模は，煙道部の一部が第50号溝に掘り込まれているが，焚口部から煙道部まで140cmと推定される。両袖部幅は150cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第５・11層が粘土粒子や砂粒を多く含むことから，崩落土層と考えられる。袖部は粘土粒子を多量に含んだ灰褐色土で構築されている。火床部は，床面を20cmほど掘りくぼめた後，暗赤褐色土を貼り，造られている。火床面は，火熱を受け赤変硬化している。

竈土層解説

1	赤黒色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック・粘土小ブロック微量
2	暗赤灰色	焼土粒子・粘土粒子中量，砂粒少量，炭化粒子微量
3	極暗赤褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4	にぶい赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子微量
5	灰褐色	粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
6	黒褐色	砂粒中量，焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
7	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量
8	黒褐色	砂粒中量，焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
9	暗赤褐色	砂粒多量，焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
10	赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
11	灰褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
12	暗赤褐色	焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
13	黒褐色	炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
14	黒褐色	粘土粒子中量，砂粒少量，炭化粒子微量
15	にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
16	暗赤褐色	焼土粒子・砂粒中量，粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
17	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
18	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
19	極暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
20	暗赤褐色	焼土粒子中量，砂粒少量，炭化粒子・粘土粒子微量
21	赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
22	にぶい赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子少量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒微量
23	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
24	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
25	暗褐色	ローム粒子少量，砂粒微量
26	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
27	暗赤褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
28	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
29	灰褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・砂粒微量
30	灰褐色	粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子・砂粒微量
31	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
32	にぶい褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
33	灰褐色	粘土粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
34	にぶい褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
35	褐色	粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。各コーナーから中央部寄りで確認されたＰ１～Ｐ４は，径74～94cmのほぼ円形で，深さ51～93cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は南壁際の中央部に位置し，長径120cm，短径78cmの楕円形で，深さ44cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

Ｐ１～Ｐ５土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

5　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
7　灰 褐 色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
10　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
11　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
12　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
13　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
14　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
15　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
16　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
17　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
18　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

貯蔵穴　竈と東壁の中間のやや竈寄りで確認された。長径113㎝，短径84㎝の楕円形で，深さ約43㎝である。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

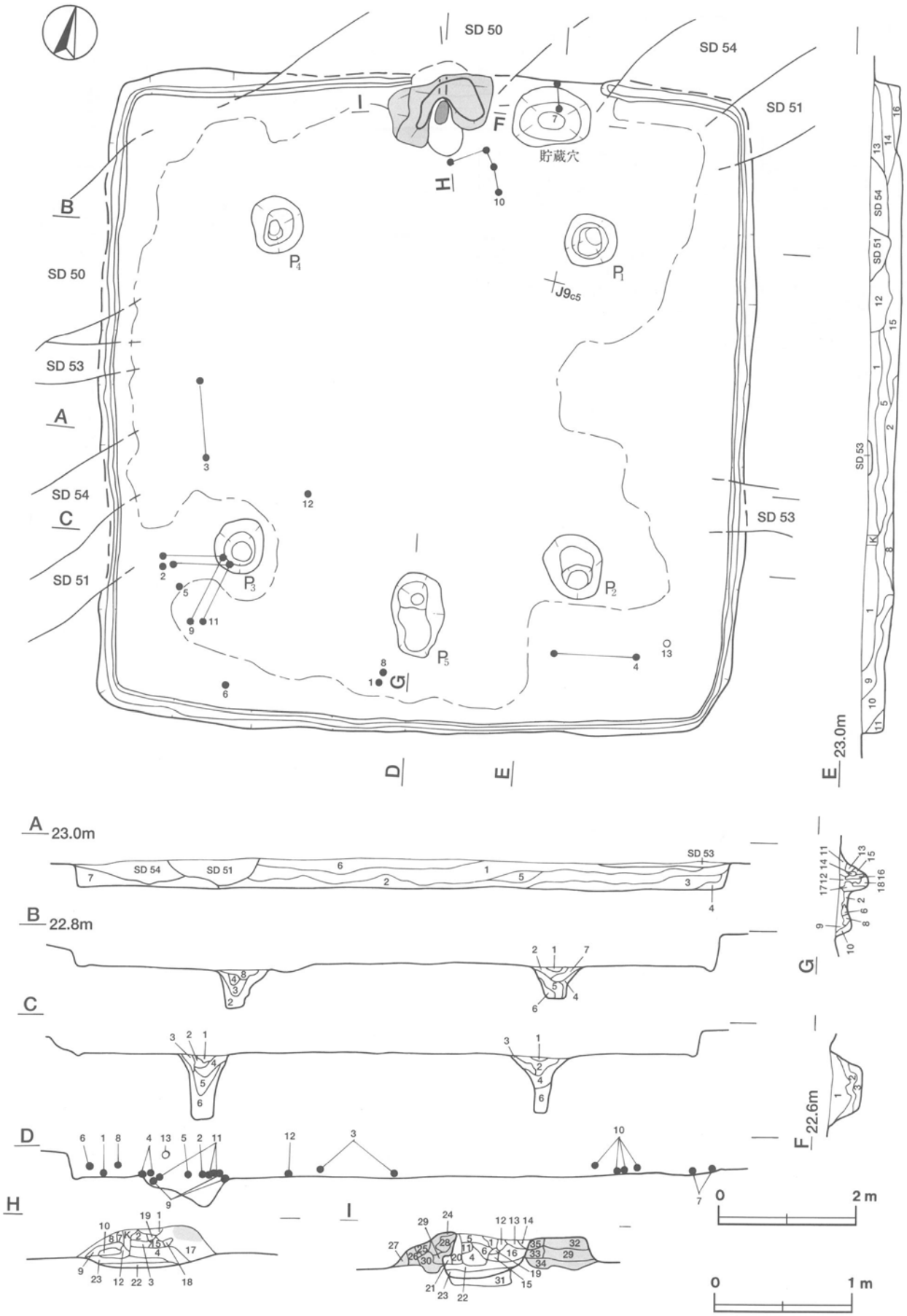
貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子多量

覆土　16層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

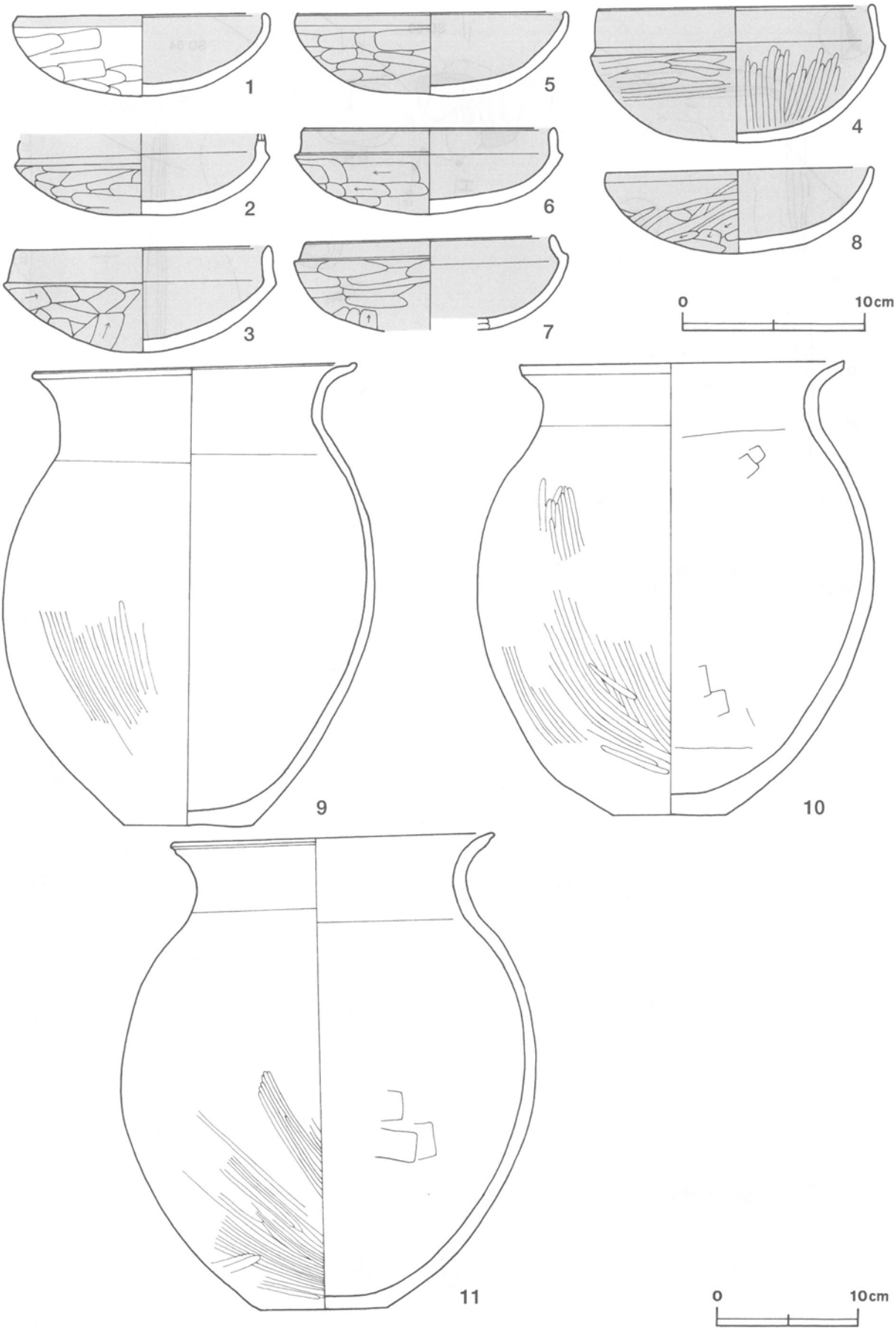
土層解説
1　黒 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
2　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
8　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
9　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
10　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
11　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
12　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
13　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
14　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量
15　暗 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
16　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片1742点，土製品１点（支脚），撹乱により混入したとみられる須恵器片36点，陶器片１点が出土している。そのほとんどが覆土中層や上層から出土しており，本跡の廃絶後に投棄されたものと考えられる。第36・37図に示した土器はいずれも土師器である。１の坏は，南壁際の床面から出土した２片が接合したものである。２の坏は，南西コーナー部の覆土下層から出土した数片が接合したものである。３の坏は，西壁際から中央部寄りの覆土下層から出土した数片が接合したものである。４の坏は，南東コーナー部の床面から出土した２片が接合したものである。５の坏は，南西コーナー部の床面から正位で出土している。６の坏は，南西コーナー部の覆土中層から出土している。７の坏は，竈東側の壁際の床面と貯蔵穴内から出土した２片が接合したものである。８の坏は，南壁の中央部寄りの覆土中層から斜位で出土している。９の甕は，南西コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。10の甕は，竈正面の床面から出土した破片が接合したものである。11の甕は，南西コーナー部の床面から出土した破片が接合したものである。12の甕は，中央部の床面から横位で出土している。13の支脚は，南東コーナー部の覆土上層から出土している。

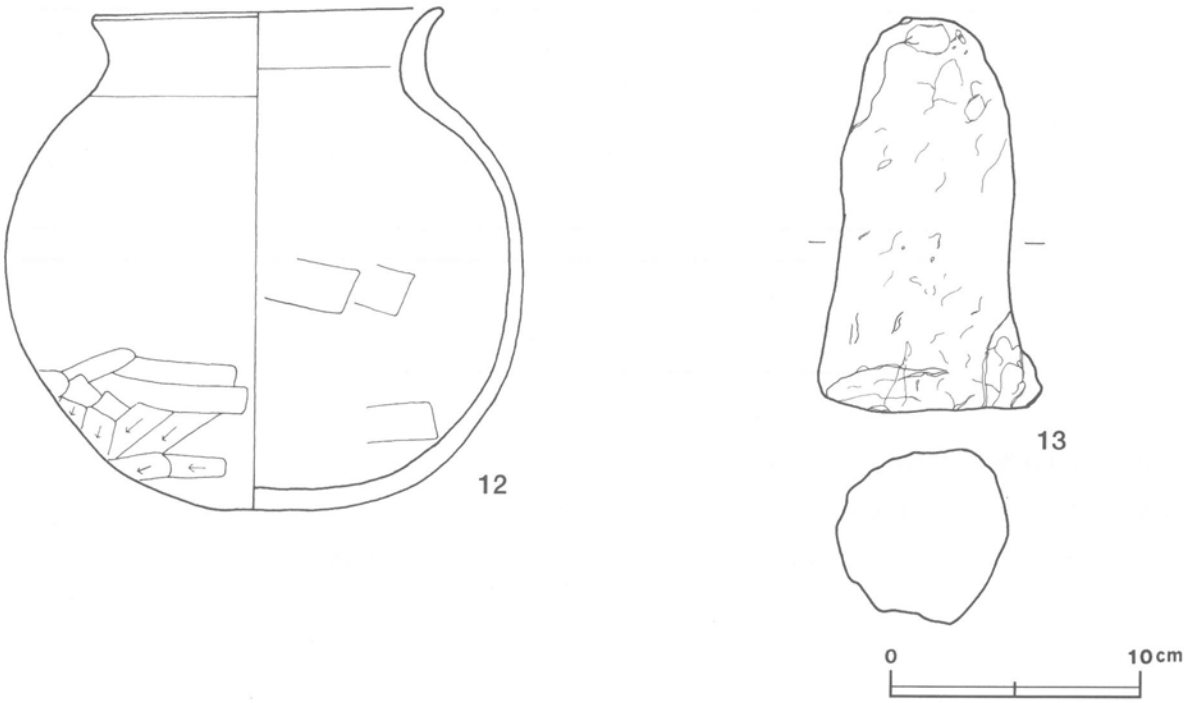
所見　本跡の時期は，出土土器から６世紀後半と考えられる。



第35図　第968号住居跡実測図



第36図　第968号住居跡出土遺物実測図（1）



第37図　第968号住居跡出土遺物実測図（2）

第968号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第36図 1	坏 土師器	A 13.4 B 3.8	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり,口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。内面及び口縁部外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P40506 90% PL204
2	坏 土師器	B（4.4）	体部・口縁部一部欠損。口縁端部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい黄橙色 普通	P40507 90% PL204
3	坏 土師器	A 13.6 B 5.6	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P40508 85% PL204
4	坏 土師器	A［14.8］ B 7.4	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色，普通	P40509 80% PL204
5	坏 土師器	A 14.4 B 4.4	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P40510 80% PL204
6	坏 土師器	A［13.4］ B 4.6	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P40511 70% PL204
7	坏 土師器	A 13.2 B（4.9）	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい褐色 普通	P40512 50% PL204
8	坏 土師器	A［14.3］ B 4.5	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P40513 50% PL204
9	甕 土師器	A 22.7 B 32.6 C 9.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈し，頸部でくびれ，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位摩滅により調整不明。下位縦位のヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色，普通	P40514 80% PL204
10	甕 土師器	A 22.8 B 31.8 C 8.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈し，頸部でくびれ，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位摩滅により調整不明。下位縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色，普通	P40515 70% PL204

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36図 11	甕 土師器	A 22.6 B 32.9 C 9.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色，普通	P 40516 70% PL 204
第37図 12	甕 土師器	A 13.9 B 19.7	底部から口縁部の破片。丸底。体部は球形を呈し，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位横ナデ，下位ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・小礫 にぶい黄橙色，普通	P 40517 80%

図版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)			
第37図13	土製支脚	(15.8)	6.9	(864.0)	裾部がわずかに広がる円柱状。	砂粒・長石・小礫，にぶい褐色	DP 40503 PL 219

第969号住居跡（第38図）

位置　調査4区の西部，K9e5区。

規模と平面形　南西コーナー部が調査区域外のため確認されなかった。長軸5.45m，短軸4.91mの長方形である。

主軸方向　N－9°－W

壁　壁高は8～20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っている。上幅18～24cm，下幅5～11cm，深さ5～12cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ20cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで132cm，両袖部幅115cmである。竈土層断面図中，第4・7層は焼土粒子を多量に含み赤変硬化していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子少量，砂粒微量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量，炭化粒子・砂粒微量
3　極暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
6　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量
7　赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量
8　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量

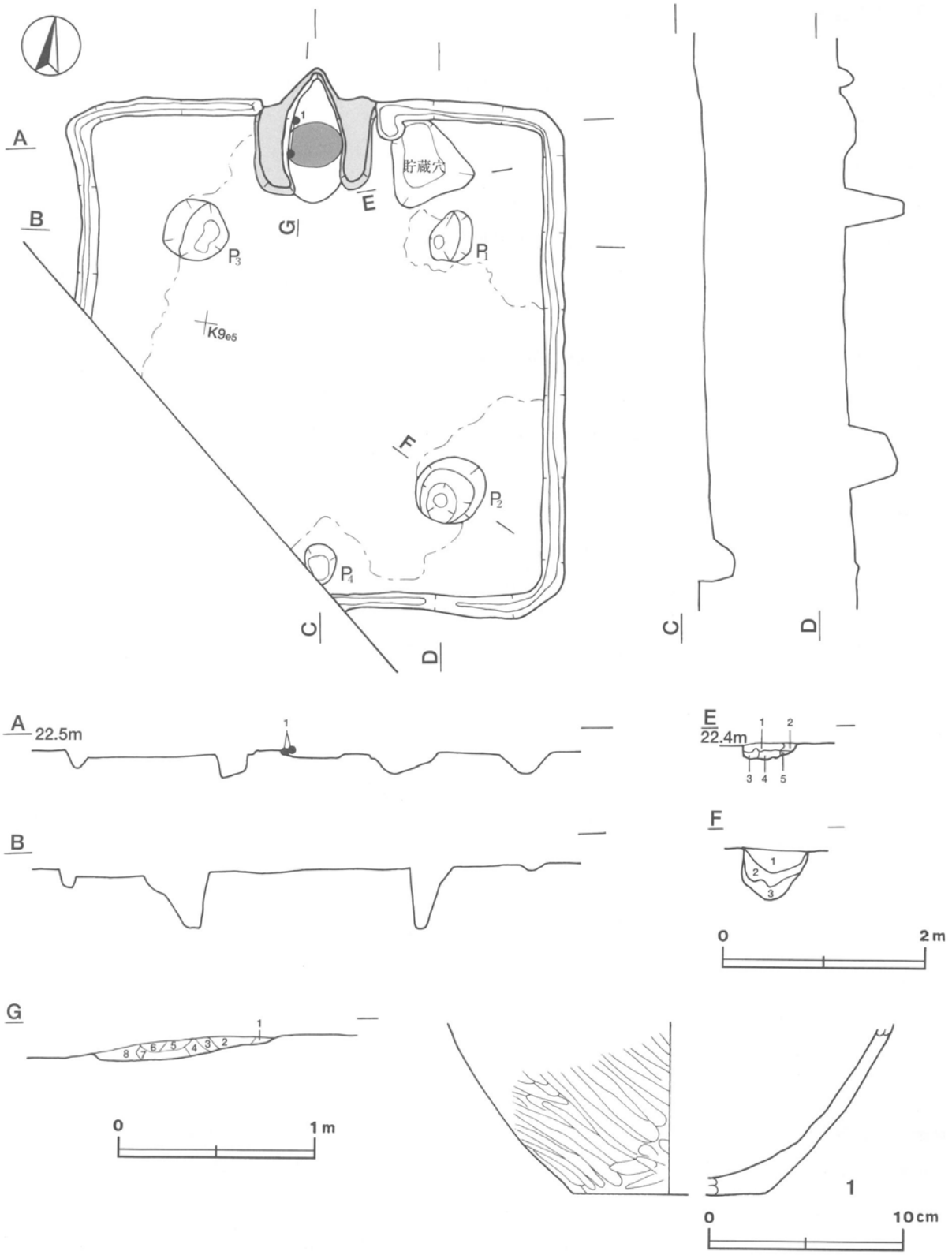
ピット　4か所（P1～P4）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P3は，径45～73cmの円形で，深さ53～63cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP4は，長径34cm，短径29cmの楕円形で，深さ14cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　竈東側の北壁際から検出された。長軸78cm，短軸60cmの隅丸台形で，深さ26cmである。

貯蔵穴土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
5　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片5点が，出土している。第38図1の甕は，竈内から出土した破片が接合したものである。

所見　本跡は床面の一部が露出した状況で検出されたため，覆土の堆積状況は確認できなかった。時期は，出土土器の傾向と住居跡の形態から6世紀後半と考えられる。



第38図　第969号住居跡・出土遺物実測図

第969号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第38図 1	甕 土師器	B（8.5） C［9.9］	底部から体部下位の破片。平底。 体部は外傾して立ち上がる。	体部内面横位のヘラナデ後，ナデ。 体部外面斜位のヘラ磨き。	砂粒・小礫・長石 赤褐色 普通	P41050 5％ 内面一部剥離

第970号住居跡（第39図）

位置　調査４区の西部，J9h2区。

重複関係　竈の煙道部から北コーナー部までを第972号住居に，東コーナー部を第62号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.33m，短軸3.31mの長方形である。

主軸方向　N－28°－W

壁　確認された壁の高さは26～50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第972号住居に掘り込まれているため，竈北東側から北コーナー部までは検出されなかった。北東壁の一部と竈南西側の北西壁の一部を除いて，壁の下を巡っている。上幅26～32cm，下幅５～10cm，深さ６～８cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，出入り口ピットから竈にかけて踏み固められている。

竈　北西壁の中央部に付設されている。第972号住居に煙道部から北東袖部までを掘り込まれているため，規模は不明である。竈土層断面図中，第９層は焼土粒子を中量含み，赤変硬化していることから，火床部と考えられる。

竈土層解説

1	灰　褐　色	砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
2	黒　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	灰　褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	にぶい赤褐色	ローム粒子中量，砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5	灰　褐　色	砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
6	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
7	にぶい赤褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
8	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・砂粒微量
9	極暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土中ブロック・粘土小ブロック微量
10	極暗赤褐色	焼土粒子多量，砂粒中量，粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
11	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

ピット　３か所（Ｐ１～Ｐ３）。Ｐ１は径14cmの円形で，深さ15cmである。Ｐ２は径10cmの円形で，深さ13cmである。Ｐ１・Ｐ２ともに南東壁際の中央部に隣接して位置する。南東壁際中央部の壁溝内に位置するＰ３は長径26cm，短径20cmの楕円形で，深さ12cmである。Ｐ１～Ｐ３は，位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

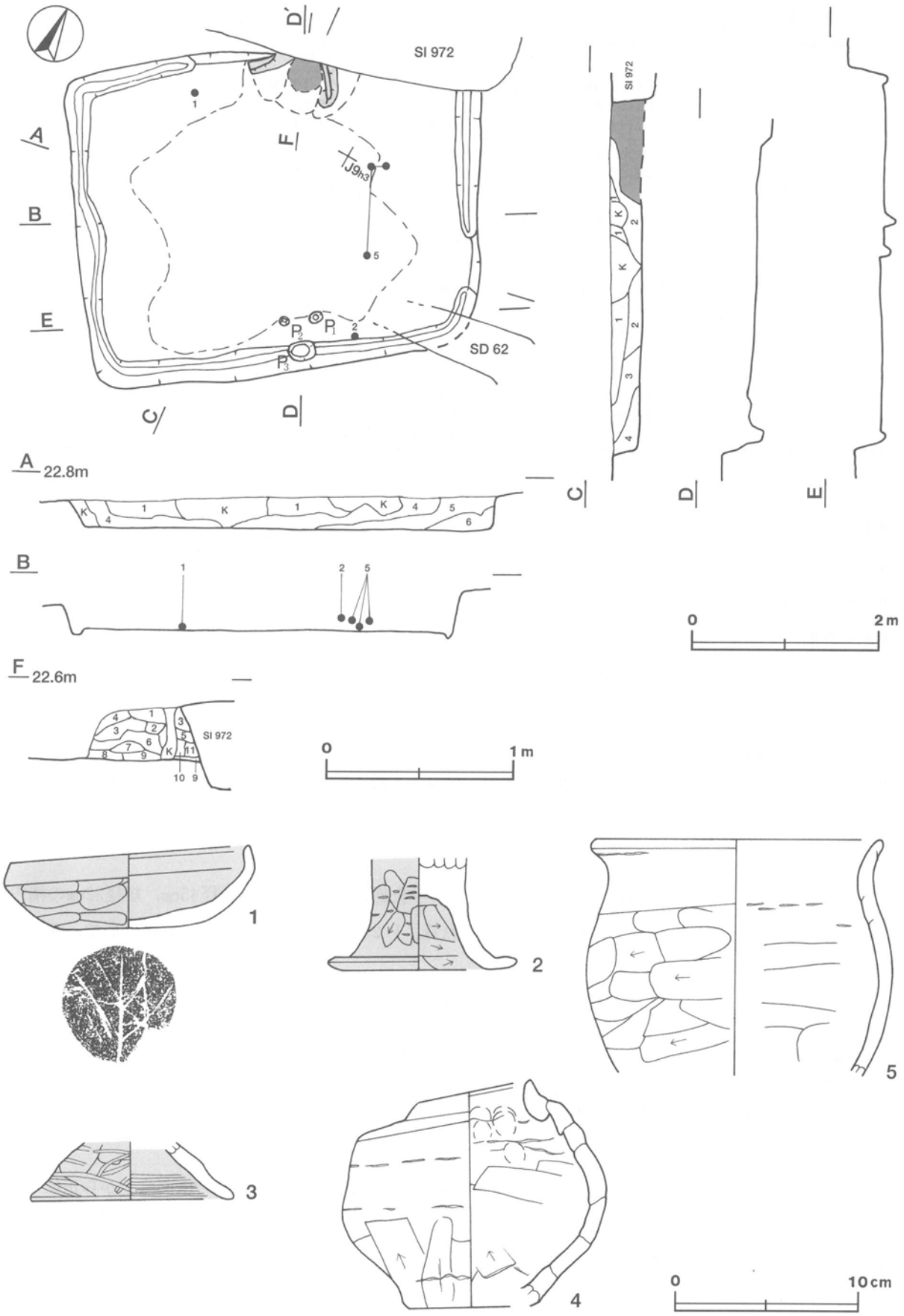
覆土　６層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒　褐　色	炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
5	褐　色	ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
6	暗褐色	ローム粒子少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量

遺物　土師器片214点，灰釉陶器片１点が出土している。第39図１～５は，すべて土師器である。１の坏は，竈北西側の床面から逆位でつぶれた状態で出土している。２の高坏は，南東壁際の覆土下層から出土している。３の高坏は，西部の覆土中から出土している。４の壺は，北部と東部の覆土中から出土した破片が接合したものである。５の甕は，北部の床面と東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。灰釉陶器は細片で，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から６世紀後半と考えられる。



第39図　第970号住居跡・出土遺物実測図

第970号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第39図 1	坏 土師器	A 12.8 B 4.4 C 6.0	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ後，ナデ。底部木葉痕。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P41051 95% PL204 内・外面剥離
2	高坏 土師器	B (6.6) D [10.3]	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。裾部は外反する。	脚部外面縦位のヘラ削り後，ナデ。内面横位のヘラ削り。裾部内・外面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 灰黄褐色 普通	P41052 30% PL205
3	高坏 土師器	B (3.2) D 10.9	脚部の破片。裾部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。	脚部・裾部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。脚部内面ヘラ削り。裾部内面横位のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	P41053 20% PL205
4	壺 土師器	A 6.2 B 12.2 C [6.6]	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。体部はやや扁平な球形を呈し，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上ヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。下位縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。内面に輪積み痕。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P41054 50% PL204
5	甕 土師器	A [15.4] B (12.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。内面ヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。	砂粒・小礫・雲母・長石，にぶい黄橙色 普通	P41055 30% PL204

第971号住居跡（第40図）

位置　調査4区の西部，J9e2区。

重複関係　第50号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　北部及び西部が調査区域外に位置しているため全容は不明である。南北は3.43m，東西は3.29mだけが確認できた。南東コーナー部が直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－18°－W

壁　壁高は40～44cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認できた壁下に巡っている。規模は上幅20～35cm，下幅5～13cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。

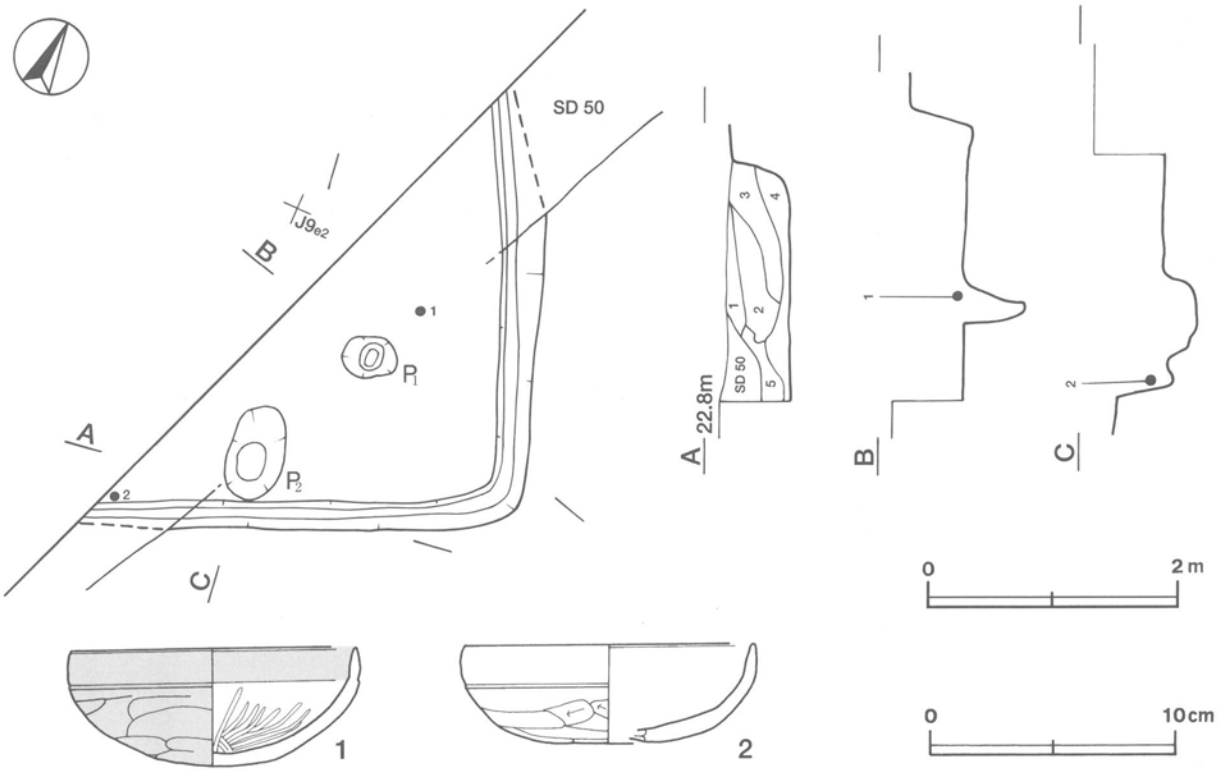
ピット　2か所（P1・P2）。P1は南東コーナーから中央部寄りに位置し，長径45cm，短径32cmの楕円形で，深さ48cmである。規模と位置から主柱穴と考えられる。P2は長径78cm，短径47cmの楕円形で，深さ26cmである。性格は不明である。

覆土　5層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　黒褐色　ローム粒子少量

遺物　土師器片3点が出土している。第40図1の土師器坏は，東壁から中央部寄りの床面直上から正位で出土している。2の土師器坏は，南壁際の覆土下層から正位で出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から7世紀前半と考えられる。



第40図　第971号住居跡・出土遺物実測図

第971号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第40図 1	坏 土師器	A　11.5 B　4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面放射状のヘラ磨き。外面及び口縁部内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P40518 95% PL204
2	坏 土師器	A［11.7］ B　4.0	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	P40519 15% PL205

第972号住居跡（第41・42図）

位置　調査4区の西部，J9f2区。

重複関係　第970号住居跡を掘り込み，第973号住居，第50・51・54号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　北西コーナー部は，調査区域外のため調査することができなかった。長軸7.62m，短軸6.63mの長方形である。

主軸方向　N－17°－W

壁　竈東側の北壁を第51・54号溝に，竈西側の北壁を第50号溝に掘り込まれている。確認された壁高は20～72cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っており，全周していると推定できる。上幅20～30cm，下幅8～14cm，深さ約10cmで，断面形はU字形である。

床　第973号住居に掘り込まれているものの，残存部分はほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ35cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで136cm，両袖部幅148cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第2～4・9層が粘土粒子・砂粒を

比較的多量に含んでいることから，崩落土層と考えられる。袖部の内側は火熱を受けて赤変している。第14層は焼土粒子を多量に含み赤変していることから，火床部と考えられる。火床部は，床面を皿状に掘りくぼめている。袖部の構築は，土層断面からみると，一部掘り残したハードロームの地山を基礎にして，構築材を重ねるように積み上げて袖部を構築したと考えられる。構築材は，断面土層中の第23～28層からわかるように，礫が少量混じった山砂と粘土を中心材にして，ローム土を適量混ぜている。煙道は，外傾したのち急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
2	褐色	粘土粒子多量，焼土粒子・砂粒中量，礫少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
3	褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4	暗赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子中量，砂粒少量，ローム粒子微量
5	極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，炭化材微量
6	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
7	極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，炭化材少量
8	褐色	粘土粒子中量，炭化粒子・砂粒微量
9	灰褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
10	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量，砂粒微量
11	赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
12	にぶい赤褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
13	赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・砂粒微量
14	暗赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子少量，砂粒微量
15	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，砂粒微量
16	赤褐色	焼土粒子・砂粒中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
17	極暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量
18	極暗赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・砂粒少量，粘土粒子微量
19	にぶい赤褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
20	極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・炭化物少量，砂粒微量
21	暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，砂粒微量
22	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量
23	にぶい褐色	粘土粒子中量，砂粒少量，焼土粒子微量
24	にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
25	灰褐色	粘土粒子多量，砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
26	極暗褐色	ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
27	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，砂粒少量，粘土粒子微量
28	暗褐色	ローム粒子中量，砂粒少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
29	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
30	暗褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
31	灰褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量

ピット　58か所（Ｐ１～Ｐ58）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径28～62cmのほぼ円形で，深さ55～75cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は長径81cm，短径60cmの楕円形で，その中に深さ26・36・42cmの小ピットがほぼ南北に並んで検出された。Ｐ６は径30cmの円形で，深さ37cmである。Ｐ５とＰ６は，位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７～Ｐ58は壁際に沿って，並ぶように位置している。規模は径８cm～22cmのほぼ円形，深さは浅いもので３cmほどで，ほとんどのものが10～20cmである。位置と配置から壁柱穴と考えられる。

覆土　７層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

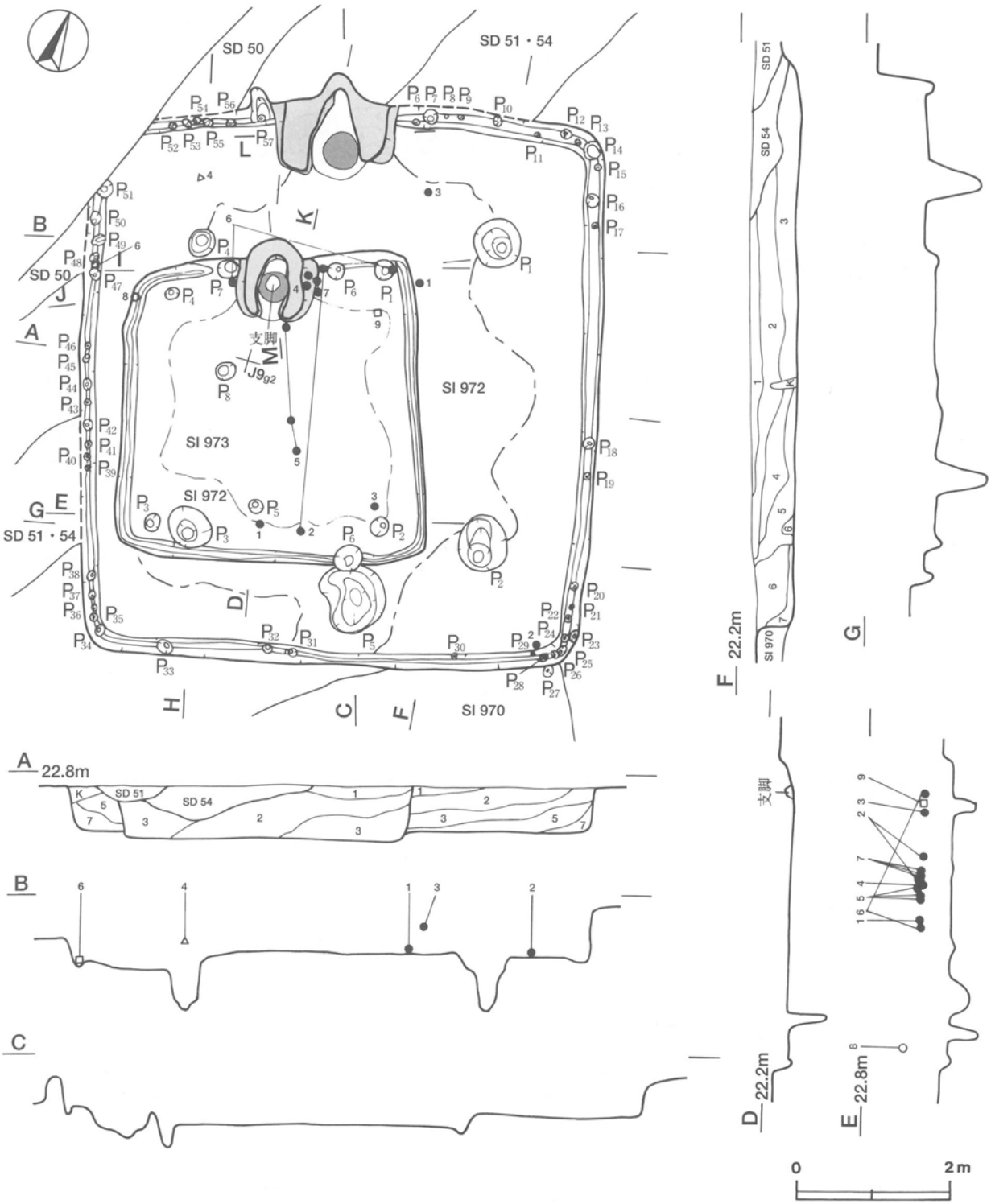
土層解説

1	極暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
3	灰褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
5	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒微量
7	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

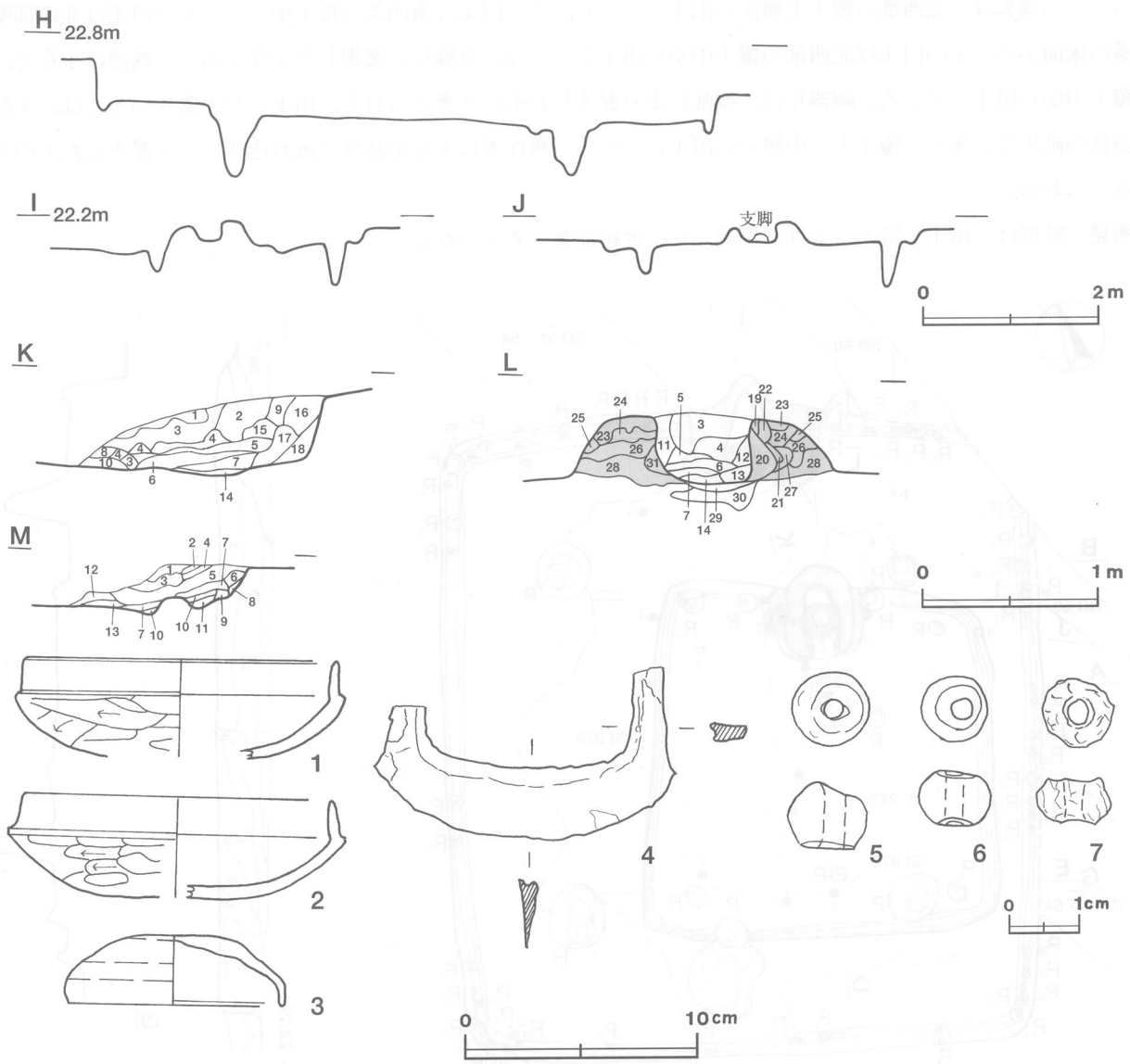
遺物　土師器片1864点，須恵器片34点，土製品３点（支脚片），鉄器１点（鋤先），石製品３点（臼玉），鉄滓１点，陶器片２点が出土している。第41図１の土師器坏片は，北東部の覆土下層から出土している。２の土師器坏片は，南東コーナー部の床面から出土している。３の須恵器坏蓋片は，北東部の覆土中層から出土してい

る。4の鋤先は，北西部の覆土下層から出土している。5の臼玉は南西部の覆土中から，6の臼玉は北西部壁溝の床面から，7の臼玉は北西部の覆土中から出土している。支脚片は破損した小片である。鉄滓は小片で，覆土中から出土している。陶器片は，撹乱により混入したものと考えられる。出土した土器片の多くは，土師器甕の破片で，多くが覆土上・中層から出土している。耕作等による撹乱及び流れ込みにより混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第41図　第972・973号住居跡実測図



第42図　第972・973号住居跡実測図，第972号住居跡出土遺物実測図

第972号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第42図 1	坏 土師器	A [13.4] B (4.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明確な稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母 灰褐色 普通	P41056 30% PL205
2	坏 土師器	A [13.2] B 4.3	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明確な稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・長石 にぶい黄褐色 普通	P41057 30% PL205
3	坏蓋 須恵器	A [9.2] B 3.0	天井部から口縁部かけての破片。天井部から口縁部にかけてドーム状を呈している。	内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P41058 30% PL205

図版番号	器　種	計測値				材　質	特　徴	備　考
		全長(cm)	刃幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第42図4	鋤先	13.0	3.0	0.8	(59.3)	鉄	着柄部一部欠損。身(着装部)の差込式。	M41004　90%　PL220

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		径（cm）	口径（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
第42図5	臼玉	1.1	0.3	1.0	1.58	蛇紋岩	扁平な円筒形。表面滑らか。暗オリーブ灰色	Q41005 100% PL221
6	臼玉	1.0	0.3	0.7	1.20	蛇紋岩	扁平な円筒形。表面滑らか。黒色	Q41006 100% PL221
7	臼玉	1.1	0.3	0.7	1.24	滑石	扁平な円筒形。灰白色	Q41007 70% PL221

第973号住居跡（第41・43・44図）

位置　調査4区の西部，J9g2区。

重複関係　第972号住居跡を掘り込み，第51・54号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.22m，短軸3.72mの長方形である。

主軸方向　N－11°－W

壁　壁高は10～25cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅12～20cm，下幅4～6cm，深さ8～10cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ20cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで138cm，両袖部幅102cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第2～5層が崩落土層と考えられる。焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子を比較的多く含む第10層の上面が，火床面と考えられる。火床面のほぼ中心に破損した支脚の下部が遺存している。第6・7層は炭化物・炭化粒子を比較的多く含んでいることから，煙道に堆積した土層と推定される。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　にぶい褐色　粘土粒子中量，砂粒・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・炭化材・炭化物微量
2　褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　褐色　粘土粒子中量，砂粒少量・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・炭化物少量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
5　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，炭化物少量，砂粒微量
6　極暗赤褐色　炭化物中量，焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子・砂粒微量
7　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物中量，炭化粒子少量
8　にぶい褐色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量
11　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
12　褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・砂粒微量
13　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量

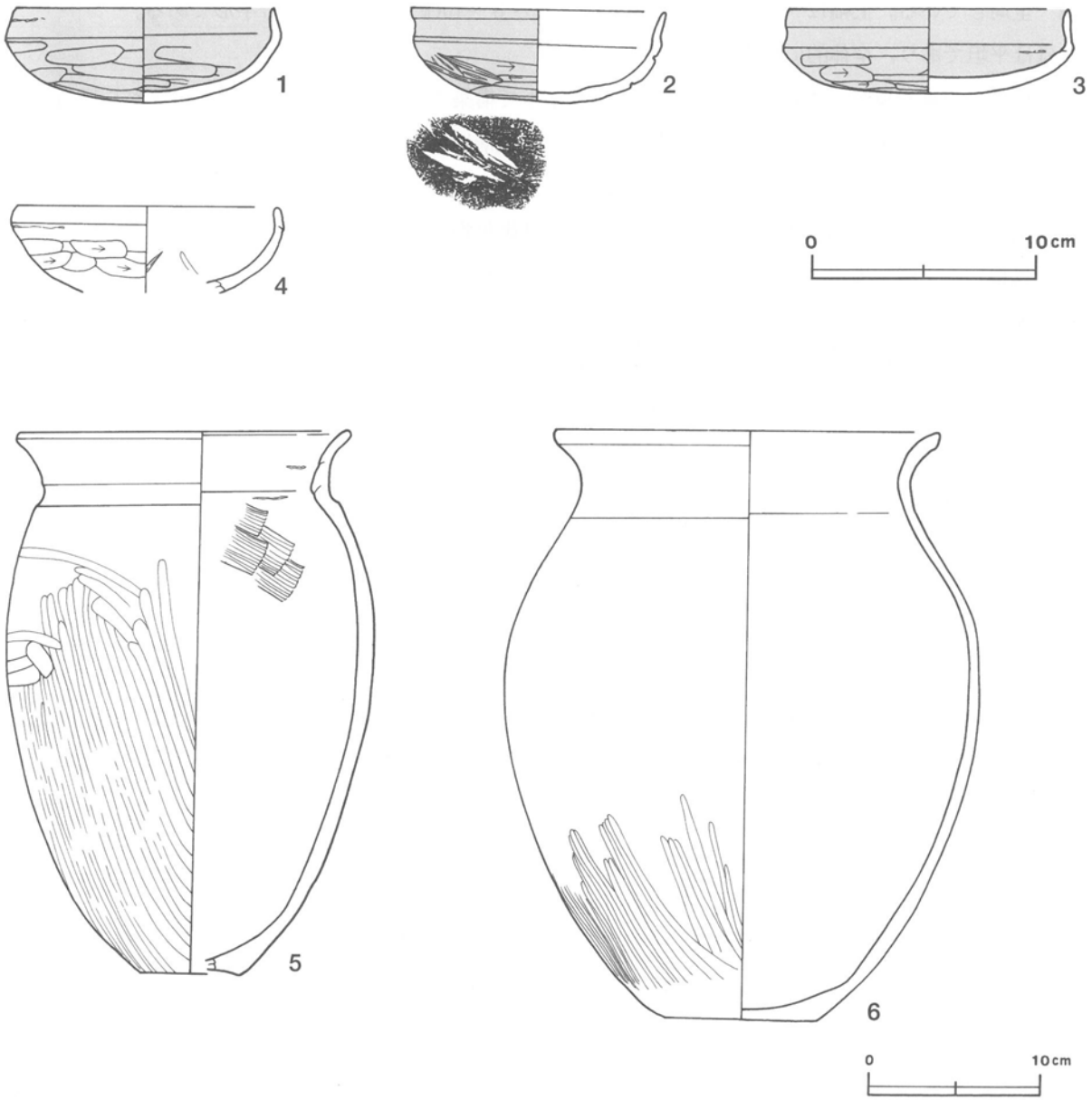
ピット　8か所（P1～P8）。各コーナー部に位置するP1～P4は，径17～24cmの円形で，深さ30～53cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP5は，径20cmの円形で，深さ52cmであり，位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は径17cmの円形で，深さ11cmである。P7は長径26cm，短径20cmの楕円形で，深さ29cmである。北壁際の竈両袖脇に位置するP6・P7は，主柱穴の補助柱穴か竈に付随するものかは，不明である。中央部のP4寄りに位置するP8は，径22cmのほぼ円形で，深さ28cmである。規模と位置から補助柱穴と考えられる。

覆土　3層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

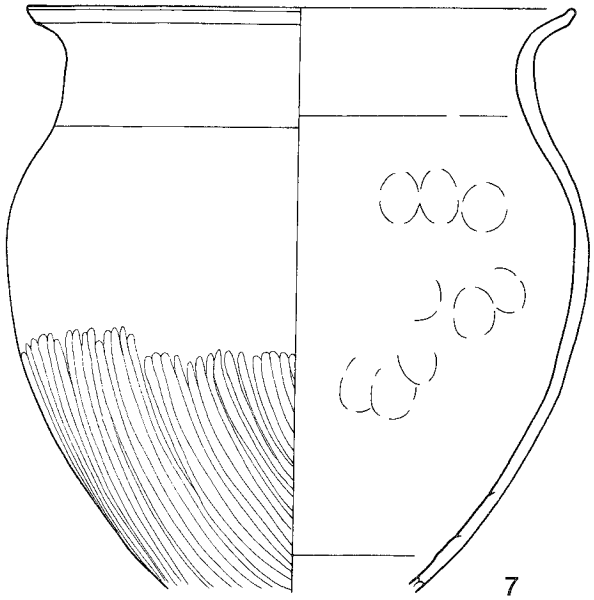
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土中ブロック微量

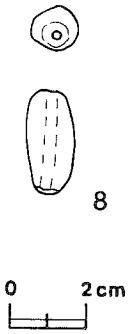
遺物　土師器片199点，須恵器片２点，土製品１点（管状土錘），石製品１点（臼玉），炭化種子１点が出土している。第43・44図の１～７は，すべて土師器である。１の坏は，Ｐ５付近の覆土下層から逆位で出土している。２の坏は，竈東側の覆土下層から出土した破片と南東コーナー部壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。３の坏は，南東部の床面から出土した破片と南東部と南西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。４の坏は，竈東側の覆土下層から出土している。５の甕は，竈南側の覆土下層から出土した破片と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。６の甕は，竈西側の床面から出土した破片と北東コーナー部の壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。７の甕は，竈東側の床面から集中して出土した破片が接合したものである。８の管状土錘は，北西コーナー部の覆土下層から出土している。９の臼玉は，北東部の覆土下層から出土している。山桃の種子と考えられる炭化種子は，割れた状況で出土している。須恵器片は，甕の体部の細片で，撹乱により混入したものと考えられる。

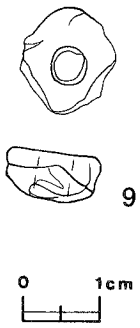
所見　本跡の時期は，出土土器から７世紀前葉から中葉と考えられる。



第43図　第973号住居跡出土遺物実測図（１）







第44図　第973号住居跡出土遺物実測図（2）

第973号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第43図 1	坏 土師器	A 11.5 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 明赤褐色 普通	P41060 95% PL205
2	坏 土師器	A 11.2 B 4.4	底部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ後，ナデ。外面黒色処理。	砂粒・長石・赤色粒子，にぶい赤褐色 普通	P41061，70% PL205 外面砥石転用痕
3	坏 土師器	A 12.4 B 3.7	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P41062 60% PL205
4	坏 土師器	A 11.6 B (3.8)	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。輪積み痕。	砂粒・雲母・赤色粒子，橙色 普通	P41063 30% PL205
5	甕 土師器	A 19.1 B 31.6 C 5.7	底部・体部・口縁部の一部欠損。平底。体部はやや長胴化した倒卵形を呈し，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。	砂粒・小礫・雲母 橙色 普通	P41064 80% PL205
6	甕 土師器	A [22.7] B 34.2 C 9.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は倒卵形を呈し，口縁部は外反する。端部は外上方へわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ，下半縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・長石・赤色粒子，にぶい橙色 普通	P41065 30% PL205
第44図 7	甕 土師器	A [28.8] B (30.4)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は倒卵形を呈し，口縁部は外反する。端部は外方へわずかにつまみ出されている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，下位縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。内面に輪積み痕。	砂粒・小礫・雲母 灰褐色 普通	P41066 40% PL205

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第44図8	管状土錘	1.3	2.7	0.3	3.7	円筒形，ナデ。	砂粒，暗褐色	DP41005　100%　PL219

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		径（cm）	口径（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
第44図9	臼　玉	1.4	0.3	0.6	1.2	滑　石	扁平な隅丸方形，表面凹凹。灰色。	Q41008　100%　PL221

第974号住居跡（第45・46図）

位置　調査4区の西部，J9b1区。

重複関係　西コーナー部を第965号住居に，東部を第975号住居・第755号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.65m，短軸5.23mの方形である。

主軸方向　N－30°－W

壁　確認された壁高は最大25cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南東壁の一部を除いて，壁の下を巡っている。上幅12～25cm，下幅5～9cm，深さ5～9cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

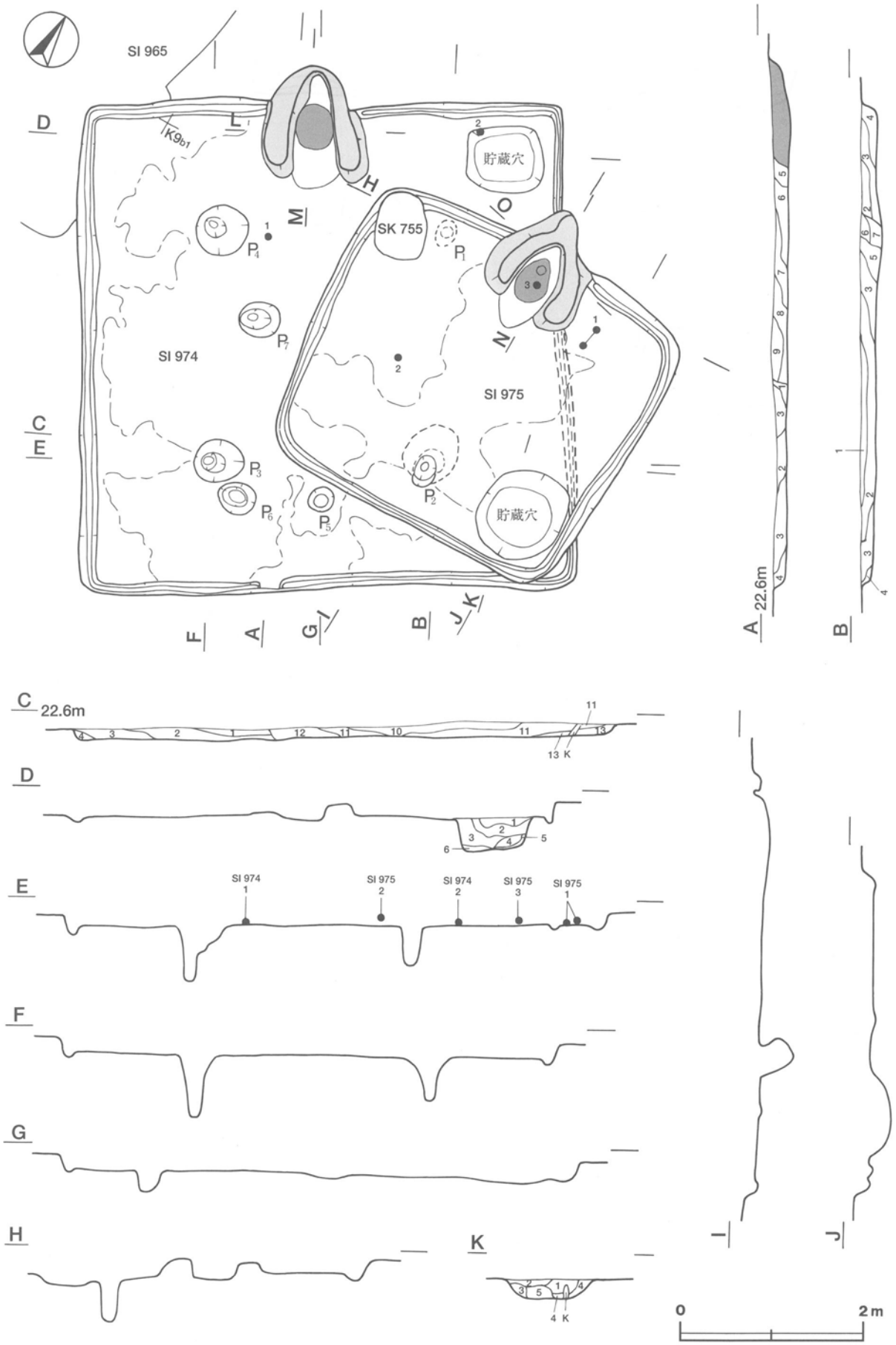
竈　北西壁の中央部を壁外へ40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで135cm，両袖部幅113cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第2～6層が粘土粒子・砂粒を比較的多く含んでいることから，崩落土層と考えられる。第8層は焼土小ブロック・焼土粒子を多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　灰　褐　色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
5　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒中量，粘土粒子少量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
6　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子中量，砂粒少量，炭化粒子・粘土粒子微量
7　灰　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，砂粒少量，炭化粒子微量
9　にぶい赤褐色　ローム大ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
10　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒微量
11　暗 赤 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
12　灰　褐　色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
13　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・粘土粒子微量
14　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
15　暗 赤 褐 色　砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量
16　灰　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
17　灰　褐　色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土中ブロック少量，ローム粒子微量

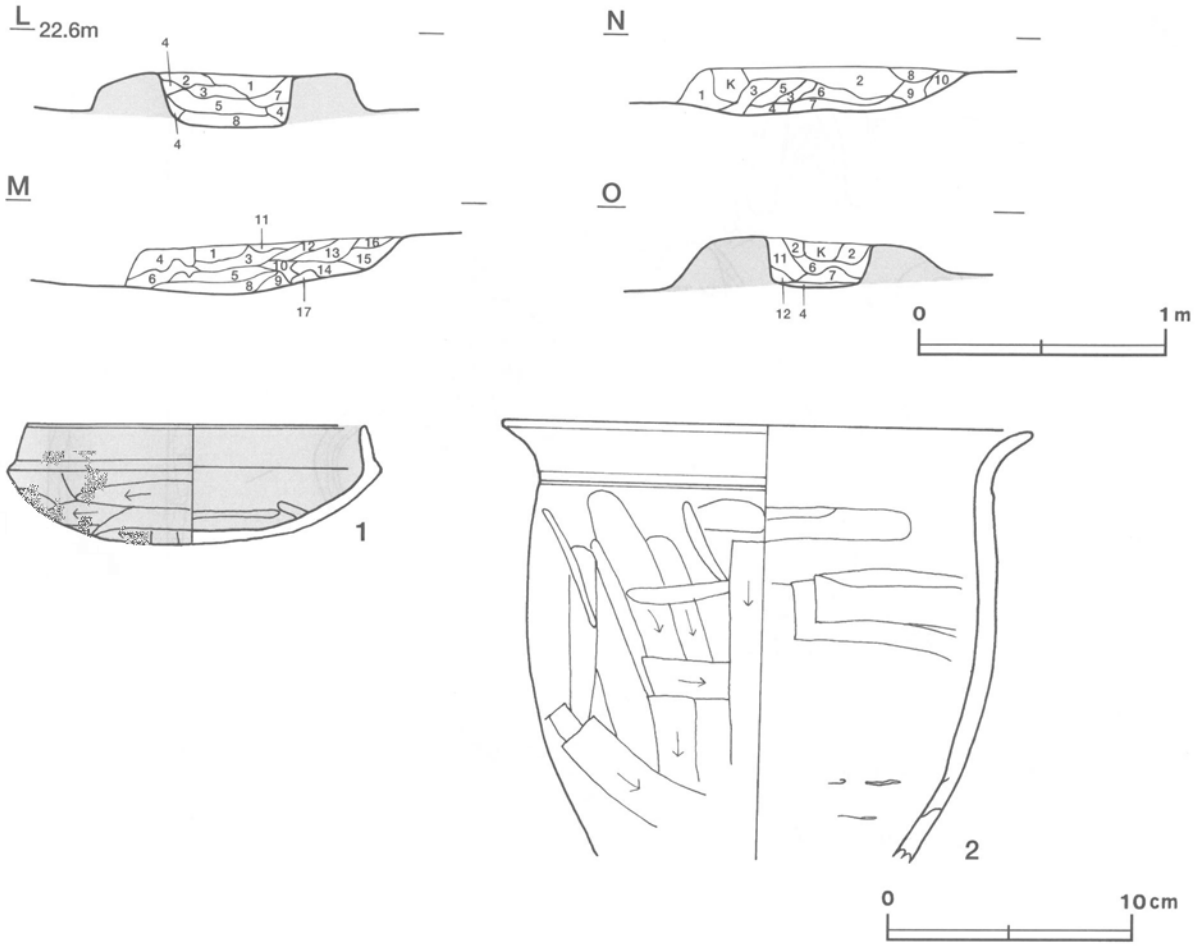
ピット　7か所（P1～P7）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P4は，径26～56cmのほぼ円形で，深さ47～62cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南東壁際の中央部に位置するP5は，径25cmの円形で，深さ25cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3の南東壁側に位置するP6は，長径40cmの卵形で，深さ44cmである。P3とP4の間に位置するP7は，長径44cmの卵形で，深さ64cmである。P6・P7は，位置的にP3・P4の補助柱穴と考えられる。

貯蔵穴　北コーナー部から検出された。長軸80cm，短軸70cmの隅丸長方形で，深さ39cmである。断面形は，「∪」形である。

貯蔵穴土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・粘土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子多量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子微量



第45図　第974・975号住居跡実測図



第46図　第974・975号住居跡実測図，第974号住居跡出土遺物実測図

覆土　9層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。5層は，含有物から竈の崩壊土層と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，炭化粒子・砂粒微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
8　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
9　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片161点，土製品1点（支脚片），陶器片1点が出土している。第46図1の土師器坏は，北部の床面から正位で出土している。2の土師器甕は，北東部の北壁際の床面からと西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。土製品は，支脚の小片である。陶器片は，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第974号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第46図 1	坏 土師器	A 13.4 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P41067 95% PL205
2	甕 土師器	A [21.4] B (17.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。頸部に弱い1条の沈線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P41068 10% PL206 外面剥離

第975号住居跡（第45～47図）

位置　調査4区の西部，J9b2区。

重複関係　第974号住居跡を掘り込み，北西コーナー部を第755号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.73m，短軸3.42mの方形である。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は10～20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅12～32cm，下幅4～8cm，深さ4～6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ30cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで125cm，両袖部幅110cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第2・3・5・8層が粘土粒子・砂粒を比較的多く含んでいることから，崩落土層と考えられる。特に，第3・5層は火熱を受け，赤変してゴツゴツしている。第7層は灰を多量に含み，微量の貝殻片が検出された。第4層は焼土粒子を中量含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒微量
2　灰　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子中・炭化粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量
3　明赤褐色　焼土粒子多量，砂粒中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂粒少量，炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量
7　褐　灰　色　灰多量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
8　灰　赤　色　焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
9　暗赤褐色　ローム粒子中量，砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・灰少量，粘土小ブロック・粘土粒子微量
11　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化物微量
12　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

ピット　2か所（P1・P2）。竈と北西コーナー部の間に位置するP1は，長径28cm，短径22cmの楕円形で，深さ53cmである。性格は不明である。南壁際の中央部に位置するP2は長径35cm，短径25cmの楕円形で，深さ37cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南東コーナー部で検出された。長径98cm，短径88cmの楕円形で，深さ35cmである。底部は径66cmの円形である。断面形は，「U」形をしている。

貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

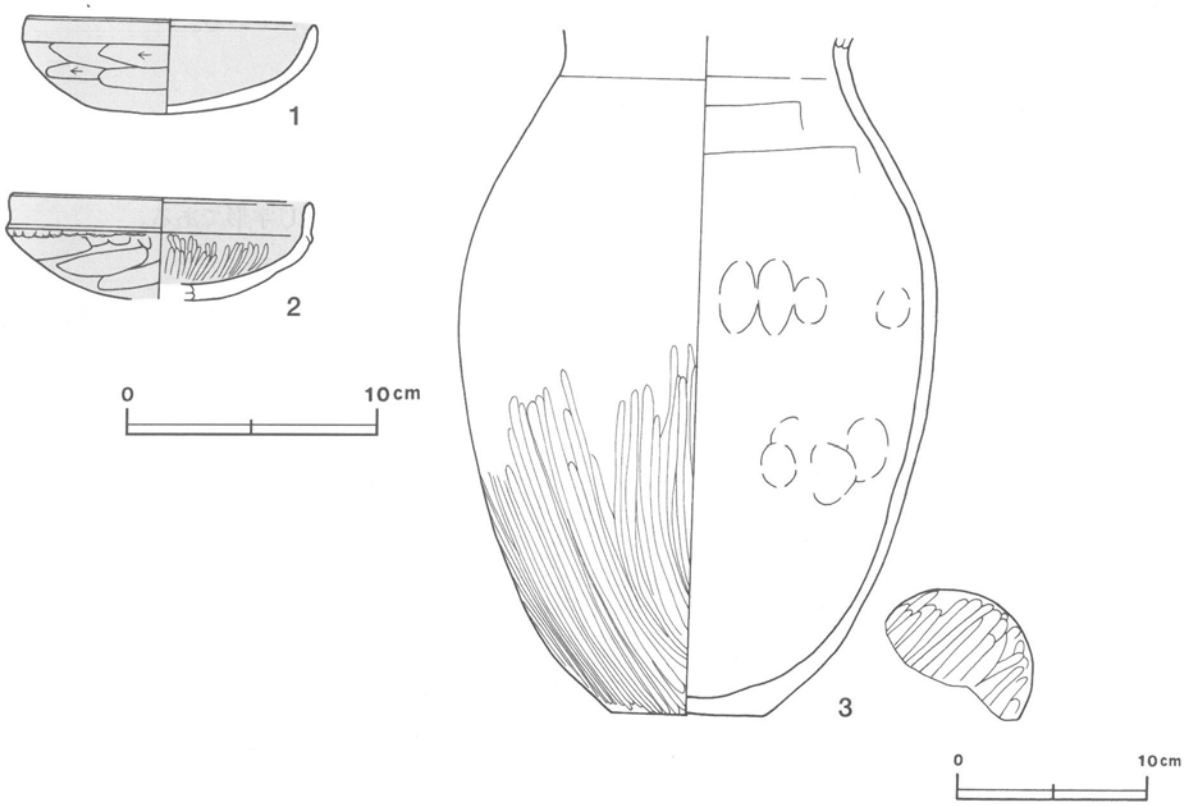
覆土　7層からなる。ロームブロックが混入するものの，レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子少量，粘土粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土小ブロック微量
5　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
6　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
7　暗 褐 色　ローム粒子中量

遺物　土師器片106点，土製品3点（支脚片）が出土している。第47図1の土師器坏は，竈東側の覆土下層から出土している。2の土師器坏は，中央部の床面から出土した破片と北西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。3の土師器甕は，竈内から出土した破片と南東部の覆土中から出土した破片が接合したものである。中央部の覆土下層から出土している土製支脚片3点は，同一個体と考えられるが，小片のため復元不可能である。

所見　本跡の時期は，出土土器から7世紀前葉から中葉と考えられる。



第47図　第975号住居跡出土遺物実測図

第975号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第47図 1	坏 土師器	A　11.7 B　3.8	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P41069　90% PL205 外面剥離
2	坏 土師器	A［12.0］ B　4.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ後，ヘラ磨き。内面に輪積み痕が残る。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P41070 40% PL205 外面剥離
3	甕 土師器	B（17.3） C　7.8	底部から頸部にかけての破片。平底。体部はやや長胴化した倒卵形。	頸部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，下半縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。底部1方向のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P41071 40% PL206

第978号住居跡（第48図）

位置　調査４区の西部，J9h4区。

重複関係　第956号住居跡を掘り込み，南西コーナー部を第62号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.86m，短軸3.65mの方形である。

主軸方向　N－15°－W

壁　壁高は25～45cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南西コーナー部を除き，壁下を巡っている。上幅20～24cm，下幅４～10cm，深さ６～９cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，Ｐ１付近から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ24cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで110cm，両袖部幅114cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第２・３層が粘土粒子・砂粒を比較的多く含んでいることから，崩落土層と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており，両袖部の内側の第４層は，焼土を多量に含み焼土ブロックでゴツゴツしていることから，火熱を受けた燃焼部と考えられる。第５・６層は焼土粒子を多量に含み，赤変硬化していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　にぶい褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
3　赤　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子・粘土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量，砂粒少量
5　赤　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子中量
6　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子多量，砂粒少量
7　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
8　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，炭化物・砂粒微量
9　灰　褐　色　砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子中量，粘土小ブロック少量
10　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径30～40cmの円形で，深さ33～45cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁の中央部に位置するＰ５は，径32cmのほぼ円形で，深さ22cmである。規模と位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

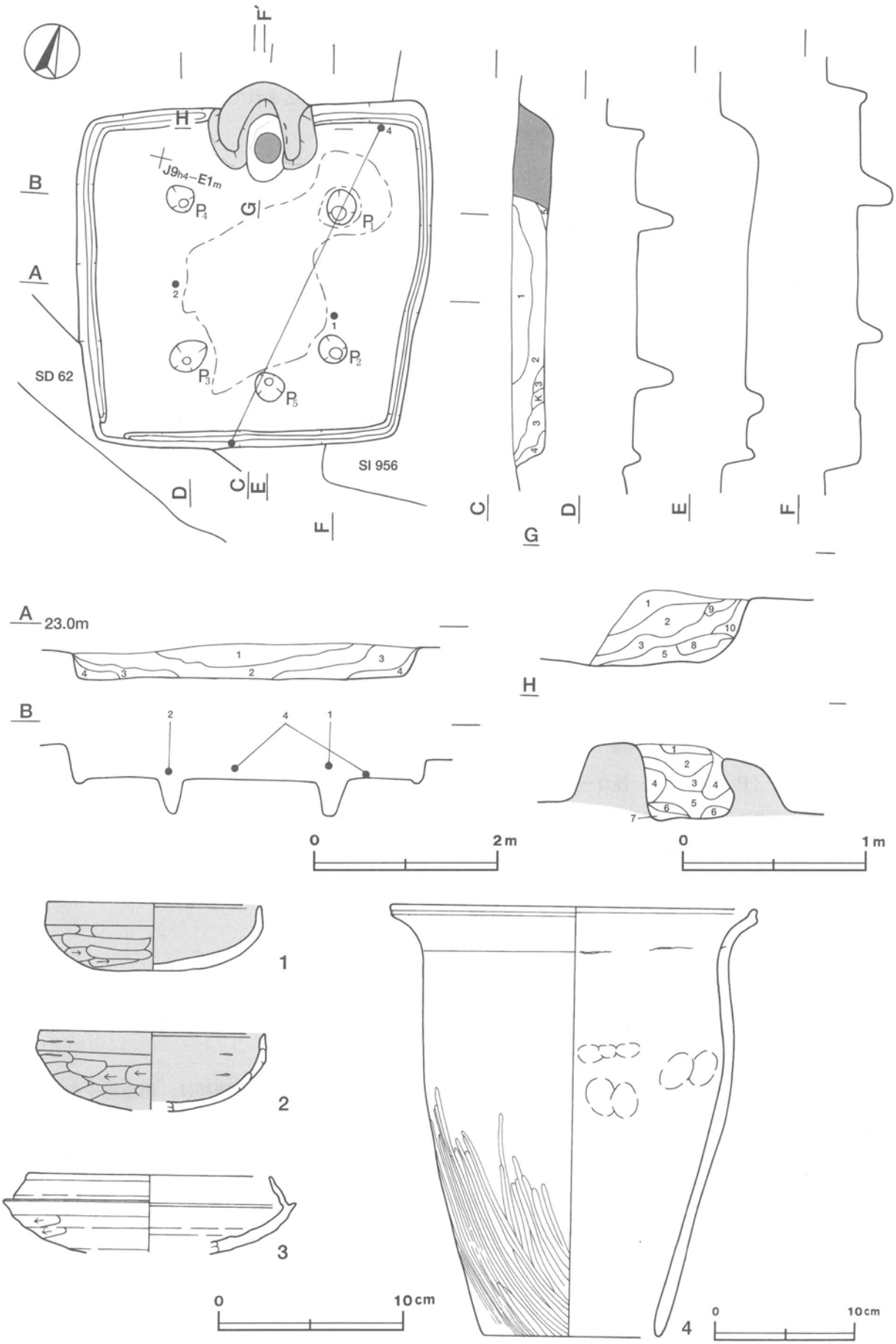
覆土　５層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。第５層は竈材の流れが堆積したものである。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒微量

遺物　土師器片60点，須恵器片５点，鉄滓１点が出土している。第48図１の土師器坏は，南東部やや中央寄りの覆土中層から横位で出土している。２の土師器坏は，中央部やや西壁寄りの覆土下層から出土している。３の須恵器坏身は，北西部の覆土中から出土している。４の土師器甑は，竈と北東コーナーの間の北壁際からつぶれた状況で出土した破片と南壁際の中央部から出土した破片が接合したものである。

所見　本跡の時期は，出土土器から６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる。



第48図　第978号住居跡・出土遺物実測図

第978号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第47図 1	坏 土師器	A [11.6] B 3.5 C 6.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面・底部ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 黒褐色 普通	P41081 50% PL205 外面剥離
2	坏 土師器	A 12.4 B 4.3	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。輪積み痕。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英 明赤褐色 普通	P41082 50% PL205
3	坏身 須恵器	A [13.2] B (4.2)	体部から受け部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，受け部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面一部ヘラ削り痕。	砂粒・長石・石英 灰色 良好，体部外面に自然釉	P41084 10%
4	甑 土師器	A 26.0 B 30.8 C 12.8	体部・口縁部の一部欠損。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。端部は上方へつまみ上げられいる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，下半縦位のヘラ磨き。内面指頭痕を残すナデ。内面に輪積み痕。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P41083 80% PL206

第979号住居跡（第49・50図）

位置　調査4区の西部，J9c0区。

重複関係　本跡が第1018号住居跡を掘り込み，南東部を第985号住居に，南西部を第996号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.14m，短軸6.00mの方形である。

主軸方向　N－22°－W

壁　壁高は28～40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下を巡っており，全周していたと考えられる。上幅14～24cm，下幅5～7cm，深さ6～12cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部から竈の前までが踏み固められている。

竈　北壁の中央部で2か所（竈1・竈2）確認されている。竈2が北壁中央に位置し，竈1はその西側に隣接している。竈1は，竈2の西袖部の北壁際を調査したところ，壁外に55cmほどの掘り方だけが検出されたものである。土層断面図中の第20層が，竈1の火床部と考えられる。竈1は，竈2に作り替える以前の竈と考えられる。竈2は北壁の中央部を壁外へ40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで126cm，両袖部幅125cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第1～3・6層が粘土ブロック・粘土粒子・砂粒を比較的多く含み，しまりも強いことから，崩落した天井部の土層と考えられる。東袖部は撹乱を受け，遺存状況が悪い。袖部は，ハードロームの地山を掘り下げ，中央部を火床部として作ったのち，両脇に粘土と山砂，ローム土を混ぜて構築したと考えられる。粘土粒子を多く含む第10～14層が袖部の土層であり，第15～19・22～24層が，ローム質の土に焼土粒子と炭化粒子を含むことから，掘り方の埋土と考えられる。第4層は焼土ブロック・焼土粒子を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は火床面から外傾した後，急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　にぶい褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量，砂粒少量
5　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子多量，焼土小ブロック中量，砂粒少量
6　灰褐色　粘土大ブロック多量，砂粒少量
7　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，砂粒少量
8　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

9　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
10　褐　　色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
11　にぶい褐色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
12　暗　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
13　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
14　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
15　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
16　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
17　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
18　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
19　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子中量，炭化物少量
20　暗赤褐色　焼土粒子多量
21　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
22　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
23　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
24　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　5か所（P1～P5）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P4は，径60～70cmの円形また卵形で，深さ64～72cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP5は長径106cm，短径48cmの楕円形で，中に深さ30cm，33cm，52cmの小ピットが南北に並んで位置している。規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
2　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

P2土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　明　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量
5　にぶい褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

P3土層解説
1　灰　褐　色　粘土大ブロック
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
3　灰　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
5　にぶい褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子多量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量

P4土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，粘土粒子中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
4　にぶい褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　にぶい褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　にぶい褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

P5土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

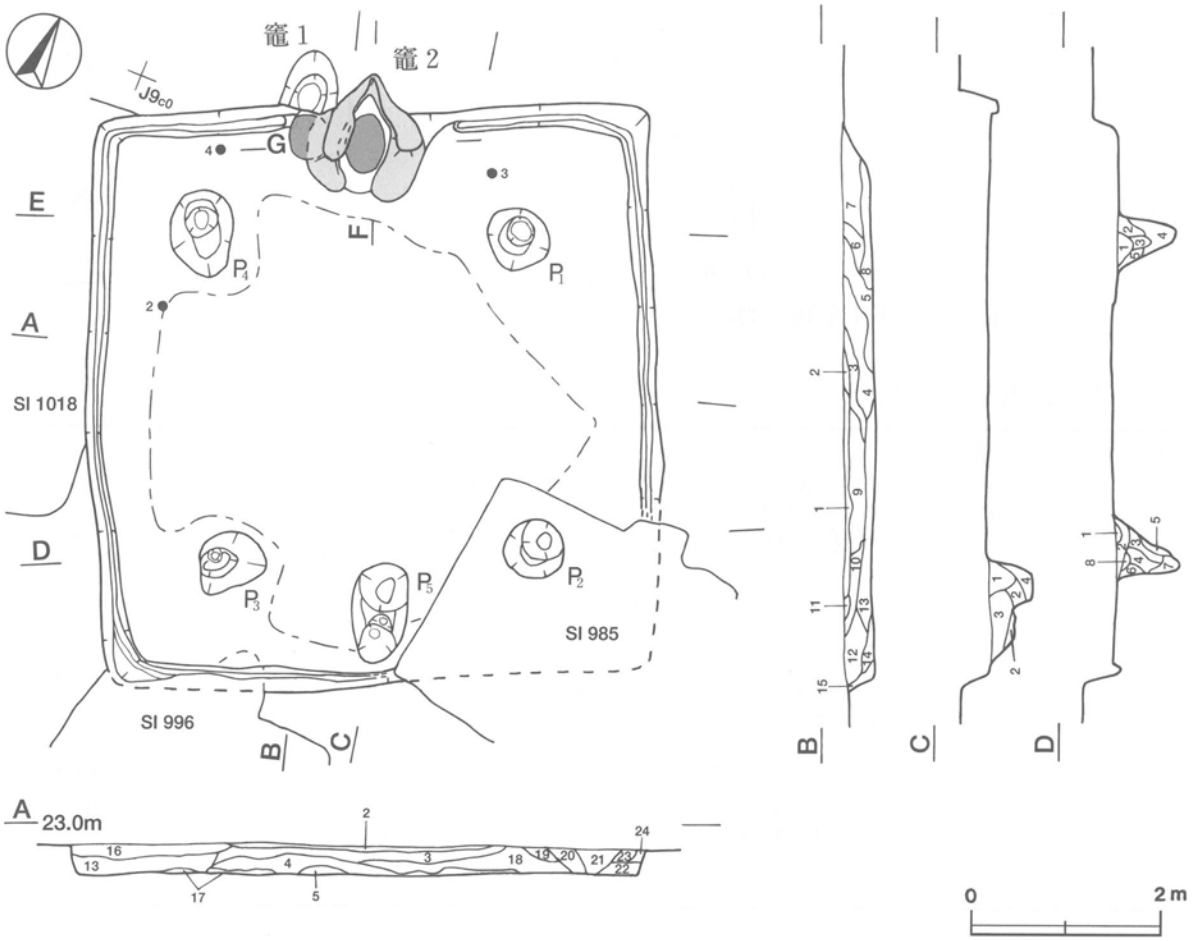
覆土　24層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　灰褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化材・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量，炭化粒子微量
6　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
7　暗褐色　ローム小ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・焼土粒子少量
10　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
13　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，炭化材微量
14　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量

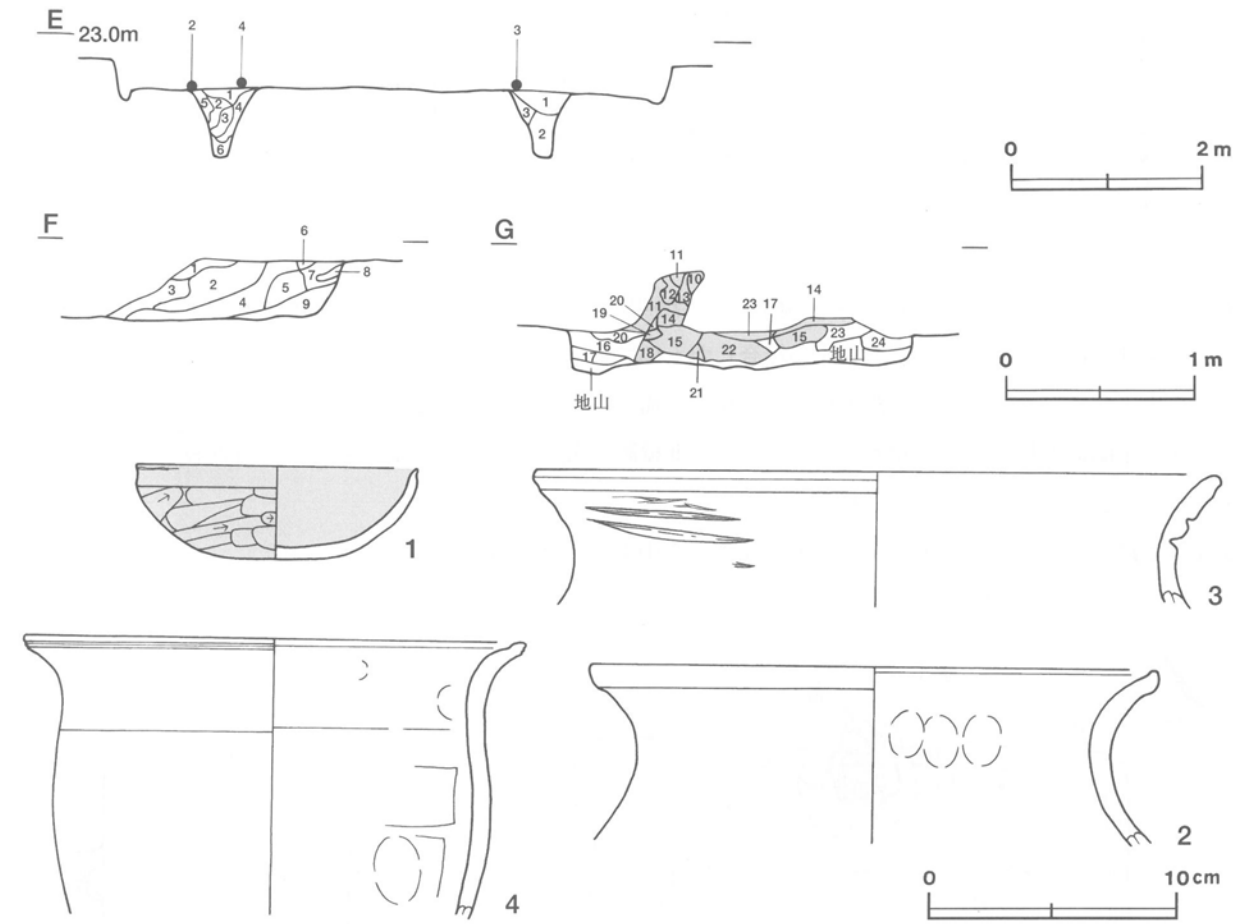
15　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
16　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
17　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
18　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
19　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
20　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化材微量
21　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック小量，焼土粒子・炭化粒子微量
22　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
23　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
24　褐　　色　ローム粒子・ローム大ブロック多量

遺物　土師器片621点，須恵器片４点，陶器片１点が出土している。第50図１の土師器坏は，北東部の覆土中層と南東部の覆土中から出土した破片が接合したものである。２の土師器甕片は，北西部やや竈寄りの覆土下層から出土している。３の土師器甕片は，北東部の竈寄りからと覆土中から出土した破片が接合したものである。４の土師器甑片は，竈と北西コーナーの間の北壁際の覆土下層から出土している。須恵器片・陶器片は，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から７世紀前葉から中葉と考えられる。



第49図　第979号住居跡実測図



第50図　第979号住居跡・出土遺物実測図

第979号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第49図 1	坏 土師器	A［11.4］ B　3.6	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英 橙色 普通	P41085 30% PL205
2	甕 土師器	A［22.8］ B（7.0）	頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。口縁端部は上方へわずかにつまみ上げられる。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。内面に指頭痕を残す。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色 普通	P41086 10%
3	甕 土師器	A［27.6］ B（5.3）	頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色 普通	P41088 5% PL206 外面砥石転用痕
4	甑 土師器	A［20.2］ B（11.0）	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。端部は外方へつまみ出されている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 褐色 普通	P41087 5%

第980号住居跡（第51図）

位置　調査4区の西部，J10e1区。

規模と平面形　長軸3.44m，短軸3.28mの方形である。

主軸方向　N－20°－W

壁　壁高は23～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅18～28cm，下幅６～８cm，深さ３～６cmで，断面形はU字形である。

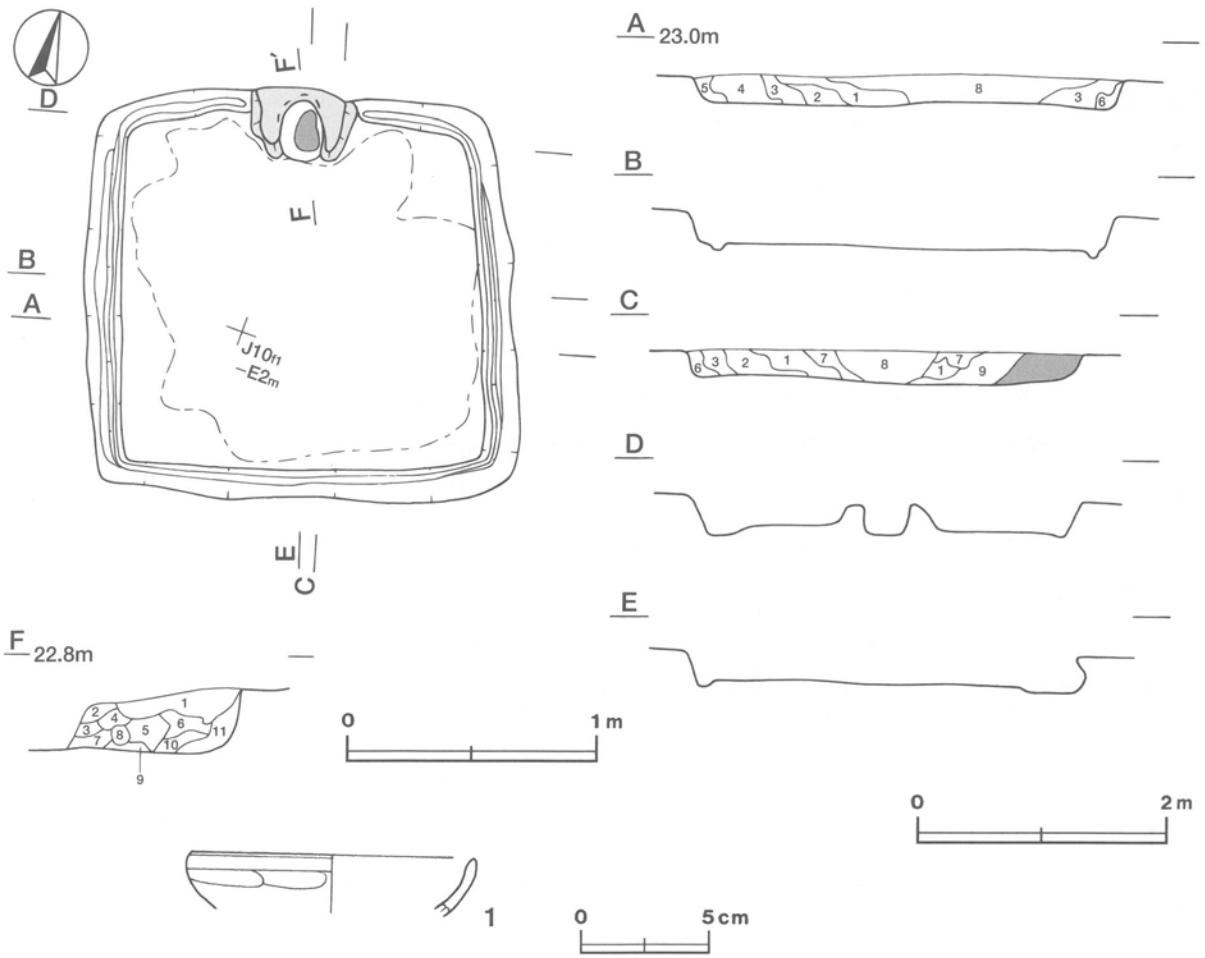
床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ10cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで58cm，両袖部幅80cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第２～８層が崩落土層と考えられる。特に第５・８層は，焼土を多量に含み赤変が激しいことから，直接火熱を受けた部分と考えられる。第９・10層は焼土粒子を多く含み，赤変硬化していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
2	灰　褐　色	砂粒多量，焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量
3	褐　　色	ローム粒子・焼土粒子多量，炭化粒子・砂粒少量
4	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
5	にぶい赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子・砂粒少量
6	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
7	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
8	にぶい赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量
9	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
10	赤　褐　色	焼土粒子多量，炭化粒子中量，砂粒少量
11	暗　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子中量，砂粒少量

覆土　９層からなる。レンズ状堆積から，自然堆積と考えられる。第９層は竈材の流れと考えられる。



第51図　第980号住居跡・出土遺物実測図

覆土土層解説
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック微量
3　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
4　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
5　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子中量
7　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
8　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
9　褐　　色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子微量

遺物　土師器片41点，須恵器片１点，土製品１点（支脚片），陶器片１点が出土している。第51図土師器坏は，北東部の覆土中から出土している。支脚片は，覆土中から出土した小片である。須恵器片と陶器片は，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器と当遺跡の住居跡の形状の傾向から７世紀代と考えられる。

第980号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第50図 1	坏 土師器	A［11.4］ B（2.3）	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。	雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P41089 5％

第981号住居跡（第52～54図）

位置　調査４区南西部，K9b3区。

規模と平面形　長軸5.36m，短軸4.77mの長方形である。

主軸方向　N－16°－W

壁　壁高は６～10cmで，外傾して立ち上がる。

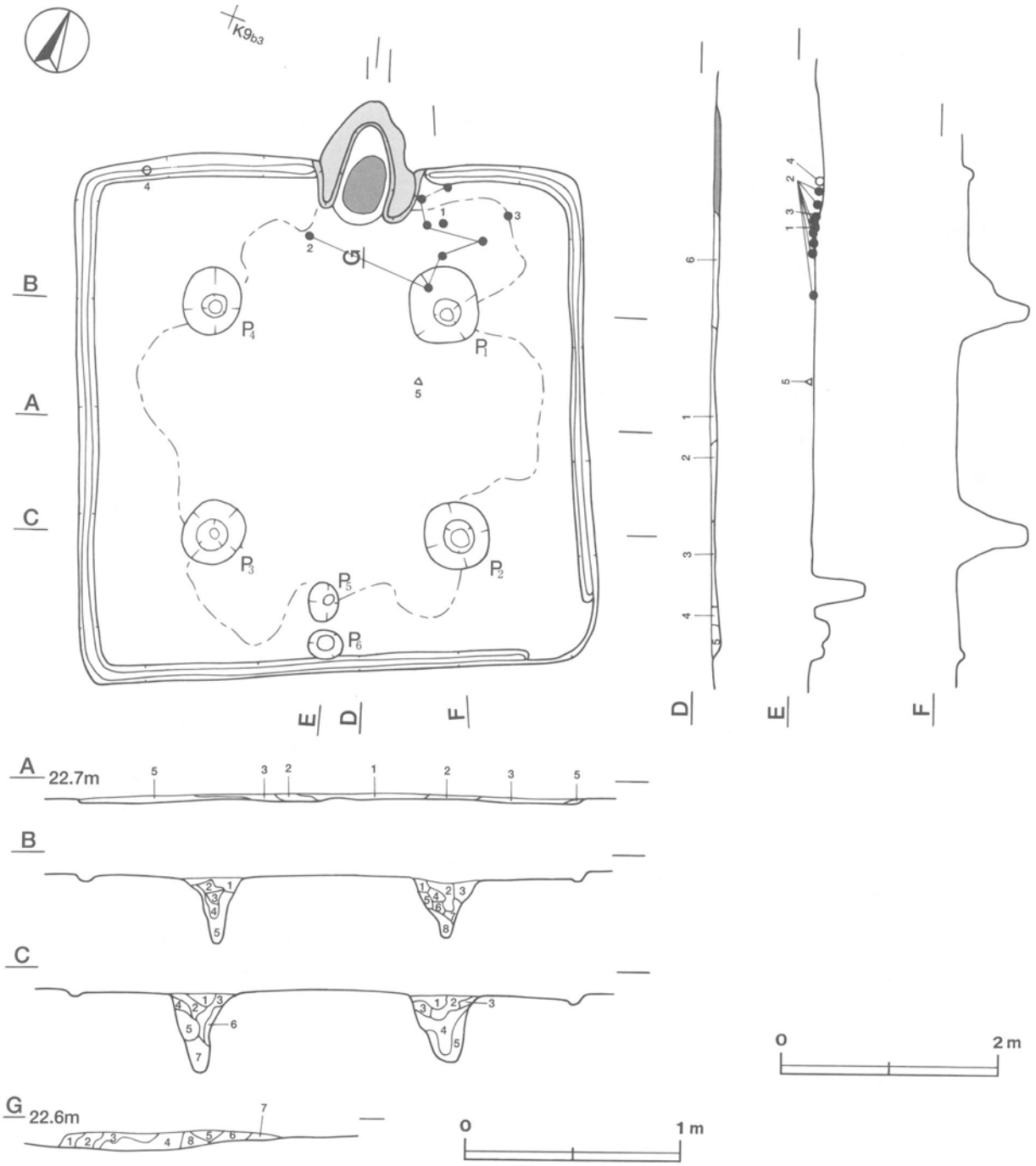
壁溝　南東コーナー部では検出されなかった。確認できた壁下を巡っている。上幅16～21cm，下幅４～10cm，深さ５～９cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，各コーナー部を除いて全体的に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ50cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで116cm，両袖部幅95cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第２・３層が粘土粒子・砂粒を比較的多く含んでいることから，崩落土層と考えられる。第４層は焼土粒子を多量に含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　暗 赤 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
2　灰　褐　色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック微量
3　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土中ブロック微量
6　橙　　色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，ローム粒子・粘土粒子少量
7　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量，粘土粒子微量

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径55～70cmのほぼ円形で，深さ64～80cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は長径35cm，短径26cmの楕円形で，深さ52cmである。Ｐ５と南壁の間に位置するＰ６は，径31cmのほぼ円形で，深さ14cmである。Ｐ５・Ｐ６は，位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第52図　第981号住居跡実測図

P 1土層解説

1　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒微量
2　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
3　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，砂粒微量
4　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量，砂粒微量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
6　褐　　色　ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
8　暗 褐 色　ローム粒子少量

P 2土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

4　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子中量

P 3 土層解説
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
6　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量

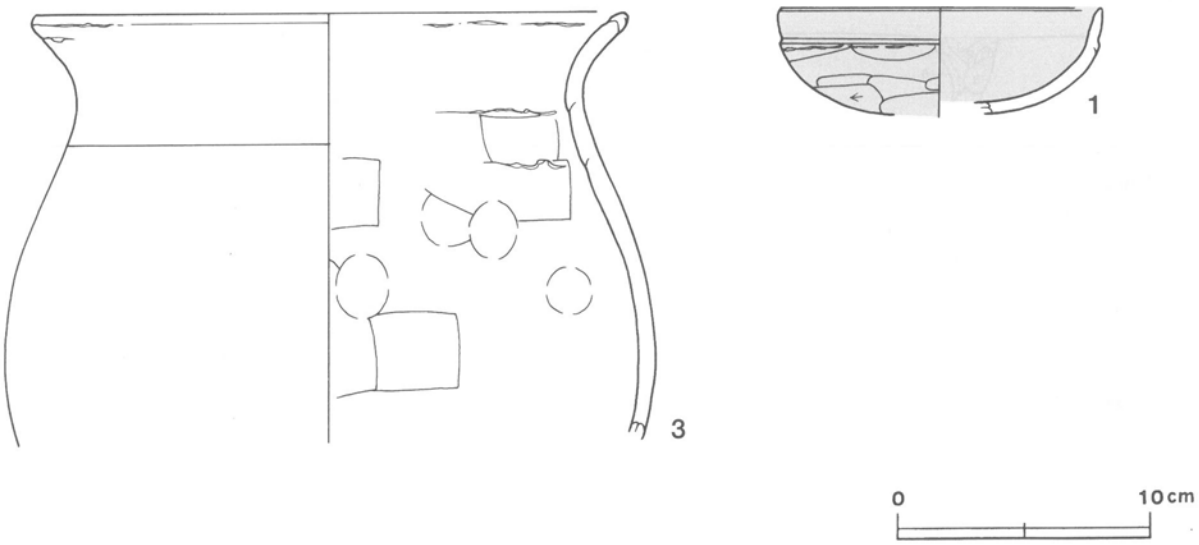
P 4 土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
2　褐　　色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子中量

覆土　6層からなる。覆土が薄いため，堆積状況を確認することは難しいが，壁際の三角堆積から自然堆積と推定される。第6層は，竈材の流れた層である。

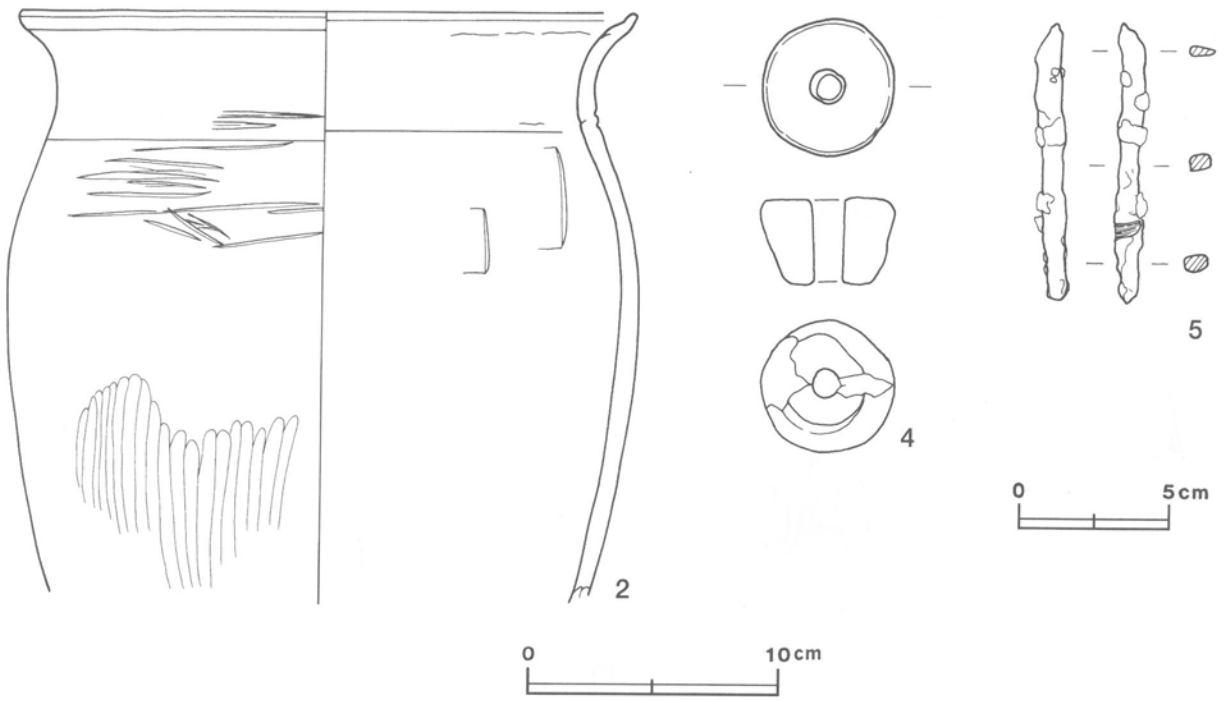
土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
6　にぶい褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，焼土大ブロック・炭化物微量

遺物　土師器片236点，土製品3点（紡錘車1・支脚片2），鉄器2点（鏃・鎌片）が出土している。第53図1の土師器坏は，竈東側の覆土下層から正位で出土している。第54図2の土師器甕は，北東部北壁際の覆土下層から出土した破片と，北東部の覆土下層からまとまって出土した破片が接合したものである。第53図3の土師器甕片は，北東部の床面から出土している。第54図4の紡錘車は，北西部の北壁際の覆土下層から出土している。5の鏃は，中央部の覆土下層から出土している。支脚片2点は，同一個体の小片である。鎌片は，南東部の覆土下層から出土しているが，極小片である。

所見　本跡の時期は，出土土器から7世紀前半と考えられる。



第53図　第981号住居跡出土遺物実測図（1）



第54図　第981号住居跡出土遺物実測図（2）

第981号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第53図 1	坏 土師器	A［12.8］ B（4.2）	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。，内面ヘラナデ後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 明赤褐色 普通	P41090 40% PL206
第54図 2	甕 土師器	A［24.6］ B（23.4）	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ,下半縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P41091 30% PL206 外面砥石転用痕
第53図 3	甕 土師器	A［24.6］ B（23.4）	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面上位ナデ，内面ヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。内面に輪積み痕を残す。	砂粒・雲母・長石・石英 浅黄橙色，普通	P41092 20% PL206

図版番号	器　種	計測値				特　徴	胎土・色調	備　考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第54図4	土製紡錘車	3.4	2.2	0.8	(23.7)	一部欠損。断面逆台形，上面・側面ナデ。	砂粒，暗褐色	DP41006　85%　PL219

図版番号	器　種	計測値							材質	特　徴	備　考
		全長(cm)	鏃身長(cm)	鏃身幅(cm)	箆被部長(cm)	箆被部幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第54図5	鏃	(7.4)	(2.8)	(0.7)	(3.0)	(0.5)	0.2	(3.0)	鉄	茎部一部欠損。	M41007　60% PL220

第983号住居跡（第55・56図）

位置　調査4区の西部，K9d3区。

規模と平面形　南西コーナー部は，調査区域外に位置するため確認されなかった。長軸5.34m，短軸4.76mの長方形である。

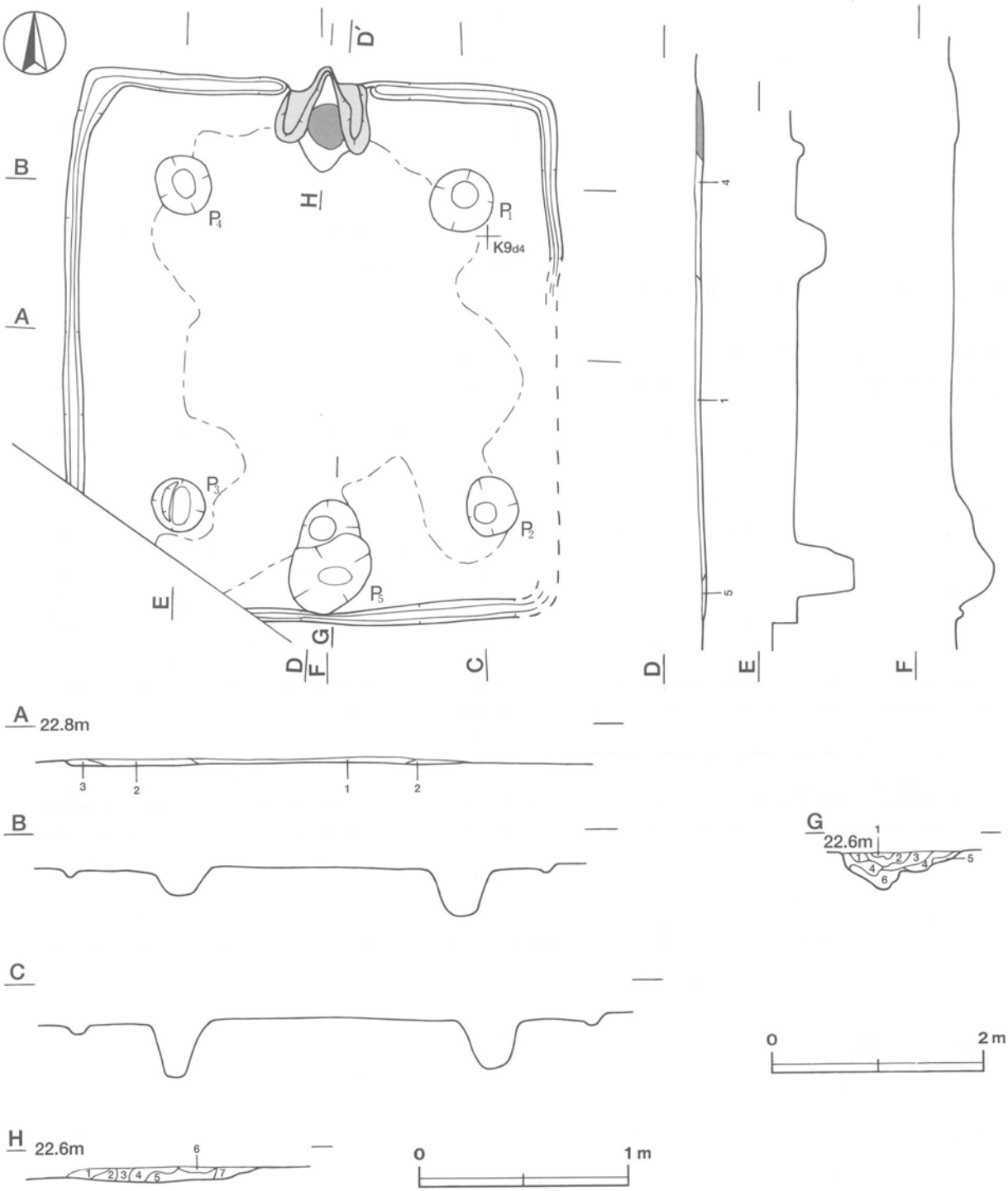
主軸方向　N－1°－E

壁　東壁の中央部から南東コーナー部までは耕作による撹乱のため，南西コーナー部は調査区域外に位置するため確認されなかった。確認された壁の高さは最大で12㎝で，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っている。上幅20～32㎝，下幅４～16㎝，深さ４～７㎝で，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ12㎝ほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで



第55図　第983号住居跡実測図

100cm，両袖部幅105cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第１～３層が崩落土層と考えられる。第５層は焼土粒子を多量に含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤灰色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　極暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
4　灰赤色　ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
5　暗赤褐色　ローム粒子多量，焼土小ブロック中量，砂粒微量
6　赤黒色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子少量，焼土小ブロック微量

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径50～60cmの円形で，深さ30～60cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は，長径110cm，短径75cmの南北に長い楕円形で，中に深さ20cmと39cmの小ピットを有している。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

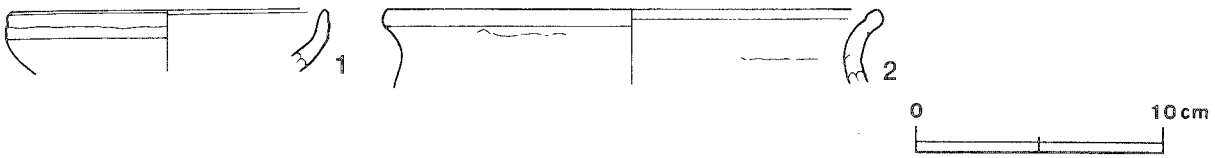
Ｐ５土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
3　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
5　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
6　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

覆土　５層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第４層は竈材が流れて堆積した層である。

土層解説
1　にぶい褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　灰褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子・粘土粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片71点，陶器片１点が出土している。第56図１の土師器坏片は南西部の覆土中から，２の土師器甕片は北東部の覆土中から出土している。陶器片は，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から７世紀代と考えられる。



第56図　第983号住居跡出土遺物実測図

第983号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第56図 1	坏 土師器	A［12.6］ B（2.4）	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は，ほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P41099 5％
2	甕 土師器	A［19.5］ B（3.0）	口縁部の破片。口縁部は外反する。口縁端部は，上方へわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P41100 5％

第984号住居跡（第57図）

位置　調査４区の西部，K9c6区。

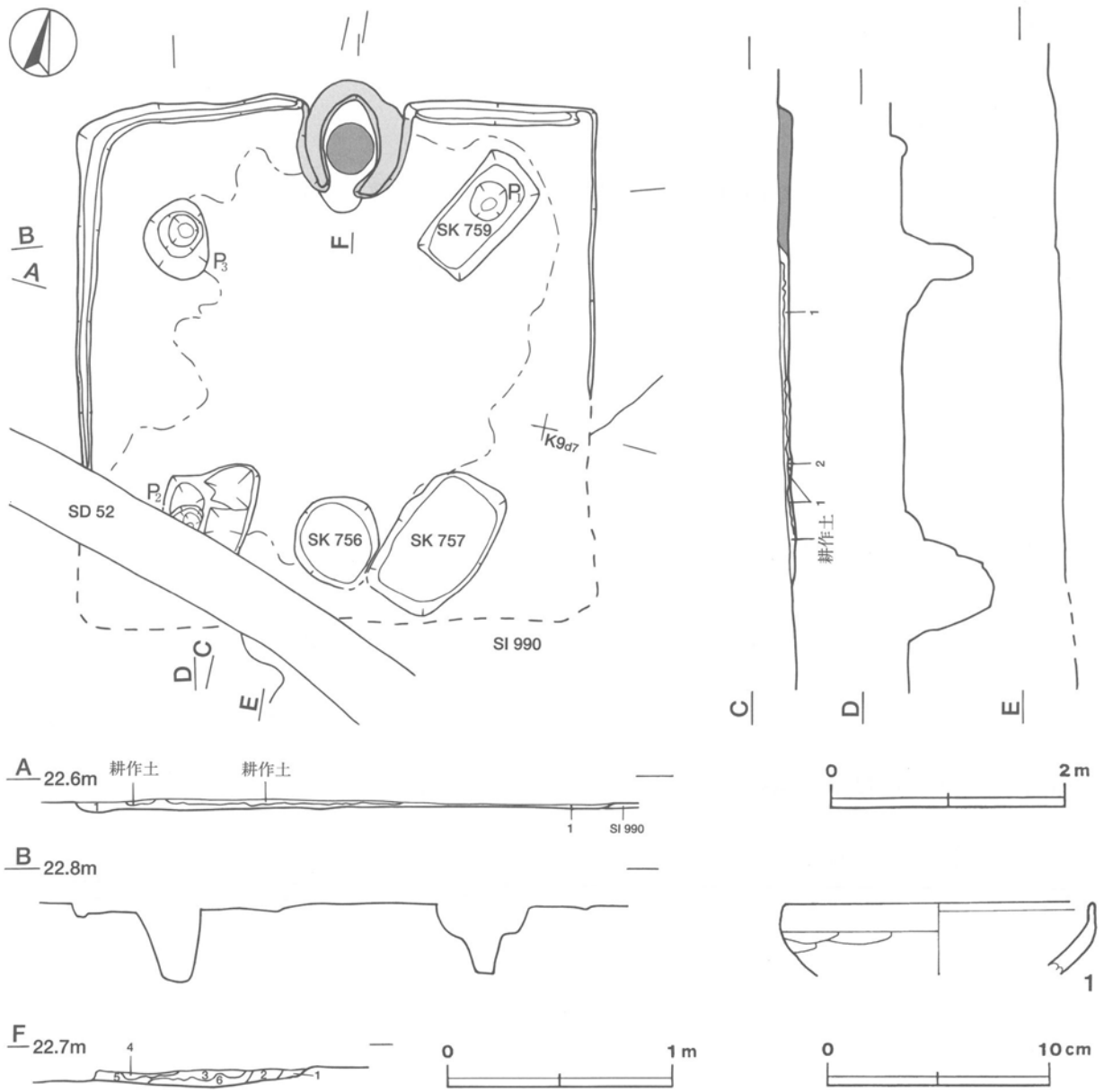
重複関係　本跡が第990号住居跡を掘り込み，南部を第756・757号土坑に，北東部を第759号土坑に，南西部を第52号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　南東部と南西部は耕作による撹乱を受け，規模が確定できない。床質とピットの位置から長軸4.75m，短軸4.55mの方形と推定される。

主軸方向　N－12°－W

壁　南東コーナー部から南西コーナー部にかけては，壁が確認されなかった。壁高は最大で14cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された北壁下と西壁下で検出された。上幅12～28cm，下幅４～10cm，深さ４～５cmで，断面形はU字形である。



第57図　第984号住居跡・出土遺物実測図

床　耕作によって撹乱を受けた部分を除いてほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ20cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで115cm，両袖部幅98cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第6層が焼土粒子を多量に含み，赤変硬化していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子・砂粒微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，砂粒微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック少量，砂粒微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
5　褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
6　赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子微量

ピット　3か所（P1～P3）。P1は第759号土坑に掘り込まれ，P2は撹乱によって上端の大きさが確定できない。北東・南西コーナーからやや中央寄りに位置するP1・P2は，中端径26～32cmのほぼ円形で，深さ63～70cmである。北西コーナーからやや中央寄りに位置するP3は，長径69cm，短径56cmの楕円形で，深さ64cmである。P1～P3は，規模と配置から主柱穴と考えられる。南東コーナーからやや中央寄りと南壁際の中央部は，第756・757号土坑によって掘り込まれているためピットは検出されなかった。

覆土　2層からなる。覆土が薄く，堆積状況は確認できなかった。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　褐色　ローム粒子中量

遺物　土師器片41点，須恵器片1点が，土製品1点（支脚片）出土している。第57図1の土師器坏片は，北西部の覆土中から出土している。須恵器片は撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から7世紀代と考えられる。

第984号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第57図 1	坏 土師器	A [13.7] B (3.1)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は，直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P41101 5% 内・外面剥離

第987号住居跡（第58～60図）

位置　調査4区の西部，J10h1区。

重複関係　北東コーナー部を第994号住居に，西部を第993号住居に，南東コーナー部を第998号住居に，南東部を第986・1005号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.20m，短軸6.10mの方形である。

主軸方向　N－25°－W

壁　確認された壁高は最大44cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁下を全周している。上幅14～24cm，下幅4～10cm，深さ5～10cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ50cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで160cm，両袖部幅115cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第1～8・13層が，崩落土層と考えられる。袖部の残存状況は比較的良好であり，第13～17層が袖部の土層であ

る。袖部は粘土の割合を多めにし，山砂とローム土を混ぜた土で構築されている。袖の部材には，焼土粒子・炭化粒子が比較的多く含まれており，部材の再利用の可能性も考えられる。第12層は焼土粒子を中量含み，赤変硬化していることから，火床部と考えられる。火床面は，床面から4㎝ほど皿状に掘りくぼめられている。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　灰褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
4　暗褐色　ローム粒子多量，粘土粒子中量，砂粒少量
5　灰褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，粘土粒子少量
6　極暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック中量，炭化粒子・砂粒少量
7　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・砂粒少量
9　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子少量
10　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
11　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量
12　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
13　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
14　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量
15　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
16　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量
17　灰褐色　粘土粒子多量，焼土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量

ピット　6か所（P1～P6）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P4は，径52～60㎝の円形で，深さ61～75㎝である。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5とP6は，南壁際の中央部にほぼ南北に並んで位置する。P5は長径61㎝，短径32㎝の楕円形で，深さ29㎝である。P6は長径160㎝，短径約65㎝の不定形で，中に径36㎝の円形で，深さ36㎝のピットを有している。P5・P6とも規模と位置から，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット6土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
2　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐色　ローム粒子多量
7　褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

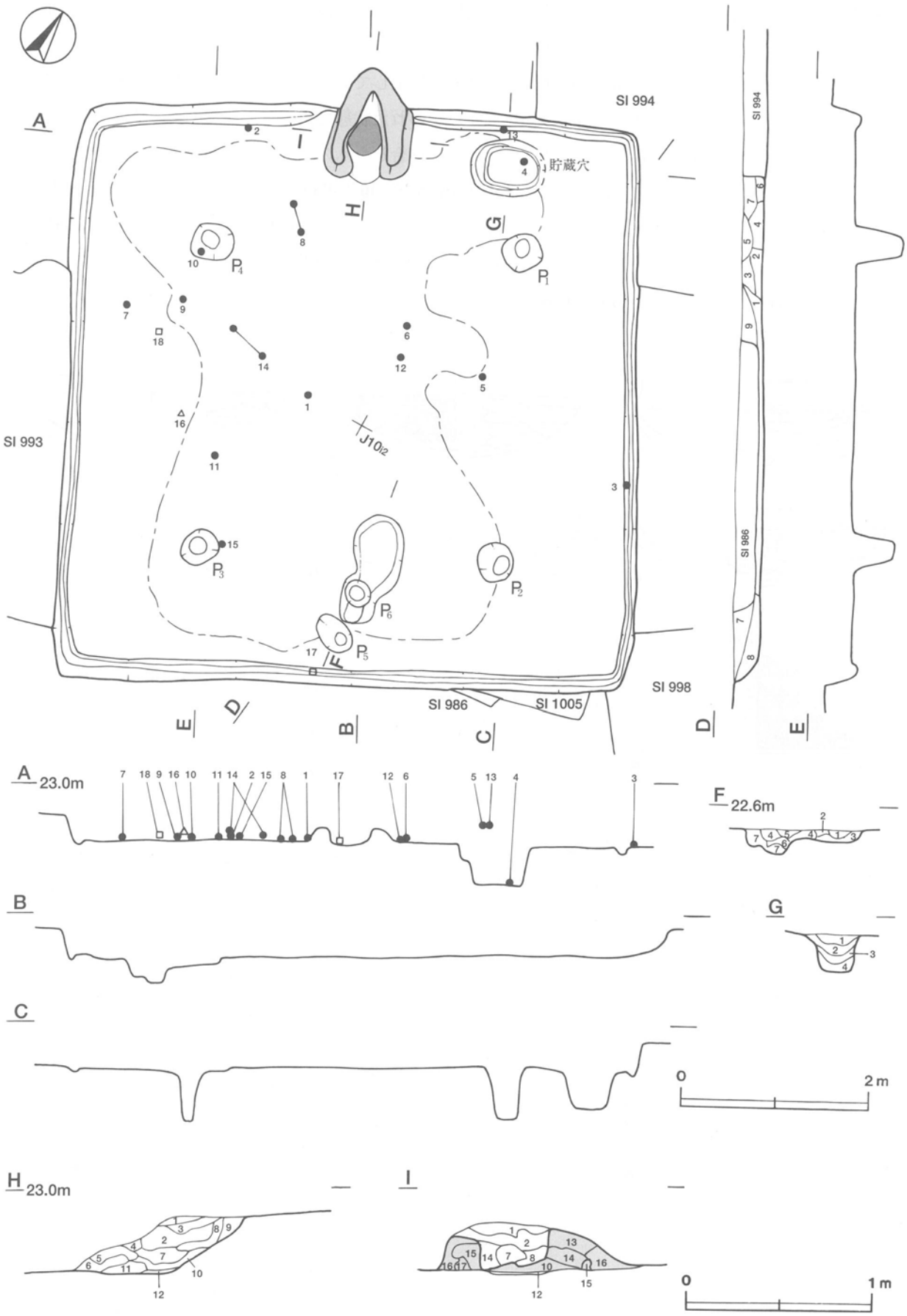
貯蔵穴　竈と北東コーナーの間の北壁際に設けられている。長径103㎝，短径84㎝の楕円形で，深さは53㎝である。断面形は，「∪」形である。

貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
3　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

覆土　9層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量
4　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
6　褐色　ローム粒子多量，粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8　褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
9　褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量

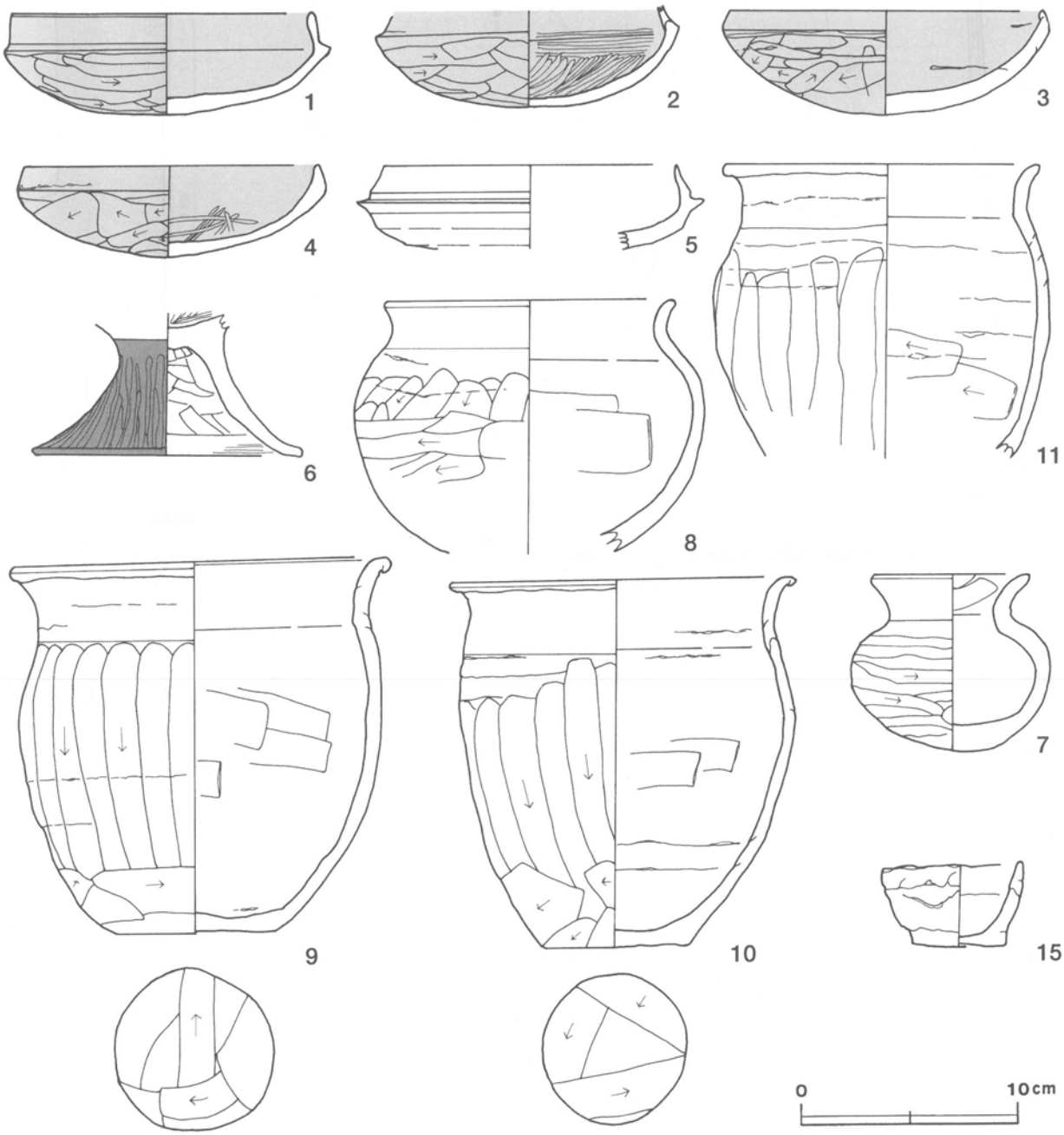
遺物　土師器片1020点，須恵器片2点，耳環1点，石器2点（砥石）が出土している。第59・60図1～4・6～15は，いずれも土師器である。1の坏は，中央部の床面から逆位で出土している。2の坏は，竈と北西コーナーの間の北壁際の覆土下層から正位で出土している。3の坏は，南東コーナー部寄りの東壁際の壁溝内から逆位で出土している。4の坏は，貯蔵穴の底面近くから正位で出土している。5の須恵器坏身は，中央部やや



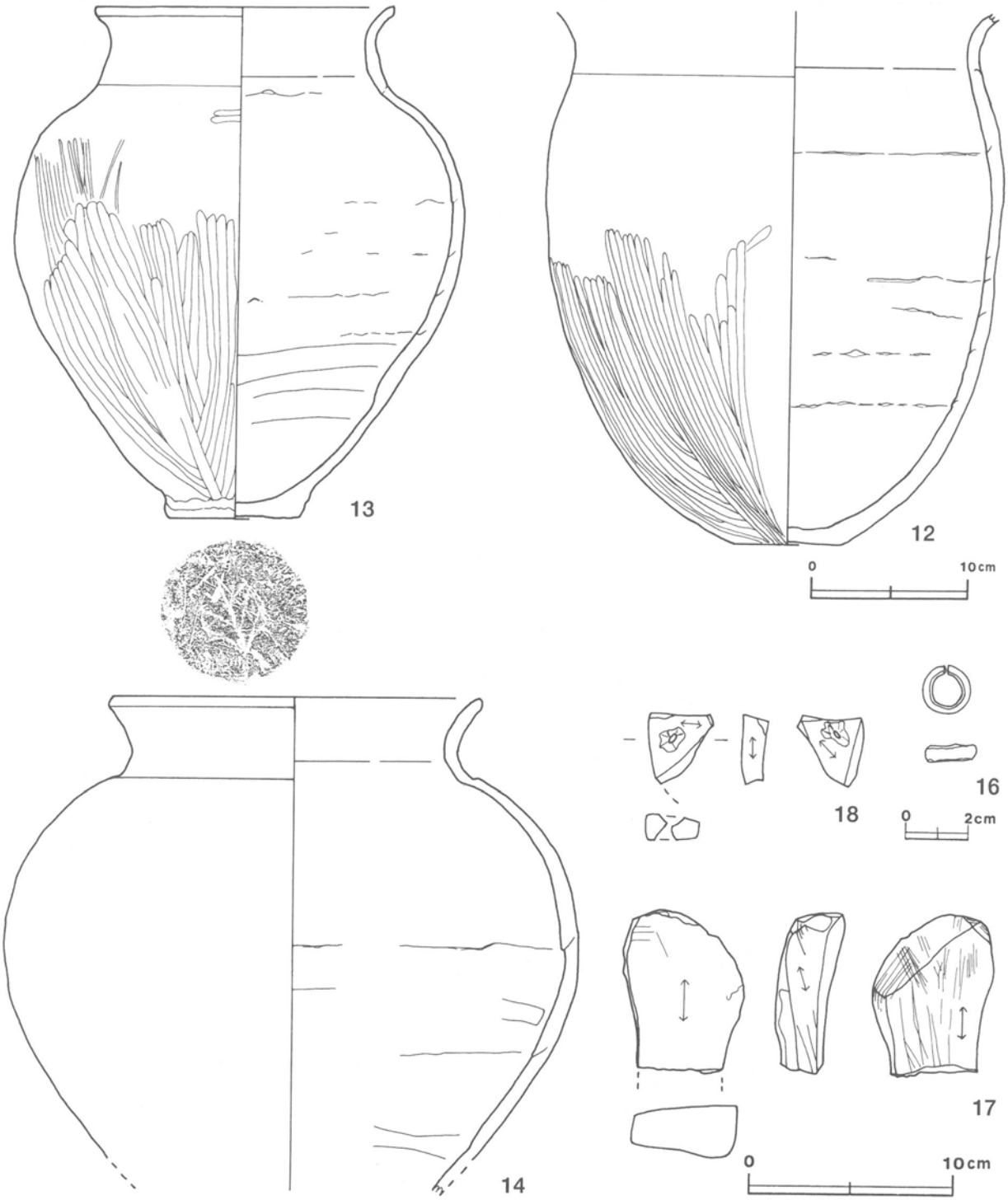
第58図　第987号住居跡実測図

東壁寄りの覆土中層から破片で出土している。6の高坏は，中央部の覆土下層から出土している。7の壺は，北西部やや西壁寄りの覆土下層から斜位で出土している。8の壺は，北西部やや竈寄りの覆土下層から出土している。9の甕は，北西部の中央部寄りの床面から逆位で出土している。10の甕は，北西部の床面から正位で出土している。11の甕は，中央部やや西寄りの床面からつぶれた状態で出土している。12の甕は，中央部の床面から出土した破片と北東部の覆土中から出土した破片が接合したものである。13の甕は，貯蔵穴と北壁の間の覆土中層から出土している。14の甕は，中央部やや西壁寄りの覆土下層から出土している。15の手捏土器は，南西部の覆土下層から正位で出土している。16の耳環は，西壁寄りの覆土中層から出土している。17の砥石は，南壁際の中央部の壁溝内から出土している。18の砥石は，中央部やや西壁寄りの覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から6世紀後半と考えられる。



第59図　第987号住居跡出土遺物実測図（1）



第60図　第987号住居跡出土遺物実測図（2）

第987号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第59図 1	坏 土師器	A 13.8 B 4.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ヘラ磨き。内面ヘラナデ後，横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	P41105 95% PL206
2	坏 土師器	B（4.6）	口縁部，体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，丁寧なヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・小礫・長石 黒色 普通	P41106 80% PL206

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第59図 3	坏 土師器	A 14.4 B 4.7	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 黒褐色 普通	P41107 50% PL206
4	坏 土師器	A 13.6 B 4.3	体部から口縁部かけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，ヘラ磨き。輪積み痕を残す。内・外面黒色処理。	砂粒・小礫 にぶい黄褐色 普通	P41108 60% PL206
5	坏身 須恵器	A [13.4] B (3.8)	体部から受け部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，受け部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石 灰色，良好 体部外面に自然釉	P41121 10%
6	高坏 土師器	B (6.5) D [12.6]	坏部底部から脚部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。	坏部内・外面・脚部外面縦位のヘラ磨き。脚部内面横位のヘラ削り。裾部内・外面横ナデ。外面赤彩。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P41109 20% PL206
7	壺 土師器	A 7.1 B 8.1	口縁部一部欠損。丸底。やや扁平な球形を呈する体部から，頸部は緩やかに屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ヘラ磨き。内面ナデ。底部外面不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P41110 95% PL206
8	壺 土師器	A [13.0] B (11.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面上位縦位のヘラ削り後，ヘラナデ。中位以下横位のヘラ削り後，ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P41111 20% PL206
9	甕 土師器	A 17.1 B 17.1 C 7.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部はやや扁平な倒卵形を呈し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上縦位のヘラ削り，下位横位のヘラ削り。内面ヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。底部は不定方向のヘラ削り。	砂粒・小礫・長石 にぶい黄橙色 普通	P41112 70% PL207
10	甕 土師器	A 15.4 B 17.0 C 6.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部縦位のヘラ削り，下位横位のヘラ削り。内面ヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。底部は不定方向のヘラ削り。	砂粒・小礫・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P41113 70% PL206
11	甕 土師器	A [14.3] B (15.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は倒卵形を呈し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部縦位のヘラ削り，下位横位のヘラ削り。内面ヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	P41114 40% PL206
第60図 12	甕 土師器	B (33.9) C 6.8	体部一部・口縁部欠損。平底。体部は倒卵形を呈し，頸部は外反する。	頸部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，下半縦位のヘラ磨き。内面横位のヘラナデ後，ナデ。内面に輪積み痕。	砂粒・小礫・雲母・長石 浅黄橙色 普通	P41116 60% PL207
13	甕 土師器	A [18.8] B 32.2 C 8.5	底部から口縁部にかけての破片。底部はわずかに突出する平底。体部は倒卵形を呈し，口縁部は外反する。口縁端部は上方へわずかにつまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ，下半縦位と斜位のヘラ磨き。内面横位のヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。底部木葉痕有り。	砂粒・小礫・雲母・長石・石英 浅黄橙色 普通	P41117 30%
14	甕 土師器	A [23.2] B (31.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は扁平な倒卵形を呈し，体部と頸部の境に緩い稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面横位のヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。	砂粒・小礫・雲母・長石・石英 浅黄橙色 普通	P41118 30% PL207 外面剥離
第59図 15	手捏土器 土師器	A 6.3 B 4.0 C 4.3	完形。底部はわずかに突出する平底。体部から外傾して立ち上がり，口縁部に至る。外面凸凹。	口縁部，体部内・外面輪積み痕を残す指ナデ。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P41120 100% PL206

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第60図16	耳環	1.5～1.6	0.5	1.2	3.3	金銅	一部鍍金が遺存	M41008 98% PL221

図版番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第60図17	砥石	(7.8)	5.9	3.2	(144.9)	凝灰岩	中央部で割れた一部カ。砥面4面	Q41009 40% PL222
18	砥石	(2.3)	(2.1)	0.8	(3.9)	粘板岩	携帯用砥面の破片。破片の中央部に円孔	Q41010 20% PL222

第990号住居跡（第61・62図）

位置　調査４区の西部，K9d7区。

重複関係　西部を第984号住居・第757号土坑に，南西部を第52・55号溝に，中央部を第56号溝に掘り込まれている。

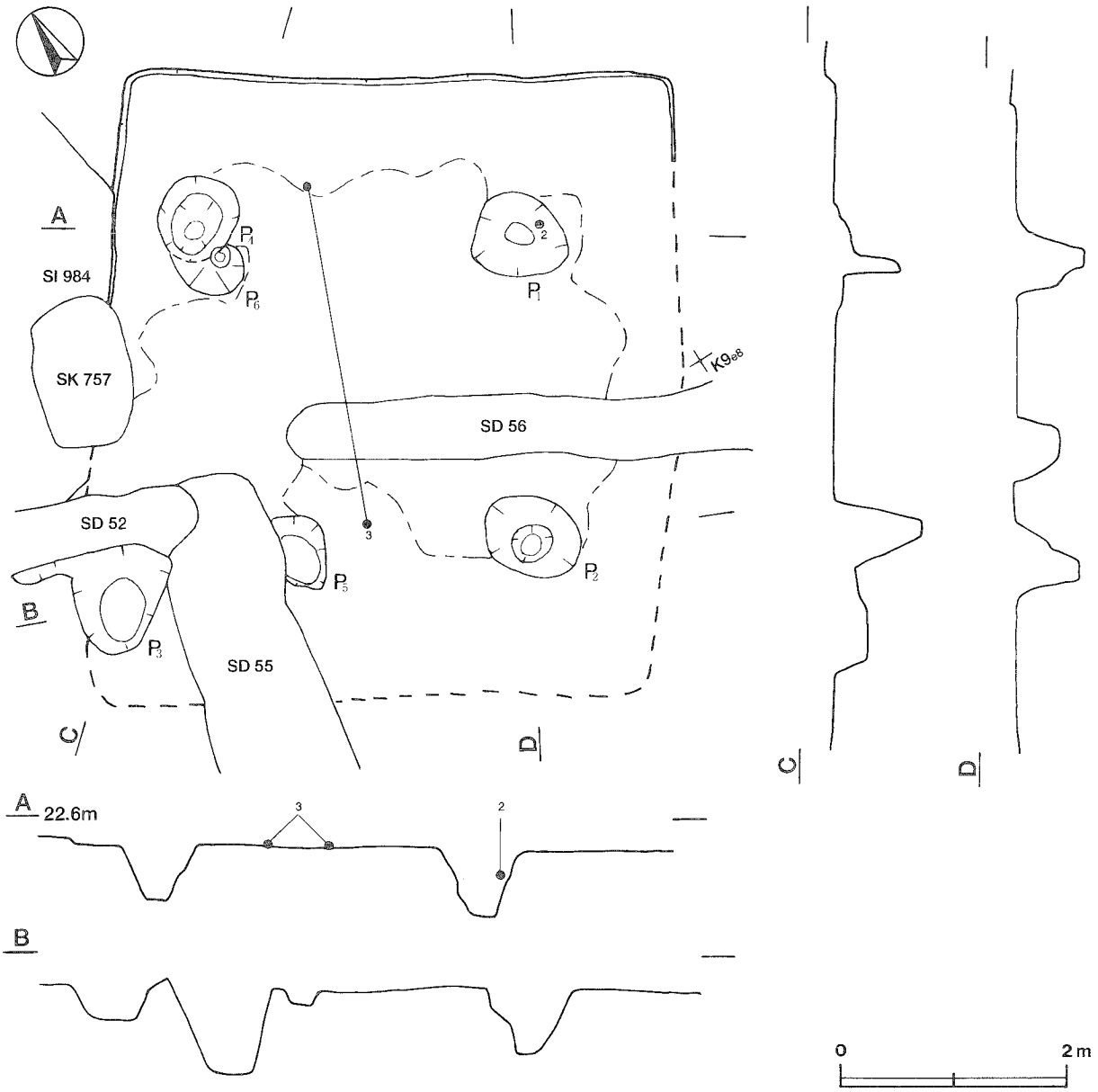
規模と平面形　南半分が耕作による撹乱を受け，正確な規模の推定は難しいが，ピットの配列と床質から，規模を推定した。長軸5.50m，短軸4.90mの長方形と推定される。

主軸方向　遺存する北東壁と北西壁からN－50°－Wと推定される。

壁　東コーナー部から北コーナー部までの壁が確認された。壁高は最大で８cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径70～80cmのほぼ円形で，深さ33～58cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ６はＰ４の南側で検出された。径54cmの

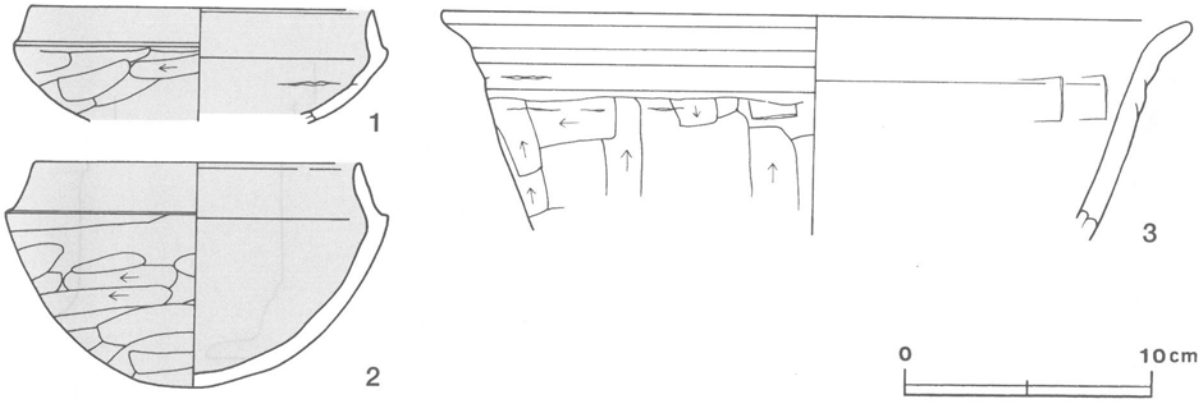


第61図　第990号住居跡実測図

ほぼ円形で，深さ60cmである。Ｐ６をＰ４が掘り込んでいるので，柱の立て替えの可能性が強いと考えられる。Ｐ２とＰ３の間に位置するＰ５は，下端径18cm，深さ14cmで，位置的に補助柱穴と推定される。Ｐ３とＰ５は第55号溝に掘り込まれて，上端の形が不定形となっている。

遺物　土師器片85点，須恵器片２点，不明鉄製品１点が出土している。第62図１の土師器坏は，覆土中から破片で出土している。２の土師器椀は，Ｐ１の覆土中層から逆位で出土した底部破片と覆土中から出土した破片が接合したものである。３の甑は，北部と南部の床面から出土した破片が接合したものである。須恵器片・鉄製品はともに極小片である。

所見　耕作による撹乱のため，覆土が薄く堆積状況は確認できなかった。また，第984号住居，第757号土坑，第52・55号溝に掘り込まれているため，竈は検出することができなかった。本跡の時期は，出土土器と重複関係から６世紀後半と考えられる。



第62図　第990号住居跡出土遺物実測図

第990号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 1	坏 土師器	A［13.6］ B（4.4）	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英 黄橙色 普通	P41127 10% PL207
2	椀 土師器	A［13.0］ B　8.8	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P41128 30% PL207
3	甑 土師器	A［29.6］ B（8.7）	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位と縦位のヘラ削り後，ナデ。内面横位のヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。	砂粒・小礫・長石 灰黄褐色 普通	P41129 10% PL207

第991号住居跡（第63・64図）

位置　調査４区の西部，J9g0区。

重複関係　北西部を第1017号住居・第35Ａ号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.86m，短軸5.84mの方形である。

主軸方向　N－20°－W

壁　第35Ａ号溝に掘り込まれた部分を除き，確認された。確認された壁の高さは32～38cmで，外傾して立ち上

がる。

壁溝　南西コーナー部と竈西側の一部を除き，確認された壁の下を巡っている。上幅17～30cm，下幅５～11cm，深さ６～８cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。出入り口施設に伴うと考えられるＰ５の北側は，特に踏み固められ，馬蹄形の高まりがみられる。

竈　北壁の中央部を壁外へ26cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで102cm，両袖部幅95cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第２～５・13・17層が，崩落土層と考えられる。第８層は焼土粒子を多量に含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　にぶい褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
4　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
6　極暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量
8　極暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック少量
9　極暗赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
10　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，砂粒少量
11　にぶい赤褐色　ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
12　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，焼土中ブロック・砂粒少量
13　暗赤褐色　砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
14　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
15　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子・砂粒中量
16　極暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
17　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
18　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
19　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
20　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　７か所（Ｐ１～Ｐ７）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径18～21cmの円形で，深さ46～60cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は径44cmの円形で，深さ63cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ３と南壁のほぼ中間に位置するＰ６は，径26cmの円形で，深さ25cmである。Ｐ３とＰ４のほぼ中間の西壁寄りに位置するＰ７は，径26cmのほぼ円形で，深さ27cmである。Ｐ６・Ｐ７とも，位置的にＰ３・Ｐ４の補助柱穴と考えられる。

貯蔵穴　北東コーナー部で検出されている。長径90cm，短径74cmの楕円形で，深さ52cmである。

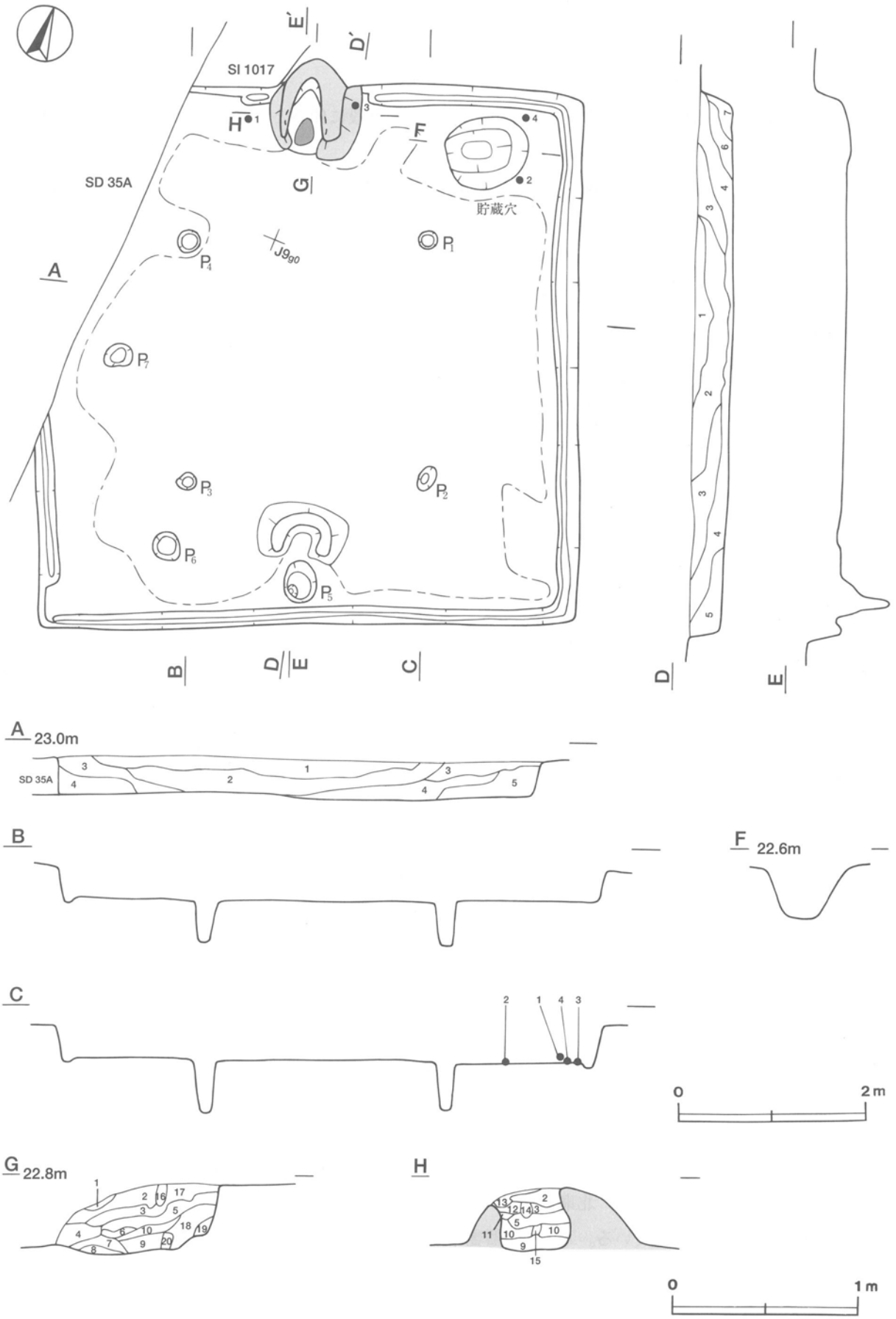
覆土　７層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

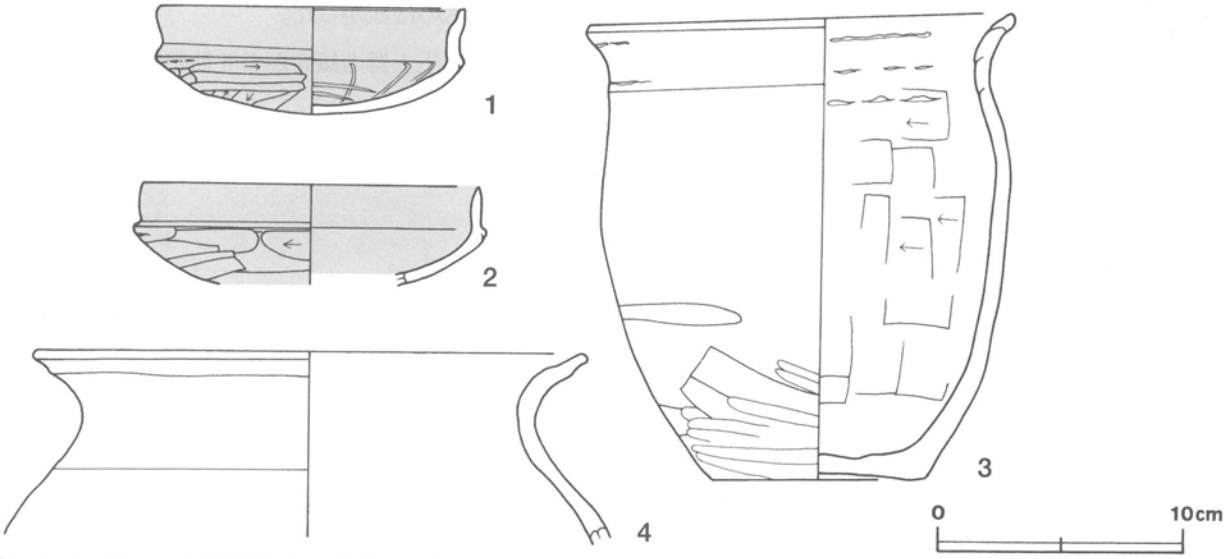
1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
7　褐色　ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片516点，須恵器片２点が出土している。第64図１の土師器坏は，竈西側の覆土下層から正位で出土している。２の土師器坏片は，北東コーナー寄りの床面から出土している。３の土師器甕は，竈東袖の北壁際の床面から横位で出土している。４の土師器甕片は，北東コーナー部の壁際の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から７世紀前半と考えられる。



第63図　第991号住居跡実測図



第64図　第991号住居跡出土遺物実測図

第991号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第64図 1	坏 土師器	A 12.0 B 4.9	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P41130 90% PL207
2	坏 土師器	A [13.4] B (3.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	P41131 20% PL207
3	甕 土師器	A 16.8 B 18.6 C 8.5	口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は上方へわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ヘラナデ後，ナデ。下位斜位のヘラ削り後，横位のヘラ磨き。内面横位のヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。底部ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄褐色 普通	P41132 90% PL207
4	甕 土師器	A [21.8] B (7.6)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色，普通	P41133 5% PL207

第992号住居跡（第28図）

位置　調査4区の西部，J8j0区。

重複関係　本跡が第54号掘立柱建物跡のＰ８・Ｐ９を掘り込み，第959・960・965号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　全体的に第959号住居に掘り込まれているため，全容は不明である。確認された規模は，南北3.30m，東西0.62mである。残存する北東コーナー部と東壁から，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－12°－Wと推定される。

壁　確認された壁の高さは最大16cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

覆土　3層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗赤色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物　土師器片16点が出土している。いずれも細片で，図示できるものはなかった。

所見　時期を確定できるような土器は出土していない。重複関係と出土土器の傾向から6世紀後半以前と考えられる。

第994号住居跡（第65・66図）

位置　調査4区の西部，J10g2区。

重複関係　第987号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.85m，短軸3.65mの方形である。

主軸方向　N－23°－W

壁　壁高は20～38cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅15～25cm，下幅4～8cm，深さ5～9cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ25cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで110cm，両袖部幅119cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第3～5・8・9層が焼土・粘土粒子・砂粒を比較的多く含んでいることから，崩落土層と考えられる。特に，第3～5・9層は火熱を受け赤変し，焼土ブロックでゴツゴツしている。袖部は比較的良好に遺存しており，両袖端部で袖の補強材と考えられる土師器甕の破片が検出されている。竈の構築を土層断面図からみると，ハードロームの地山をわずかにくぼむ程度に掘り下げ，中央部を火床部として作り，両脇に粘土と山砂，ローム土を混ぜた土（第18～22層）で袖部を構築したと考えられる。中でも第20・21層が袖部の中心の部分で，粘土と砂粒を多量に混ぜた部材である。灰を多量に含む第6層とその下層である第17層の境界が，火床面と考えられる。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	粘土粒子・白色砂粒中量，ローム粒子微量
2	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子微量
3	暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム中ブロック少量
4	にぶい褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック少量
5	暗褐色	焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，ローム粒子・炭化物・粘土粒子少量
6	灰褐色	灰多量，ローム粒子・焼土粒子少量
7	暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
8	にぶい黄褐色	砂粒中量，焼土粒子・粘土粒子少量
9	赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子多量
10	褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
11	褐色	ローム粒子多量，炭化粒子微量
12	灰褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
13	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック中量，炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
14	黒褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・粘土小ブロック微量
15	灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
16	にぶい赤褐色	ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
17	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
18	暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
19	暗赤褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
20	にぶい褐色	粘土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
21	灰褐色	粘土粒子多量，ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子微量
22	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子多量・砂粒少量，炭化粒子微量
23	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量

ピット　6か所（P1～P6）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P4は，径12～21cmのほぼ円形で，深さは17～24cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP5は，径20cmのほぼ円形で，深さは37cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。竈と北東コーナー部の間に検出されたP6は，径38cmで深さ66cmである。位置的に貯蔵穴の可能性を考えて調査したが，形状から

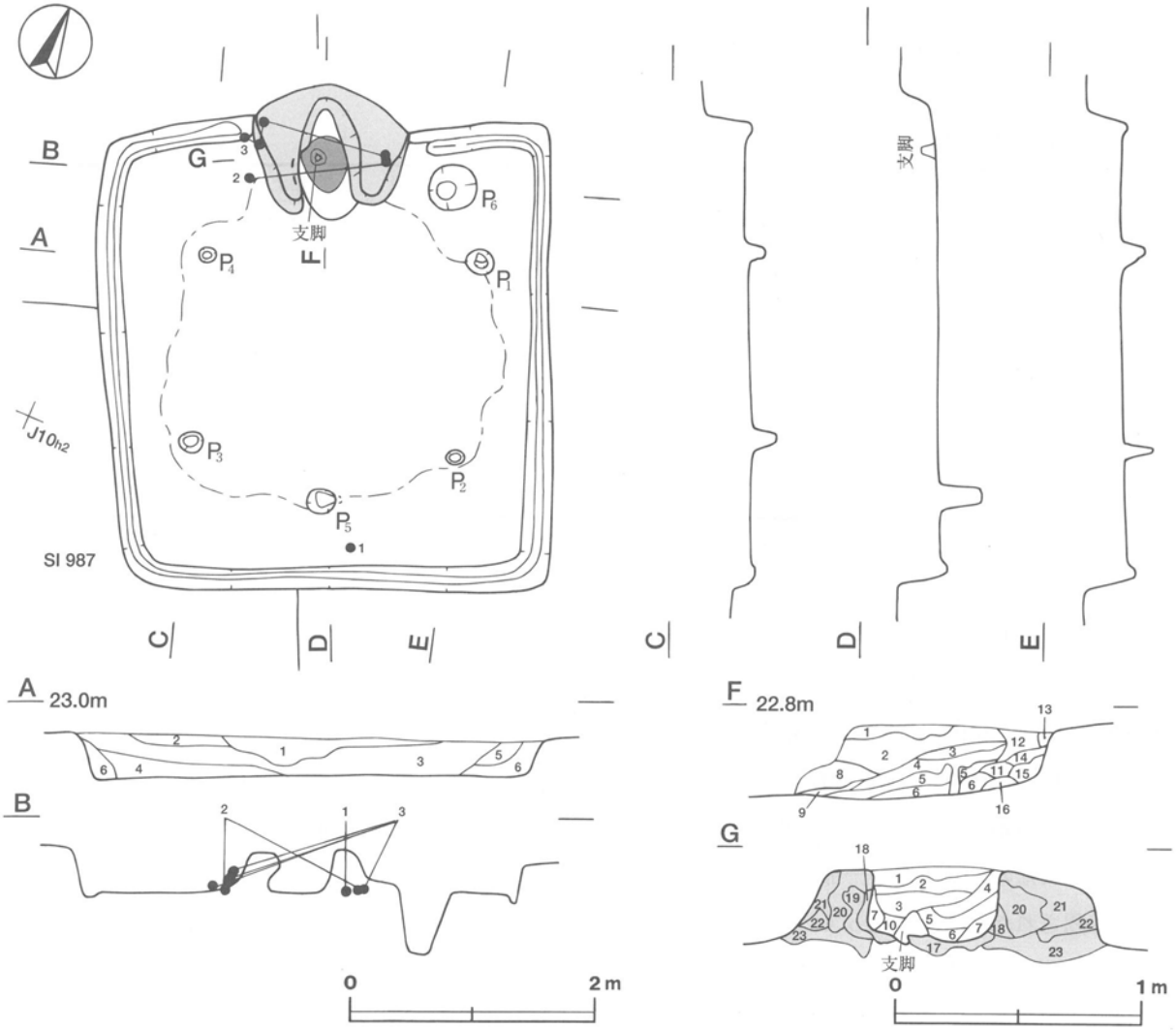
貯蔵穴とは考えられない。性格は不明である。

覆土　6層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

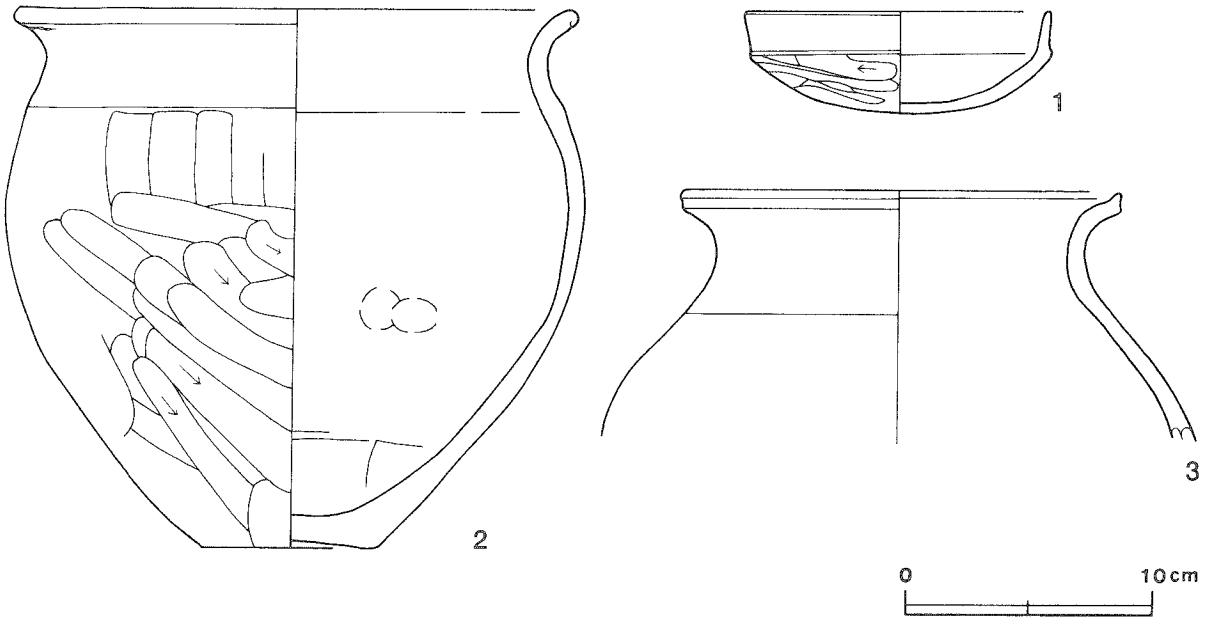
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
2　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
5　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

遺物　土師器片125点，須恵器片2点，土製品1点（支脚片），陶器片1点が出土している。第66図1の土師器坏は，南壁際の中央部の覆土下層から斜位で出土している。2と3の土師器甕は，竈の東西袖端部から，まとまって出土した破片が接合したもので，袖の補強材として使用されていたものと考えられる。支脚片は，小片である。陶器片は，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から7世紀前半と考えられる。



第65図　第994号住居跡実測図



第66図　第994号住居跡出土遺物実測図

第994号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第66図 1	坏 土師器	A 12.1 B 4.2	体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P41136 75% PL207
2	甕 土師器	A [21.8] B 21.4 C 7.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は倒卵形を呈し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位縦位のヘラ削り後，ヘラナデ。中位以下斜位のヘラ削り後,ヘラナデ。内面ヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P41137 30% PL207
3	甕 土師器	A [17.6] B (9.9)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は上方へわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P41138 20% PL207

第995号住居跡（第177図）

位置　調査4区の西部，J9f5区。

重複関係　南部を第956号住居に，東壁際の床面を残し全体的に第977号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　全体的に第977号住居に掘り込まれているため，全容は不明である。確認された規模は南北軸が2.10m，東西軸が0.34mである。残存する壁と床面から方形または長方形と推定される。

壁　確認されたのは，東壁の一部だけである。壁高は最大4cmで，わずかに外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っている。上幅9～12cm，下幅3～4cm，深さ3～6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。床面を精査したが，硬化面とピットは検出されなかった。

所見　本跡は，床面がほとんど露出した状態で検出され，遺物も出土していない。時期は，重複関係から6世紀後半以前と考えられる。

第998号住居跡（第67図）

位置　調査４区の西部，J10i3区。

重複関係　北コーナー部を第997号住居に，東コーナー部を第999号住居に，西コーナー部を第987号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　南コーナー部は，未調査区域に位置するため調査されなかった。長軸4.40m，短軸4.20mの方形である。

主軸方向　N－34°－W

壁　確認された壁高は24～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っている。全周していたものと推定される。上幅12～20cm，下幅５～８cm，深さ４～６cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北西壁の中央部を壁外へ35cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで135cm，両袖部幅152cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第１～４・７・８層が崩落土層と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており，第11～17・19・20層が袖部の土層である。袖部の構築を土層断面図からみると，一部掘り残したハードロームを基礎にし，山砂と粘土，ローム土を混ぜた部材で構築している。東袖の中心部から円筒形土器が検出されている。第９層が焼土粒子を多めに含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　灰　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3　暗　赤　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子少量，砂粒微量
4　暗　赤　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
5　赤　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子少量
6　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
7　暗　赤　褐　色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
8　極暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
9　暗　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
10　暗　赤　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
11　褐　色　ローム粒子多量，砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
12　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
13　暗　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
14　灰　褐　色　粘土小ブロック・粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
15　灰　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
16　灰　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
17　にぶい褐色　ローム粒子中量，粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
18　褐　色　ローム（地山）
19　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
20　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径20～24cmの円形で，深さ41～60cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南東壁際の中央部に位置するＰ５は，径24cmのほぼ円形で，深さ38cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

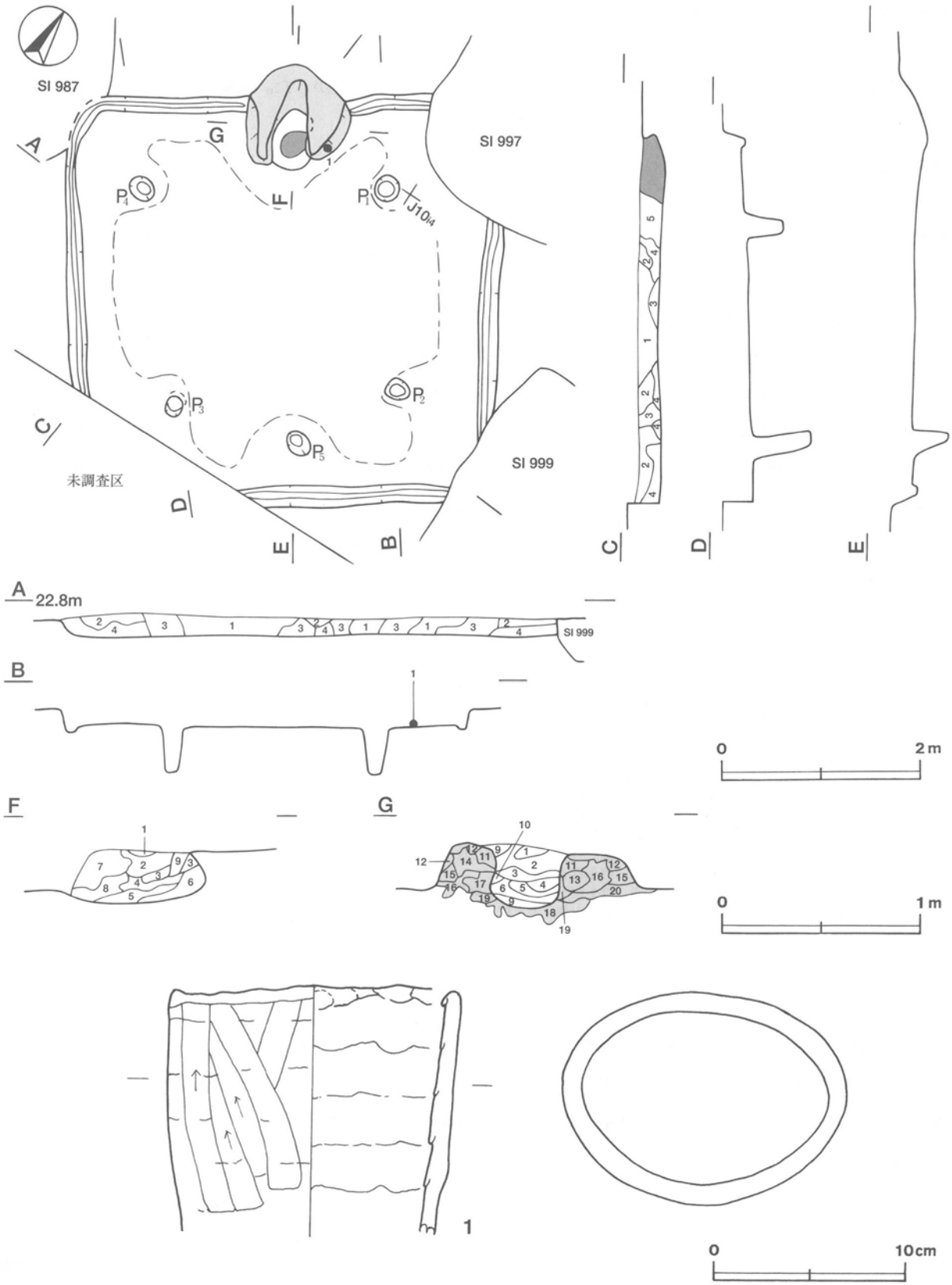
覆土　５層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

遺物　土師器片133点が出土している。第67図１の土師器の円筒形土器は，竈の東袖部の補強材として利用されていたものである。出土した土器片の多くは，土師器甕の体部の細片である。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から6世紀後半と考えられる。



第67図　第998号住居跡・出土遺物実測図

第998号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第67図 1	円筒土器 土師器	A 14.7 B (12.7)	無底。体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がる。口縁部は内側に折り返すように丸く収めている。	口縁部・体部外面縦位のヘラ削り。内面に輪積み痕。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P41150 20% PL207 内・外面煤付着

第1001号住居跡（第68図）

位置　調査4区の南部，K10g4区。検出されたのは住居跡の南西部であり，大部分が未調査区域に位置する。

規模と平面形　大部分が未調査区域に位置するため，全容は不明である。確認された規模は検出された南東壁と南西壁から，南西軸が1.30m，南東軸が2.10mである。方形または長方形と推定される。

主軸方向　検出された南東壁と南西壁から，N－32°－Wと推定される。

壁　確認された壁高は最大27cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っている。上幅16～22cm，下幅4～7cm，深さ5cmで，断面形はU字形である。

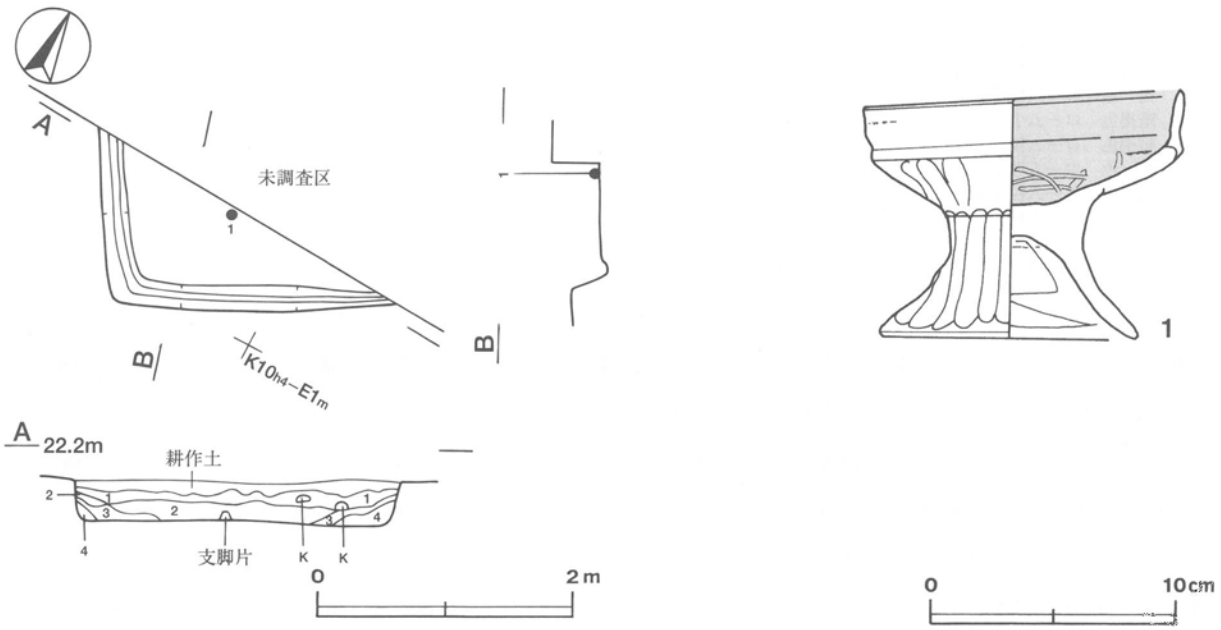
床　ほぼ平坦である。

覆土　4層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子中量

遺物　土師器高坏1点，土製品1点（支脚片）が出土している。第68図1の土師器高坏は，南東壁際の床面から斜位で出土している。支脚片は破損した小片である。

所見　本跡の時期は，出土土器と住居跡の主軸方向から6世紀後半と考えられる。



第68図　第1001号住居跡・出土遺物実測図

第1001号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図	高坏	A 12.6 B 9.9	口縁部・裾部一部欠損。脚部はハの字状に開く。坏部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部から脚部外面縦位のヘラ削り後，ヘラナデ。坏部内面不定方向ヘラ磨き。脚部内面横位のヘラ削り。裾部内・外面横ナデ。坏部内面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P41163 80% PL208 外面剥離
1	土師器	D 10.1				

第1002号住居跡（第69～71図）

位置　調査4区の西部，K9b0区。

重複関係　第1004号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　東コーナー部が未調査区域に位置する。長軸が9.00m，短軸が8.80mの方形である。

主軸方向　N－26°－W

壁　壁高は42～64cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っており，全周していると考えられる。上幅26～40cm，下幅13～19cm，深さ6～14cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。床面からは，東壁下からP1に延びる溝aとP9に延びる溝b，同じく東壁下からP2に延びる溝c，西壁下からP3に延びる溝dとP10に延びる溝e，同じく西壁下からP4に延びる溝fの6条が検出されている。溝a～溝fの幅は27～53cm，深さは16～21cmで，断面形はU字形または「∪」形である。性格は不明である。

溝e土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子多量
4　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
8　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
9　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
10　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
12　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
13　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
14　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

竈　北西壁の中央部で2か所（竈1・竈2）確認されている。竈1が北西壁中央に位置し，竈2はその東側に隣接している。こうした位置関係や遺存状況，袖の再利用の状況などから，竈1が住居構築時の竈で，それを廃棄してつくりかえたのが竈2であると考えられる。竈1は竈2の北西袖部を調査したところ，北西袖部側の北西壁に検出された。焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒等を含む壁材で固めてあり，壁外に81cmほどの掘り方が確認された。竈2の土層断面図中第40層の下層の床面上に，第1竈の火床面と考えられる赤変硬化した面が検出されている。竈2は北西壁の中央部からやや北コーナー寄りを壁外へ55cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで176cm，両袖幅160cmである。天井部は崩落しており，第7～14・18・20層が崩落した天井部の土層と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており，第28～34・36層が袖部の土層である。火床部の両脇に粘土・砂・ローム土を混ぜ合わせた部材を使い，東北・北西の袖がほぼ均等になるように部材を重ねて構築している。北西袖の外側には第1竈の火床面と袖部の赤変部が残り，北西袖の中心部は，竈1の東袖部を利用している。第19・37層が焼土小ブロック・焼土粒子を多量に含み，赤変硬化し

ていることから，火床部と考えられる。火床部下の掘り方を土層断面図からみると，ハードロームの地山を掘り下げ，ロームに焼土粒子と炭化粒子を含む土を埋土としている。第38～40層が該当する。第19層直下の第37層は，火床部を意識して人為的に固められている。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

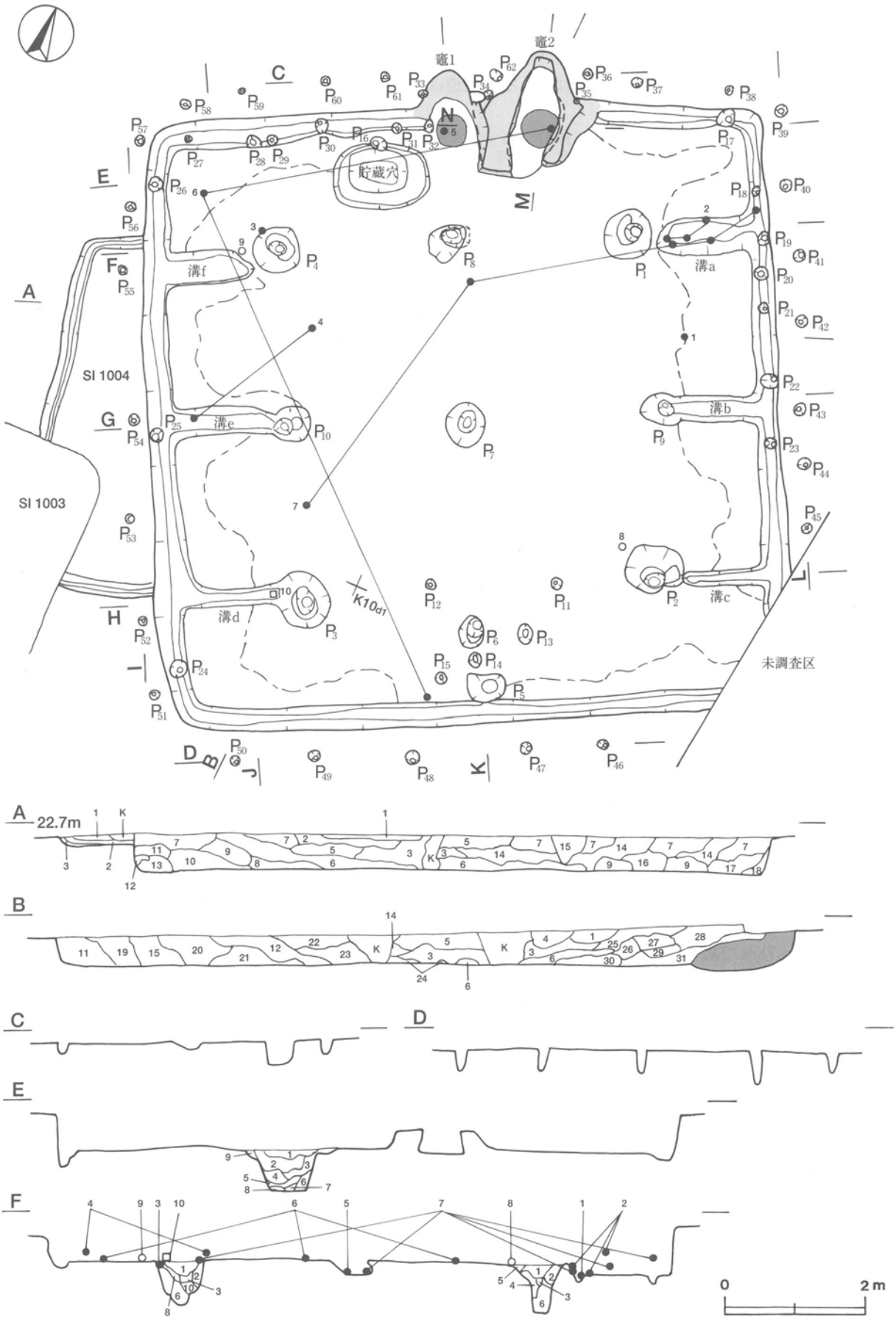
竈１土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒微量
2　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子・粘土粒子微量
3　褐　　色　粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子・粘土粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

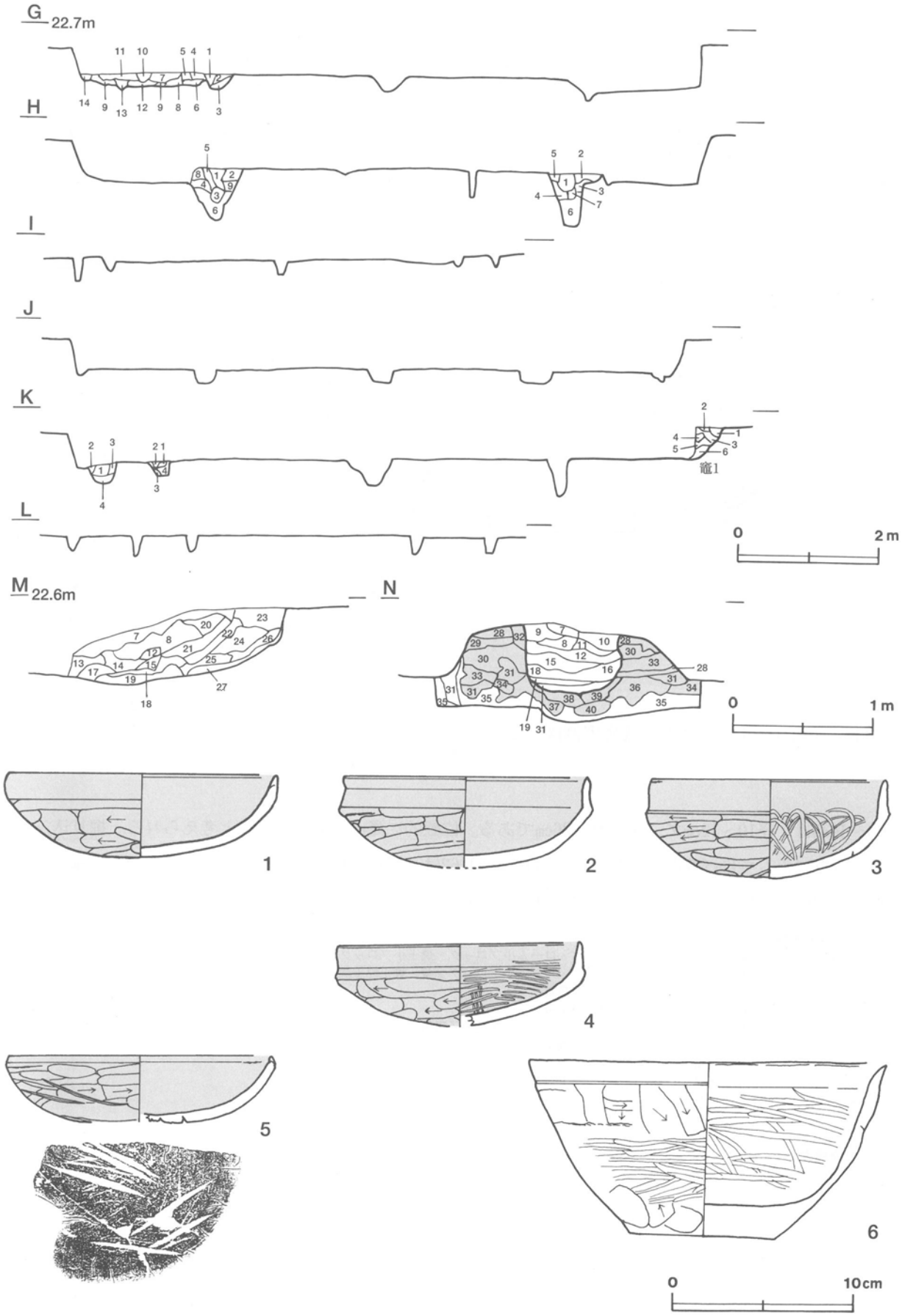
竈２土層解説

7　灰　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
8　褐　　色　砂粒中量，粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　灰　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
10　黒　褐　色　砂粒多量，ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　砂粒多量，粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　暗赤褐色　焼土小ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
13　暗赤褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
14　暗赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子・砂粒・炭化粒子少量
15　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
16　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子中量，砂粒・炭化粒子少量，焼土粒子微量
17　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
18　黒　褐　色　炭化粒子多量，焼土粒子少量，砂粒微量
19　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子少量，砂粒微量
20　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，粘土粒子少量，ローム粒子微量
21　灰　褐　色　砂粒中量，焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
22　暗赤褐色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量
23　にぶい赤褐色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
24　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量
25　黒　褐　色　砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
26　極暗赤褐色　炭化粒子多量，砂粒中量，焼土粒子少量，粘土粒子微量
27　灰　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
28　灰　褐　色　砂粒多量，粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
29　極暗褐色　砂粒中量，焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
30　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化物微量
31　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・粘土粒子微量
32　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量，粘土粒子少量
33　灰　褐　色　砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量，焼土小ブロック微量
34　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒・粘土粒子少量，炭化粒子微量
35　褐　　色　ローム（地山）
36　暗　褐　色　砂粒多量，焼土粒子・粘土粒子中量，粘土小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
37　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
38　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，粘土小ブロック微量
39　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
40　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量

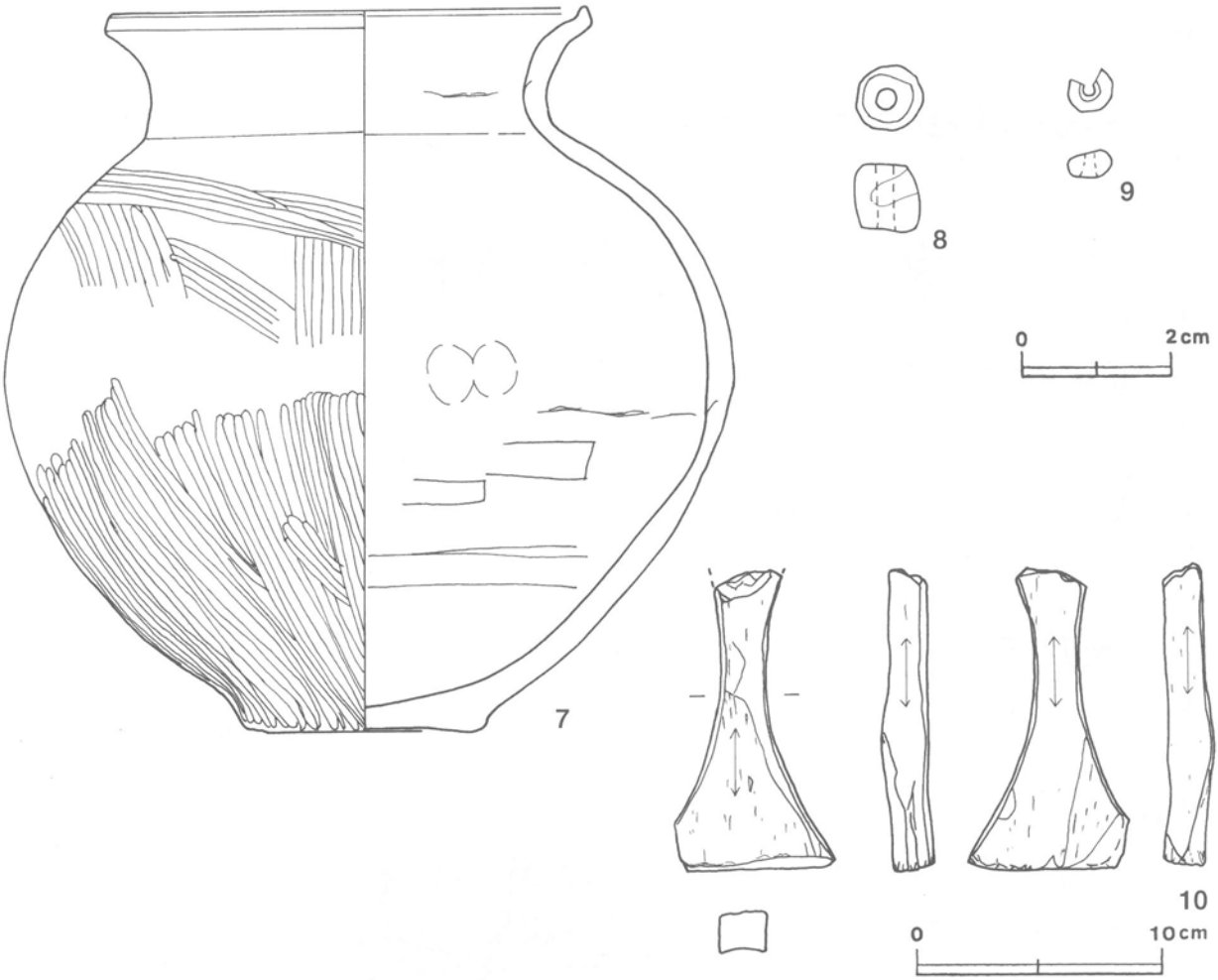
ピット　62か所（Ｐ１～Ｐ62）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径72～83cmのほぼ円形で，深さ63～78cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は長径52cm，短径44cmの楕円形で，深さ34cmである。Ｐ５の北側に位置するＰ６は，長径51cm，短径46cmの楕円形で，深さ36cmである。Ｐ５・Ｐ６とも，規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ９とＰ10の間に位置するＰ７は，径63cmの円形で，深さ39cmである。Ｐ３とＰ４の中間に位置するＰ８は，長径63cm，短径40cmの楕円形で，深さ53cmである。Ｐ１とＰ２の中間に位置するＰ９は，径46cmの円形で，深さ16cmである。Ｐ３とＰ４の中間に位置するＰ10は，径50cmの円形で，深さ41cmである。Ｐ２とＰ３の間に位置するＰ11・Ｐ12は，径15cm・14cmのほぼ円形で，深さは42cm・12cmである。規模と配置から主柱穴の補助柱穴と考えられる。Ｐ５とＰ６の付近に位置するＰ13は，長径30cm，短径17cmの楕円形で，深さ19cmである。同じくＰ５とＰ６の付近に位置するＰ14・Ｐ15は，径20cm・18cmのほぼ円形で，深さ17cm・16cmである。Ｐ13～15は，位置的に出入り口施設に伴うピットの補助柱穴と考えられる。貯蔵穴に連続するＰ16は，長径26cm，短径19cmの楕円形で，深さ62cmである。貯蔵穴に付随する可能性が考えられるが，詳細は不明である。壁溝中に位置するＰ17～Ｐ32は，径９～21cmのほぼ円形で，深さ10～32cmである。規模と配置から壁柱穴と考えられる。竈袖の壁際に位置する



第69図　第1002・1004号住居跡実測図（1）



第70図　第1002・1004号住居跡実測図（2），第1002号住居跡出土遺物実測図（1）



第71図　第1002号住居跡出土遺物実測図（2）

P33～P35は，径10～12cmで，深さ21～26cmである。位置的に竈に付随する柱穴と考えられる。掘り込みの外側にあり壁に沿ってほぼ等間隔に並んでいるP36～P62は，径12～19cmのほぼ円形で，深さ13～47cmである。規模と配置的に屋根材を支える柱の柱穴の可能性が考えられるが，詳細は不明である。

P1～P4土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
5　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
7　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
8　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
9　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
10　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量

P5土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

P6土層解説
1　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量

貯蔵穴　竈１の西側，北壁際に検出された。長軸135cm，短軸95cmの隅丸長方形で，深さ62cmである。底面は平坦で，断面形は「∪」状である。

貯蔵穴土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・砂粒微量
3　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・砂粒微量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
6　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
8　暗 褐 色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，炭化材微量

覆土　31層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム小ブロック多量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量
3　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム大ブロック・ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
6　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
7　黒 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
9　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
10　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
11　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　褐　　色　ローム大ブロック・ローム粒子多量
13　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　黒 褐 色　ローム小ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
15　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・焼土粒子少量
16　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
17　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量，炭化材微量
18　極暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
19　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
20　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック少量
21　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量，焼土粒子微量
22　褐　　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
23　極暗褐色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム小ブロック中量
24　黒 褐 色　ローム粒子多量，ローム大ブロック中量，焼土粒子少量
25　黒 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
26　灰 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・砂粒中量，焼土粒子少量，ローム大ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
27　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量
28　灰 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土中ブロック微量
29　黒 褐 色　ローム大ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
30　黒 褐 色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量
31　灰黄褐色　砂粒多量，ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，焼土中ブロック微量。しまりが強く硬質。

遺物　土師器片2269点，土製品４点（土玉２・支脚片２），石器２点（砥石），須恵器片22点，鉄滓６点，陶器片３点，炭化種子１点が出土している。第70・71図１～７はすべて土師器である。１の坏は，北部の北東壁寄りの床面から正位で出土している。２の坏は，北コーナー部の溝ａから破片で出土している。３の坏は，西部の南西壁寄りの覆土下層から破片で出土している。４の坏は，南西壁際の中央部の覆土下層からで出土した破片と西部の溝ｅから出土した破片と南部の覆土中から出土した破片が接合したものである。５の坏は，竈２の北西側の床面から破片で出土している。６の鉢は，南東壁際の中央部の覆土下層からで出土した破片と西コーナーの床面から出土した破片と竈の覆土中から出土した破片が接合したものである。７の甕は，南部の覆土下層からで出土した破片と中央部の覆土下層から出土した破片と北コーナーから北東壁際の覆土下層にかけて散乱して出土した破片が接合したものである。８と９の土玉は，それぞれ東部の床面と西部の床面から出土している。10の砥石は，南部の床面から出土している。支脚片と砥石の１点は，共に破損した小片である。須恵器片・陶器片・小片の鉄滓は，撹乱により混入したものと考えられる。土師器片の多くは，坏・甕のつぶれた細片であり，接合できるものは少ない。これらは，本跡廃絶後投棄されたものと推測される。

所見　本跡の時期は，出土土器から6世紀後半と考えられる。

第1002号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第70図 1	坏 土師器	A 14.5 B 4.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ヘラ磨き。内面ヘラナデ後，横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P41164 100% PL207
2	坏 土師器	A 13.1 B 5.2	底部・口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，横位のナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P41165 90% PL207
3	坏 土師器	A 12.6 B 5.4	底部・体部・口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，不定方向のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 褐色 普通	P41166 60%
4	坏 土師器	A 13.0 B (4.4)	底部・体部・口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，横位のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	P41167 50% PL208
5	坏 土師器	A [14.2] B 3.6	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P41168 30% PL208 砥石転用痕
6	鉢 土師器	A 19.3 B 9.7 C 7.8	体部・口縁部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。内面ヘラナデ後，ヘラ磨き。底部外面不定方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P41169 90%
第71図 7	甕 土師器	A 19.2 B 29.1 C 9.5	体部・口縁部の一部欠損。底部はわずかに突出する平底。体部はやや扁平な倒卵形を呈し，頸部は外反する。口縁端部は上方へわずかにつまみあげられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ後，斜位のヘラ磨き。下半縦位のヘラ磨き。内面横位のヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。内面に輪積み痕。	砂粒・小礫・雲母・長石・石英 橙色 普通	P41170 70% PL208

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第71図8	土玉	0.9	0.9	0.3	0.7	円筒形，磨き。	細砂粒，にぶい褐色	DP41008　100%　PL219
9	土玉	0.6	0.4	0.1	0.10	扁平な球体，磨き。	細砂粒，黒褐色	DP41009　60%

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第71図10	砥石	(12.0)	5.9	2.1	(132.5)	凝灰岩	砥面4面。中央部が薄くなっている。	Q41016　60%　PL222

第1004号住居跡（第69・70図）

位置　調査4区の西部，K9c9区。

重複関係　全体的に第1002号住居に，南西コーナー部を第1003号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　確認された規模は，南北軸が5.20mで，東西軸は1.60mだけが遺存する西壁と床面から確認された。平面形は方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－11°－W

壁　確認された壁高は6～10cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っており，全周していたと推定される。上幅16～20cm，下幅５～６cm，深さ５～９cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

炉・竈　全体的に第1002号住居に掘り込まれているために，炉の痕跡も竈の痕跡も確認することはできなかった。

覆土　３層からなる。覆土が薄く断定することが難しいが，壁際の三角堆積から，自然堆積と推定される。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

遺物　土師器片８点が出土している。すべて甕の体部細片である。

所見　本跡の時期は，重複関係から６世紀後半以前と考えられる。

第1006号住居跡（第72図）

位置　調査４区の西部，J10e1区。検出されたのは北西部だけであり，大部分が調査区域外に位置する。

重複関係　西コーナー部から南西壁にかけて，第1000号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　大部分が調査区域外に位置するため，全容は不明である。確認された規模は検出された北西・南西壁から，南西軸が3.10m，北西軸が3.30mである。方形または長方形と推定される。

主軸方向　検出された北西・南西壁から，N－31°－Wと推定される。

壁　確認された壁高は45～52cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っている。上幅18～23cm，下幅５～９cm，深さ５～12cmで，断面形はU字形である。

床　確認された床面はほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。南西壁下からＰ１の北部に延びる溝ａが検出された。規模は幅14～29cm，深さ14cmで，断面形は「∪」形である。性格は不明である。

溝ａ土層解説
1　にぶい暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物微量
5　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

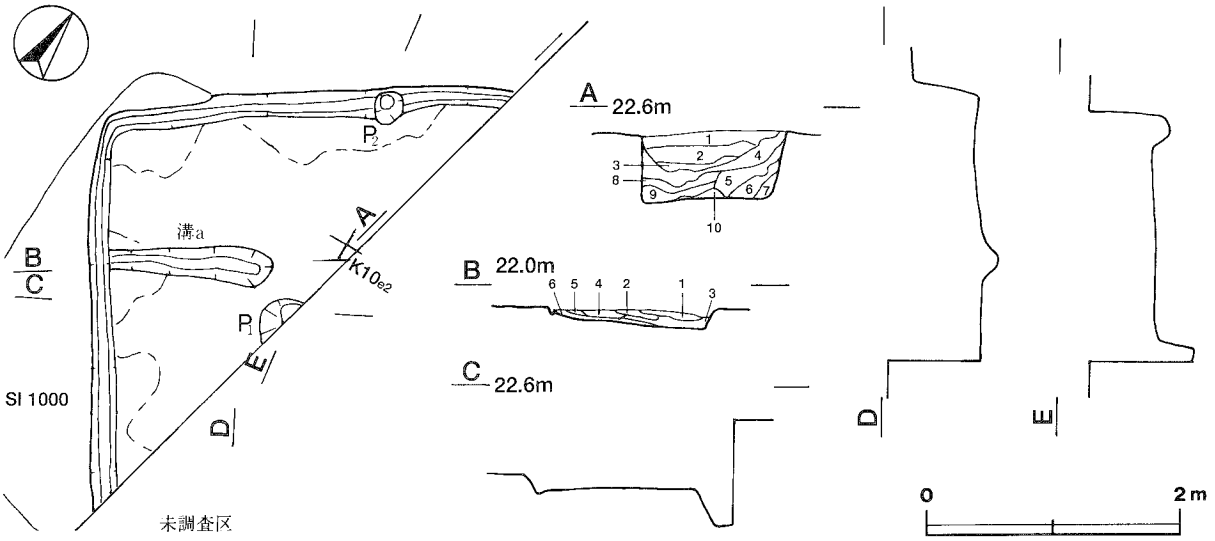
ピット　２か所（Ｐ１・Ｐ２）。北西コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１は，径45cmの円形で，深さ32cmである。規模と配置から主柱穴の一つと考えられる。北壁際の壁溝内に位置するＰ２は，径26cmのほぼ円形で，深さ15cmである。規模と位置から，壁溝に伴うものと推定される。

覆土　全体的に第1000号住居に掘り込まれているため，わずかな土層断面しか確認できなかった。10層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
6　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
7　灰褐色　粘土粒子・砂粒・炭化粒子少量，焼土粒子微量
8　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
9　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
10　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片31点が出土している。ほとんどが，甕の体部細片である。

所見　時期を確定できるような遺物が出土していないものの，重複関係と形状から，古墳時代後期と考えられる。



第72図　第1006号住居跡実測図

第1007号住居跡（第73・74図）

位置　調査４区の南部，K10j2区。北部から南部にかけて調査区域外に位置するため，検出されたのは全体の２分の１ほどである。

重複関係　竈の北西袖から北西壁の中央部まで，第57号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　確認された規模は，検出された西コーナー部から南西軸が4.20m，北西軸が2.80mである。長方形と推定される。

主軸方向　N－23°－W

壁　壁高は14～18cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西コーナー部を除き，確認された壁の下を巡っている。上幅10～12cm，下幅３～４cm，深さ４cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北西壁の中央部を壁外へ25cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで98cm，両袖部幅110cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第１～４・７層が崩落土層と考えられる。第８層が焼土粒子を多量に含み，赤変硬化していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　明　褐　色　砂粒多量，粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，粘土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量

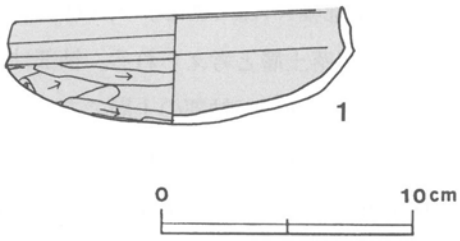
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，砂粒少量，炭化粒子微量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック少量，砂粒微量

覆土　5層からなる。壁際の三角堆積と含有物の特徴から自然堆積と考えられる。

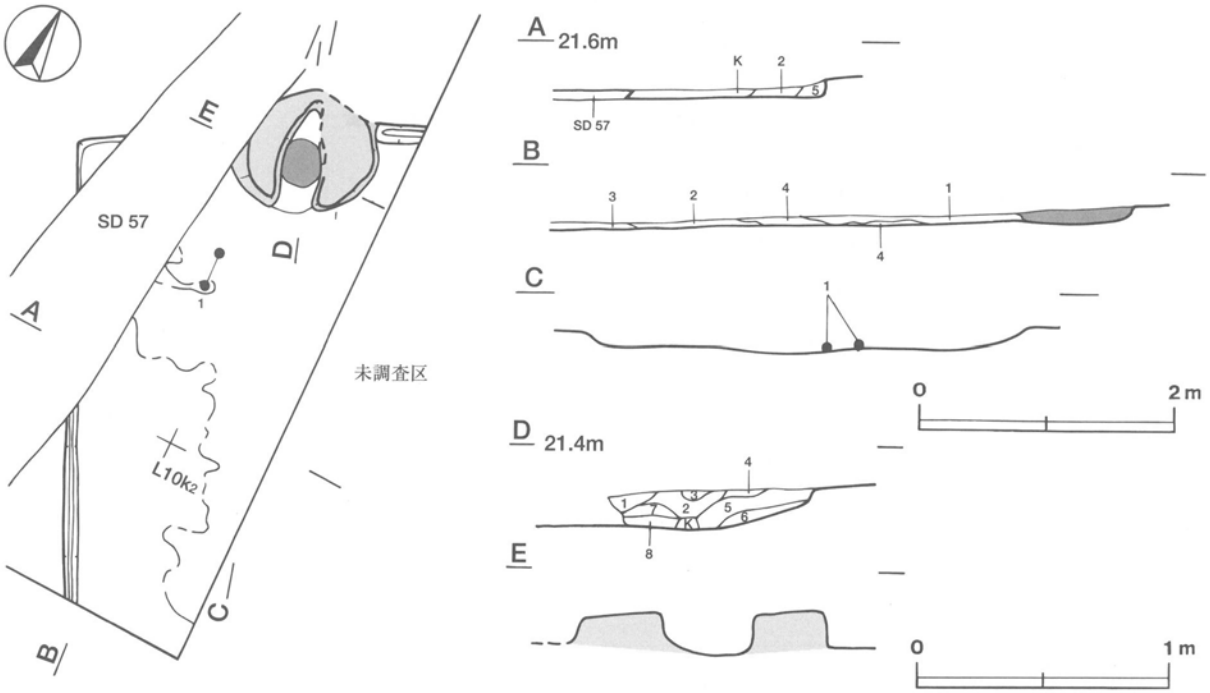
土層解説
1　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
3　極暗褐色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片32点が出土している。第73図1の土師器坏は，北西部の床面から出土した破片が接合したものである。

所見　本跡の時期は，出土土器と隣接する古墳時代後期の住居跡と主軸方向が一致することから7世紀前葉と考えられる。



第73図　第1007号住居跡出土遺物実測図



第74図　第1007号住居跡実測図

第1007号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第73図 1	坏 土師器	A 13.2 B 4.8	体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 灰赤褐色 普通	P41177 90% PL208

第1008号住居跡（第75・76図）

位置　調査4区の西部，J10f4区。

重複関係　第1010号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　一辺4.90mの方形である。

主軸方向　N－3°－W

壁　壁高は最大45cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅12～24cm，下幅5～6cm，深さ5～8cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで107cm，両袖部幅107cmである。天井部は崩落しており，竈上層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第1～6層が崩落土層と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており，ローム粒子・粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第8～16層が袖部の土層である。竈の構築を土層断面図からみると，火床部は中央部を掘りくぼめた後に埋め戻して作り，袖部は地山を袖の基礎として台状に残し，その上に粘土と山砂，ローム土を混ぜ合わせた部材を重ねるようにして構築している。第7・17層が焼土粒子を比較的に多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
2	暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3	暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
4	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
5	暗褐色	粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒褐色	炭化粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
7	極暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
8	にぶい褐色	ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
9	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，砂粒少量
10	にぶい黄褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，粘土粒子微量
11	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
12	暗赤褐色	焼土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子微量
13	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
14	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
15	灰褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子少量
16	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
17	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
18	褐色	ローム（地山）

ピット　6か所（P1～P6）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P4は，径64～82cmのほぼ円形で，深さ72～75cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP5は，長径103cm，短径64cmの楕円形で，深さ34cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2とP5の間に位置するP6は，長径63cm，短径51cmの楕円形で，深さ43cmである。規模と位置からP2の補助柱穴と考えられる。

P1～P6土層解説

1	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子多量
4	暗褐色	ローム粒子中量
5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

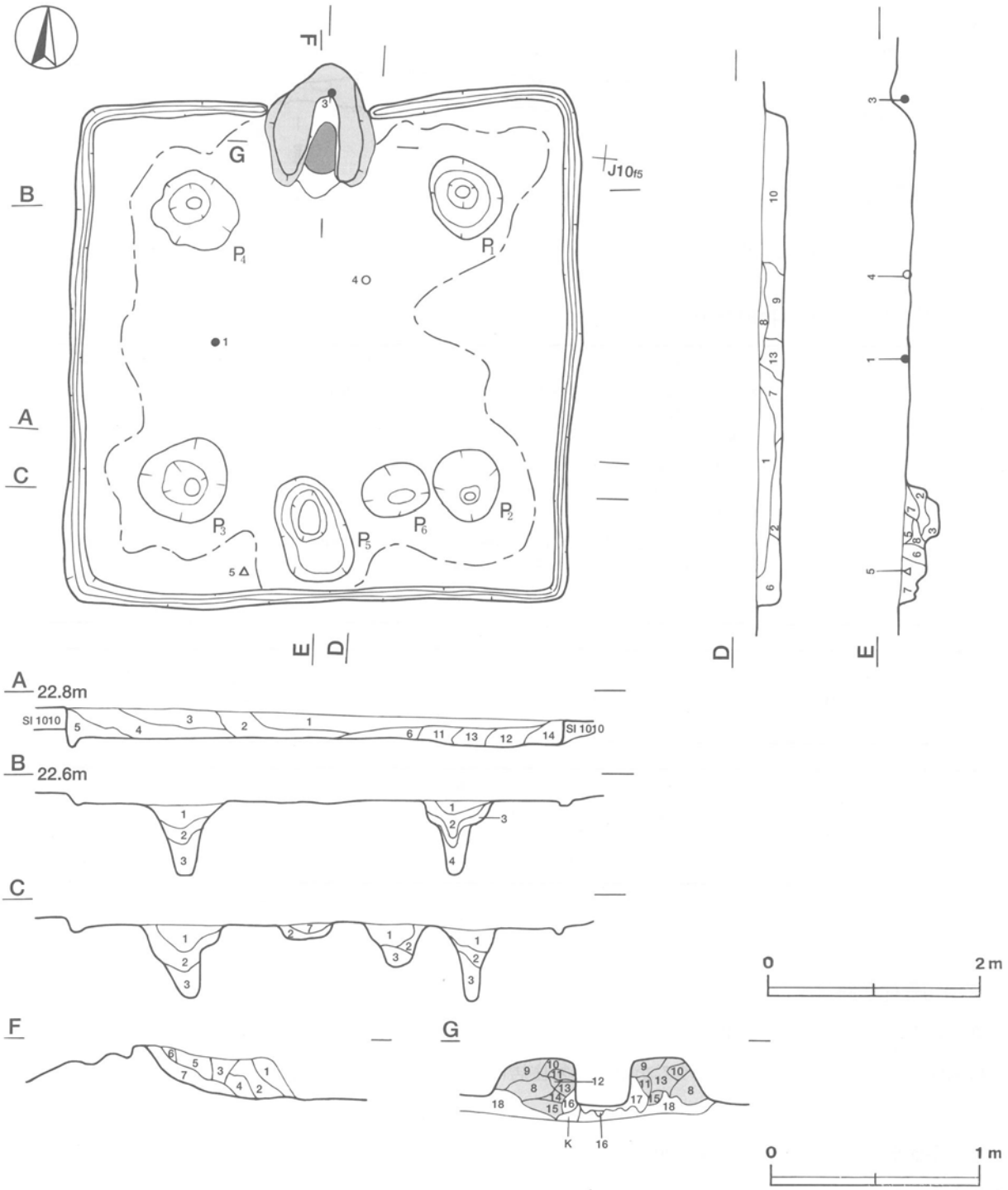
覆土　14層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

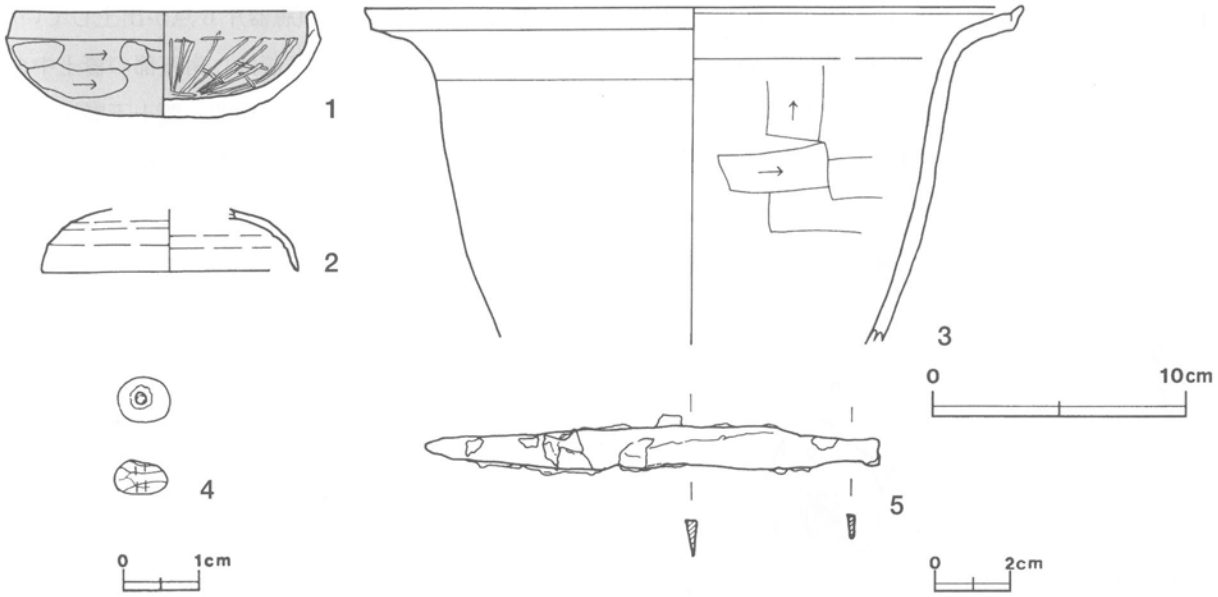
1	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
9	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
10	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
11	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
12	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
13	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
14	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物　土師器片439点，土製品４点（土玉１・支脚片３），鉄製品１点（刀子），須恵器片６点が出土している。第76図１の土師器坏は，中央部の覆土下層から逆位で出土している。２の須恵器坏蓋は，南東部の覆土中から出土している。３の土師器甑は，竈内の覆土から破片で出土している。４の土玉は，竈前の覆土下層から出土している。５の刀子は，南壁際の中央部の覆土下層から出土している。支脚片は，同一個体の破損した小片である。須恵器片５点は，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から７世紀前葉から中葉と考えられる。



第75図　第1008号住居跡実測図



第76図　第1008号住居跡出土遺物実測図

第1008号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第76図 1	坏 土師器	A［11.7］ B　4.2	底部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P41179 60% PL208
2	坏蓋 須恵器	A［11.2］ B（2.5）	天井部から口縁部にかけての破片。天井部から口縁部にかけてドーム状を呈している。	内・外面ロクロナデ。	砂粒・黒色粒子 灰色 普通	P41187 10% PL208
3	甑 土師器	A［26.2］ B（13.3）	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P41180 5%

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第76図4	土玉	0.6～0.7	0.4	0.1	0.2	扁平な球体，ナデ。	細砂粒，黒褐色	DP41010　100%　PL219

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第76図5	刀子	(11.9)	9.1	1.3	0.4	(2.8)	(14.8)	鉄	茎部一部欠損。棟区有り。	M41014　95% PL220

第1010号住居跡（第77・78図）

位置　調査4区の西部，J10e3区。

重複関係　中央部から南東部にかけてを第1008号住居に，北東部を第1009号住居に，煙道部を第1011号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸9.70m，短軸9.20mの方形である。

主軸方向　N－6°－W

壁　壁高は最大30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅12～24cm，下幅５～６cm，深さ５～８cmで，断面形はU字形である。

床　確認された床面は平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ60cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで136cm，両袖部幅110cmである。煙道部の東部を第1011号住居に，両袖端部を第1009号住居に掘り込まれている。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，焼土粒子・粘土粒子・砂粒を比較的に多く含む第２～４・６層が，崩落土層と考えられる。第８層は焼土粒子を比較的多く含み，赤変硬化していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3	暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
4	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
5	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子少量
6	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒微量
7	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
8	赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
9	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
10	暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
11	極暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量

ピット　32か所（Ｐ１～Ｐ32）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径60～75cmのほぼ円形で，深さ92～104cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は，径67cmのほぼ円形で，深さ18cmである。Ｐ５と南壁の間に位置するＰ30とＰ31，Ｐ31の南側に位置するＰ32は，径10～19cmのほぼ円形で，深さ16～32cmである。Ｐ５・Ｐ30～Ｐ32は，規模と配置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６・Ｐ10・Ｐ11は南西部に位置し，Ｐ７～Ｐ９は，ほぼＰ３とＰ４の間に位置する。Ｐ６～Ｐ11は，径29～42の円形で，深さ21～71cmであり，主柱穴と主柱穴の間または主柱穴と壁の間にあることから，補助柱穴と考えられる。壁際にほぼ規則的な間隔で位置するＰ12～Ｐ27は，径22～42cmの円形で，深さ20～58cmである。壁柱穴と考えられる。竈の両袖際に位置するＰ28・Ｐ29は，径11cm・12cmの円形で，深さ32cm・31cmである。規模と配置から竈に係わるものと推測されるが，性格は不明である。

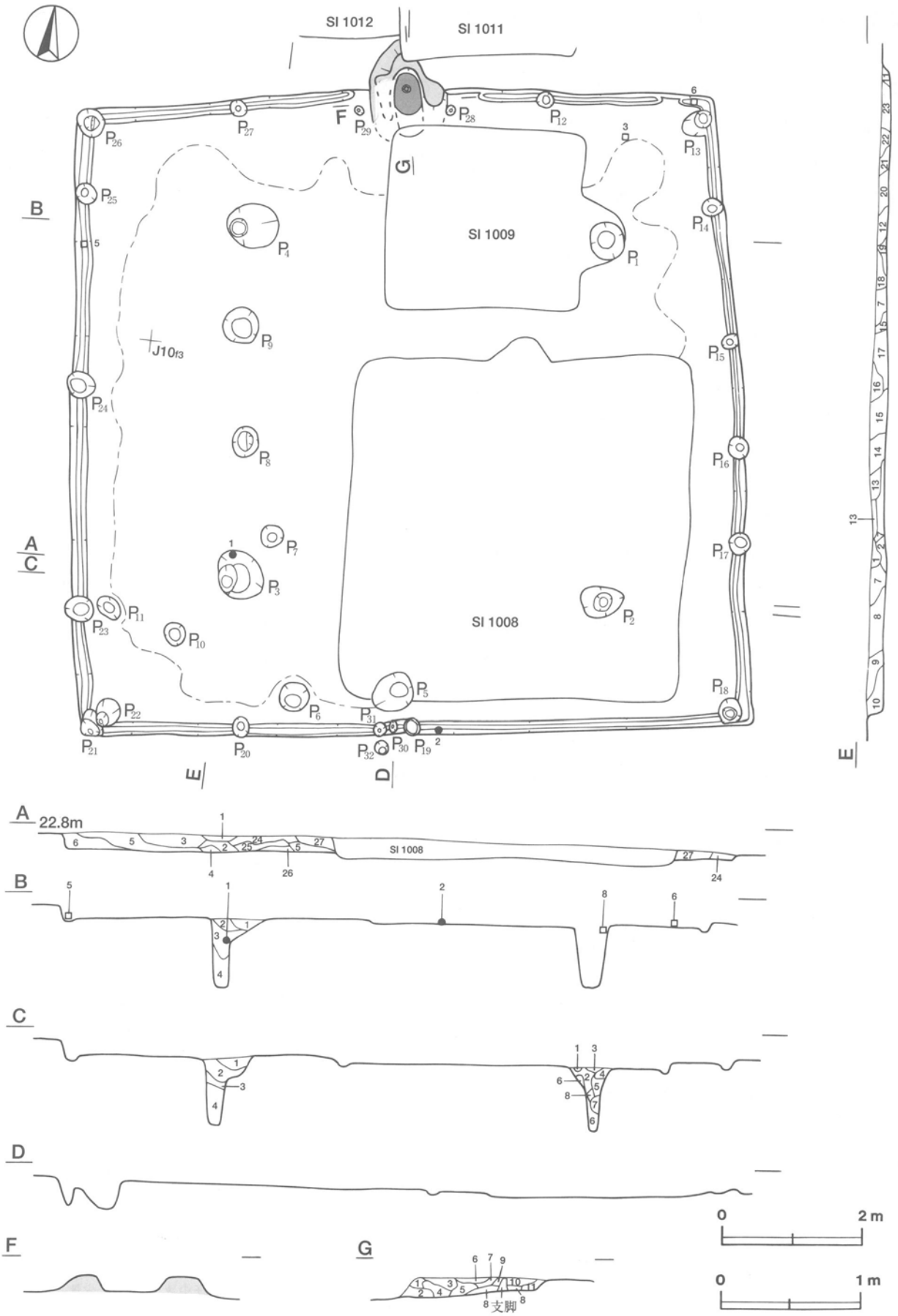
Ｐ２～Ｐ４土層解説

1	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
2	黒褐色	炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
3	褐色	ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
4	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子中量
6	褐色	ローム粒子多量
7	暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
8	褐色	ローム粒子多量，炭化粒子微量

覆土　27層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

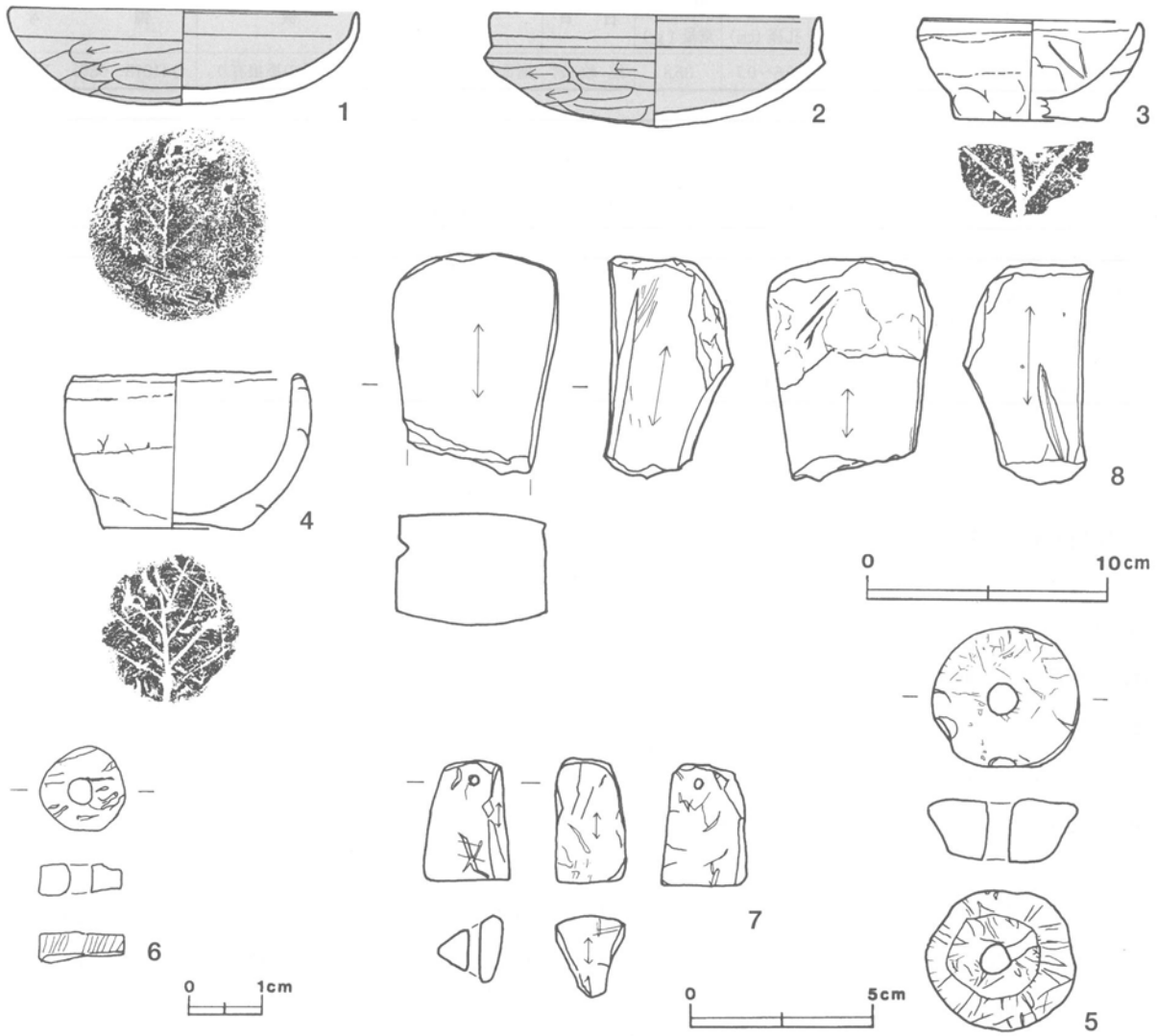
1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2	褐色	ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4	暗赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量
5	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
7	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8	暗褐色	ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
10	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
11	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
12	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
13	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
14	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
15	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子少量
16	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
17	褐色	ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
18	褐色	ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
19	褐色	ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
20	暗褐色	ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
21	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
22	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
23	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
24	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
25	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
26	褐色	ローム粒子多量
27	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量



第77図　第1010号住居跡実測図

遺物　土師器片636点，土製品７点（支脚片），石製品２点（紡錘車・臼玉），石器２点（砥石），須恵器片10点が出土している。第78図１～４はいずれも土師器である。１の坏は，Ｐ３の覆土中層から斜位で出土している。２の坏は，南壁際の覆土下層から破片で出土している。３の手捏土器は北西部の覆土中から，４の手捏土器は北東部の覆土中から出土している。５の紡錘車は，西壁際の覆土下層から出土している。６の臼玉は，北東コーナー部の覆土下層から出土している。７の砥石は南西部の覆土中から，８の砥石は北東部の覆土下層から出土している。土製品７点は，いずれも破損したの支脚の極小片である。須恵器片は，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる。



第78図　第1010号住居跡出土遺物実測図

第1010号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第78図 1	坏 土師器	A［14.4］ B　4.1	体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。内面ヘラナデ後，横ナデ。底部木葉痕。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	Ｐ41183 70% ＰＬ208

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第78図 2	坏 土師器	A [13.6] B 4.6	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ後，横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P41184 20% PL208
3	手捏土器 土師器	A [8.8] B 4.1 C [6.0]	底部から口縁部にかけての破片。底部はわずかに突出する平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面輪積み痕を残すナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P41185 40% PL208
4	手捏土器 土師器	A 9.3 B 6.5 C 6.0	体部から口縁部にかけて一部欠損。底部はわずかに突出する平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面輪積み痕を残すナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。底部木葉痕。	砂粒 にぶい橙色 普通	P41186 60% PL208

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第78図5	紡錘車	3.9～4.1	1.6	0.6～0.7	35.8	蛇紋岩	断面逆台形，表面研磨。多数の擦痕有り。	Q41018 98% PL222

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		径(cm)	口径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第78図6	臼玉	1.1～1.2	0.3	0.4	0.75	滑石	扁平な円筒形。暗オリーブ灰色	Q41019 100% PL221

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第78図7	砥石	3.4	1.9	2.2	16.3	凝灰岩	砥面2面。提げ砥。孔径0.3cmの円孔をもつ。	Q41020 100% PL222
8	砥石	(9.1)	6.8	4.9	(447.0)	凝灰岩	砥面4面。中央部が薄くなっている。	Q41021 40% PL222

第1011号住居跡（第79図）

位置　調査4区西部，J10d3区。

重複関係　第1010・1012住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸2.70m，短軸2.40mの長方形である。

主軸方向　N－9°－W

壁　壁高は6～14cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅9～20cm，下幅4～8cm，深さ5～6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部から北西部にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ20cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで80cm，両袖部幅87cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第1～3層が崩落土層と考えられる。第4層は焼土粒子・炭化粒子を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　暗褐色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
2　極暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・砂粒微量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
4　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，炭化物少量

ピット　2か所（P1・P2）。竈の東側の壁際に位置するP1は，径28cmのほぼ円形で，深さ64cmである。規模と位置から主柱穴の可能性も考えられるが，性格は不明である。南壁際の中央部からやや西寄りに位置するP2は，径44cmの円形で，深さ28cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　竈と北東コーナーの間に検出されている。長径70cm，短径55cmの楕円形で，深さ31cmである。断面形は，「∪」状である。

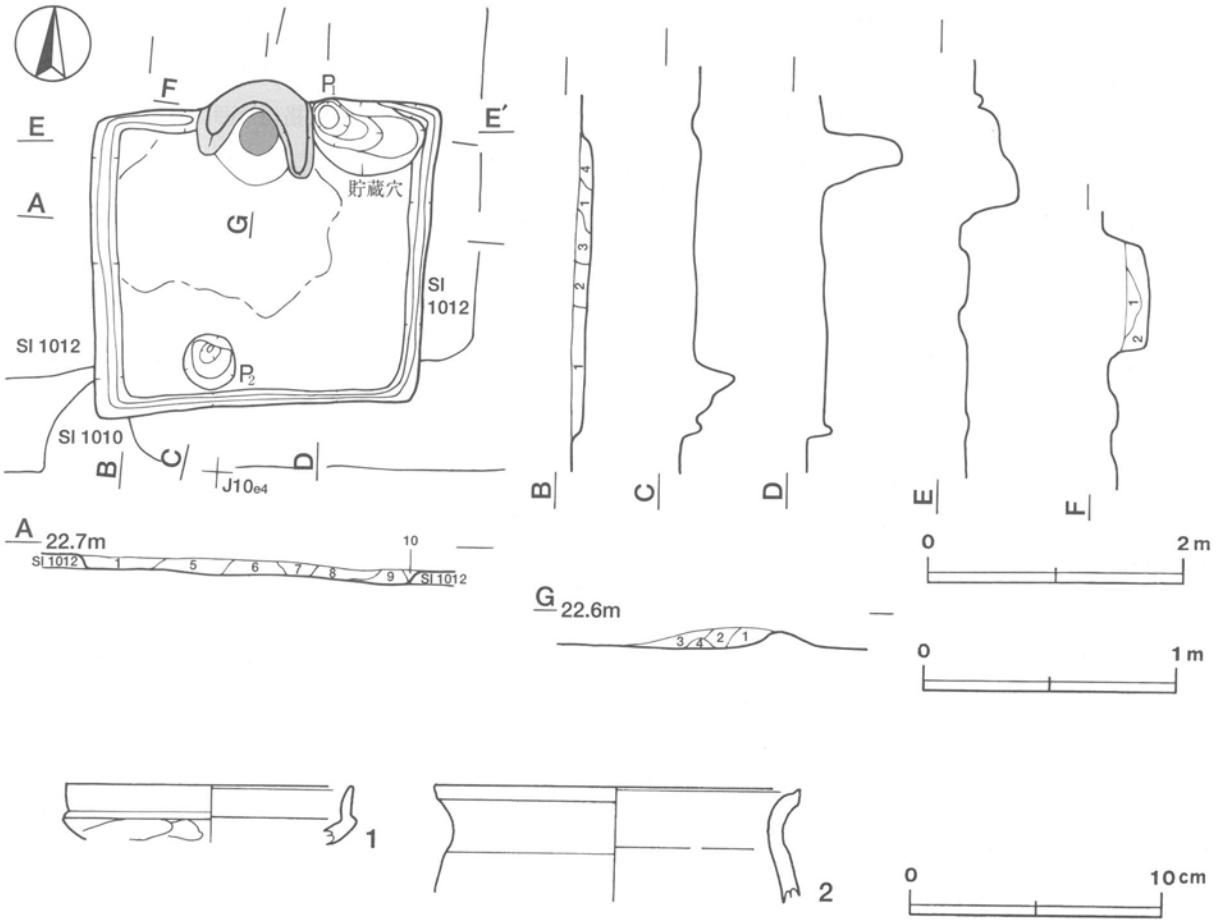
貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　10層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　暗 褐 色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
6　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
7　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
8　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量・焼土粒子微量
9　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　褐　　色　ローム粒子多量

遺物　土師器片78点，須恵器片５点，鉄滓１点が出土している。第79図１の土師器坏と２の土師器甕は，竈の覆土中から破片で出土している。鉄滓は，小片である。鉄滓・須恵器片は，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から７世紀前葉ないし中葉と考えられる。



第79図　第1011号住居跡・出土遺物実測図

第1011号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第79図 1	坏 土師器	A [11.2] B (2.3)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P41188 5%
2	甕 土師器	A [14.5] B (4.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反し，端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P41189 5%

第1012号住居跡（第80・81図）

位置　調査4区の西部，J10c3区。

重複関係　南東部を第1011号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸7.80m，短軸7.70mの方形である。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は最大26cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅11～26cm，下幅4～8cm，深さ5～7cmで，断面形はU字形である。

床　確認された床面は平坦であり，全体的によく踏み固められている。西壁下からP12に延びる溝a，同じく西壁下からP4に延びる溝bが検出されている。溝aは幅18～21cm，深さ約14cmで，溝中に深さ12～17cmの小ピットを5か所有している。断面形は，「∪」状である。溝bは幅26～29cm，深さ約15cmで，溝中に深さ15cmの小ピットを1か所有している。断面形は，「∪」状である。溝a・溝bとも，性格は不明である。

竈　北壁の中央部を壁外へ75cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで134cm，両袖部幅128cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，焼土粒子・粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第1・2・4層が崩落土層と考えられる。袖部の土層は，ローム粒子・粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第9～14層である。竈の構築状況を土層断面図からみると，地山のハードロームを少しくぼめ，中心部分を火床面として残し，その両脇に袖を作っている。多めのローム土に少量の粘土粒子と砂を混ぜた部材を芯（第12層）にして，砂を多めに混ぜ込んだローム土で芯を囲むように袖を構築している。第3・5・15層は，焼土粒子を比較的多く含み赤変硬化していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量
4　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
8　褐色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
9　褐色　ローム粒子中量，砂粒少量，焼土粒子・粘土粒子微量
10　灰褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
11　褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子・粘土粒子微量
12　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
13　にぶい褐色　砂粒多量，ローム粒子中量，粘土粒子少量，焼土粒子・礫微量
14　赤褐色　焼土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
15　赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量

ピット　12か所（P1～P12）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P4は，径68～78cmのほぼ円形で，深さ71～86cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP5は，径56cm

の円形で，深さ25cmである。Ｐ５の北側に位置するＰ６は，径49cmの円形で，深さ21cmである。Ｐ５・Ｐ６は，規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ３の東側に位置するＰ７は，径42cmのほぼ円形で，深さ96cmである。規模と配置からＰ３の補助柱穴と考えられる。Ｐ３とＰ４の中間に位置するＰ８は，径63cmのほぼ円形で，深さ38cmである。中央部からＰ６寄りに位置するＰ９は，径54cmの円形で，深さ14cmである。Ｐ８・Ｐ９とも，規模と配置から補助柱穴と考えられる。南西コーナー部の西壁際に位置するＰ10は，径33cmの円形で，深さ18cmである。南壁に位置するＰ11は，径36cmのほぼ円形で，深さ33cmである。Ｐ10・Ｐ11とも，補助柱穴の可能性があるものの，性格は不明である。Ｐ３と溝ａの間にあるＰ12は，径16cmの円形で，深さ19cmである。Ｐ３の補助柱穴か溝ａに付随するものかは，不明である。

Ｐ１・Ｐ４土層解説
1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量
3　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

Ｐ２土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
5　褐　　色　ローム粒子多量

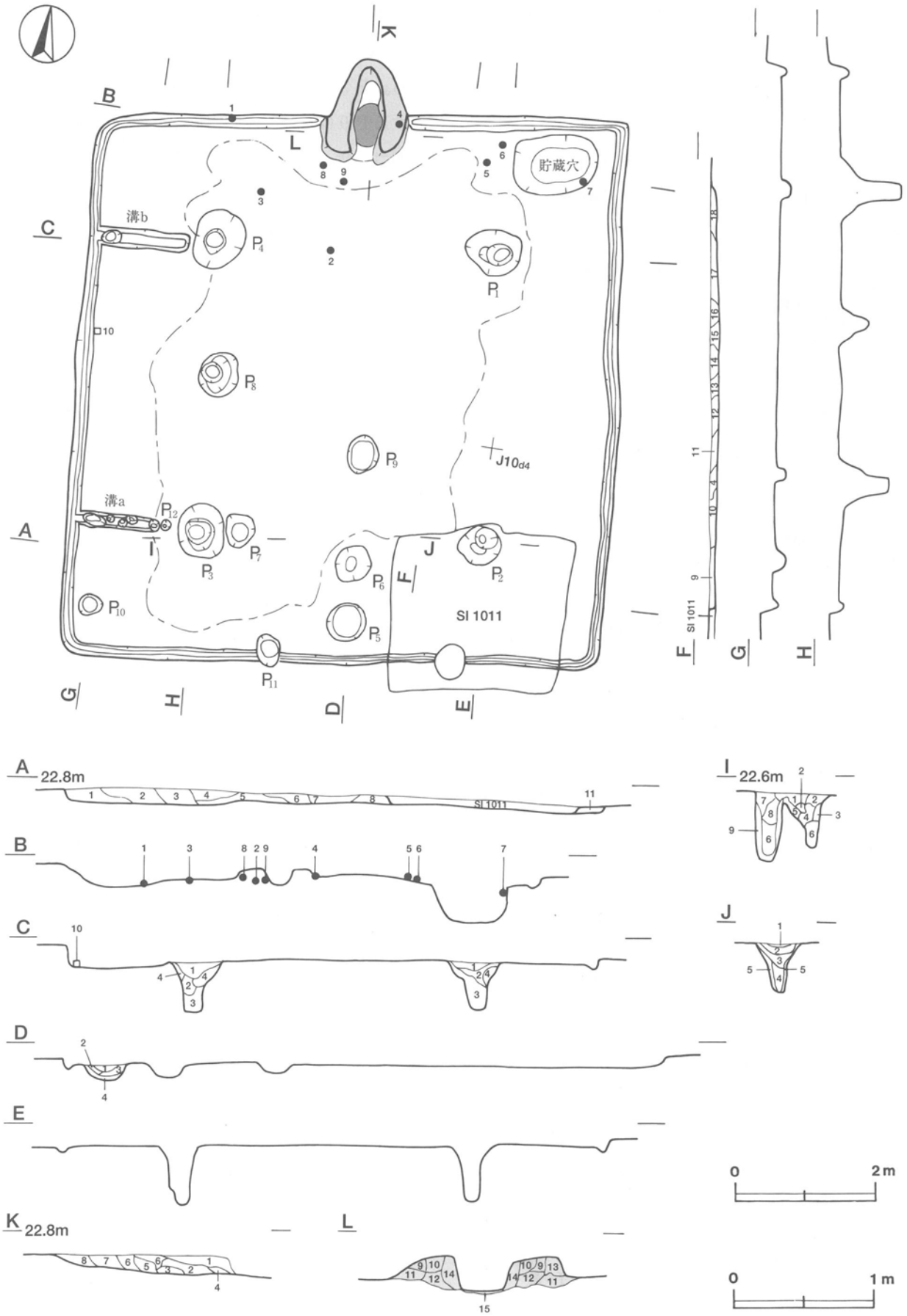
Ｐ３・Ｐ７土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
5　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
7　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

Ｐ５土層解説
1　黒 褐 色　ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

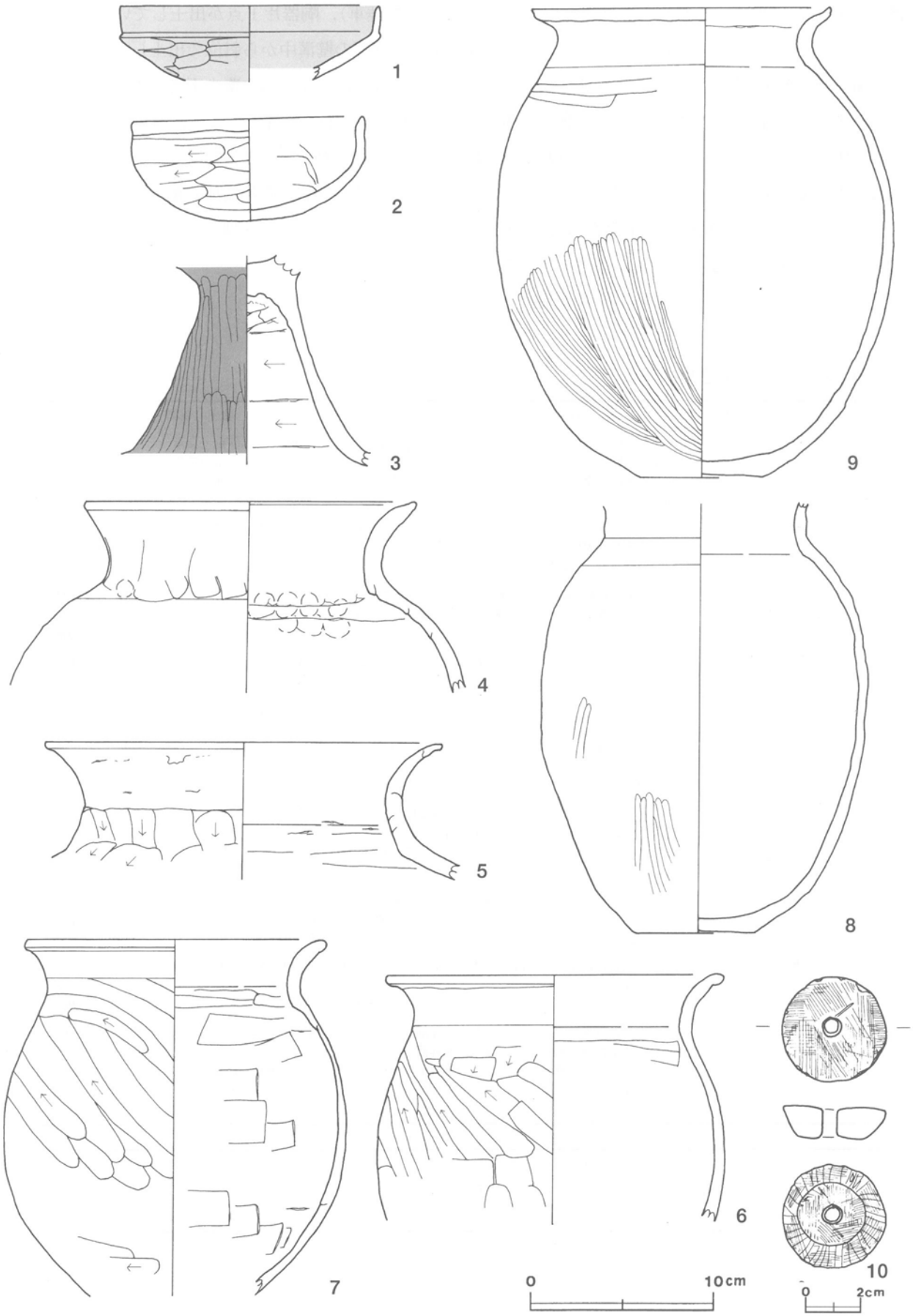
貯蔵穴　北東コーナー部で検出された。長軸114cm，短軸68cmの隅丸長方形で，深さ58cmである。断面形は，「∪」状である。

覆土　18層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量
6　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
7　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
8　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
9　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
10　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
11　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
12　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
13　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
14　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
15　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
16　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
17　赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
18　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量



第80図　第1012号住居跡実測図



第81図　第1012号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片721点，土製品１点（支脚片），石製品１点（紡錘車），陶器片１点が出土している。第81図で図示した土器は，すべて土師器である。１の坏は，北西部の北壁際の壁溝中から斜位で出土している。２の坏は，竈の前の覆土下層からつぶれた状態で出土している。３の高坏は，北西部の覆土下層と竈の覆土中から出土した破片が接合したものである。４の甕は，竈の東袖の壁際から正位で出土している。５の甕は，北東部の壁際の床面から破片で出土している。６の甕は，北東コーナー部の北壁際から破片で出土している。７の甕は，貯蔵穴内の覆土第１層から破片で出土している。８と９の甕は，焚口部から西袖端部の覆土中からまとまって出土している。10の紡錘車は，西壁際のほぼ中央部の床面から出土している。支脚は，破損した小片である。陶器片は，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から７世紀前葉と考えられる。

第1012号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第81図 1	坏 土師器	A［13.8］ B（4.3）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P41190 10%
2	坏 土師器	A［12.4］ B　5.5	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P41191 40% PL208
3	高坏 土師器	B（11.4）	坏部底部から脚部にかけての破片。裾部欠損。脚部はラッパ状に開く。	坏部内面放射状のヘラ磨き。脚部外面縦位のヘラ磨き，内面横位のヘラ削り。外面赤彩。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色，普通	P41192 30% PL208
4	甕 土師器	A　17.8 B（10.4）	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は上方へわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面指頭痕を残すナデ。内面に輪積み痕。	砂粒・小礫・雲母・長石 明赤褐色 普通	P41193 20% PL209
5	甕 土師器	A　21.5 B（7.4）	頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反し，端部は外方へつまみ出されている。	口縁部，頸部上位内・外面横ナデ。頸部下位外面縦位のヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子・長石 にぶい橙色，普通	P41194 10% PL208
6	甕 土師器	A　18.3 B（13.4）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色，普通	P41195 20% PL208
7	甕 土師器	A　16.1 B（19.3）	体部から口縁部にかけての破片。体部は球形を呈し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上斜位のヘラ削り後，ヘラナデ。下位横位のヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P41196 60% PL208
8	甕 土師器	B（30.7） C　8.5	底部から頸部にかけての破片。体部は倒卵形を呈する。	頸部下位内・外面横ナデ。体部外面ナデ，下半縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。	砂粒・小礫 にぶい赤褐色 普通	P41197，50% PL208 体部内・外面摩滅
9	甕 土師器	A　21.1 B　33.9 C　8.6	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈し，口縁部は外反する。端部は上方へわずかにつまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面上半ヘラナデ後，ナデ。下半縦位と斜位のヘラ磨き。内面横位のヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰褐色 普通	P41198 80% PL209

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		径（cm）	長さ（cm）	孔径（cm）	重量（g）			
第81図10	紡錘車	3.7～3.8	1.0	0.6	19.7	蛇紋岩	断面逆台形，表面に研磨。	Q41022　98%　PL222

第1018号住居跡（第82図）

位置　調査４区の西部，J9c9区。

重複関係　北壁の中央部から南壁にかけてを第35Ａ号溝にほぼ全体的に掘り込まれ，北東コーナー部から東壁の南部にかけてを第979号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　確認された西壁と南東・北西コーナー壁から長軸4.58m，短軸4.43mの方形である。

主軸方向　Ｎ－６°－Ｗ

壁　確認された壁高は最大14cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っており，全周していたと考えられる。上幅11～22cm，下幅４～８cm，深さ４～８cmで，断面形はＵ字形である。

床　確認された床面はほぼ平坦であり，Ｐ１の付近が踏み固められている。

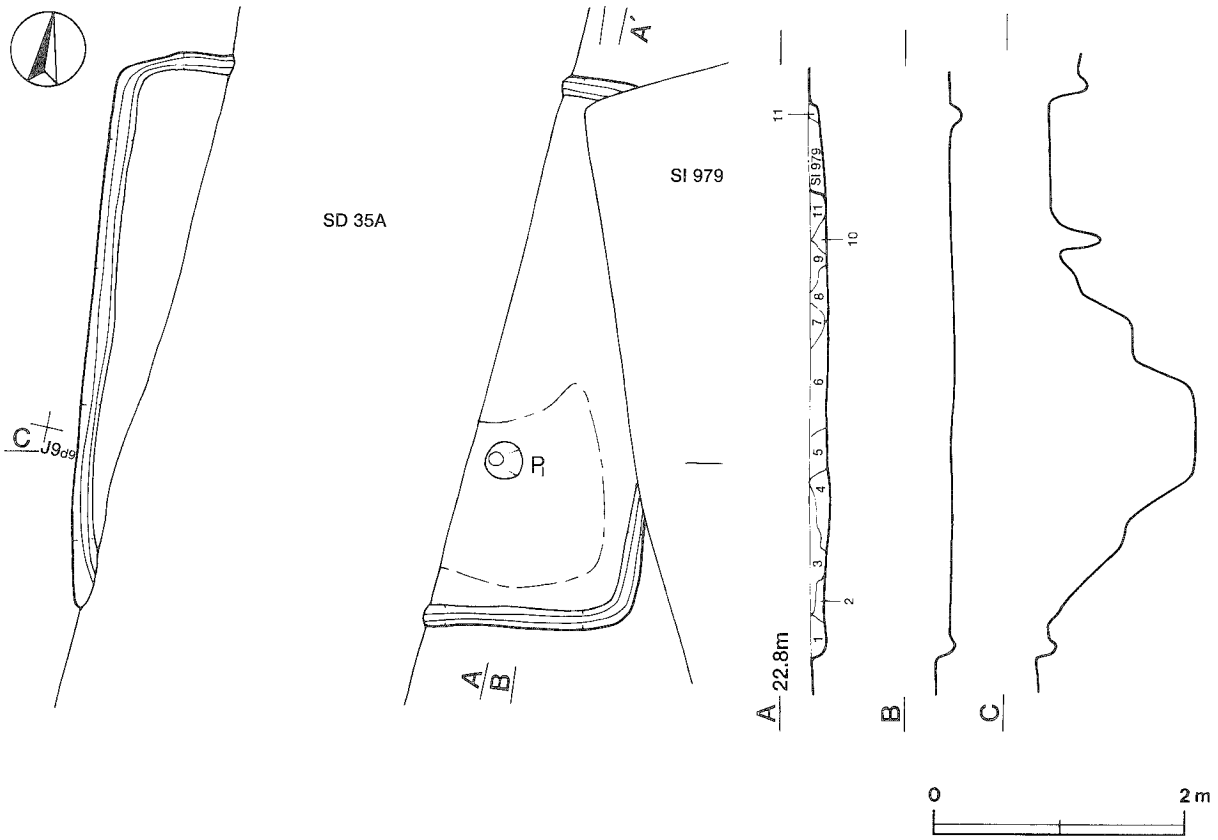
炉・竈　北壁中央部から南壁にかけて第35Ａ号溝に掘り込まれているため，炉及び竈痕跡は検出されなかった。

ピット　１か所。南東コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１は，径28cmの円形で，深さ40cmである。規模と位置から主柱穴の一つと考えられる。

覆土　11層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
3	黒褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量



第82図　第1018号住居跡実測図

8　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
9　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
10　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
11　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片19点が出土している。時期を確定できるような土器片は検出されなかった。

所見　本跡の時期は，重複関係から古墳時代後期以前と考えられる。

第1024号住居跡（第83図）

位置　調査４区の中央部，I11j2区。

重複関係　北部を第902号土坑に，中央部を第904号土坑に，東部をピット群１のピットにそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　傾斜地に立地しており，北部が遺存していないため全容は不明である。東西軸は3.25mで，南北軸は2.70mだけが確認できた。南東・南西コーナー部が直角であることや，ピットの配置から，方形と推定される。

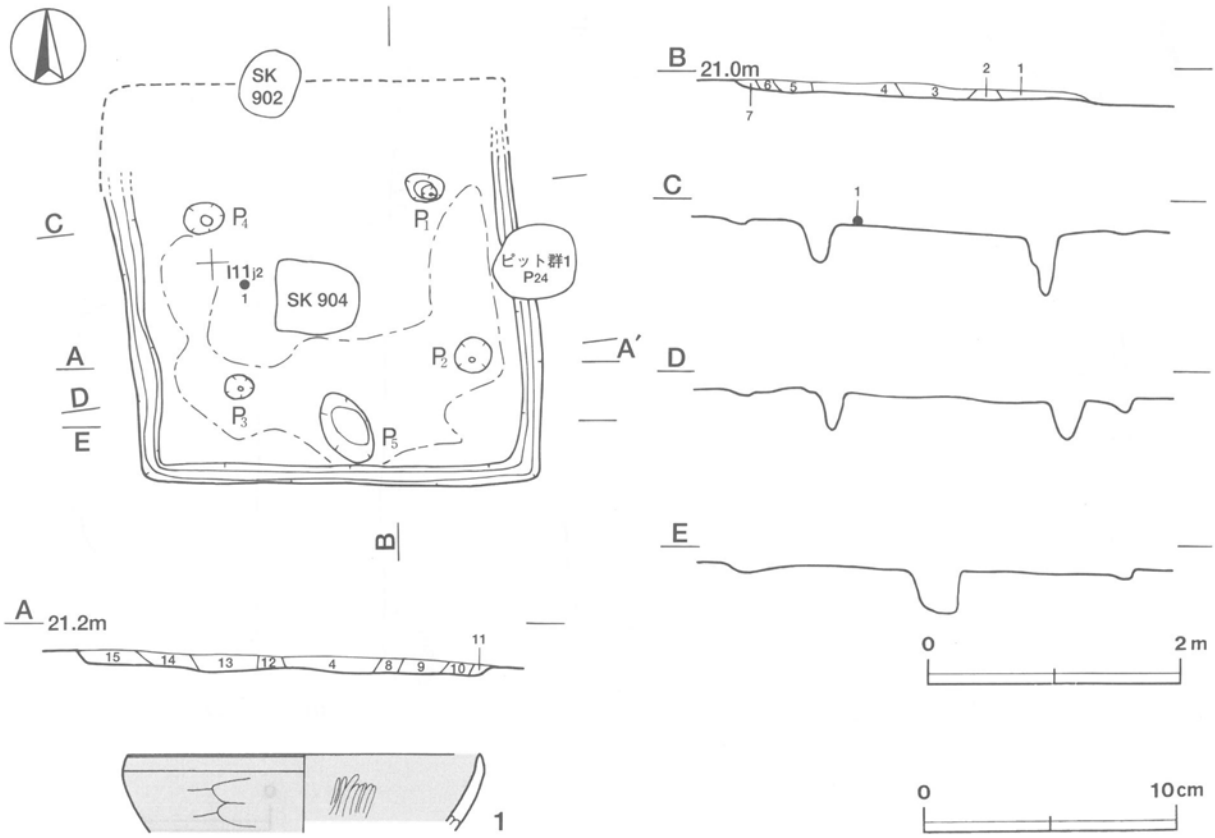
主軸方向　N－７°－W

壁　壁高は６～10cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認できた壁下に巡っている。規模は上幅15～24cm，下幅５～11cm，深さ約６cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は各コーナーから中央部寄りに位置し，径25～30cmの円形で，深



第83図　第1024号住居跡・出土遺物実測図

さ30～50cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は南壁際に位置し，長径64cm，短径40cmの楕円形で，深さ32cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　15層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
5　暗褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック少量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
7　褐　色　ローム粒子多量
8　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量
10　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
11　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
12　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
13　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
14　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
15　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

遺物　土師器片56点，撹乱により混入したとみられる須恵器片６点が出土している。第83図１の土師器坏は，中央部の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から６世紀後半と考えられる。

第1024号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第83図 1	坏 土師器	A [14.0] B (3.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P40521 5％

第1029号住居跡（第84図）

位置　調査４区の中央部，J11a2区。

重複関係　中央部から北部を第1028号住居に，北西部を第787号土坑に，南部を第911号土坑に，南東部を第912・913号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.03m，短軸3.70mの方形である。

主軸方向　Ｎ－６°－Ｅ

壁　壁高は10～12cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，壁際を除き踏み固められている。

竈　出土土器から竈を持つ時期の住居跡と考えられるが，第1028号住居に掘り込まれているため確認できなかった。

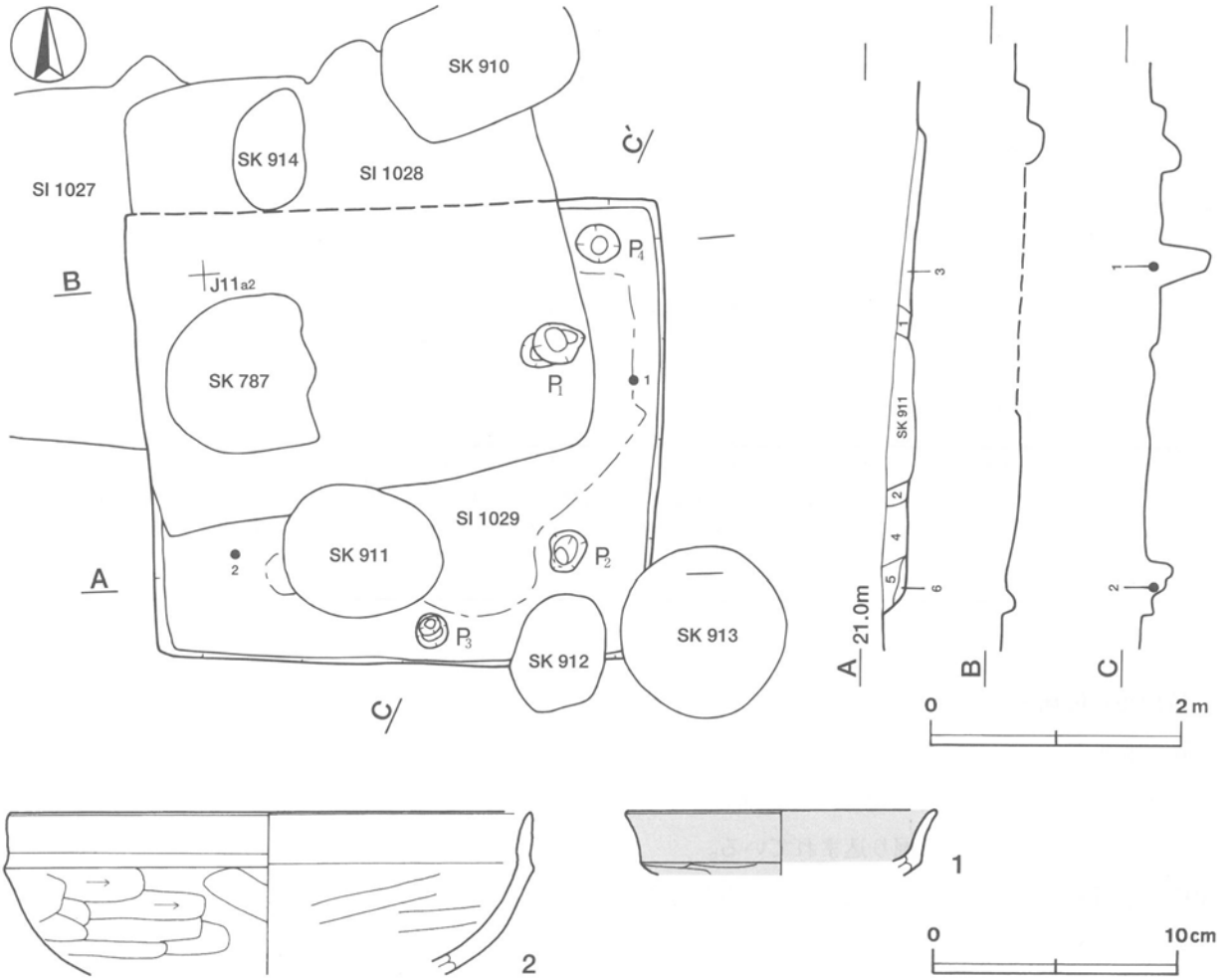
ピット　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１は北東コーナーからやや中央部寄りに位置し，長径50cm，短径35cmの楕円形で，深さ41cmである。Ｐ２は南東コーナーからやや中央部寄りに位置し，径30cmのほぼ円形で，深さ52cmである。Ｐ１・Ｐ２は規模と位置から主柱穴と考えられる。Ｐ３は南壁際に位置し，径25cmの円形で，深さ21cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ４は径35cmの円形で，深さ16cmである。性格は不明である。

覆土　６層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物少量
5　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片167点，撹乱により混入したとみられる陶器片８点が出土している。第84図１の土師器坏口縁部片は東部の床面から，２の土師器椀の体部から口縁部片は南西部の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から６世紀後半と考えられる。



第84図　第1029号住居跡・出土遺物実測図

第1029号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第84図 1	坏 土師器	A［12.3］ B（2.6）	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P40526 5％
2	椀 土師器	A［20.8］ B（6.5）	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に段をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・細礫 にぶい褐色，普通	P40527 20％ PL209

第1032号住居跡（第85・86図）

位置　調査４区の中央部，J10i6区。南部の一部は，平成10年度調査区域外にかかっており，未調査である。

重複関係　北東部から南部にかけてを第1030号住居に，竈から北西コーナー部にかけては第1033号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　北東部から南部にかけて第1030号住居に掘り込まれ，南壁際は未調査区域に位置するため正確な規模は確認できない。確認された規模は東西軸が3.50m，南北軸が3.00mである。方形または長方形と考えられる。

主軸方向　N－6°－E

壁　確認された壁高は20～42cmで，外傾して立ち上がる。

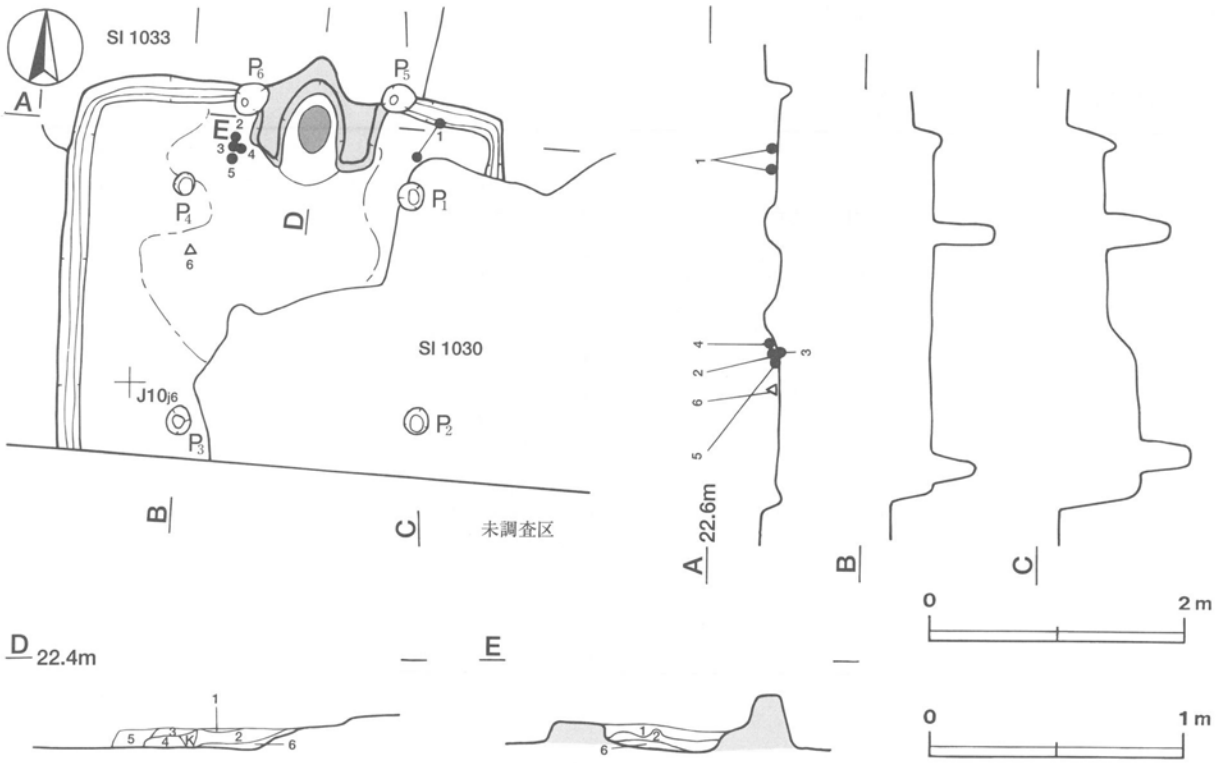
壁溝　確認された壁の下を巡っており，全周していたものと考えられる。上幅12～18cm，下幅４～７cm，深さ５～８cmで，断面形はU字形である。

床　遺存する床面はほぼ平坦であり，中央部から竈の付近にかけてよく踏み固められている。

竈　竈は，第1033号住居の床面の下層から検出された。北壁の中央部を壁外へ25cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで103cm，両袖部幅96cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第１・３・５層が崩落土層と考えられる。第６層は焼土粒子を多量に含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子・灰少量，ローム粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量

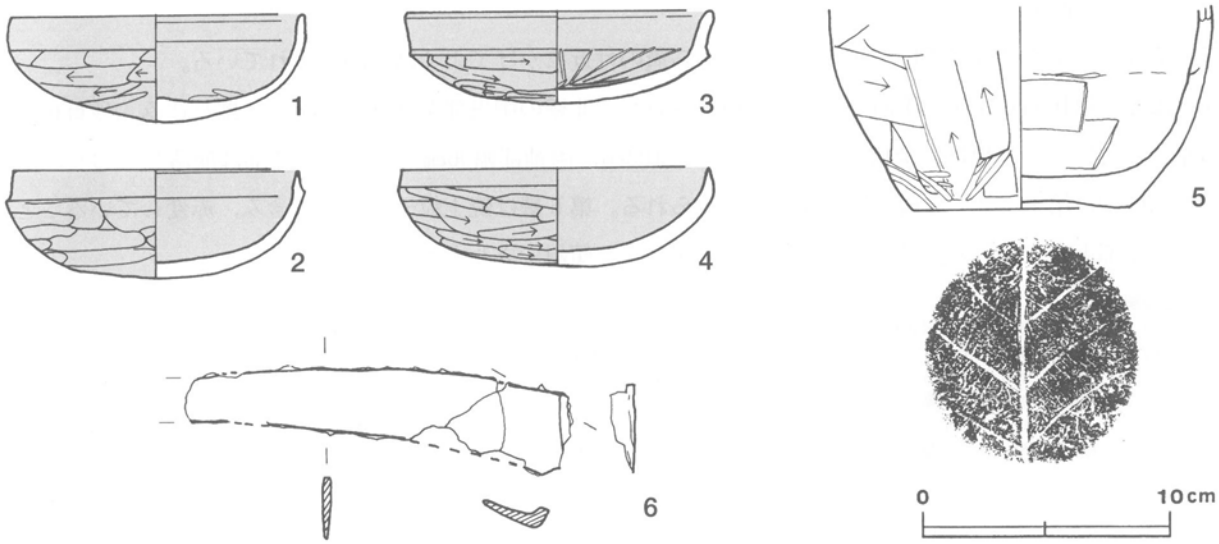


第85図　第1032号住居跡実測図

ピット　6か所（P1～P6）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P4は，径20cm～24cmのほぼ円形で，深さは35cmと55cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。竈の両脇の壁際に位置するP5とP6は，径25cmと24cmのほぼ円形で，深さはともに25cmである。竈に付随するピットの可能性が考えられる。

遺物　土師器片98点，鉄器1点（鎌），須恵器片1点が出土している。第86図1～5は，いずれも土師器である。1の坏は，竈の東側の床面からつぶれた状態で出土している。2～4の坏は，上から2・3・4の順に正位で重なって，竈の西側の床面から出土している。5の甕の底部は，2～4の坏と並んで正位で出土している。6の鎌は，北西部の床面から出土している。須恵器片は，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の覆土は，第1030・1033号住居跡に全体的に掘り込まれているため確認できなかった。時期は，出土土器から7世紀中葉から後葉と考えられる。



第86図　第1032号住居跡出土遺物実測図

第1032号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第86図 1	坏 土師器	A 11.8 B 4.2	体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色，普通	P41225 80% PL209
2	坏 土師器	A 11.4 B 4.3	口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 黒褐色 普通	P41226 95% PL209
3	坏 土師器	A 12.0 B 3.6	口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ナデ。内面ナデ後，放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P41227 95% PL209
4	坏 土師器	A 12.3 B 3.9	口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面，体部横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 赤褐色	P41228 90% PL209
5	甕 土師器	B（8.0） C 7.2	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面下位縦位と斜位のヘラ削り後，一部ヘラ磨き。内面ヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。底部木葉痕。	砂粒・小礫・雲母・長石 明赤褐色，普通	P41229 40% PL210

図版番号	器　種	計測値				材　質	特　徴	備　考
		全長(cm)	背幅(cm)	刃幅(cm)	重量(g)			
第86図6	鎌	(15.4)	0.4	2.5	(44.8)	鉄	刃部・着柄部一部欠損。	M41022　80%　PL220

第1034号住居跡（第87・88図）

位置　調査4区の西部，J9j9区。

重複関係　竈の煙道部から南西コーナーまでを第35A号溝に，南東コーナーから北西コーナーまでを第59号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　全体的に第35A号溝に掘り込まれているため，全容は不明である。確認された規模は東西軸が2.28m，南北軸が2.65mで，平面形は方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－22°－W

壁　確認された壁高は31～41cmで，外傾して立ち上がる。

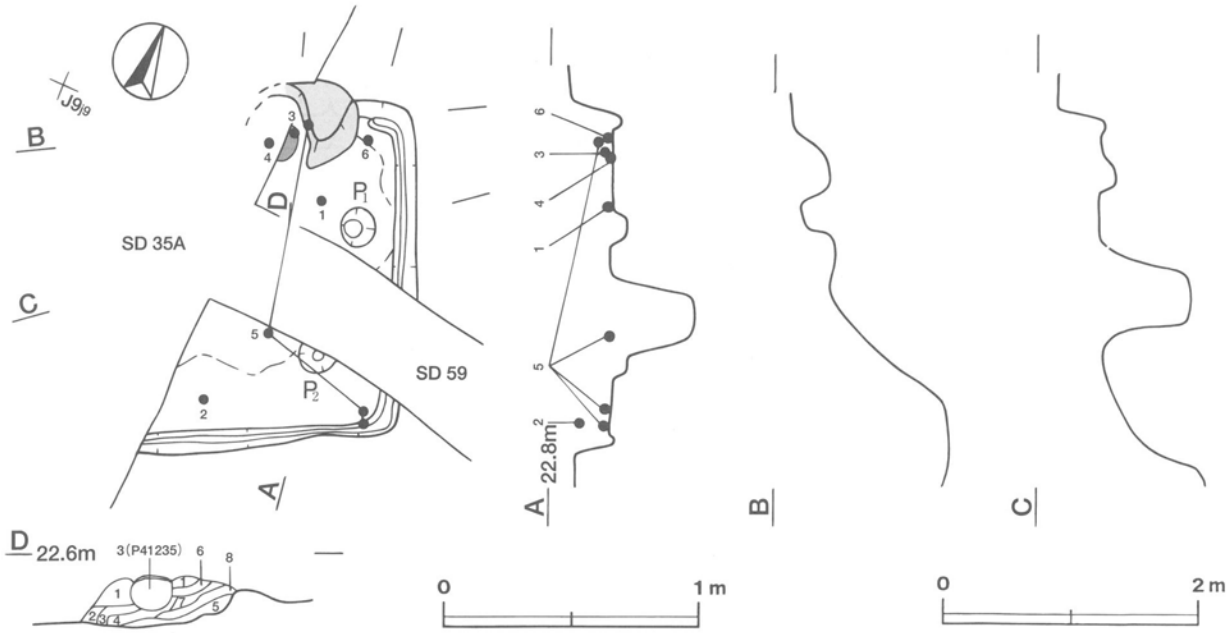
壁溝　確認された壁の下を巡っており，全周していたと推定される。上幅8～14cm，下幅3～6cm，深さ4～7cmで，断面形はU字形である。

床　遺存する床面はほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　第35A号溝に掘り込まれているため，東袖部と火床部，煙道部の一部が遺存しているだけである。北壁の中央部に付設されており，袖の構築材は，砂質粘土である。竈土層断面図中の第5層が，焼土粒子を多量に含み赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

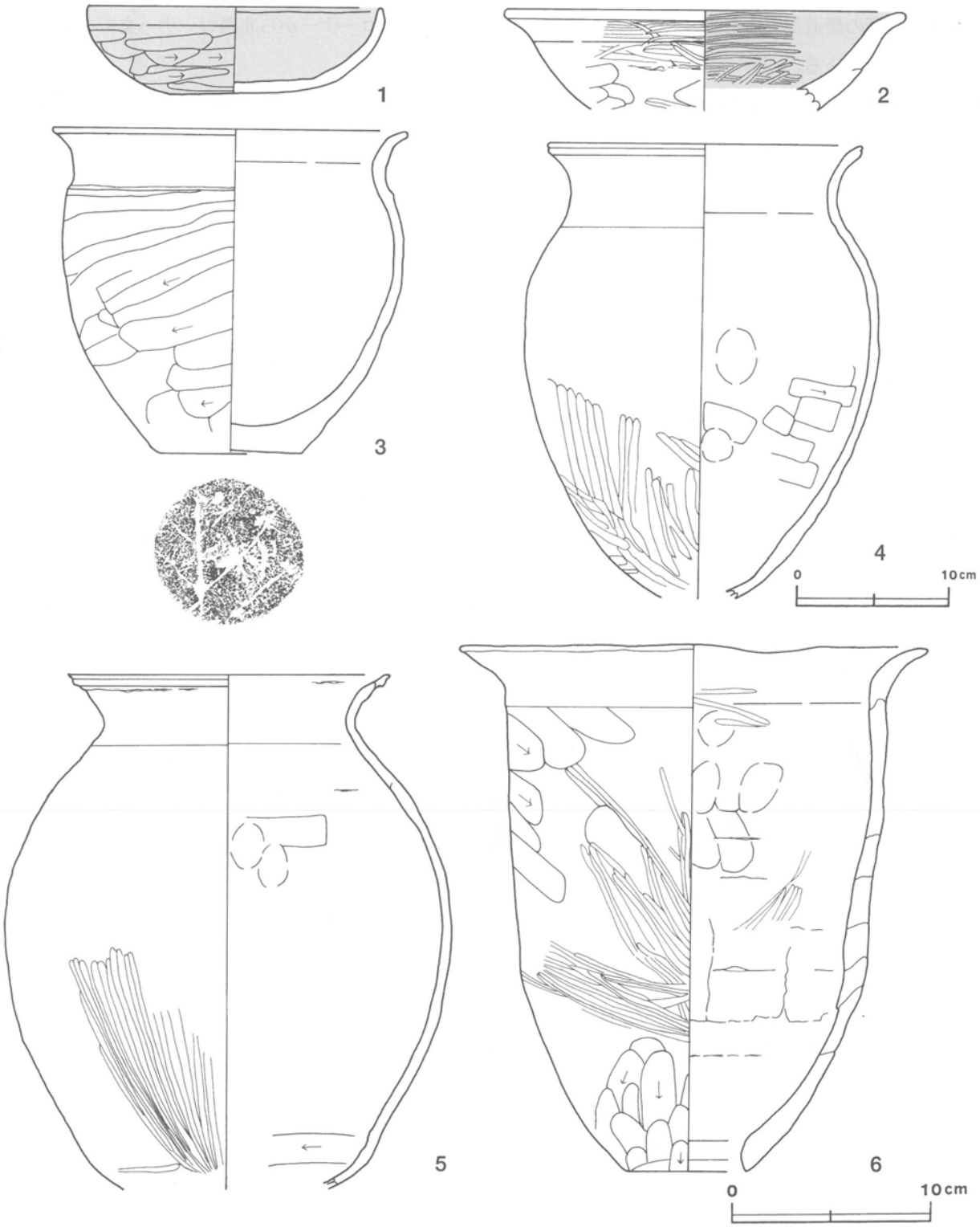
1　褐　　色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　粘土小ブロック中量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
4　極暗褐色　炭化粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック・灰少量，炭化物・砂粒微量
6　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・砂粒少量，焼土中ブロック・粘土粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
8　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量



第87図　第1034号住居跡実測図

ピット　2か所（Ｐ１・Ｐ２）。北東部の東壁寄りに位置するＰ１は，径28cmの円形で，深さ13cmである。南東部に位置するＰ２は，上端の一部が第59号溝に掘り込まれているものの，径24cmの円形で，深さ13cmである。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。

遺物　土師器片46点，土製品７点（支脚片），須恵器片３点が出土している。第88図の１～６は，すべて土師器である。１の坏は，北東部の覆土下層から正位で出土している。２の高坏は，南部の覆土中層から破片で出



第88図　第1034号住居跡出土遺物実測図

土している。3の甕は，竈の天井部の崩落土中から横位で出土している。4の甕は，3の甕の下層から破片で出土している。5の甕は，南東コーナー部と南東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。6の甑は，北東コーナー部の床面から逆位で出土している。支脚片は，同一個体の破損した小片と考えられる。須恵器片は，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の覆土は，第35A・59号溝に全体的に掘り込まれているため確認されていない。時期は，出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。

第1034号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第88図 1	坏 土師器	A 14.5 B 4.3	体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 灰褐色 良好	P41233 70% PL209
2	高坏 土師器	A [19.6] B (4.9)	坏部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き。坏部外面ヘラナデ後，ヘラ磨き。内面横位のヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	P41234 5%
3	甕 土師器	A 17.4 B 16.0 C 7.1	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位と横位のヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・小礫・雲母・長石 にぶい橙色，普通	P41235 80% PL209
4	甕 土師器	A [20.4] B (29.8)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は外上方へわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面上半ナデ，下半縦位と斜位のヘラ磨き。内面ヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P41236 40% PL209
5	甕 土師器	A [21.0] B (33.8)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は外方へつまみ出されている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面上半ナデ，下半縦位のヘラ磨き。内面横位のヘラナデ後，輪積み痕・指頭痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P41237 25% PL210
6	甑 土師器	A 23.1 B 26.0 C 6.0	底部から口縁部にかけて一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	上半と下半をそれぞれ成形し，接合。接合部内面を粘土帯で補強。口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位と斜位のヘラ削り後，中位の一部斜位のヘラ磨き。内面ヘラナデ後，輪積み痕・指頭痕を残すナデ，一部ヘラ磨き。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P41238 60%

第1037号住居跡（第89図）

位置　調査4区の中央部，J11d3区。

重複関係　南西コーナー部を第11号方形竪穴状遺構に，南部を第934号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　東部が調査区域外に位置しているため，全容は不明である。南北軸は6.00mで，東西軸は5.60mだけが確認できた。北西コーナー部と南西コーナー部が直角であることと，ピットの配置から，方形と推定される。

主軸方向　N－5°－W

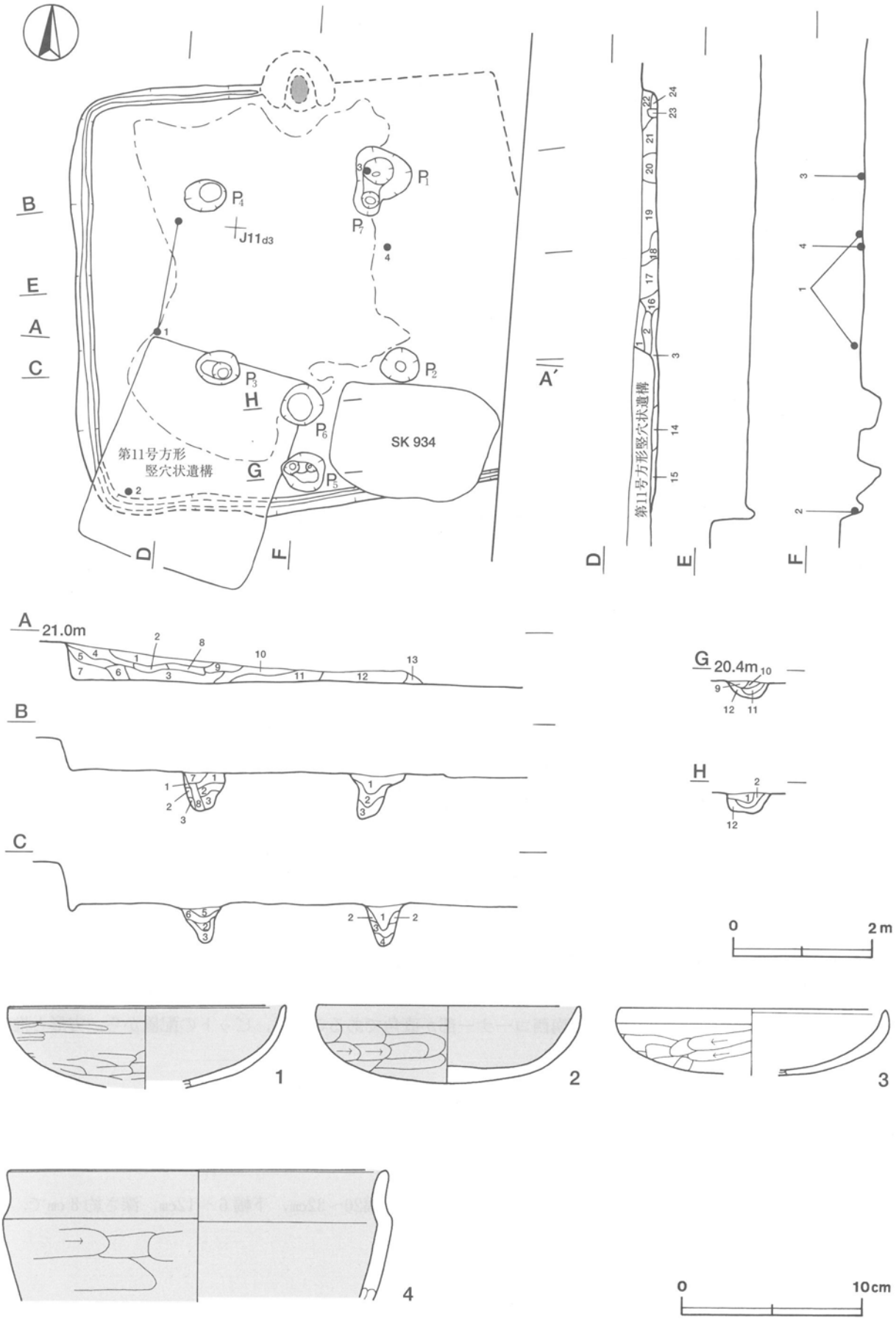
壁　傾斜地に立地しているため，竈から北東コーナー部にかけて遺存していない。遺存している壁高は45～60cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北西コーナー部から南部にかけて巡っている。規模は上幅20～32cm，下幅6～12cm，深さ約8cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。

竈　粘土と焼土・炭化粒子の分布が，北壁の中央部で検出された。火床部の一部で，火床面は赤変している。

ピット　7か所（P1～P7）。P1～P4は各コーナーから中央部寄りに位置し，径55～85cmのほぼ円形で，



第89図　第1037号住居跡・出土遺物実測図

深さは56～62cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５・Ｐ６は南壁寄りに位置し，Ｐ５は長径64cm，短径52cmの楕円形で，深さ35cmである。Ｐ６は径55cmの円形で，深さ31cmである。Ｐ５・Ｐ６は位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ１に隣接してＰ７があり，径40cmの円形で，深さ21cmである。Ｐ１の補助柱穴の可能性が考えられる。

Ｐ１～Ｐ６土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量
4　極暗褐色　ローム粒子少量
5　黒 褐 色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　黒 褐 色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
7　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
10　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子少量
11　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
12　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

覆土　24層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
4　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量
6　黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　極暗褐色　ローム粒子少量
8　暗 褐 色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
9　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
11　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
12　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　黒 褐 色　ローム粒子少量
14　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
15　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
16　黒 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
17　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
18　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
19　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
20　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量
21　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，砂粒微量
22　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
23　黒 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
24　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量

遺物　土師器片551点，撹乱により混入したと思われる須恵器片７点が出土している。第89図に示した土器はすべて土師器である。１の坏は，中央部やや西壁寄りの覆土下層と南西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。２の坏は，南西コーナー部の覆土下層から逆位で出土している。３の坏片は北東部の覆土下層から，４の椀片は中央部からやや東寄りの床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から６世紀後半と考えられる。

第1037号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第89図 1	坏 土師器	A［15.0］ B（4.4）	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 浅黄橙色，普通	P40528 50% PL209

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第89図 2	坏 土師器	A [14.2] B 4.2	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙，普通	P40529 40% PL209
3	坏 土師器	A [14.4] B (3.6)	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P40530 20% PL209
4	椀 土師器	A [20.2] B (7.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P40531 10% PL209

第1040号住居跡（第90・91図）

位置　調査4区の中央部，J10g6区。

重複関係　第1044号住居跡を掘り込み，南部を第1047号住居に，南東部を第1054号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.12m，短軸5.84mの方形である。

主軸方向　N－23°－W

壁　東部から南東部にかけての壁を除き，確認された壁高は18～31cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下を巡っており，上幅17～31cm，下幅6～12cm，深さ4～10cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。竈の袖の両脇に2か所の比較的浅い掘り込み（灰溜1・灰溜2）が検出されている。東袖側の灰溜1は，長径100cm，短径87cmの楕円形で，深さは28cmである。西袖側の灰溜2は，長径82cm，短径76cmの不定形で，深さは24cmである。覆土から，比較的多量の焼土のほか，粘土粒子・砂粒・灰が確認されていることから，一時的に焼土・灰を溜めておいた灰溜と考えられる。

灰溜1土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒・灰少量，炭化材・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂粒・灰少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化材・粘土粒子微量
4　にぶい褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量，ローム粒子・炭化材・炭化粒子微量
5　褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量，ローム小ブロック・砂粒微量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒・灰少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化材・粘土粒子微量
7　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子微量

灰溜2土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒微量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化材・粘土小ブロック・砂粒・灰微量
4　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

竈　北西壁の中央部を壁外へ29cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで150cm，両袖幅118cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第1・2・5～7層が崩落土層と考えられる。第3・8層は焼土粒子を多量に含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかに傾斜して立ち上がる。

竈土層解説
1　灰褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土中ブロック微量
2　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
3　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・灰微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子・砂粒・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子・粘土中ブロック微量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
7　極暗褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒微量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子・灰多量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
9　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，粘土小ブロック微量

ピット　15か所（Ｐ１～Ｐ15）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径52～68cmの円形で，深さ62～86cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は，径36cmの円形で，深さ51cmである。規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ１とＰ２の間に位置するＰ６は，径27cmの円形で，深さ18cmである。Ｐ３とＰ４の間に位置するＰ７は，長径46cm，短径27cmの楕円形で，深さ15cmである。Ｐ６・Ｐ７は，規模と配置から補助柱穴と考えられる。壁際にほぼ規則的に位置するＰ８～Ｐ15は，径26～42cmのほぼ円形で，深さ18～53cmである。規模と配置から壁柱穴と考えられる。そのなかで，Ｐ12とＰ13は，竈の両脇に位置し，竈と関連する可能性も考えられる。

Ｐ１土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
5　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
6　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

Ｐ２土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量

Ｐ３土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

Ｐ４土層解説

1　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
6　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

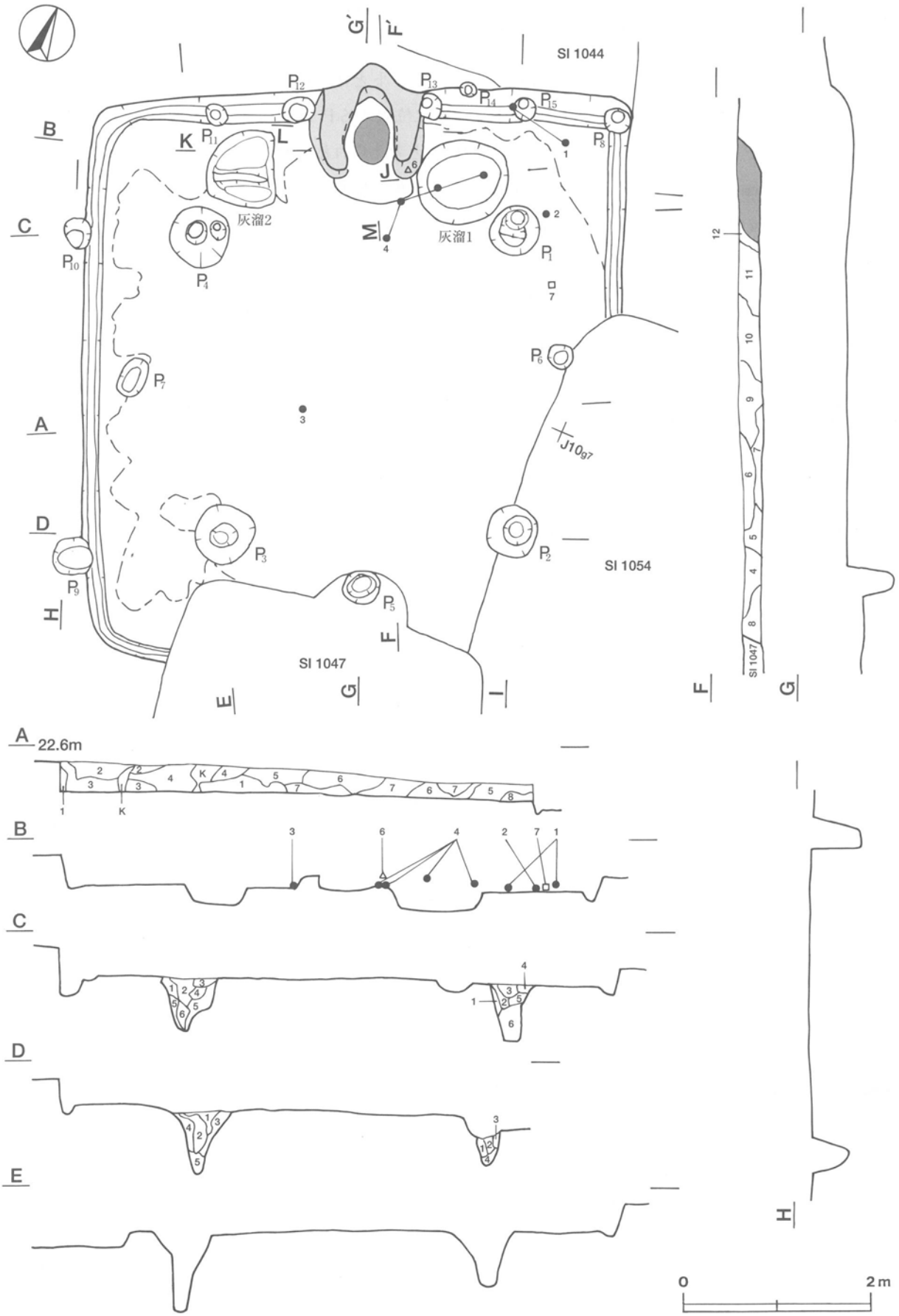
覆土　12層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

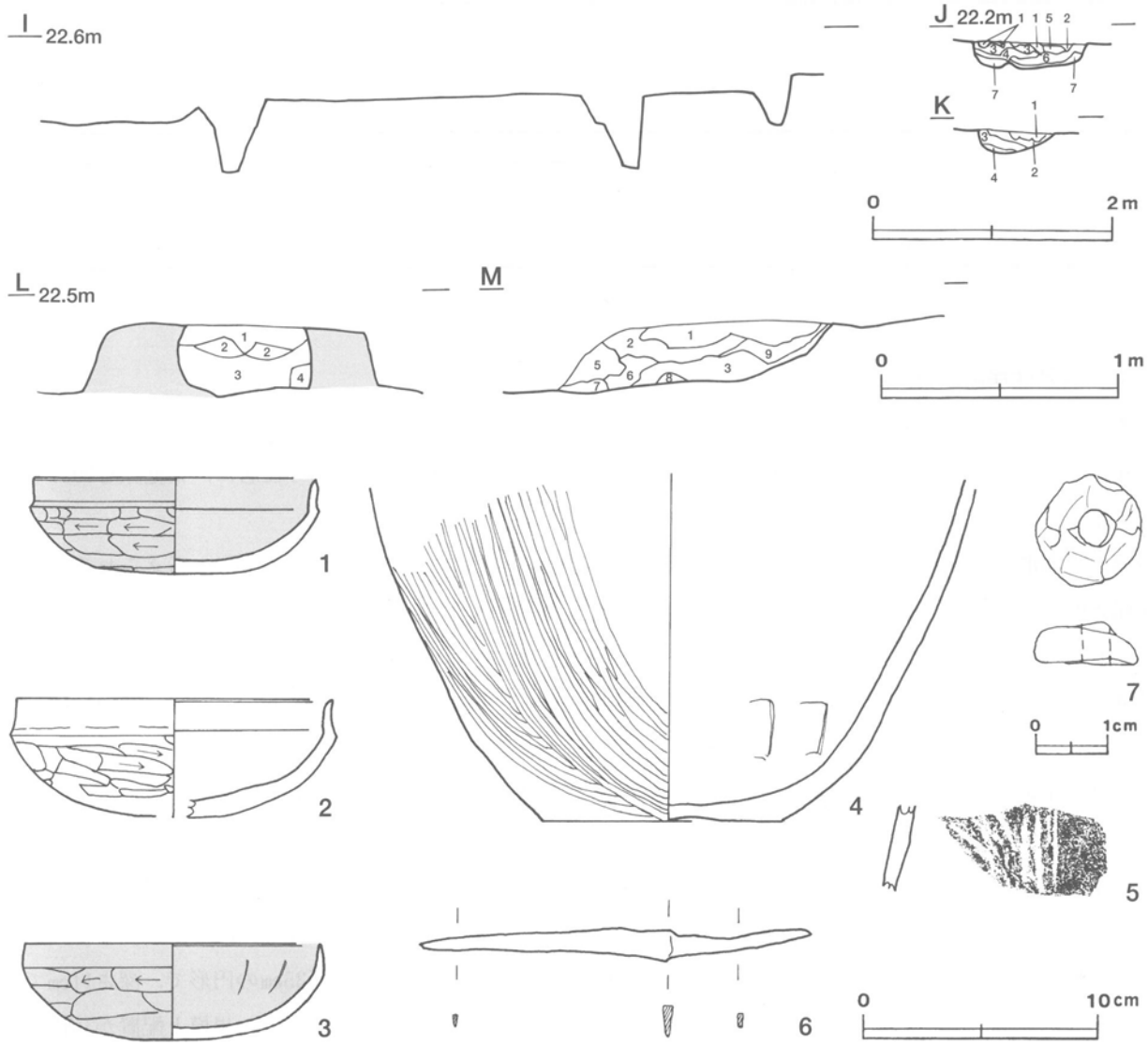
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・粘土小ブロック微量
3　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・粘土小ブロック微量
4　極暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック微量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
6　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・粘土中ブロック微量
7　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・粘土粒子微量
8　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
9　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
10　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
11　灰 褐 色　ローム粒子・粘土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
12　黒 褐 色　粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量，ローム粒子微量

遺物　土師器片856点，土製品１点（支脚），石製品１点（臼玉），鉄器１点（刀子），須恵器片４点が出土している。第91図の１～５はすべて土師器である。１の坏は，北コーナー部の北西壁際の覆土下層と北コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。２の坏は，北コーナー部の床面から破片で出土している。３の坏は，中央部やや南西寄りの床面から破片で出土している。４の甕は，北部から竈の南側にかけての覆土下層から，散在して出土した破片が接合したものである。５の甕片は，Ｐ１の覆土中から出土している。６の刀子は，焚口手前の覆土下層から出土している。７の臼玉は，東部の北東壁際の床面から出土している。支脚は，破損した小片である。須恵器片は，撹乱により混入したものである。

所見　本跡の時期は，出土土器から７世紀前半と考えられる。



第90図　第1040号住居跡実測図



第91図　第1040号住居跡・出土遺物実測図

第1040号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第91図 1	坏 土師器	A 12.2 B 4.1	体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P41245 95% PL209
2	坏 土師器	A [13.4] B (5.0)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P41246 45% PL209
3	坏 土師器	A 12.5 B 4.1	底部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 赤褐色，普通	P41247 60% PL209
4	甕 土師器	B (14.7) C 10.1	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部下位外面縦位と斜位のヘラ磨き。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 褐色 普通	P41248，30% PL209 外面剥離
5	甕 土師器	B (3.7)	体部の破片。	体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄褐色，普通	TP41017，5% 外面に砥石転用痕

図版番号	器種	計測値 全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)	材質	特徴	備考
第91図6	刀子	(16.6)	10.5	1.4	0.4	(6.1)	(12.7)	鉄	茎部一部欠損。棟区有り。	M41060 85% PL220

図版番号	器種	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	特徴	備考
第91図7	臼玉	1.5～1.6	0.6	0.4	1.7	滑石	扁平な円筒形，外面一部欠損。暗オリーブ灰色	Q41024 100% PL221

第1044号住居跡（第92～94図）

位置　調査4区の中央部，J10e5区。

重複関係　住居跡のほぼ北半分を第1045号住居に，南東コーナーの壁際を第1040号住居に，東壁際を1051号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　東西軸は5.86mで，南北軸は3.40mだけが確認された。方形または長方形と考えられる。

主軸方向　遺存する南壁と西壁から，N－1°－Wと推定される。

壁　確認された壁高は最大12cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南壁から西壁までの壁下を巡っており，上幅15～17cm，下幅6～11cm，深さ6～7cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。踏み固められているが，耕作による削平のため，硬化面はP3・P4の付近と南西部にわずかに遺存するだけである。

ピット　4か所（P1～P4）。南東コーナーからやや中央寄りに位置するP1は，径36cmの円形で，深さ65cmである。南西コーナーからやや中央寄りに位置するP2は，径31cmの円形で，深さ70cmである。P1・P2は，規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP3は，径35cmの円形で，深さ11cmである。P3の北側に位置するP4は，径36cmの円形で，深さ41cmである。P3・P4は，規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

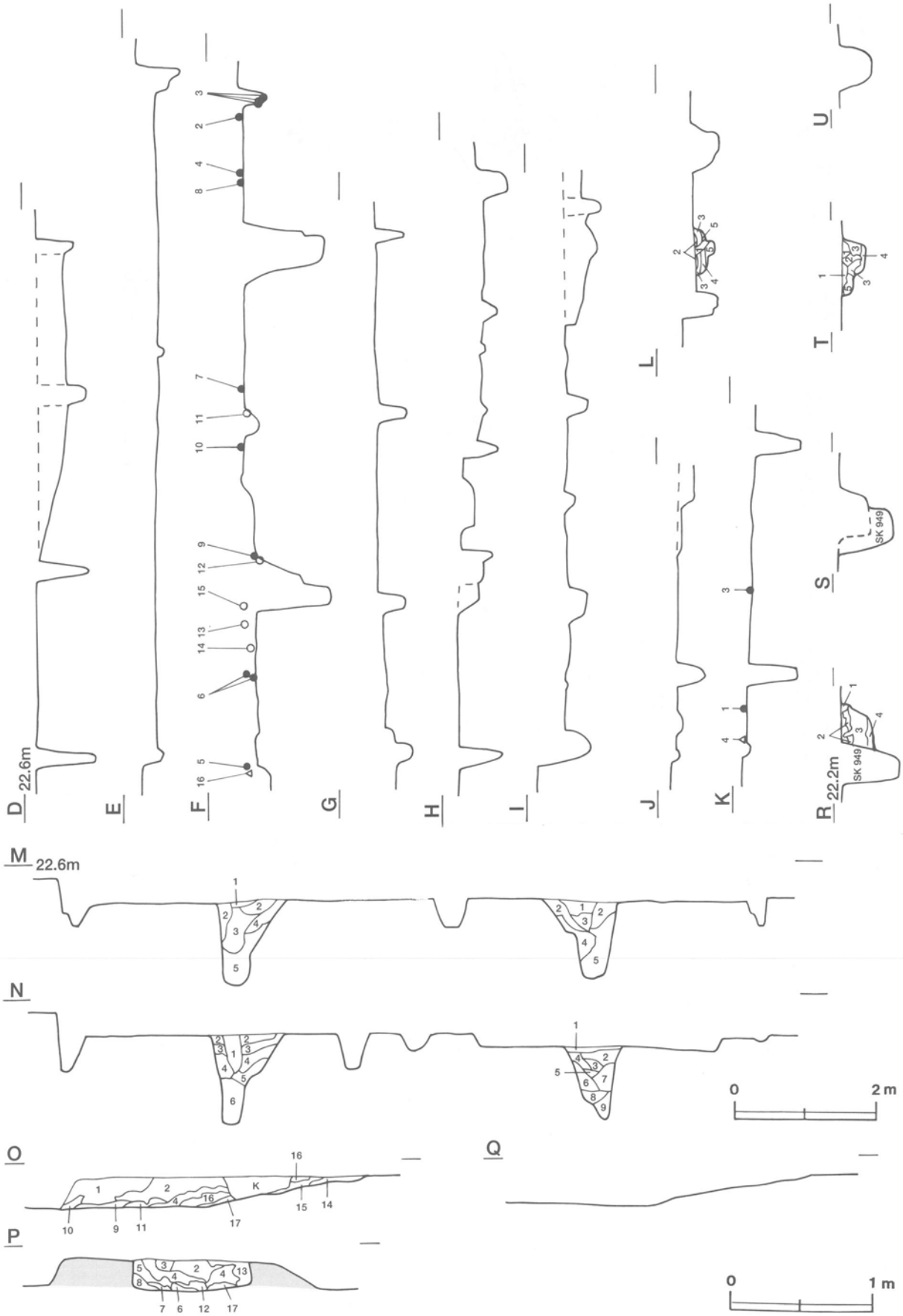
覆土　9層からなる。覆土が薄いものの，ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
3　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子微量
6　褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材微量
9　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

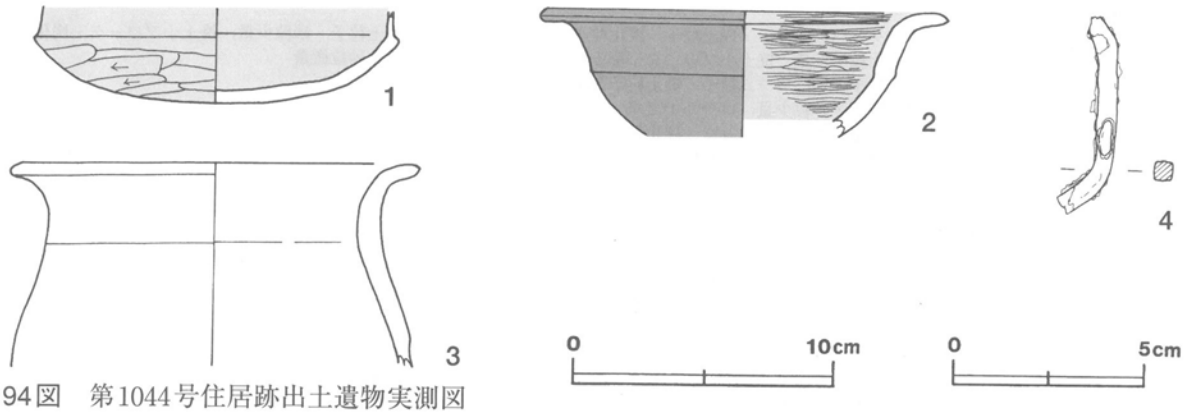
遺物　土師器片48点，不明鉄製品1点，須恵器片1点が出土している。第94図の1の土師器坏は，西壁際の床面から破片で出土している。2の土師器高坏と3の土師器甕は，中央部の床面から破片で出土している。4の鉄製品は，西壁際の床面から出土している。須恵器片は，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から6世紀後半と考えられる。

第92図　第1044・1045号住居跡実測図（1）



第93図　第1044・1045号住居跡実測図（2）



第94図　第1044号住居跡出土遺物実測図

第1044号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第94図 1	坏 土師器	B（3.8）	底部から口縁部にかけての破片。口縁端部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 橙色 普通	P41252 30% PL210
2	高坏 土師器	A［15.3］ B（5.0）	坏部体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部・体部外面ナデ。口縁部・体部内面横位のヘラ磨き。内面黒色処理。外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P41253 5%
3	甕 土師器	A［15.6］ B（8.1）	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P41254 10% 外面剥離

図版番号	器　種	計測値				材　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第94図4	不　明	(5.2)	0.5	0.5	(5.1)	鉄	端部欠損。棒状。釘又は紡錘の軸部の一部カ	M41026　PL220

第1045号住居跡（第92・93・95図）

位置　調査4区の中央部，J10c5区。

重複関係　第1044号住居跡を掘り込み，南東部を第1046号住居に，南東部の南壁際を第1051号住居に，南東コーナーから竈にかけてを第66号溝に，貯蔵穴の南側を第949号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸9.82m，短軸9.68mの方形である。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は6～35cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅16～25cm，下幅5～10cm，深さ5～8cmで，断面形はU字形である。

床　南東部を第1046号に床面を掘り込まれているものの，確認された床面は平坦であり，全体的によく踏み固められている。西壁下からP4とP11の間に延びる溝が，1条検出されている。溝は，長さ13.5cm，幅16cm，深さ4cmである。断面形は，U字形である。性格は不明である。

竈　北壁の中央部を壁外へ104cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで205cm，両袖部幅182cmである。火床面までは達していないものの，煙道部の上端をほぼ東西に第66号溝に掘り込まれている。天井部は崩落しており，その上部は耕作により削平されている。竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第1～5層が，崩落土層と考えられる。第6・7・17層が，焼土粒子を比較的多く含み赤変硬化していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　にぶい灰褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化材微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・粘土粒子・砂粒微量
3　灰　褐　色　砂粒中量，粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
5　灰　褐　色　砂粒・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・粘土粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
9　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量，炭化粒子・粘土粒子微量
10　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒微量
11　極 暗 赤 褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材・粘土粒子・砂粒微量
12　灰　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
13　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
14　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
15　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
16　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・炭化材・粘土粒子微量
17　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量

ピット　39か所（Ｐ１～Ｐ39)。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径98～118cmのほぼ円形で，深さ109～127cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は，長径68cm，短径50cmの楕円形で，深さ31cmである。Ｐ５の北側に位置するＰ６は，長径84cm，短径67cmの不整楕円形で，深さ41cmである。Ｐ５・Ｐ６は，規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ１とＰ２の間に位置するＰ７は，径69cmのほぼ円形で，深さ46cmである。Ｐ２とＰ３の間に位置するＰ８は，長径81cm，短径51cmの楕円形で，深さ51cmである。Ｐ３とＰ４の間に位置するＰ９とＰ10は，それぞれ長径52cmと81cm，短径35cmと55cmの楕円形で，深さ21cmと63cmである。Ｐ１とＰ４の間に位置するＰ11は，径67cmの円形で，深さ47cmである。中央部に位置するＰ12～Ｐ15は，径28～42cmのほぼ円形で，深さ18～40cmである。南東コーナー部に位置するＰ14，Ｐ３の南側に位置するＰ16，西壁際に位置するＰ17～19は，径19～38cmのほぼ円形で，深さ16～7cmである。Ｐ７～Ｐ19は，規模と配置から補助柱穴と考えられる。壁際にほぼ規則的に位置するＰ20～Ｐ39は，径または長径が19～56cmの円形または楕円形で，深さ16～51cmである。規模と配置からに壁柱穴と考えられる。Ｐ38とＰ39は竈の両脇に位置することから，竈に付随する柱穴の可能性も考えられる。

１・Ｐ４土層解説
1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量
3　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

Ｐ２・Ｐ３土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
5　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
7　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

Ｐ５土層解説
1　黒 褐 色　ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子多量

Ｐ６土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
5　褐　　色　ローム粒子多量

貯蔵穴　北東部の北壁際で検出された。南側およそ半分を第949号土坑に掘り込まれているものの，長軸100cm，短軸71cmの隅丸長方形で，深さ45cmである。断面形は，「∪」形である。

貯蔵穴土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒 褐 色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

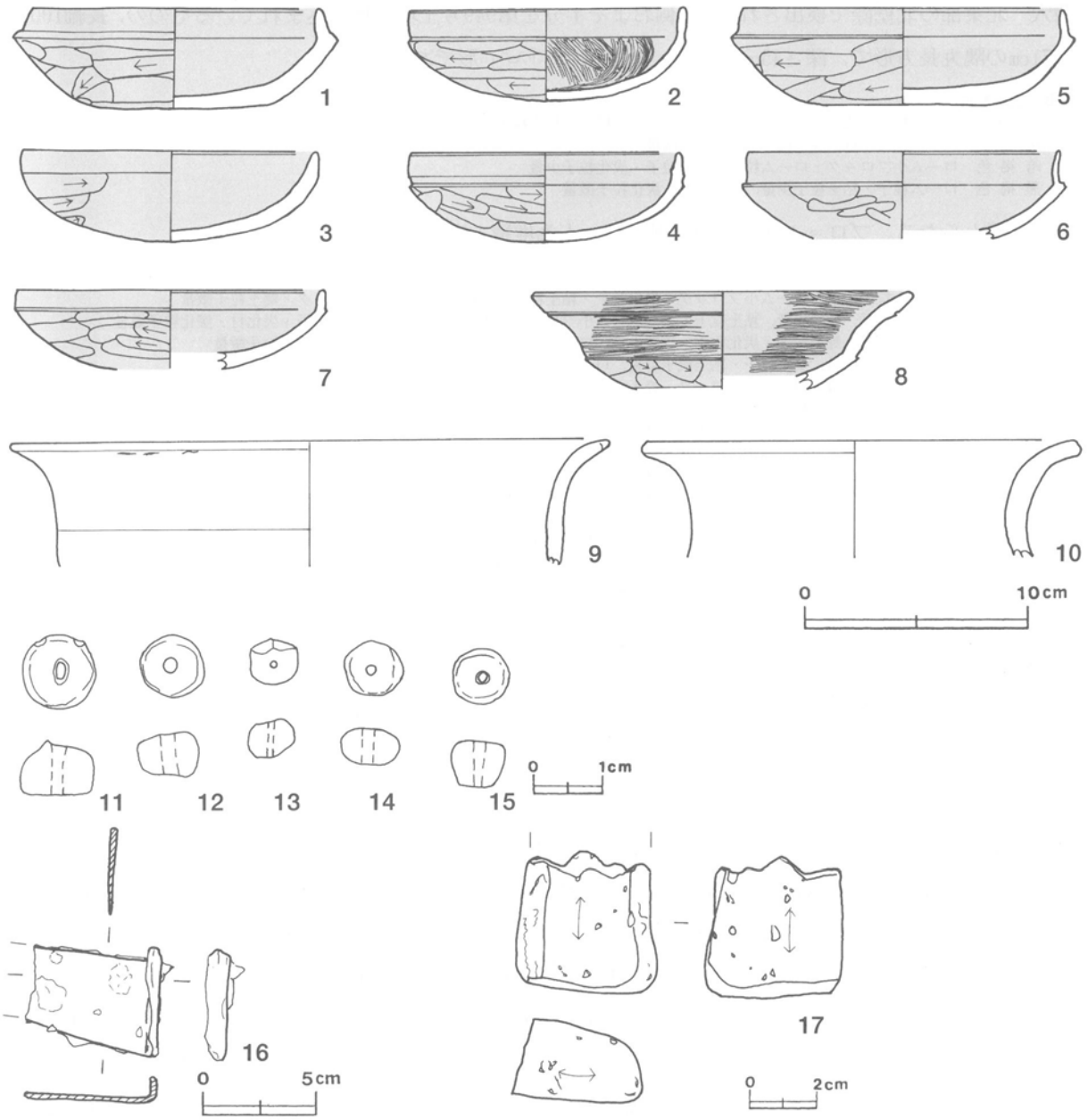
覆土　23層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子・砂粒中量，粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
3　にぶい褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
5　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
6　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
7　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
8　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
9　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
10　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
11　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
12　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
13　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　極暗褐色　ローム大ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
15　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
16　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
17　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
18　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
19　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
20　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
21　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
22　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
23　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物　土師器片1503点，須恵器片３点，土製品５点（土玉），鉄器１点（鎌片），石器１点（砥石），炭化種子２点が出土している。第95図の１～10は，すべて土師器である。１の坏は，南東部の覆土中層から破片で出土している。２の坏は，北西部の覆土下層から正位で出土している。３の坏は，北東部の北壁際の床面から出土した破片が接合したものである。４の坏は竈の前の覆土下層から，５の坏は南壁際の中央部の覆土下層から，６の坏はＰ５付近の床面から，７の坏は中央部の覆土下層から，８の高坏は北西部の覆土下層から，９と10の甕はＰ15の付近の覆土下層から，いずれも破片で出土している。11の土玉は，西壁際の中央部の床面から出土している。12の土玉は，南東部の東壁際の壁溝内から出土している。13～15の土玉は，南西部の覆土下層から出土している。16の鎌片は南壁際の覆土下層から出土している。17の砥石は，北東部の覆土中から出土している。出土している土器片の内訳は，坏片531点，高坏片15点，甕・甑片957点で，多くは細片である。須恵器片の１点は，外面にカキ目調整が施された提瓶の細片と考えられ，残りの２点は，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡は，４区の住居跡のなかで最も広い床面積を有する住居跡である。時期は，出土土器から６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる。



第95図　第1045号住居跡出土遺物実測図

第1045号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第95図 1	坏 土師器	A［13.0］ B　4.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ヘラナデ。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	P41255 60% PL210
2	坏 土師器	A［12.3］ B　4.2	体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，丁寧なヘラナデ。内面丁寧なヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	P41256 60% PL210
3	坏 土師器	A　13.2 B　3.9	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	P41257　40% PL210 外面剥離
4	坏 土師器	A［12.0］ B（4.0）	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 褐色 普通	P41258 25%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第95図 5	坏 土師器	A [14.4] B 4.2 C 7.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 褐色 普通	P41259 35% PL210
6	坏 土師器	A [13.9] B (3.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 良好	P41260 10%
7	坏 土師器	A [13.6] B (3.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 良好	P41261 10%
8	高坏 土師器	A [14.7] B (5.8)	坏部の破片。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。口縁部外面に1条の沈線を巡らしている。	口縁部内・外面，体部内面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 灰黄褐色 普通	P41262 10%
9	甕 土師器	A [26.4] B (5.6)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P41263 5%
10	甕 土師器	A [19.0] B (5.2)	頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄褐色 普通	P41264 5%

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第95図11	土玉	1.1	0.8	0.4	1.00	一部欠損。扁平な球体	細砂粒，黒褐色	DP41026 90%
12	土玉	0.9	0.7	0.2	0.60	扁平な球体。ナデ	細砂粒，黒褐色	DP41027 100% PL219
13	土玉	0.7	0.6	0.1	0.26	一部欠損。扁平な球体	細砂粒，にぶい黄褐色	DP41028 70% PL219
14	土玉	0.8	0.9	0.2	0.33	扁平な球体。磨き	細砂粒，黒褐色	DP41029 100% PL220
15	土玉	0.8	0.7	0.2	0.55	扁平な球体。磨き	細砂粒，黒褐色	DP41030 100% PL220

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	背幅(cm)	刃幅(cm)	重量(g)			
第95図16	鎌	(6.0)	0.3	4.0	(34.6)	鉄	着柄部から刃部にかけての破片	M41027 30% PL220

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第95図17	砥石	(4.1)	4.2	2.3	(56.4)	石英斑岩	破片。砥面3面	Q41032 30% PL222

第1048号住居跡（第96図）

位置　調査4区の中央部，J10h7区。

重複関係　南西部を第1033号住居に，西部から竈にかけてを第1039・1047号住居に，北部を第1054号住居に，東部を第1066号住居に，東部から南部の南東壁にかけて第3号柵列のP2～P4に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.70m，短軸5.52mの方形である。

主軸方向　N－24°－W

壁　確認された壁高は最大40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅12～20cm，下幅4～8cm，深さ5～7cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　北西壁の中央部に設けられていたものと考えられるが，第1039・1047号住居に掘り込まれており，わずかに遺存する粘土粒子と砂粒が確認できただけである。

ピット　8か所（P1～P8）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P4は，径56～72cmのほぼ円形で，深さ50～66cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南東壁際の中央部に位置するP5は，径42cmの円形で，深さ30cmである。規模と位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。北部の北東壁際に位置するP6は，長径22cm，短径14cmの楕円形で，深さ24cmである。北東壁際の中央部に位置するP7は，径32cmの円形で，深さ20cmである。南コーナー部に位置するP8は，径27cmの円形で，深さ23cmである。P6～P8は，規模と配置から補助柱穴と考えられる。

P1土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化材微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，粘土粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
7　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

P2土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
5　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化材微量
6　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
7　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

P3土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

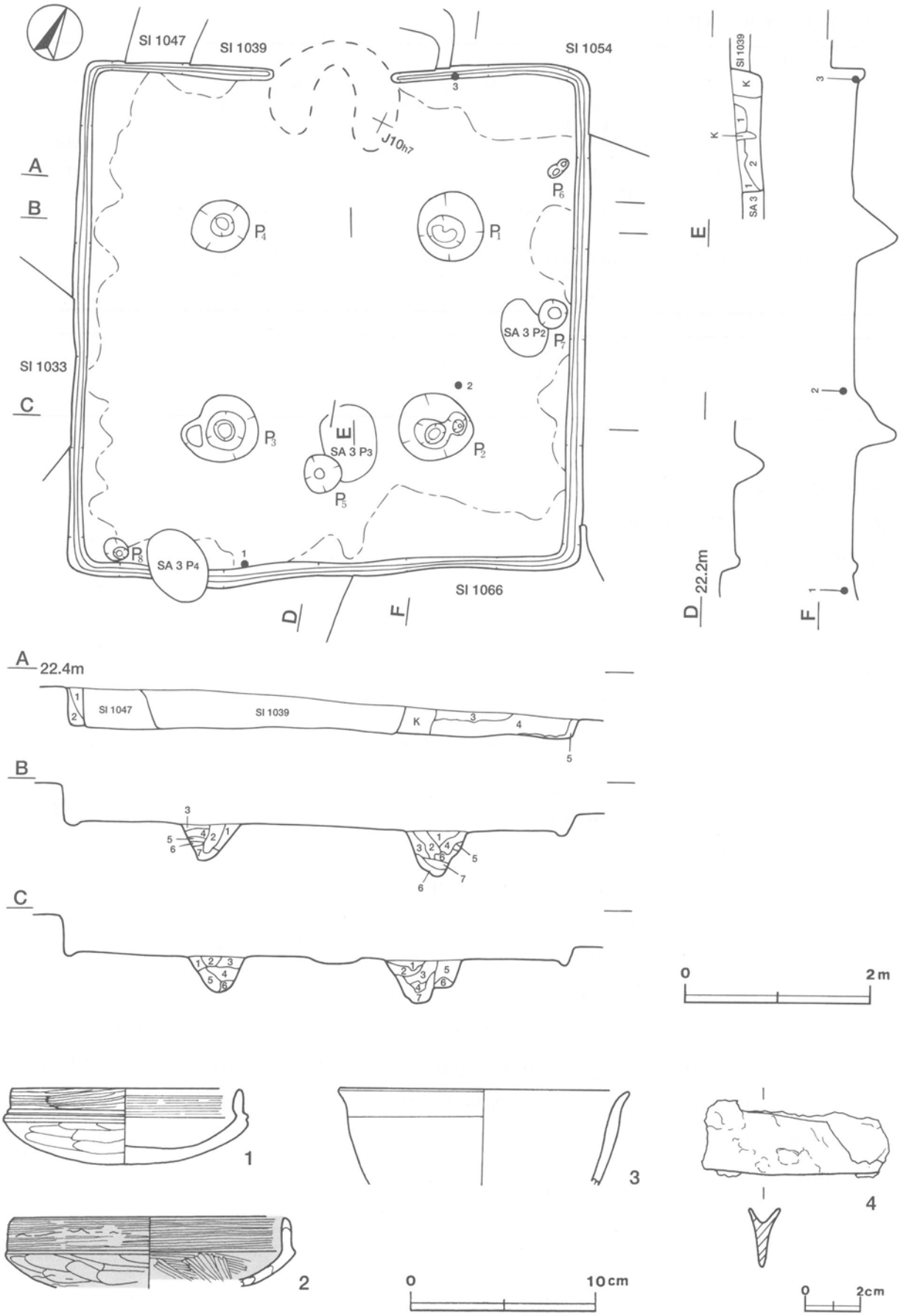
P4土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
7　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　重複関係が激しく，5層を確認しただけである。堆積状況は判断できない。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片159点，須恵器片1点，鉄器1点（鋤先）が出土している。第96図1の土師器坏は，南東壁際のほぼ中央部の床面から正位で出土している。2の土師器坏は，南部やや北東壁寄りの覆土下層から破片で出土している。3の土師器椀は，北部の北西壁際の床面から破片で出土している。4の鋤先は，西部の覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から6世紀後半と考えられる。



第96図　第1048号住居跡・出土遺物実測図

第1048号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第96図 1	坏 土師器	A 12.8 B 4.1	体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ナデ。	砂粒・赤色粒子 暗赤褐色 普通	P41273 70% PL210 外面剥離
2	坏 土師器	A [14.6] B (3.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面丁寧なヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒 黒褐色 普通	P41274 10%
3	椀 土師器	A [15.6] B (5.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P41275 10% 内・外面剥離

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	刃幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第96図4	鋤先	(6.8)	2.2	1.2	(22.9)	鉄	鋤先の破片。身（着装部）の差込式	M41033 30% PL220

第1049号住居跡（第97・98図）

位置　調査4区の中央部，J10d9区。

重複関係　南東部を第1053・1059号住居に，東部を第9号方形竪穴状遺構に，西部を第921号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.68m，短軸6.54mの方形である。

主軸方向　N－32°－W

壁　壁高は20～45cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北コーナー部を除き巡っている。規模は上幅15～28cm，下幅5～12cm，深さ約8cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。西部から北部にかけての床面から，焼土塊及び炭化材が散在した状態で検出された。

竈　2か所。竈1は北西壁の中央部に，竈2は竈1の南西側に隣接して付設されている。竈1は壁外に90cmほど掘り込んでいる。袖部や火床部は遺存しておらず，覆土中には，竈の構築材と思われる粘土粒子や砂粒を含む層や，焼土粒子や炭化粒子を含む層が見られた。竈2は壁外に90cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで150cm，両袖部幅125cmである。袖部内側は火熱を受け赤変している。天井部は崩落しており，土層断面図中，第11・12層が粘土粒子や砂粒を多く含むことから，崩落土層と考えられる。火床部は床面を13cmほど掘りくぼめた後，暗褐色土を貼り，造られている。火床面は，火熱を受け赤変硬化している。煙道は外傾して緩やかに立ち上がる。袖部の構築材には，焼土粒子や炭化粒子が含まれている。このことから，竈1を廃棄した後，竈2を付設したものと考えられる。

竈1土層解説

1　暗褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
4　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
5　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・炭化材少量
7　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
8　極暗褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
9　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
10　褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量

竈2土層解説

1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
2　黒　褐　色　炭化粒子多量，焼土粒子中量，炭化物少量
3　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
7　にぶい赤褐色　焼土粒子・灰中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子少量
9　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
10　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
11　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量
12　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒多量，粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
13　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
14　極暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
15　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
16　灰　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
17　灰　褐　色　粘土粒子多量，粘土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
18　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
19　にぶい赤褐色　粘土中ブロック・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
20　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
21　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
22　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
23　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
24　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
25　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
26　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　9か所（P1～P9）。P1～P4は各コーナーからやや中央部寄りに位置し，長径55～90cmの不定形で，深さ49～86cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5・P6は南東壁際の中央部に位置し，それぞれ径55cm・65cmの円形で，深さ34cm・45cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P7はP3とP4の中間に位置し，径30cmの円形で，深さ30cmである。位置的に補助柱穴と考えられる。P8・P9は，それぞれ30cmと34cmの円形で，深さ30cmと54cmである。性格は不明である。

貯蔵穴　竈と北東壁の中間で確認された。長軸112cm，短軸95cmの長方形で，底部は2段になっており，南西部は深さ45cmで，北東部は深さ53cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

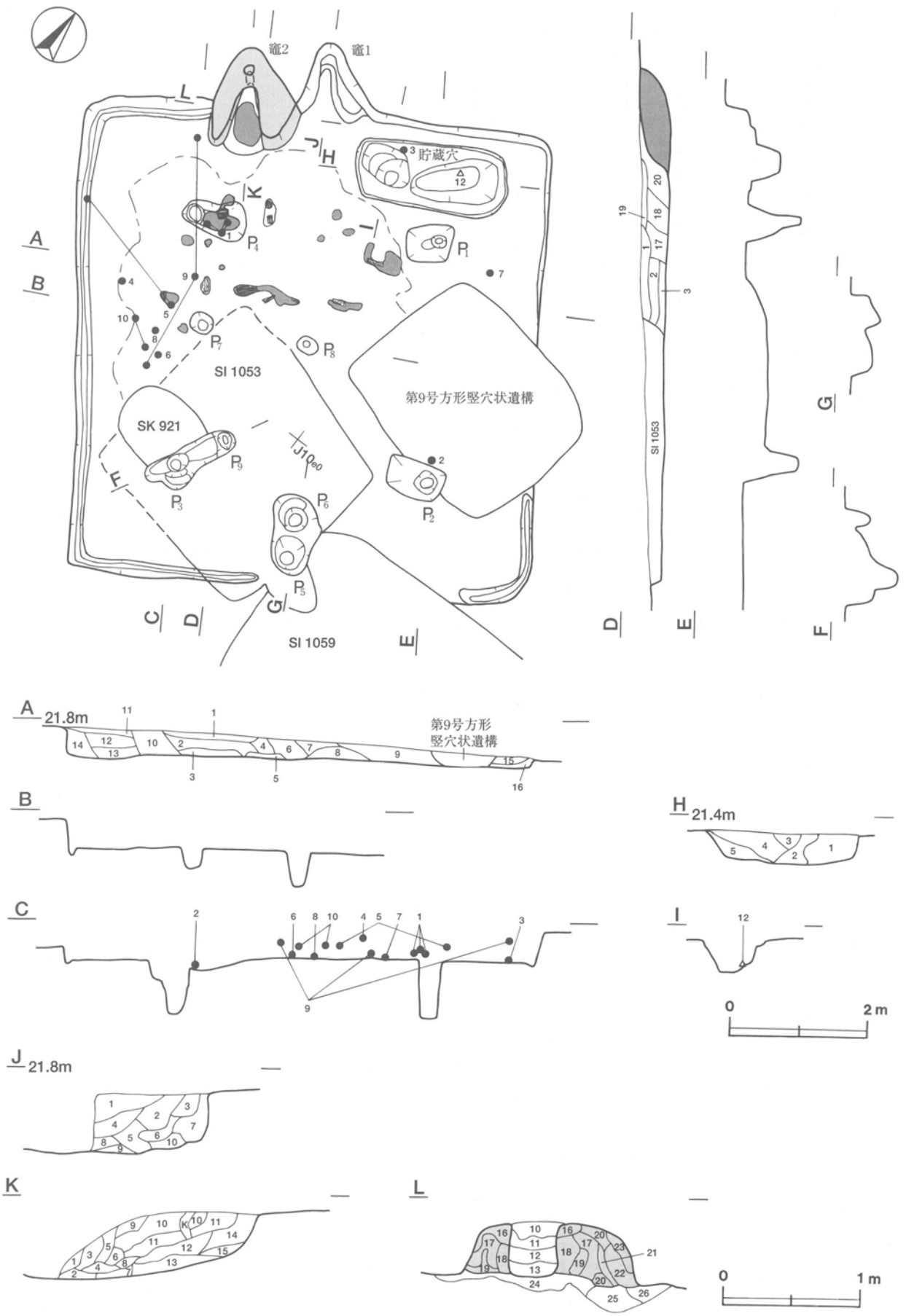
貯蔵穴土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
4　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量，炭化物微量
5　極暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量

覆土　20層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

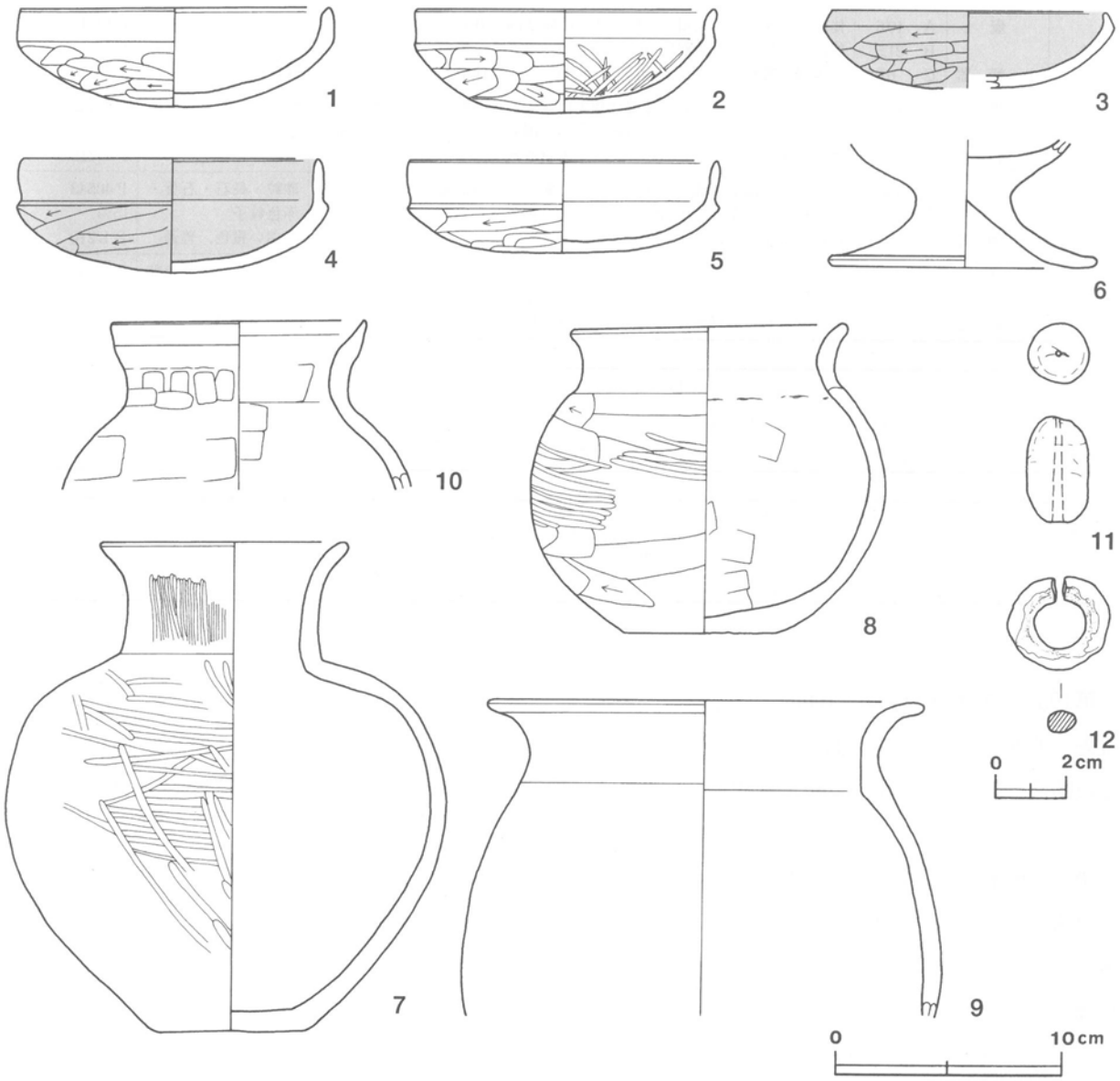
1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
3　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
4　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化物少量
6　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
7　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
8　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
9　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
10　黒　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
11　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
12　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
14　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
15　黒　褐　色　ローム粒子少量
16　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
17　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量
18　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量
19　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量
20　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量



第97図　第1049号住居跡実測図

遺物　土師器片2038点，土製品１点（管状土錘），銅製品１点（耳環），撹乱により混入したとみられる須恵器片20点が出土している。第98図に示した土器はすべて土師器である。１の坏は，中央部の覆土下層から出土した数片が接合したものである。２の坏は南東部の床面から正位で，３の坏は北東部の床面から正位で，４の坏は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。５の坏は，西壁際の覆土中層と中央部やや西寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。６の高坏は西部の床面から正位で，７の壺は北東部の覆土下層から逆位で，８の甕は西部の覆土下層から横位でそれぞれ出土している。９の甕は，竈正面の覆土中層と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。10の甕は，西部の覆土中層から出土した数片が接合したものである。11の管状土錘は，竈の覆土中から出土している。12の耳環は，貯蔵穴の覆土下層から出土している。

所見　本跡は，床面及び覆土下層から焼土塊及び炭化材が確認されていることから，焼失住居と考えられる。また，出土土器の大部分が，覆土中層や上層から出土しており，焼失後に投棄されたものと考えられる。時期は，出土土器から６世紀後半と考えられる。



第98図　第1049号住居跡出土遺物実測図

第1049号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第98図 1	坏 土師器	A 13.4 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P40535 95% PL210
2	坏 土師器	A [13.0] B 4.5	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色，普通	P40536 40% PL210
3	坏 土師器	A [12.0] B (3.4)	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい黄橙色 普通	P40537 40% PL210
4	坏 土師器	A [12.8] B 5.0	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P40538 50% PL210
5	坏 土師器	A [13.4] B 4.0	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P40539 50% PL210
6	高坏 土師器	B (5.5) D [11.8]	脚部から坏部の破片。脚部はラッパ状で，裾部でさらに広がる。坏部は外傾して立ち上がる。	内・外面共に摩滅が激しく調整不明。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色，普通	P40540 40% PL210
7	壺 土師器	A 10.6 B 21.5 C 6.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は球形を呈し，頸部は直立し，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部縦位のヘラ磨き。体部外面丁寧なヘラ磨き。内面横位のナデ。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 浅黄橙色，普通	P40541 95% PL210
8	甕 土師器	A 11.7 B 13.5 C 6.6	口縁部一部欠損。平底。体部は球形を呈し，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。内面輪積み痕を残すヘラナデ。	砂粒・長石・赤色粒子 橙色，普通	P40542 95% PL210
9	甕 土師器	A [18.6] B (13.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40543 15% PL210
10	甕 土師器	A 11.0 B (5.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り後，ナデ。頸部内面及び体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色，普通	P40544 20% PL211

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第98図11	管状土錘	1.3	3.1	0.3	8.1	円筒状，両端はややすぼまる。	砂粒・雲母，にぶい褐色	DP40504 PL220

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第98図12	耳環	2.6	2.9	0.7	15.9	金銅	環状で開口部を設けている。	M40501 PL221

第1051号住居跡（第99・100図）

位置　調査4区の中央部，J10e7区。

重複関係　第1044・1045・1067号住居跡を掘り込み，南部を第1035号住居に，煙道部の端部を第1046号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.76m，短軸4.40mの方形である。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は13～31cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅15～23cm，下幅4～8cm，深さ5～8cmで，断面形はU字形である。

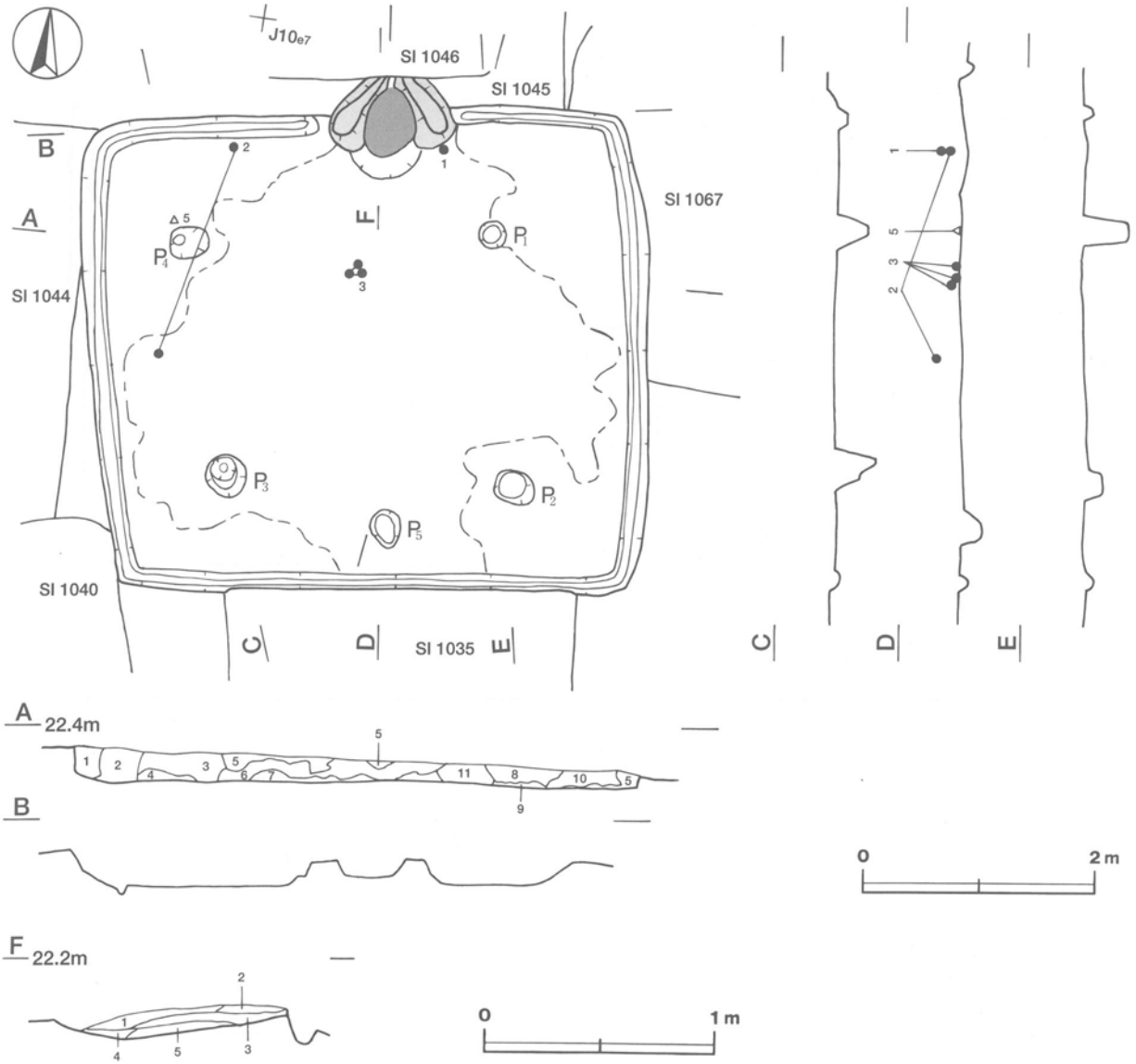
床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。規模は，両袖部幅が107㎝で，焚口部から煙道部までの長さは煙道部の端部を第1046号住居に掘り込まれているため確認できるだけで88㎝である。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第１～３層が崩落土層と考えられる。第５層は，焼土粒子を比較的多く含み赤変硬化していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック微量
2　暗赤褐色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・粘土粒子微量
4　暗赤褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・粘土粒子微量
5　赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量，砂粒微量

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径25～33㎝の円形で，深さ18～39㎝である。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は，長径33㎝，短径26㎝の楕円形で，深さ20㎝である。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。



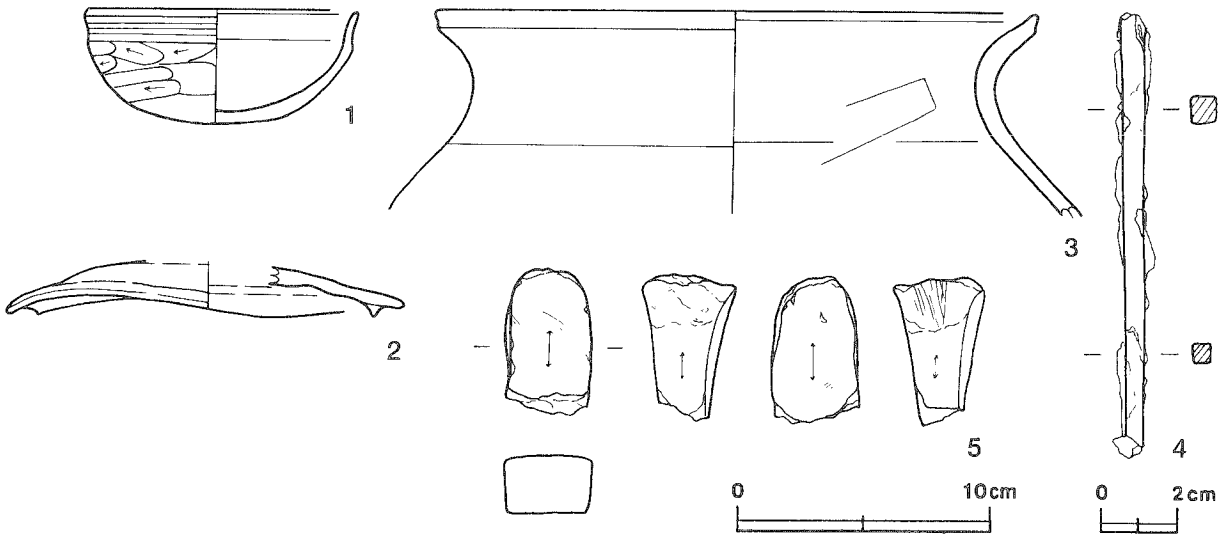
第99図　第1051号住居跡実測図

覆土　11層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化材微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
5　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材微量
8　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材微量
11　暗 褐 色　ローム粒子・粘土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片620点，須恵器片33点，石器1点（砥石），鉄製品2点（釘，不明）が出土している。第100図1の土師器坏は，竈東袖端部前の覆土下層から正位で出土している。2の須恵器蓋は，北西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。3の土師器甕片は，中央部の覆土下層から出土している。4の釘は，北西部の覆土下層から出土している。5の砥石は，南西部の覆土中から出土している。出土している土師器片のほとんどは甕の体部細片で，本跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から7世紀後葉から8世紀初頭と考えられる。



第100図　第1051号住居跡出土遺物実測図

第1051号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第100図 1	坏 土師器	A [10.8] B 4.5	底部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P41276 60% PL211
2	蓋 須恵器	A [15.9] B (2.2)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で，口縁部内面には明瞭なかえりがつく。全体的にゆがんでいる。	天井部外面回転ヘラ削り。外周部・口縁部の内・外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・長石 灰褐色 普通	P41278 50% PL210
3	甕 土師器	A [24.4] B [8.0]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 赤褐色 普通	P41277 10%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第100図4	釘	(11.8)	0.5～0.9	0.5～0.9	(24.5)	鉄	両端部欠損。断面方形	M41034 80% PL221

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第100図5	砥石	(5.8)	3.5	2.4	(81.7)	凝灰岩	砥面4面，中央部が薄くなっている。	Q41033 40% PL222

第1054号住居跡（第101図）

位置　調査4区の中央部，J10g7区。

重複関係　第1040・1048号住居跡を掘り込み，全体的に第1031号住居に，北部を第1035号住居に，南西コーナー部を第1047号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.34m，短軸4.72mの長方形である。

主軸方向　N－86°－E

壁　壁高は最大22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅17～25cm，下幅6～9cm，深さ6～7cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　煙道端部を残し，第1031号住居に掘り込まれているが，東壁の中央部を壁外へ14cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されていた。規模は，火床面と考えられる焼土の広がりとわずかに遺存する袖部の痕跡から，焚口部から煙道部まで98cm，両袖部幅94cmと推定される。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

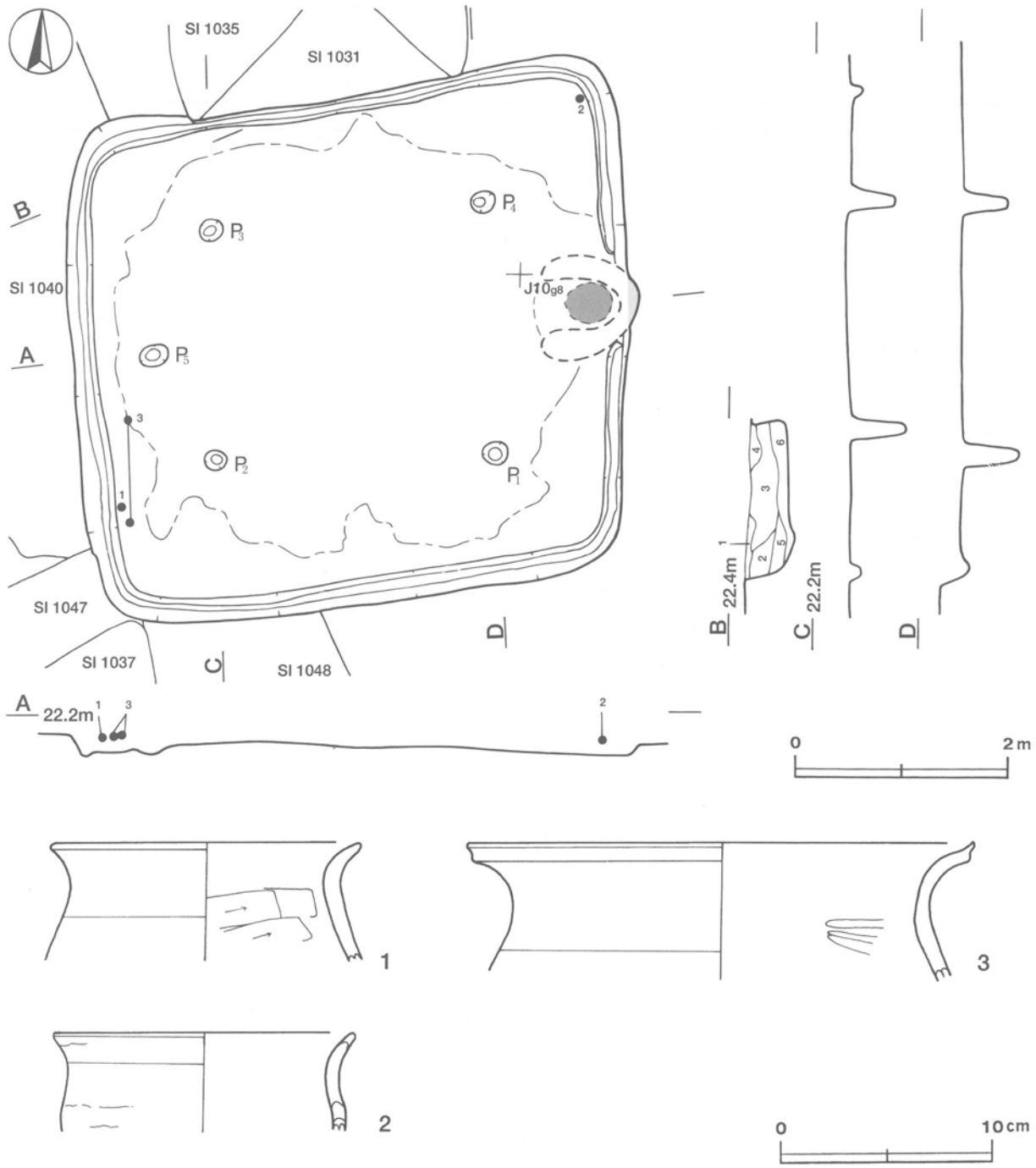
ピット　5か所（P1～P5）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P4は，径20～24cmの円形で，深さ42～51cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。西壁際の中央部に位置するP5は，長径28cm，短径16cmの楕円形で，深さ7cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　全体的に第1031号住居に掘り込まれているため，覆土の一部の堆積状況を確認しただけである。6層からなる。含有物の特徴とブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片375点，須恵器片23点が出土している。第101図1と3の土師器甕は，南西部の西壁の覆土下層から破片で出土している。2の土師器甕は，北東コーナー部の覆土下層から破片で出土している。出土している土器片の多くは，細片であり図示困難である。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から7世紀後半と考えられる。



第101図　第1054号住居跡・出土遺物実測図

第1054号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第101図 1	甕 土師器	A [14.2] B (5.8)	頸部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ナデ，内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P41289 5%
2	甕 土師器	A [14.2] B (4.6)	頸部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P41290 10%
3	甕 土師器	A [23.6] B (6.5)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部はくびれ，口縁部は外反する。端部は外上方へつまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ナデ，内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色，普通	P41291 5%

第1055号住居跡（第102・103図）

位置　調査４区の北部，H10e8区。

重複関係　北壁中央部を第962号土坑に，南部を第963号土坑に，南東部から北東部にかけてを第60号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　南東部から北東部にかけて第60号溝に掘り込まれているために，全容は不明である。南北軸は4.06m，確認できた東西軸は3.80mである。第60号溝の東側に住居の広がりが確認できないことや主柱穴と考えられるピット４か所が検出されていることから，ほぼ前述規模の方形と推定される。

主軸方向　N－7°－W

壁　東壁は，第60号溝に掘り込まれているために，確認できなかった。それ以外の壁高は４～28cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁際を巡っていることから，全周していたと推定される。上幅11～17cm，下幅６～９cm，深さ４～10cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き，よく踏み固められている。

竈　北壁際西寄りの床面から粘土粒子や砂粒の広がりが確認されていることから，第962号土坑に掘り込まれている北壁の中央部に構築されていたと推定される。

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は径51～60cmのほぼ円形で，深さ50～59cmである。Ｐ３は南西コーナー寄りに，Ｐ４は北西コーナー寄りに位置し，Ｐ１・Ｐ２もそれぞれＰ３・Ｐ４と対角の位置にあることから，主柱穴と考えられる。Ｐ５は長径49cm，短径39cmの楕円形，深さ30cmで，南壁の壁際に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

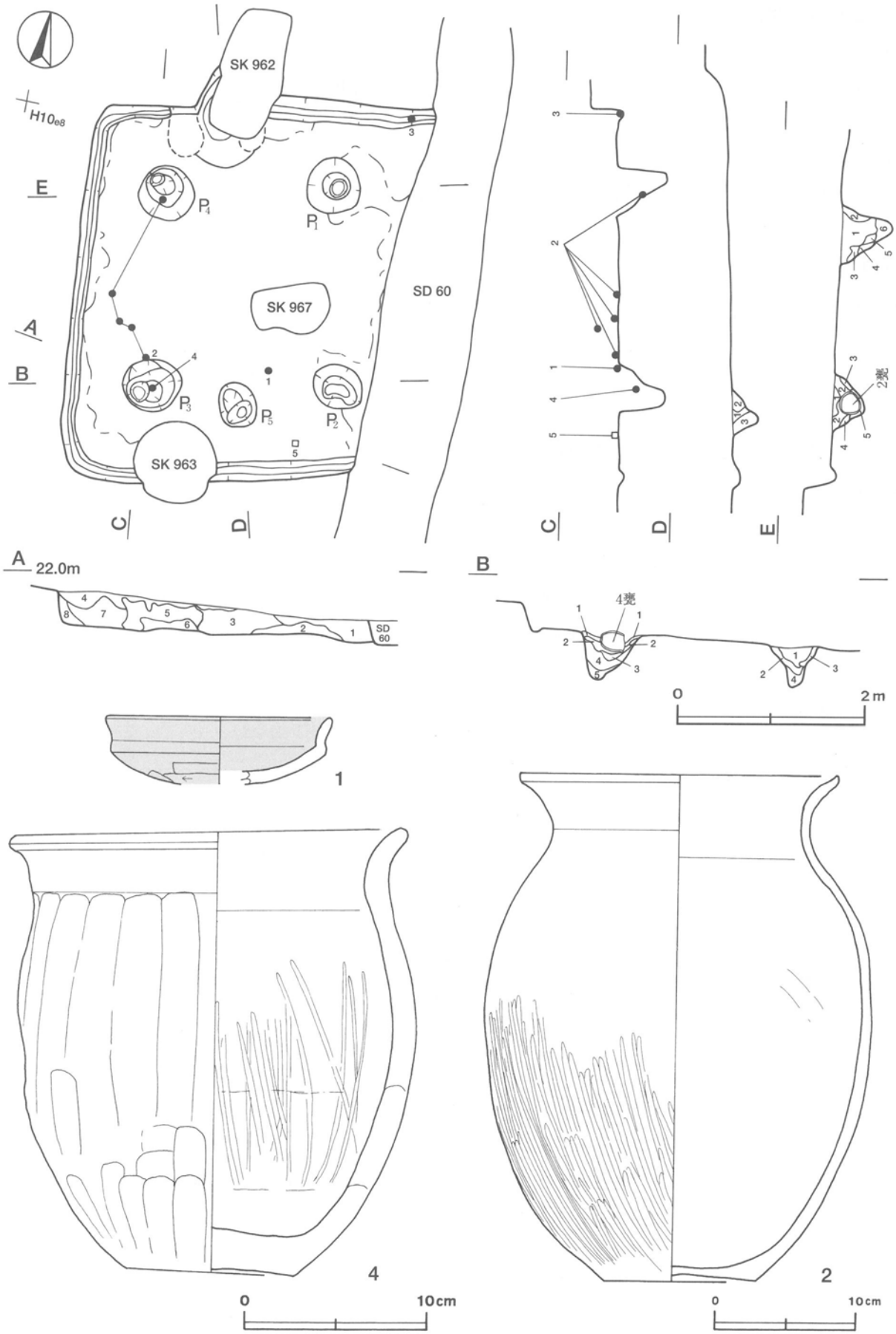
ピット土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

覆土　８層からなる。ロームブロックを含み，ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

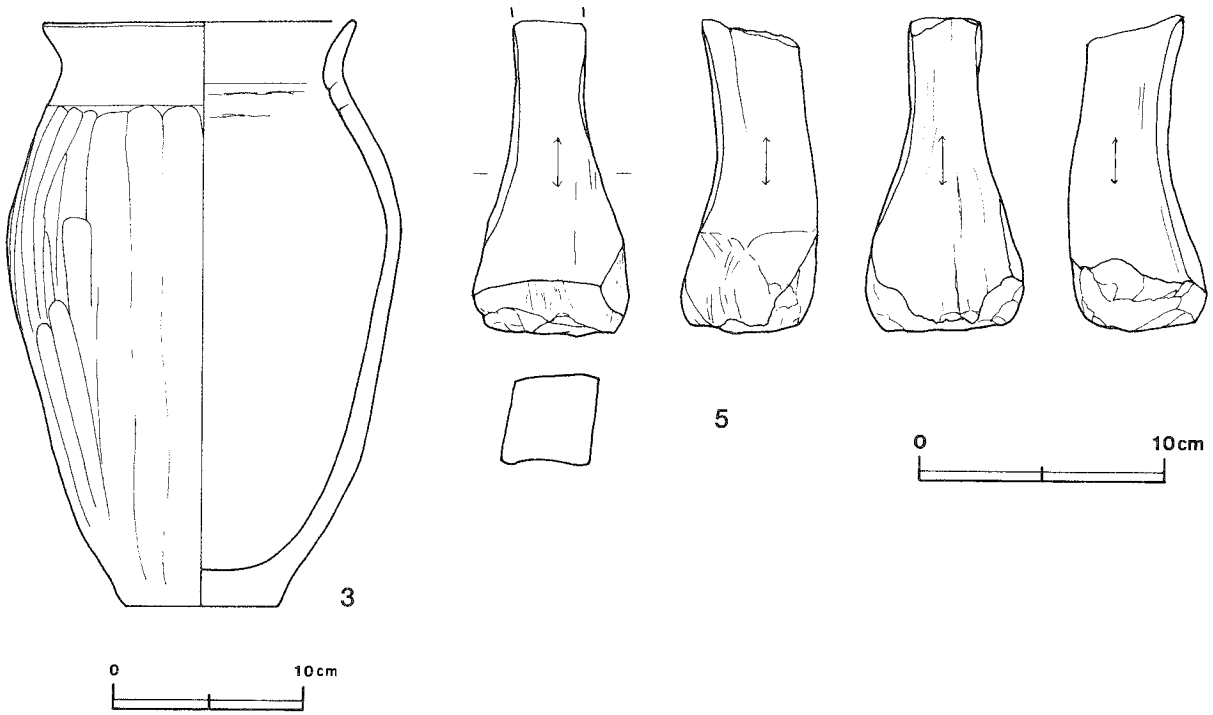
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
6　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
8　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

遺物　土師器片233点，石器１点（砥石），炭化米５点，炭化種子１点，撹乱により混入した須恵器片18点，陶器片１点が出土している。図示した遺物は，床面やピット内から出土したものであり，本跡に伴うものと考えられる。第102・103図１の土師器坏片は，南部の床面から出土している。２の土師器甕は，Ｐ４内の覆土中層と西部の床面から出土した破片が接合したものである。３は完形の土師器甕で，北壁際の床面から横位で出土している。４はほぼ完形の土師器甕で，Ｐ３内の覆土中層から横位で出土している。５の砥石は南壁際の床面から出土している。炭化米は３の甕の中から，山桃の一種と考えられる炭化種子は４の甕の中から出土している。

所見　柱穴からほぼ完形の土師器甕が出土していることから，住居廃絶時に柱材を抜き取る行為が行われていたことが想定される。時期は，出土土器から，７世紀前半と考えられる。



第102図　第1055号住居跡・出土遺物実測図



第103図　第1055号住居跡出土遺物実測図

第1055号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第102図 1	坏 土師器	A [12.0] B (3.6)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り,内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 灰褐色 普通	P40007 10%
2	甕 土師器	A 23.0 B 36.2 C 10.9	体部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈し，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面上半ヘラナデ，下半縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色，普通	P40008 90% PL211
第103図 3	甕 土師器	A 16.6 B 31.2 C 8.0	体部・口縁部一部欠損。体部は倒卵形を呈し，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，内面ヘラナデ。頸部内面に輪積み痕を残す。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P40009 90% PL211
第102図 4	甕 土師器	A 21.2 B 24.0 C 9.0	体部・口縁部一部欠損。体部は倒卵形を呈し，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，内面ナデ後，一部縦位のヘラ磨き。内面に輪積み痕を残す。	砂粒・雲母・石英 にぶい赤褐色 普通	P40010 70% PL211

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第103図5	砥石	(12.5)	6.4	5.4	(440.5)	凝灰岩	研面4面。一方が極端に薄く，砥面は扇状。	Q40003　PL222

第1061号住居跡（第104・105図）

位置　調査4区の中央部，J10f0区。

重複関係　南西部で第1176号住居跡を掘り込み，北部を第1059号住居に，中央部から南西部を第1060号住居に，南東部を第1075号住居に，北東コーナー部を第13号方形竪穴状遺構に，北西コーナー部を第12号方形竪穴状遺構に，竈東側を第951号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.60m，短軸5.18mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は9～41cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。規模は上幅20～28cm，下幅5～10cm，深さ約6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。

竈　北壁の中央部を壁外に35cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。一部，第1059号住居に掘り込まれているため，遺存状況は良くない。規模は，焚口部から煙道部まで120cm，両袖部幅85cmである。土層断面図中，第5・6層は焼土小ブロックや焼土粒子を含み，下面が赤変していることから，下面が火床面と考えられる。煙道は，外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　極暗褐色　ローム粒子・粘土粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
4　灰　褐　色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　赤　褐　色　焼土粒子多量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
9　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量
10　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量
11　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナーから中央部寄りに位置し，径45～65cmのほぼ円形で，深さ24～45cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部に位置し，長径50cm，短径37cmの楕円形で，深さ22cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

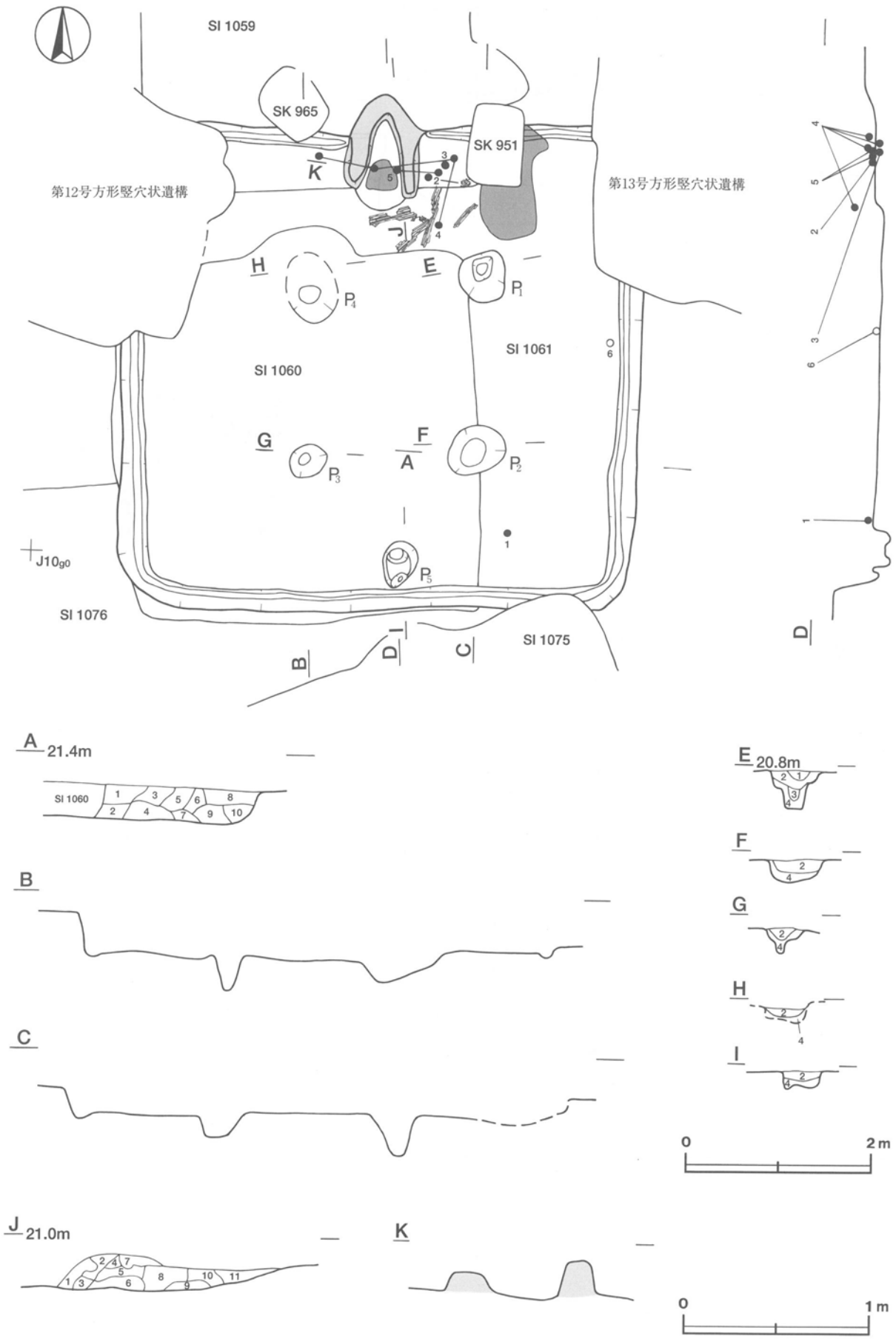
P1～P5土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量

覆土　10層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。覆土中層から焼土ブロック及び炭化材が検出された。出土地点が竈東袖部の正面から北東コーナー部に集中しており，本跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。

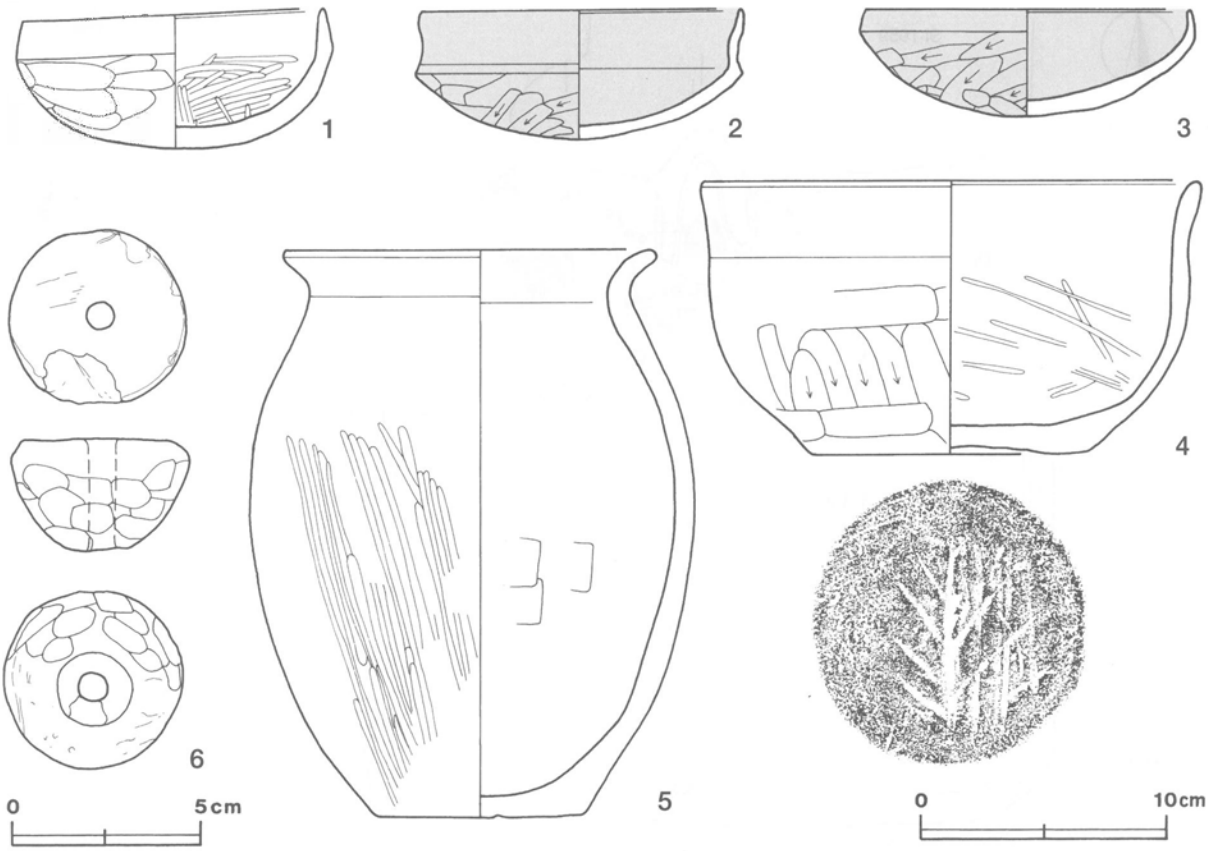
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
7　褐　　色　ローム粒子多量
8　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
9　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
10　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片457点，須恵器片5点，石製品1点（紡錘車）が出土している。第105図の1～5は土師器である。1の坏は，南東部の床面から正位で出土している。2の坏と3の坏は，いずれも竈東側の覆土下層から正位で出土している。4の鉢は，竈正面の覆土上層と竈東側の覆土下層から出土した破片が接合したものである。5の甕は，竈内の覆土上層から出土した破片が接合したものである。6の紡錘車は，東壁際の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から6世紀後半と考えられる。



第104図　第1061号住居跡実測図



第105図　第1061号住居跡出土遺物実測図

第1061号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第105図 1	坏 土師器	A 12.2 B 5.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面丁寧なヘラ磨き。	砂粒・石英 浅黄橙色 普通	P40567 95% PL211
2	坏 土師器	A 12.9 B 5.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P40568 90% PL211
3	坏 土師器	A 13.1 B 4.2	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P40569 85% PL211
4	鉢 土師器	A 20.0 B 10.8 C 11.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り後，横位のヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部木葉痕。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P40570 70% PL211
5	甕 土師器	A [14.7] B 22.5 C 8.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色，普通	P40571 45% PL211

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第105図6	紡錘車	4.8	3.0	0.8	58.5	土製	断面逆台形。外面ヘラ削り。	砂粒・長石・石英，橙色	DP40505 98% PL222

第1063号住居跡（第106・107図）

位置　調査４区の中央部，J10h9区。

重複関係　第1076号住居跡を掘り込み，北西部を第1062号住居に，南東部を第60号掘立柱建物のＰ７に，南西コーナーの壁を第28号井戸に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.64m，短軸5.12mの方形である。

主軸方向　N－４°－W

壁　壁高は16～60cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅13～19cm，下幅５～７cm，深さ４～７cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部から竈の前にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ43cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで121cm，両袖部幅123cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第１～６層が，崩落土層と考えられる。第17・18層が焼土粒子・灰を比較的多く含み，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。火床面直上からは，土製支脚が横位で出土している。

竈土層解説

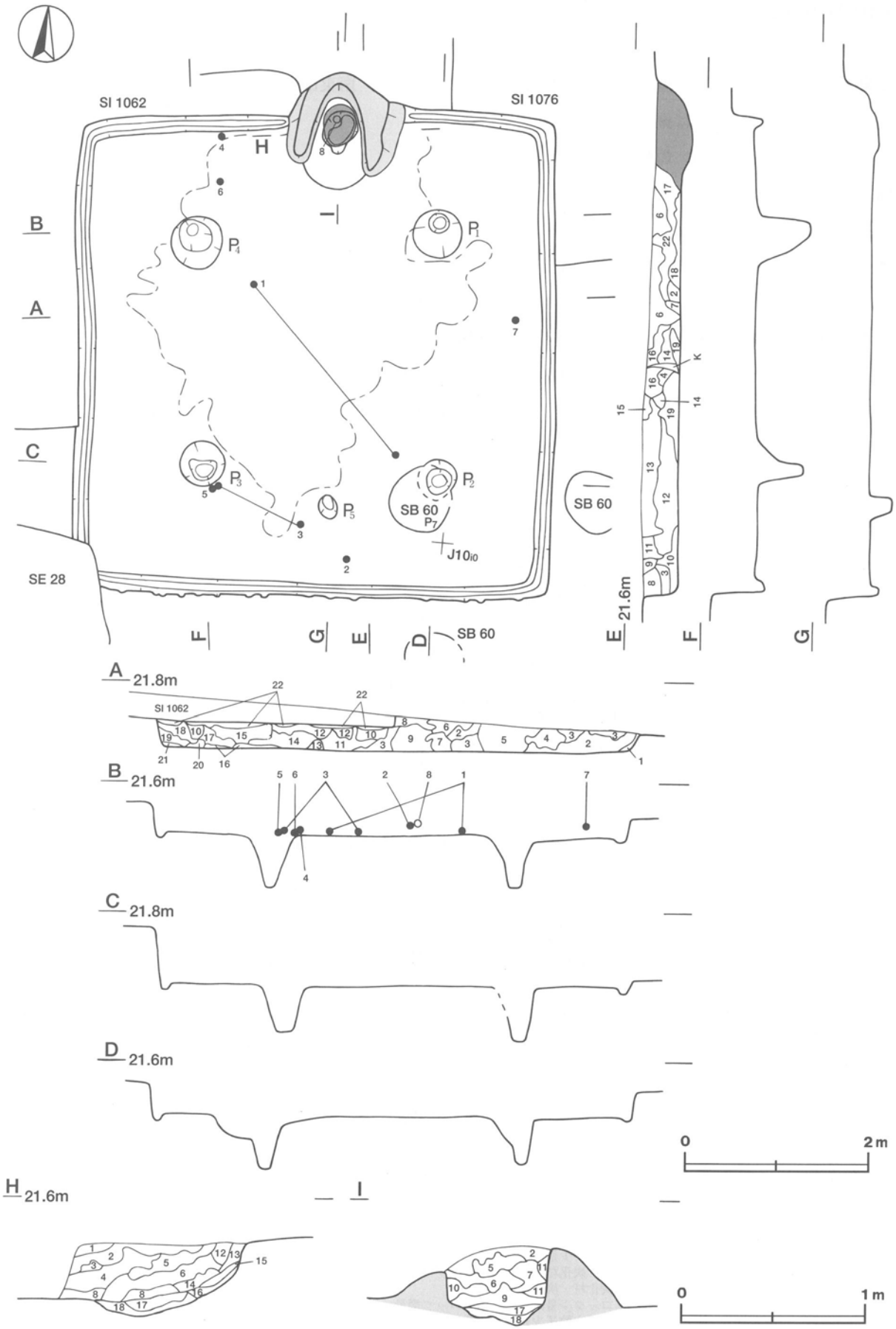
1	暗　褐　色	ローム中ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3	灰　褐　色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
4	極暗褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
5	にぶい褐色	粘土粒子中量，粘土小ブロック・砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
7	極暗褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，砂粒微量
9	暗赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化物・粘土小ブロック微量
10	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
11	暗赤褐色	焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量，粘土粒子微量
12	褐　　色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13	黒　褐　色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
14	灰　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，粘土小ブロック微量
15	極暗褐色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
16	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・炭化材微量
17	明褐灰色	灰多量，貝殻片微量
18	暗赤灰褐色	焼土粒子・灰中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径39～55cmの円形で，深さ53～63cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は，長径26cm，短径18cmの楕円形で，深さ28cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　22層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

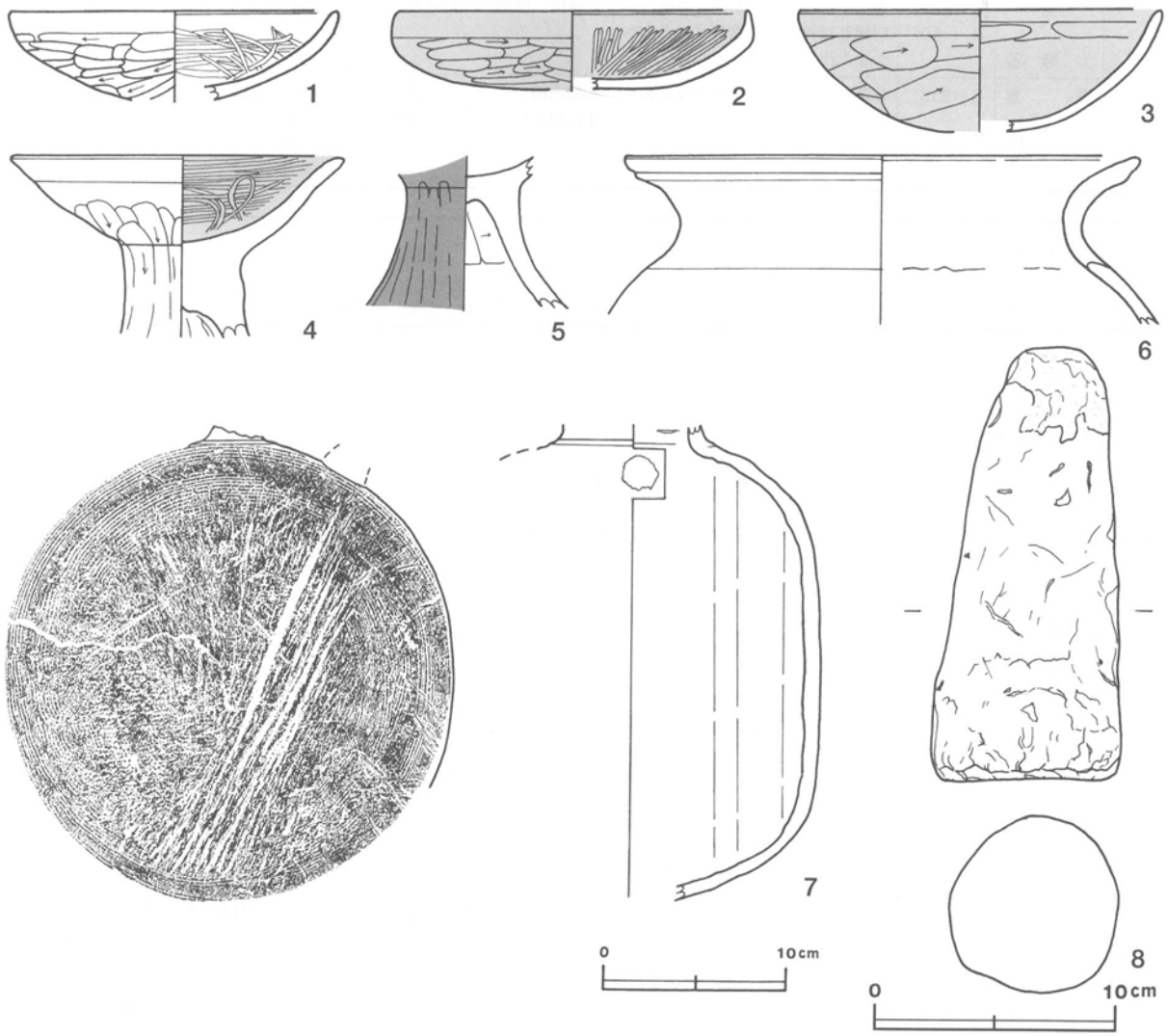
1	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
2	黒褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
9	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子・粘土小ブロック微量
11	黒褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土小ブロック微量
12	黒褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
13	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
14	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土粒子微量
15	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
16	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
17	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
18	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
19	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
20	暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
21	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子微量
22	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量



第106図　第1063号住居跡実測図

遺物　土師器片429点，須恵器片18点，土製品１点（支脚）が出土している。第107図１～６はすべて土師器である。１の坏は，南東部の床面と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。２の坏は，南壁際の中央部の覆土下層から破片で出土している。３の坏は，南部から南西部にかけての覆土下層から出土した破片が接合したものである。４の高坏は北西部の北壁際の覆土下層から，５の高坏は南西部の覆土下層から，それぞれ破片で出土している。６の甕は，北西部の覆土下層から破片で出土している。７の須恵器提瓶は，東壁際の中央部の覆土中層から出土している。８の支脚は，火床面直上から横位で出土している。残りの須恵器片は細片であり，胎土・器形から判断して，撹乱により混入したものである。

所見　本跡の時期は，出土土器から７世紀前葉と考えられる。



第107図　第1063号住居跡出土遺物実測図

第1063号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第107図 1	坏 土師器	A［13.7］ B（3.6）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面不定方向のヘラ磨き。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P41295 40% PL211

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第107図 2	坏 土師器	A [14.6] B (3.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P41296 30%
3	坏 土師器	A [15.2] B (5.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	P41297 30% PL211
4	高坏 土師器	A [13.8] B (2.9) D (5.4)	脚部上位から坏部にかけての破片。脚部上位は円柱状で，坏体部は内彎ぎみに立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内面ヘラ磨き，外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，内面のヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 黄褐色 普通	P41298 40% PL211
5	高坏 土師器	B (6.3) D (8.4)	脚部の破片。裾部欠損。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のヘラ削り後，縦位のヘラ磨き。内面横位のヘラ削り。外面赤彩。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P41299 30% PL211 外面剥離
6	甕 土師器	A [21.3] B (6.9)	頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反し，端部は外上方へつまみ出されている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P41300 10% PL211
7	提瓶 須恵器	B (25.8)	体部の破片。体部は扁平な球体を呈する。	体部内面ロクロナデ。体部外面全体に同心円状のカキ目調整が施されている。	砂粒・長石・石英 外面 灰色 内面 にぶい橙色 普通	P41301 40% PL211 外面に砥石転用痕

図版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)			
第107図8	土製支脚	17.8	8.0	864.0	裾部が開く円柱状。ナデ	砂粒・長石・赤色粒子，にぶい橙色	DP41016 95% PL220

第1064号住居跡（第108・109図）

位置　調査4区の中央部，J10j0区。本跡周辺は，西側から東側に向かって緩斜面になっている。

重複関係　南西部から北東部にかけて第59号掘立柱建物のP7～P10に，北東部を第60号掘立柱建物のP3に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.29m，短軸5.20mの方形である。

主軸方向　N－17°－W

壁　壁高は14～40cmで，外傾して立ち上がる。

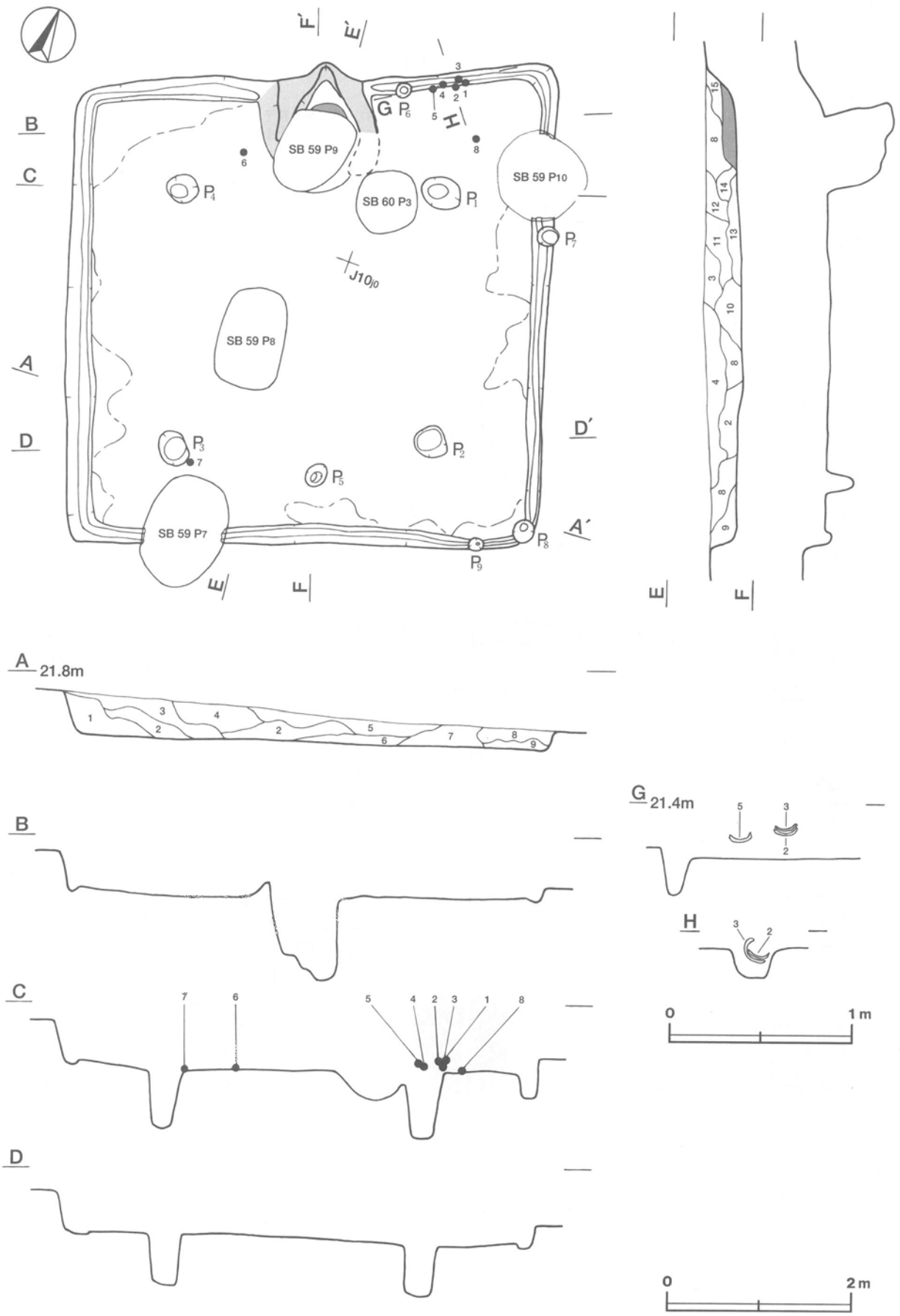
壁溝　全周している。上幅16～33cm，下幅5～14cm，深さ4～5cmで，断面形は「∪」である。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

竈　焚口部・火床面から東袖にかけて，第59号掘立柱建物のP9に掘り込まれているため，竈の覆土は確認されなかった。北壁の中央部を壁外へ22cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，遺存する焚口部から煙道部まで136cm，両袖部幅126cmである。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

ピット　9か所（P1～P9）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP1～P4は，径34～44cmのほぼ円形で，深さ54～70cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP5は，径25cmのほぼ円形で，深さ35cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。北東部の北壁から東壁際を巡り，南東部の壁際に位置するP6～P9は，径15～23cmのほぼ円形で，深さ22～38cmである。

覆土　15層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。



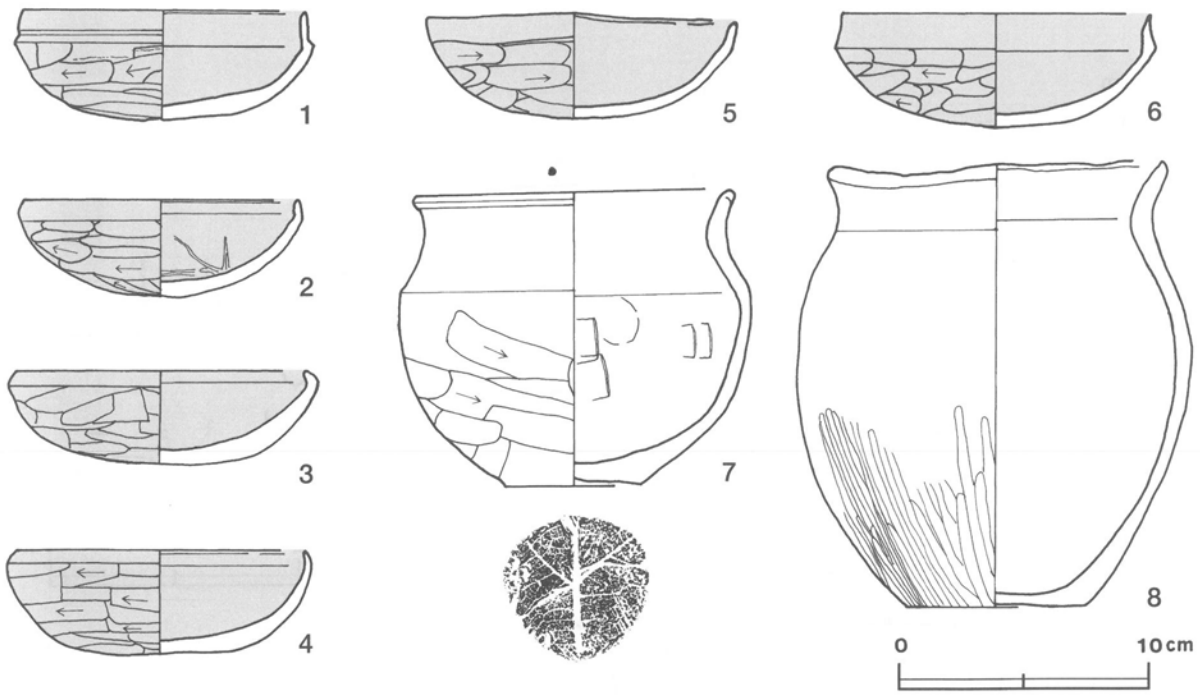
第108図　第1064号住居跡実測図

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
11　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化材微量
12　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
13　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子微量
14　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
15　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片455点，土製品13点（支脚片）が出土している。第109図１～８は，すべて土師器である。１～５の坏は，北東部の北壁際の床面からまとまって出土している。２と３が正位で重なり，それに１が横位で被る状態で出土している。４・５は１～３の西側に隣接して４が５に横位で被る状態で出土している。６の坏は，西袖部付近の床面から正位で出土している。７の甕は南西部の床面から，８の甕は北東部の床面から，それぞれつぶれた状態で出土している。支脚は同一個体の小片と考えられるが，復元不可能である。

所見　壁柱穴は東側の壁際から検出されており，地山が西部から東部にかけて緩い傾斜になっていることを意識して作られたと考えられる。本跡の時期は，出土土器から７世紀中葉と考えられる。



第109図　第1064号住居跡出土遺物実測図

第1064号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第109図 1	坏 土師器	A 11.2 B 4.4	口縁端部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P41302 98% PL212

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第109図 2	坏 土　師　器	A　11.0 B　3.9	口縁端部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	P41303 98% PL212
3	坏 土　師　器	A　11.5 B　3.7	口縁端部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 褐色 普通	P41304 97% PL212
4	坏 土　師　器	A　11.6 B　4.1	口縁端部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 褐色 普通	P41305 98% PL212
5	坏 土　師　器	A　12.3 B　4.3	完形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P41306 100% PL212
6	坏 土　師　器	A　12.4 B　4.6	口縁端部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P41307 98% PL212
7	甕 土　師　器	A　12.5 B　11.8 C　5.4	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は丸く収めている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。底部木葉痕。	砂粒・長石 橙色 普通	P41308 60% PL211
8	甕 土　師　器	A　13.5 B　17.7 C　7.0	体部・口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面上半横ナデ，下半縦位のヘラ磨き。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P41309 80% PL212

第1067号住居跡（第110・111図）

位置　調査4区の中央部，J10e8区。

重複関係　南西部を第1051号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.24m，短軸2.99mの方形である。

主軸方向　N－9°－E

壁　壁高は8～27cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅11～23cm，下幅3～6cm，深さ2～4cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，P1付近から竈の前にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ11cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで75cm，両袖部幅101cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，焼土粒子・粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第1～5層が，崩落土層と考えられる。第6層が焼土粒子を比較的多く含み，赤変硬化していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

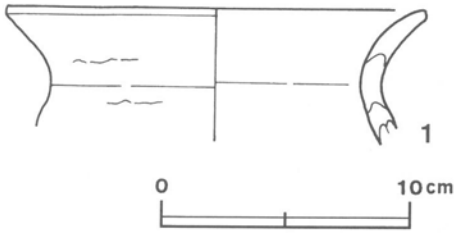
竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
2　灰褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化材・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・焼土ブロック・炭化材・炭化粒子・粘土粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化材・炭化粒子・粘土小ブロック微量
6　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化材・粘土粒子・砂粒微量
7　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量

ピット　2か所（P1・P2）。南壁際の中央部に位置するP1は，長径30cm，短径20cmのほぼ楕円形で，深さ7cmである。P1の北側に位置するP2は，長径22cm，短径15cmの楕円形で，深さ8cmである。P1・P2は，位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　12層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

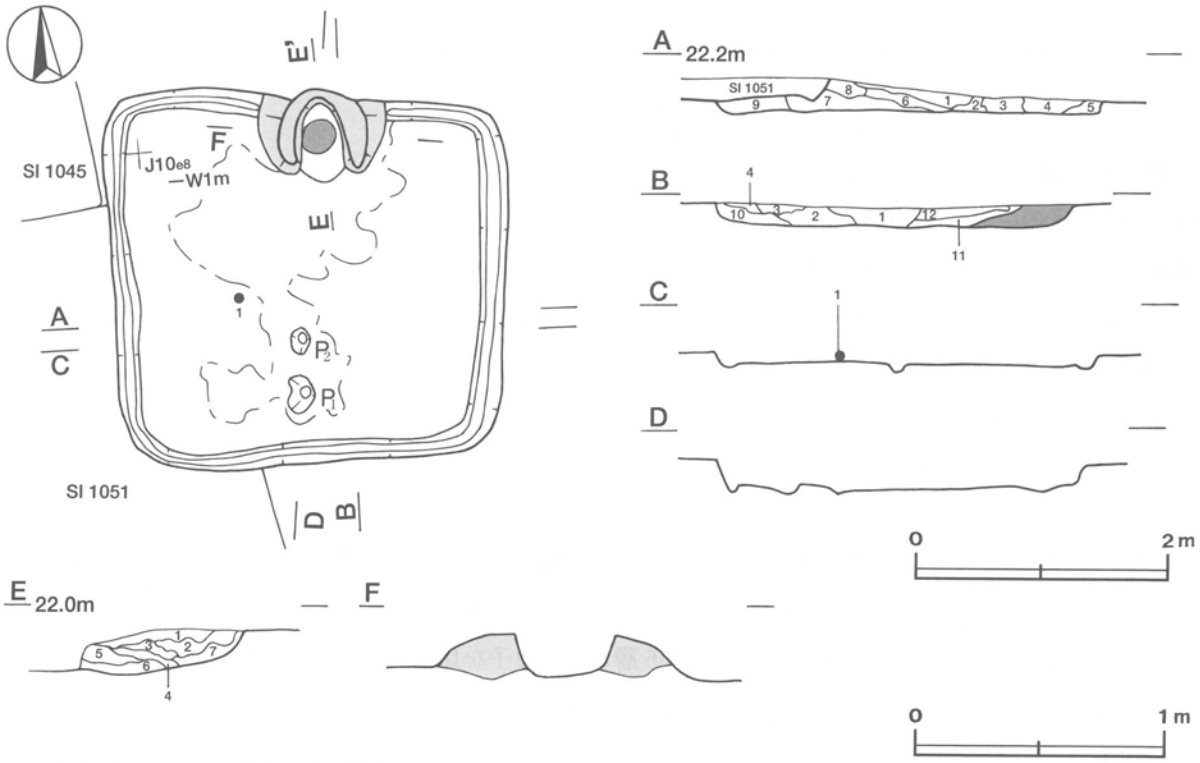
土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗 褐 色　ローム粒子中量
6　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
7　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
9　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
10　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
11　暗 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
12　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化材・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量



第110図　第1067号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片60点，須恵器片２点，灰釉陶器片１点が出土している。第110図の土師器甕は，中央部のやや西壁寄りの床面から破片で出土している。須恵器片・灰釉陶器片は細片であり，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から古墳後期の７世紀前葉ないし中葉と考えられる。



第111図　第1067号住居跡実測図

第1067号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第110図 1	甕 土師器	A［16.8］ B（5.3）	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 褐色，普通	P41316 5％

第1074号住居跡（第112図）

位置　調査４区の中央部，J11i1区。

重複関係　第1078号住居跡を掘り込み，西壁の中央部を第59号掘立柱建物のＰ１と第60号掘立柱建物Ｐ３に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.62m，短軸3.32mの方形である。

主軸方向　Ｎ－７°－Ｗ

壁　壁高は最大26cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅16～28cm，下幅３～10cm，深さ６～10cmで，断面形はＵ字形である。

床　ほぼ平坦であり，Ｐ１付近から竈の前にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ52cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで122cm，両袖部幅135cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，焼土粒子・粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第２～８層が，崩落土層と考えられる。第９・10層が焼土粒子・灰を比較的多く含み赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子・砂粒微量
2	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，砂粒微量
3	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・砂粒微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化材・炭化粒子・砂粒微量
5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・粘土粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・砂粒微量
7	暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
8	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
9	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・灰少量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
10	赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
11	極暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，炭化物・粘土粒子微量
12	にぶい赤褐色	焼土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量，炭化粒子・粘土粒子微量
13	にぶい赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量，砂粒微量
14	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
15	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　１か所。南壁際の中央部に位置するＰ１は，長径34cm，短径27cmの楕円形で，深さ29cmである。規模と位置から出入り口に伴うピットと考えられる。

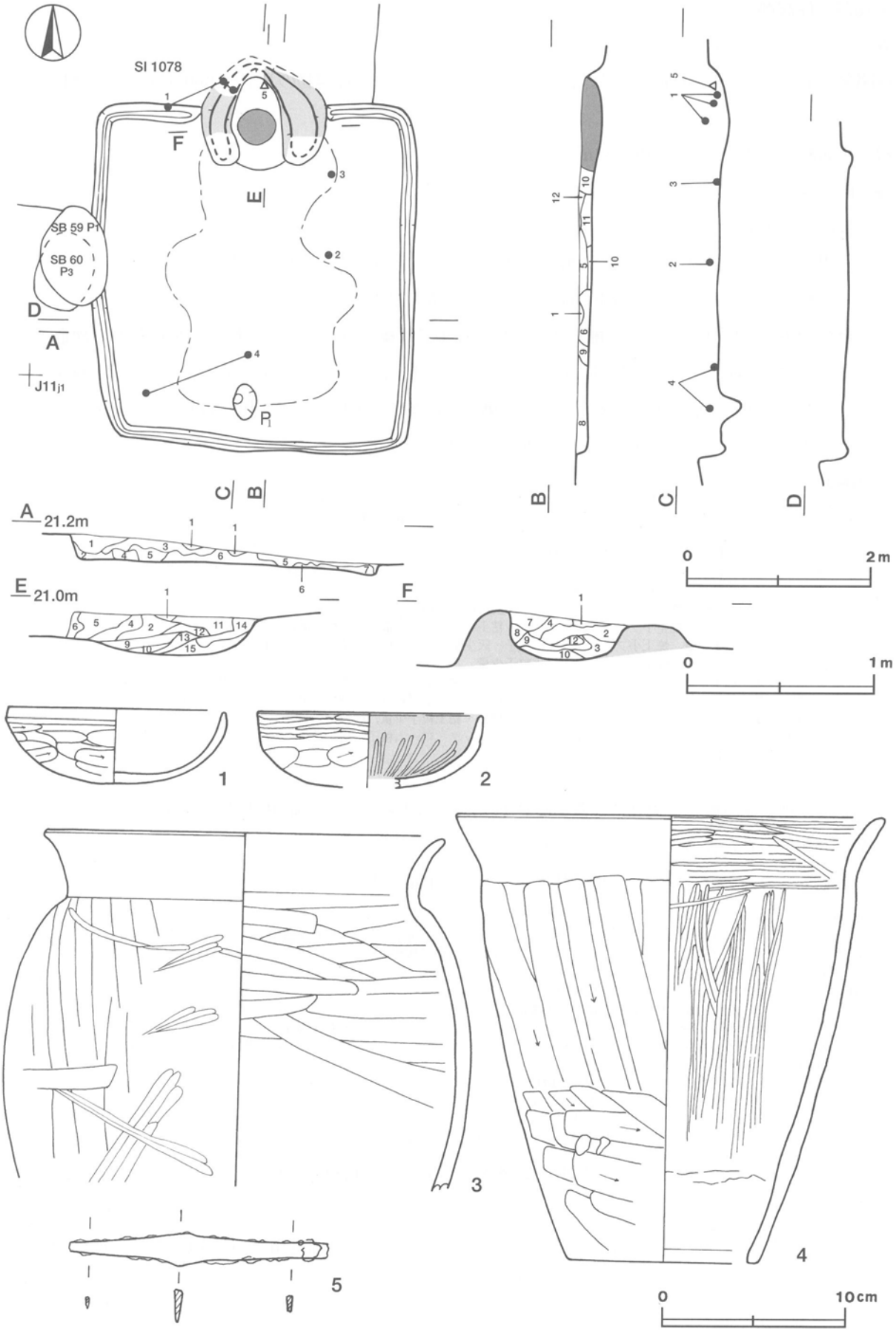
覆土　12層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
4	極暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
5	黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
8	黒褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
9	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
10	暗褐色	ローム粒子・炭化材中量，焼土粒子少量，粘土大ブロック・砂粒微量
11	黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
12	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片218点，土製品１点（支脚），鉄器１点（刀子），須恵器片12点が出土している。第112図１～４はすべて土師器である。１の坏は，竈内から出土した破片が接合したものである。２の坏は北東部やや中央部寄りの覆土下層から，３の甕は北東部の東壁際の覆土下層から，４の甑は南部から南西部にかけての覆土下層から，それぞれ破片で出土している。５の刀子は，竈内から出土している。支脚は破損した小片である。須恵器片は，撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から７世紀中葉ないし後葉と考えられる。



第112図　第1074号住居跡・出土遺物実測図

第1074号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第112図 1	坏 土師器	A [11.7] B 4.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P41361 80% PL212
2	坏 土師器	A [12.1] B (4.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内面横ナデ。外面横ナデ後，横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面放射状のヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母 灰黄褐色 普通	P41362 20%
3	甕 土師器	A [21.3] B (19.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り後，ヘラナデ。内面横位のヘラナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P41363 30% PL212 外面煤付着
4	甑 土師器	A 23.0 B 24.1 C 10.3	底部から口縁部にかけての破片。無底式。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内面横ナデ後，横位のヘラ磨き。外面横ナデ。体部外面上位縦位のヘラ削り，下半斜位のヘラ削り。内面ヘラナデ後，雑な縦位のヘラ磨き。体部下半で上下別作りの器体を接合し，粘土帯で補強している。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P41364 30% PL212 外面煤付着

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第112図5	刀子	(9.4)	(4.2)	1.2	0.4	(5.2)	(6.9)	鉄	刀身部・茎部端部欠損。	M41048 90% PL221

第1075号住居跡（第113・114図）

位置　調査4区の中央部，J11g1区。

重複関係　第1061・1076・1078号住居跡を掘り込み，南西部を第1071号住居に，南東部を第1077号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.68m，短軸4.60mの方形である。

主軸方向　N－17°－W

壁　壁高は最大36cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南東部の東壁際は第1077号住居に床面まで掘り込まれているため確認できなかったが，それ以外は壁下をめぐっており，全周していたと考えられる。上幅14～27cm，下幅4～10cm，深さ4～6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，P6付近から竈の前にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ27cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで137cm，両袖部幅145cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第2～13層が崩落土層と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており，粘土粒子・砂粒とローム土を比較的多く含む第23～27・29～31層が袖部の土層である。第14・15・21・22層は，焼土粒子・灰を比較的多く含み赤変していることから，火床部と考えられる。火床面と袖部の下層の第28層は，掘り方の埋土と考えられる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，粘土粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子・粘土粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・粘土粒子微量
6　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量

7　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・灰少量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
9　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子・粘土粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子中量，砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土粒子微量
11　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
12　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・粘土粒子微量
13　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・砂粒微量
14　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子・灰少量，ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒微量
15　にぶい赤褐色　灰多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
16　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
17　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
18　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・砂粒微量
19　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材微量
20　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・炭化材・灰少量，ローム粒子・砂粒微量
21　にぶい赤褐色　灰多量，焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
22　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
23　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，砂粒中量，粘土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
24　褐　色　砂粒中量，ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
25　暗　褐　色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
26　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
27　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，粘土粒子微量
28　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・砂粒微量
29　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・粘土粒子微量
30　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
31　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量，ローム小ブロック・粘土小ブロック微量

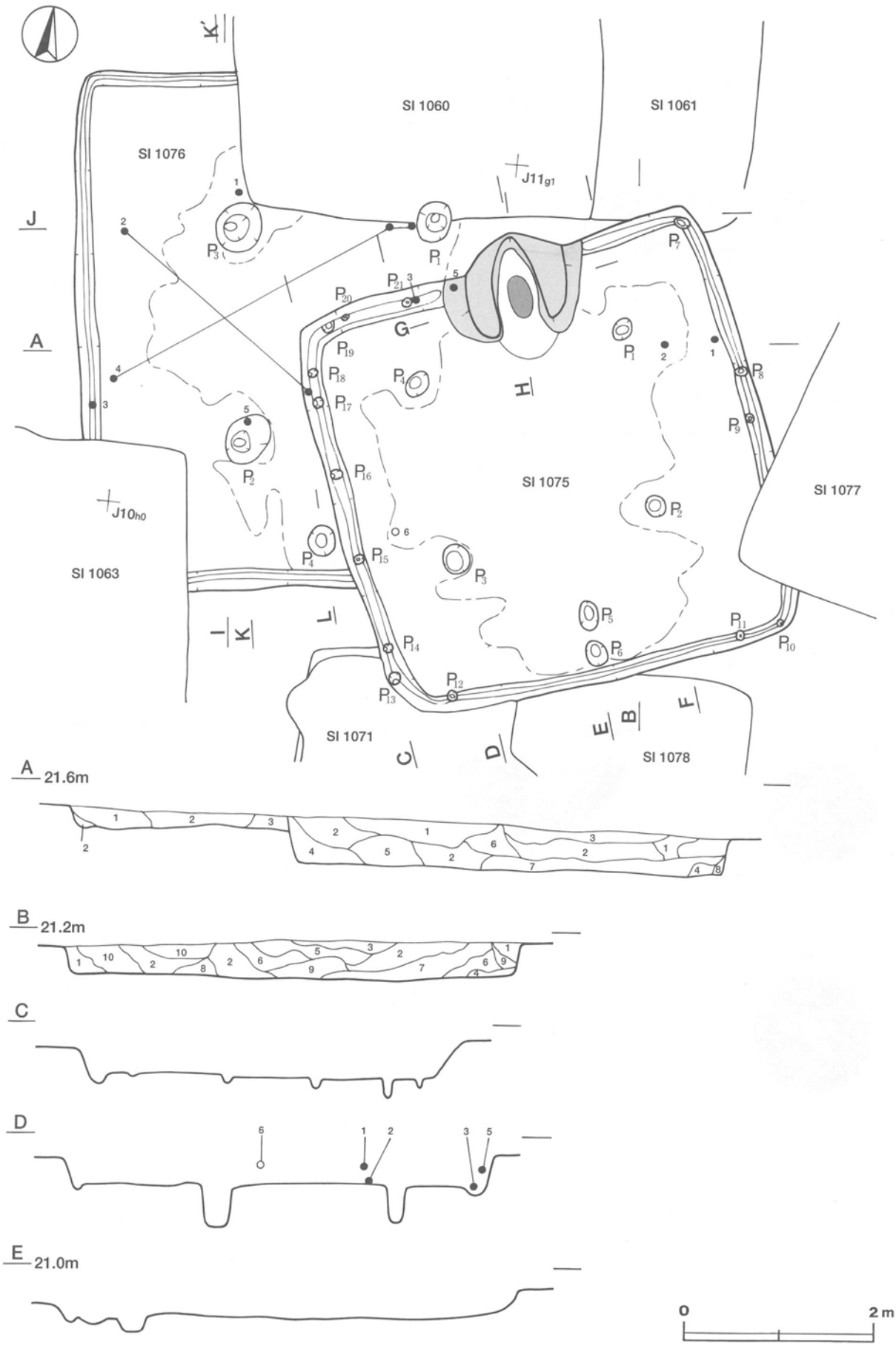
ピット　21か所（Ｐ１～Ｐ21）。各コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１～Ｐ４は，径22～32cmのほぼ円形で，深さ41～60cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５は，長径31cm，短径20cmの楕円形で，深さ19cmである。同じく南壁際の中央部に位置するＰ６は，長径28cm，短径21cmの楕円形で，深さ８cmである。Ｐ５・Ｐ６は，規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。壁際の壁溝中に位置するＰ７～Ｐ21は，径７～16cmの円形で，深さ８～30cmである。規模と配置から壁柱穴と考えられる。

覆土　10層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

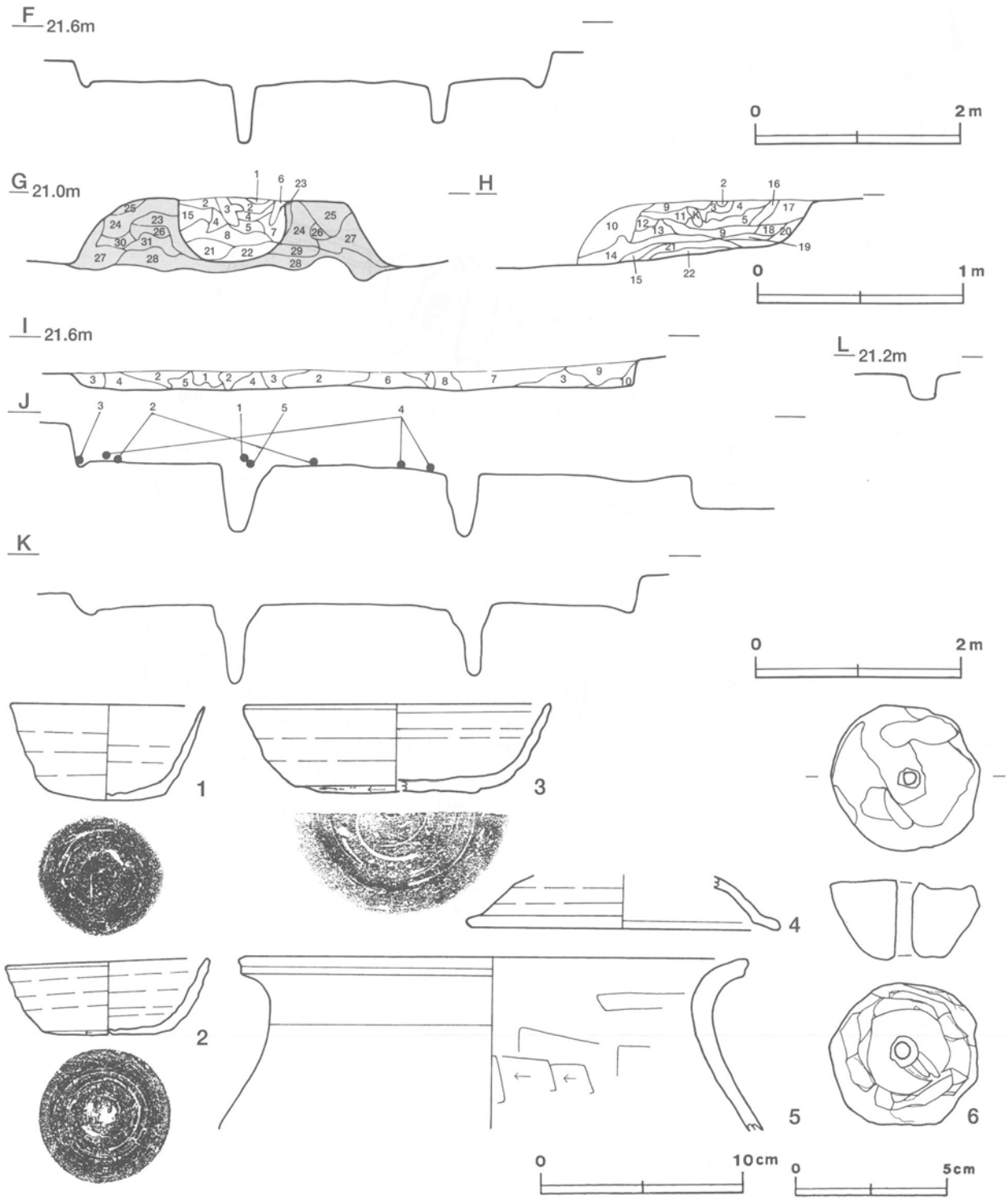
土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
2　暗　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　極暗赤褐色　焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量
8　にぶい褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　土師器片509点，須恵器片30点，土製品２点（紡錘車，支脚片）が出土している。第114図１～４は須恵器，５は土師器である。１の坏は北東部の東壁際の覆土中層から正位で，２の坏は北東部の床面から逆位で，それぞれ出土している。３の坏は竈の西側の覆土下層から，４の蓋は覆土中から，５の甕は竈の上部の覆土から，それぞれ破片で出土している。６の紡錘車は，西壁際の覆土中層から出土している。支脚は破損した小片である。出土している土器片の多くは，土師器甕の体部細片が370点を超え，その他の土器片も細片が多い。これらの土器片は覆土上層からまとまって出土していることから，本跡廃絶時または廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，重複関係と１・２の須恵器坏が本跡に伴う遺物と考えられることから７世紀末葉から８世紀初頭と考えられる。



第113図　第1075・1076号住居跡実測図



第114図　第1075・1076号住居跡実測図，第1075号住居跡出土遺物実測図

第1075号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第114図 1	坏 須恵器	A 9.5 B 4.7 C 5.8	口縁部一部欠損。丸みをおびた平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P41366 95% PL212
2	坏 須恵器	A 9.9 B 3.8 C 6.4	完形。丸みをおびた平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り痕を残す回転ヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 普通	P41367 100% PL212

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第114図 3	坏 須恵器	A [15.0] B 4.3 C [8.7]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P41368 30%
4	蓋 須恵器	A [15.6] B (2.7)	外周部から口縁部にかけての破片。外周部はドーム状を呈し，口縁端部は丸く収めている。口縁部内面に退化したかえりが付く。	外周部・口縁部の内・外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・長石 黄灰色 普通	P41369 5%
5	甕 土師器	A [24.7] B (8.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は外方へわずかにつまみ出されている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P41365 10%

図版番号	器　種	計測値				特　徴	胎土・色調	備　考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第114図 6	土製紡錘車	4.8	2.5	0.9	55.7	一部欠損。独楽形，上面・側面磨き。	砂粒・赤色粒子，褐色	DP41019 95% PL220

第1076号住居跡（第115～117図）

位置　調査4区の中央部，J10g0区。

重複関係　北壁の中央部から北東部にかけてを第1060・1061号住居に，南西部を第1063号住居に，中央部から南東部にかけてを第1075号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　南北軸は5.66mで，遺存する西壁と床面から東西軸は5.71mだけが確認された。方形または長方形と考えられる。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は最大26cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁の下を巡っている。上幅15～25cm，下幅4～7cm，深さ5～6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，P4付近から中央部にかけてよく踏み固められている。

ピット　4か所（P1～P4）。中央部から北東・南西・北西コーナー寄りに位置するP1～P3は，径42～49cmのほぼ円形で，深さ65～71cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP4は，長径34cm，短径25cmの楕円形で，深さ28cmである。規模と位置から出入り口に伴うピットと考えられる。

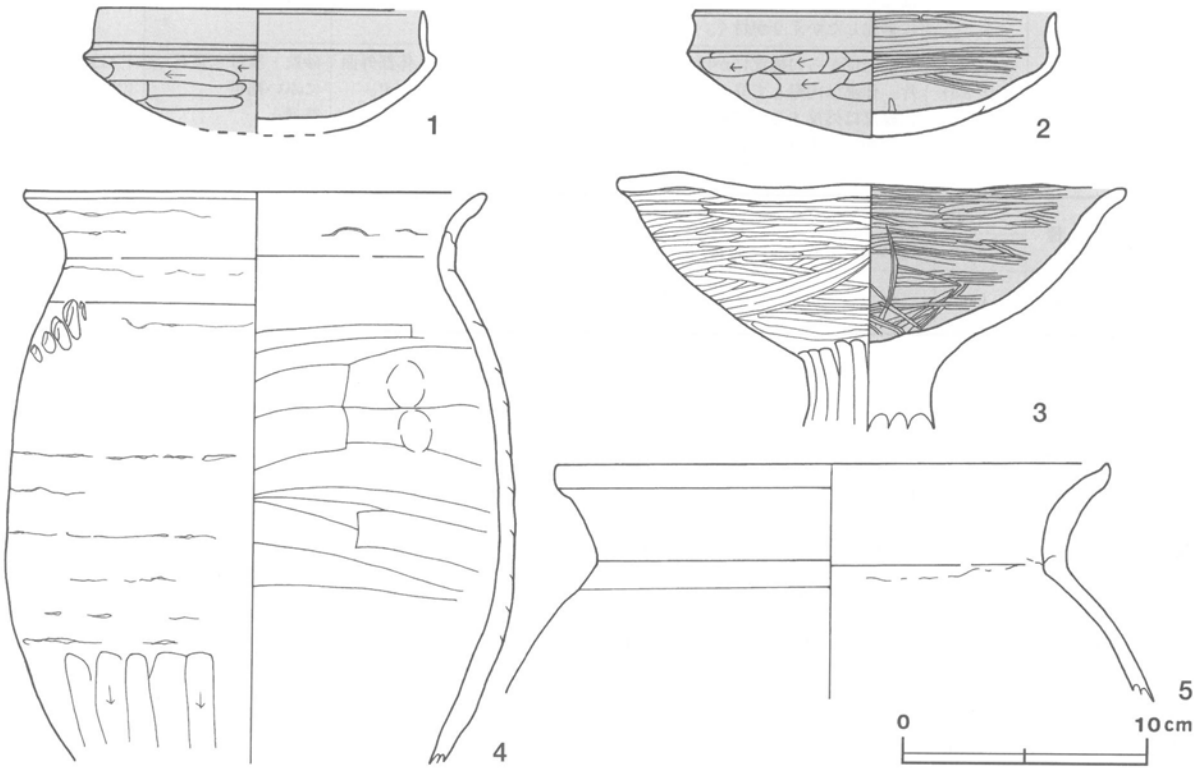
覆土　10層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
2　暗褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
5　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　極暗赤褐色　焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量
8　にぶい褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　土師器片326点，須恵器片9点が出土している。第117図1～5はすべて土師器である。1の坏は，北西部の覆土下層から逆位で出土している。2の坏は，北西部の西壁際の床面と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。3の高坏は，南西部の西壁際の覆土下層から斜位で出土している。4の甕は，西壁際の覆土下層とP1の付近の床面から出土した破片が接合したものである。5の甕は，南西部の覆土下層から

破片で出土している。須恵器片は撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡は北壁の中央部から北東部・南西部まで掘り込まれているため，竈は検出されなかった。時期は，出土土器と重複関係から6世紀後半と考えられる。



第115図　第1076号住居跡出土遺物実測図

第1076号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第115図 1	坏 土師器	A 13.0 B 4.9	底部外面，体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	P41371 80% PL212
2	坏 土師器	A 14.6 B 5.0	体部から口縁部にかけて一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部外面横ナデ。口縁部・体部内面横ナデ後，横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 明褐灰色 普通	P41372 70% PL212
3	高坏 土師器	A 20.5 B (10.1)	脚部上位から坏部にかけての破片。脚部上位は円柱状で，坏部は内彎ぎみに立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き，坏部内・外面横位と斜位のヘラ磨き。脚部縦位のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P41373 50%
4	甕 土師器	A 18.4 B (22.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半輪積み痕を残すナデ，下半縦位のヘラ削り。内面横位のヘラナデ後，指頭痕を残すナデ。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P41374 40%
5	甕 土師器	A [22.4] B (9.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部はわずかに上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面に輪積み痕を残すナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P41375 5%

第1078号住居跡（第116・117図）

位置　調査４区の中央部，J11h1区。

重複関係　北西部を第1071号住居・第967号土坑に，南東部を第1074号住居に，北壁の一部と竈の北部を第1075号住居に，南壁の中央部を第59号掘立柱建物のＰ１に掘り込まれている。北西部と中央部の２か所を第60号掘立柱建物に掘り込まれていたと思われたが確認できなかった。

規模と平面形　長軸5.08m，短軸4.78mの方形である。

主軸方向　Ｎ－２°－Ｗ

壁　壁高は最大47cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅13～26cm，下幅３～７cm，深さ４～９cmで，断面形はＵ字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的によく踏み固められている。

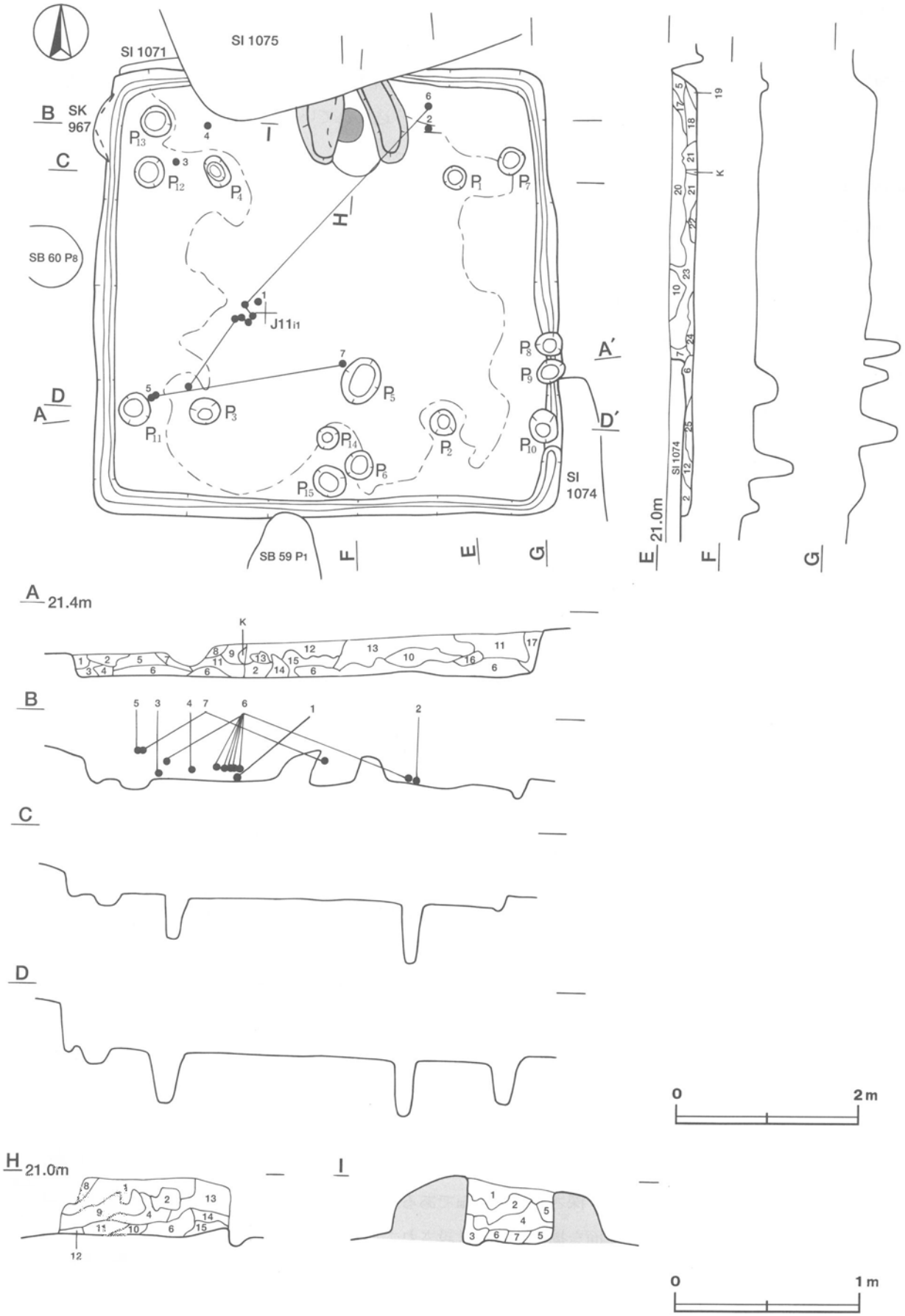
竈　北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から遺存する煙道部まで92cm，両袖部幅118cmである。煙道部は第1075号住居に掘り込まれている。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第１・２・４・８・９層が，崩落土層と考えられる。第６・７層が焼土粒子・灰を比較的多く含み赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がっていたものと推定される。

竈土層解説

1	灰　褐　色	ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	にぶい褐色	砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
3	黒　褐　色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4	にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
5	灰　褐　色	粘土粒子・砂粒中量，粘土小ブロック少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
6	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
7	にぶい赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・灰少量，粘土粒子微量
8	灰　褐　色	粘土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
9	にぶい褐色	粘土粒子多量，砂粒中量，粘土小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
10	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
11	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
12	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
13	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
14	暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子・砂粒微量
15	暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，炭化材・炭化粒子・粘土粒子・砂粒・灰微量

ピット　15か所（Ｐ１～Ｐ15）。北東・南東コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１・Ｐ２は，それぞれ径24cm・26cmのほぼ円形で，深さ68cm・60cmである。南西・北西コーナーからやや中央部寄りに位置するＰ３・Ｐ４は，それぞれ長径33cm・35cm，短径26cm・23cmの楕円形で，深さ57cm・50cmである。Ｐ１～Ｐ４は，規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５・Ｐ６は，それぞれ径44cm・32cmのほぼ円形で，深さ32cm・45cmである。規模と位置から出入り口に伴うピットと考えられる。Ｐ１と東壁の間にあるＰ７は，径25cmの円形で，深さ９cmである。南東部の東壁際にあるＰ８～Ｐ10は，径26～35cmのほぼ円形で，深さ29～42cmである。Ｐ３と西壁の間にあるＰ11は，径34cmの円形で，深さ20cmである。Ｐ４と西壁の間にあるＰ12は，径31cmの円形で，深さ13cmである。北西コーナーに位置するＰ13は，径32cmの円形で，深さ11cmである。Ｐ７～Ｐ13は，規模と配置から主柱穴の補助柱穴と考えられる。南壁際のＰ６の西側に位置するＰ14・Ｐ15は，それぞれ径25cm・30cmのほぼ円形で，深さ30cm・20cmである。Ｐ14・Ｐ15は，Ｐ２・Ｐ３の中間にあり硬化しかかっていること，Ｐ５が床の硬化面を掘り込んで付設されていることから，Ｐ５・Ｐ６を付設する前の出入り口に伴うピットの可能性が強いと考えられる。

覆土　25層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。



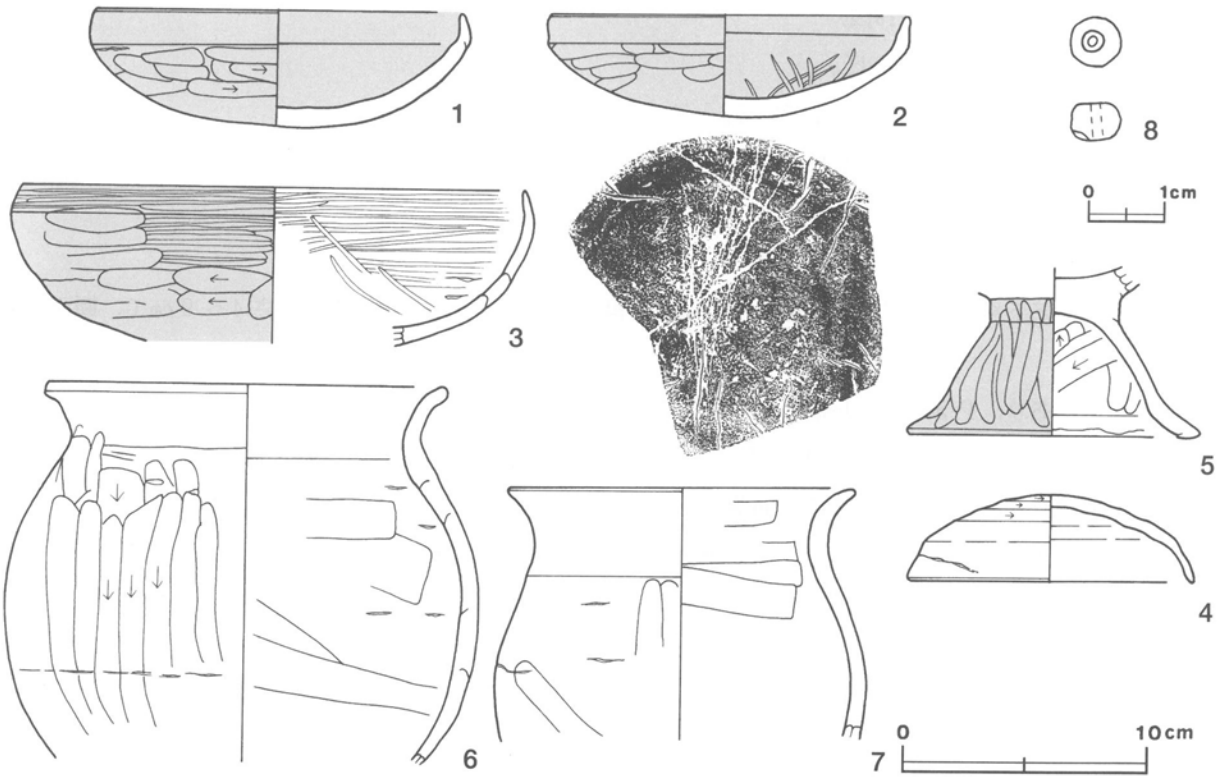
第116図　第1078号住居跡実測図

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子微量
6　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
8　褐　色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
10　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
11　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
12　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
13　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
14　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
15　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
16　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
17　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
18　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
19　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・炭化材・粘土粒子微量
20　暗褐色　ローム粒子・粘土小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
21　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
22　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
23　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
24　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化材微量
25　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物　土師器片729点，須恵器片２点，土製品１点（土玉）が出土している。第117図１～６はすべて土師器である。１の坏は中央部やや西壁寄りの床面から逆位で，２の坏は竈の東側の床面から正位で，３の坏は北西部の覆土下層から破片で，それぞれ出土している。４の須恵器坏蓋は，北西部の覆土中層から破片で出土している。５の高坏は，南西部の覆土中層から破片で出土している。６の甕は，竈の東側の覆土下層と中央部から南西部にかけての覆土中層から出土した破片が接合したものである。７の甕は，中央部から南西部にかけての覆土中層から破片で出土している。８の土玉は，竈手前の覆土中から出土している。出土している土師器片の多くは，甕の体部の細片であり，住居が廃棄されたおり投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる。



第117図　第1078号住居跡出土遺物実測図

第1078号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第117図 1	坏 土師器	A 14.8 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・赤色粒子 灰黄褐色，普通	P41382 95% PL212
2	坏 土師器	A [14.4] B 3.9	体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ後，不定方向のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P41383 60% PL212
3	坏 土師器	A [20.2] B (6.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ後，横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ後，横位のヘラ磨き。外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P41384 30% PL212
4	坏蓋 須恵器	A [11.4] B 3.5	天井部から口縁部にかけての破片。天井部から口縁部にかけてドーム状を呈し，口縁端部は丸く収めている。	天井部，外周部，口縁部内・外面ロクロナデ。天井頂部回転ヘラ削り。	砂粒・長石 灰白色 普通	P41388 40% PL213
5	高坏 土師器	B (6.7) D [11.6]	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のヘラ削り，内面縦位と斜位のヘラ削り。裾部内・外面横ナデ。外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P41385 20% PL214
6	甕 土師器	A [16.0] B (15.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，内面横位のヘラナデ後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P41386 40% PL212
7	甕 土師器	A [14.0] B (10.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り後，ナデ。内面横位のヘラナデ後，ナデ。	砂粒 にぶい褐色 普通	P41387 15% PL213

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第117図8	土玉	0.7	0.5	0.1	0.20	扁平な球体，ナデ。	細砂粒，黒褐色	DP41021 100% PL220

第1079号住居跡（第118・119図）

位置　調査4区の中央部，J11h2区。

重複関係　第1080号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.78m，短軸3.48mの方形である。

主軸方向　N－15°－W

壁　壁高は12～22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北西部の壁下を除き，壁の下を巡っている。上幅12～16cm，下幅4～8cm，深さ4～9cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，P5付近から竈の前にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ43cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで118cm，両袖部幅110cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第1～3層が崩落土層と考えられる。第4・5層は，焼土粒子・灰を比較的多く含み赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子・砂粒微量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・灰少量，ローム粒子・炭化材微量
5　灰褐色　灰多量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，炭化材微量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・灰少量

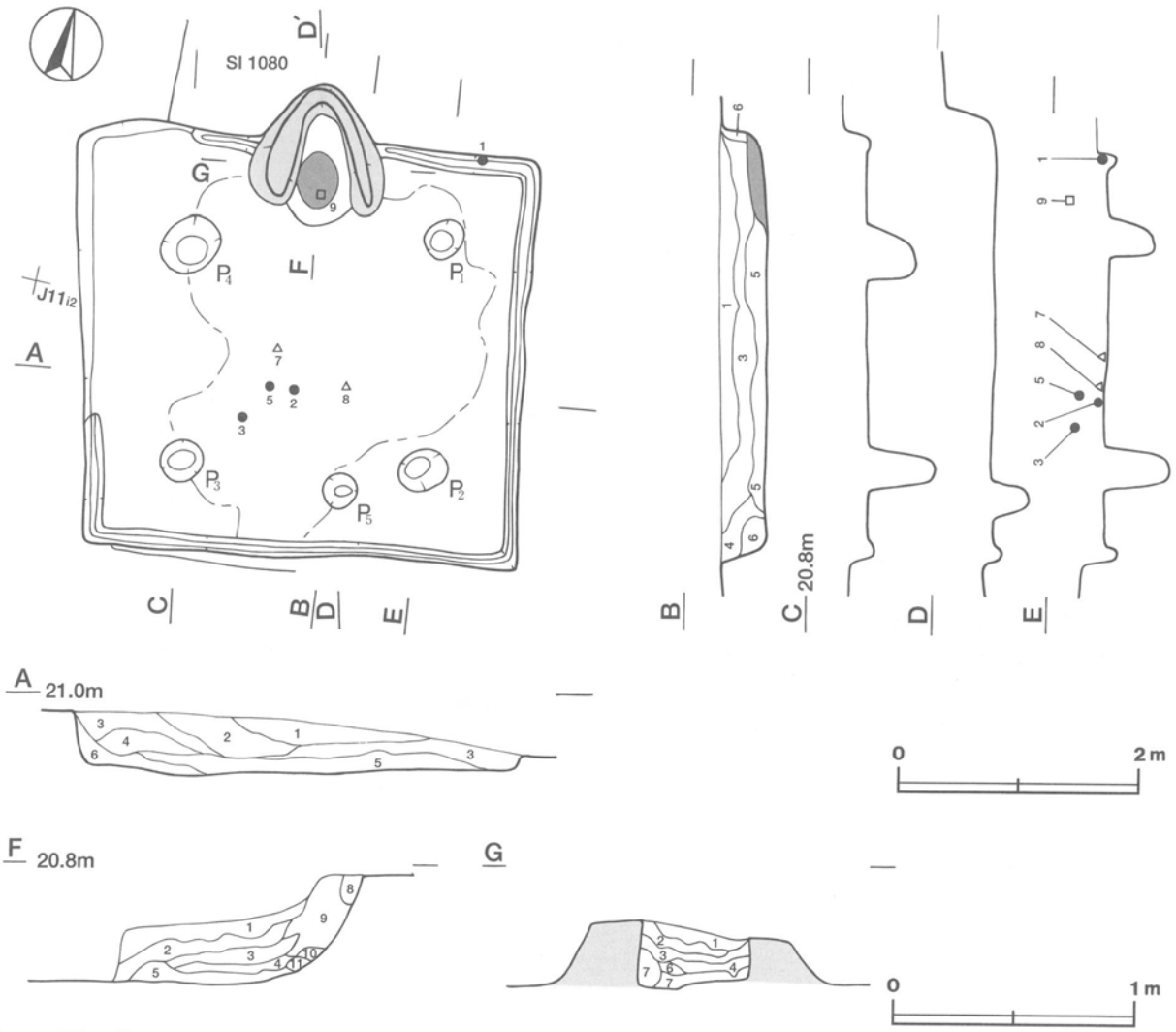
7　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，炭化材・砂粒微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
9　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
10　灰　褐　色　灰中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
11　褐　灰　色　灰中量，炭化粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒微量

ピット　5か所（P 1～P 5）。各コーナーからやや中央寄りに位置するP 1～P 4は，径32～42cmのほぼ円形で，深さ38～48cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するP 5は，径32cmのほぼ円形で，深さ31cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　6層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

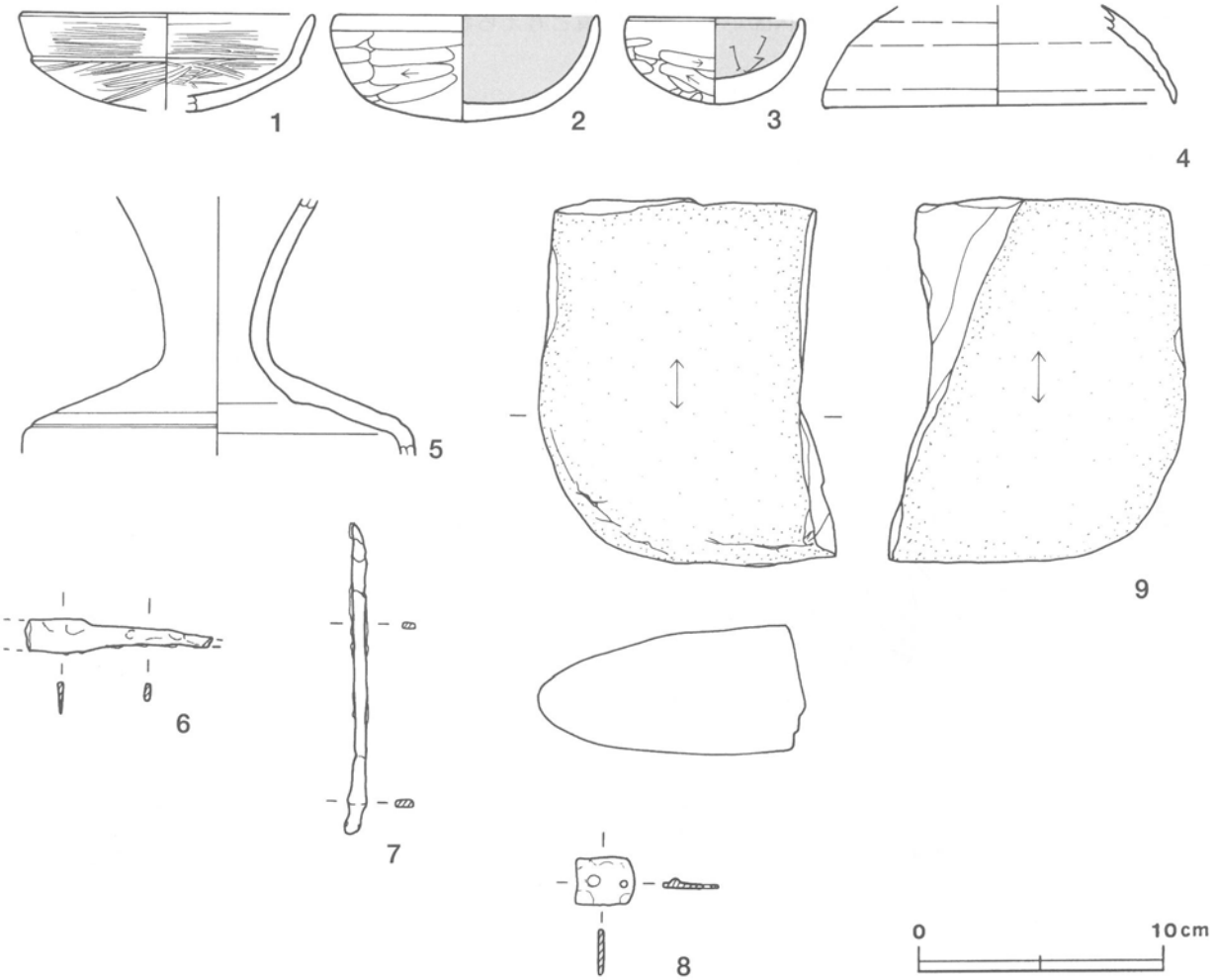
遺物　土師器片311点，須恵器片4点，鉄器3点（刀子片，鏃，鉈尾），石器1点（砥石），炭化種子1点が出土している。第119図1の土師器坏は，北東部の覆土下層から破片で出土している。2の土師器坏は，中央部の覆土下層から出土している。3の土師器坏は，中央部やや南西コーナー寄りの覆土中層から正位で出土して



第118図　第1079号住居跡実測図

いる。4の須恵器坏蓋は，北東部の覆土中層から破片で出土している。5の須恵器長頸瓶は，中央部の覆土中層から破片で出土している。6の刀子片は，覆土中とＰ4の覆土中から出土している。7と8の鏃及び鉈尾は，中央部覆土下層から出土している。9の砥石は，竈の覆土上層から出土している。炭化種子1点は，中央部の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から7世紀後半と考えられる。



第119図　第1079号住居跡出土遺物実測図

第1079号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第119図 1	坏 土師器	A［11.8］ B（3.9）	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。内面横ナデ後，ヘラ磨き。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	Ｐ41389 40% ＰＬ213
2	坏 土師器	A　10.5 B　4.2	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色，普通	Ｐ41390 30%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第119図 3	坏 土師器	A 7.0 B 3.4	体部から口縁部にかけて一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部外面横位のヘラ磨き。口縁部・体部内面ヘラナデ後，横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P41392 90% PL213
4	坏蓋 須恵器	A [14.0] B (4.0)	外周部から口縁部にかけての破片。ドーム状を呈し，口縁端部は丸く収めている。	外周部，口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒 灰色 普通	P41393 5%
5	長頸瓶 須恵器	B (10.4)	肩部から頸部にかけての破片。肩部に1条の沈線を巡らし，体部上位は低く内傾する。頸部は屈曲し，やや外傾して立ち上がる。	頸部，体部内・外面ロクロナデ。外面に自然釉。	砂粒・長石 褐灰色 普通	P41396 30% PL213

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第119図 6	刀子	(7.5)	(2.3)	(1.4)	(0.3)	(4.2)	(5.9)	鉄	刀身部・茎部一部欠損。	M41052 50% PL221

図版番号	器種	計測値								材質	特徴	備考
		全長(cm)	鏃身長(cm)	篦被部長(cm)	篦被部幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第119図 7	鏃	(12.5)	(3.7)	7.4	0.5	(1.4)	0.4	0.2～0.3	(7.3)	鉄	鏃身部・茎部一部欠損，長頸鏃	M41053 80% PL221

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第119図 8	鉈尾	2.4	1.9	0.2	2.1	鉄	薄い板状，一端は弧状をなす。孔径0.2cmの円孔1孔，他の1孔には，リベットの痕跡が残る。武具か馬具の革帯金具か	M84054 90% PL222

図版番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第119図 9	砥石	(14.4)	(11.4)	5.1	1260.0	砂岩	板状の破片，砥面2面。	Q41035 25% PL222

第1080号住居跡（第120～122図）

位置　調査4区の中央部，J11h2区。

重複関係　北東部を第1052号住居に，北西部コーナー部を第1077号住居に，南西部を第1079号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.50m，短軸6.20mの方形である。

主軸方向　N－6°－W

壁　壁高は最大で58cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅17～32cm，下幅4～9cm，深さ7～14cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。西壁下から中央部に延びる溝aとP4の付近に延びる溝bの2条が検出されている。溝a・溝bの規模は，それぞれ幅15cmと17cm，壁溝からの長さ117cmと130cm，深さ8cmと10cmで，断面形はともにU字形である。溝aは，溝中に径8～11cmのほぼ円形で，深さ12～19cmの小ピットを有している。性格は不明である。

竈　北壁の中央部を壁外へ50cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで136cm，両袖部幅127cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，粘土粒子・砂粒を比較的多く含む第1～5・8・9層が，崩落した天井部の土層と考えられる。第6層が焼土を比較的多く含み赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

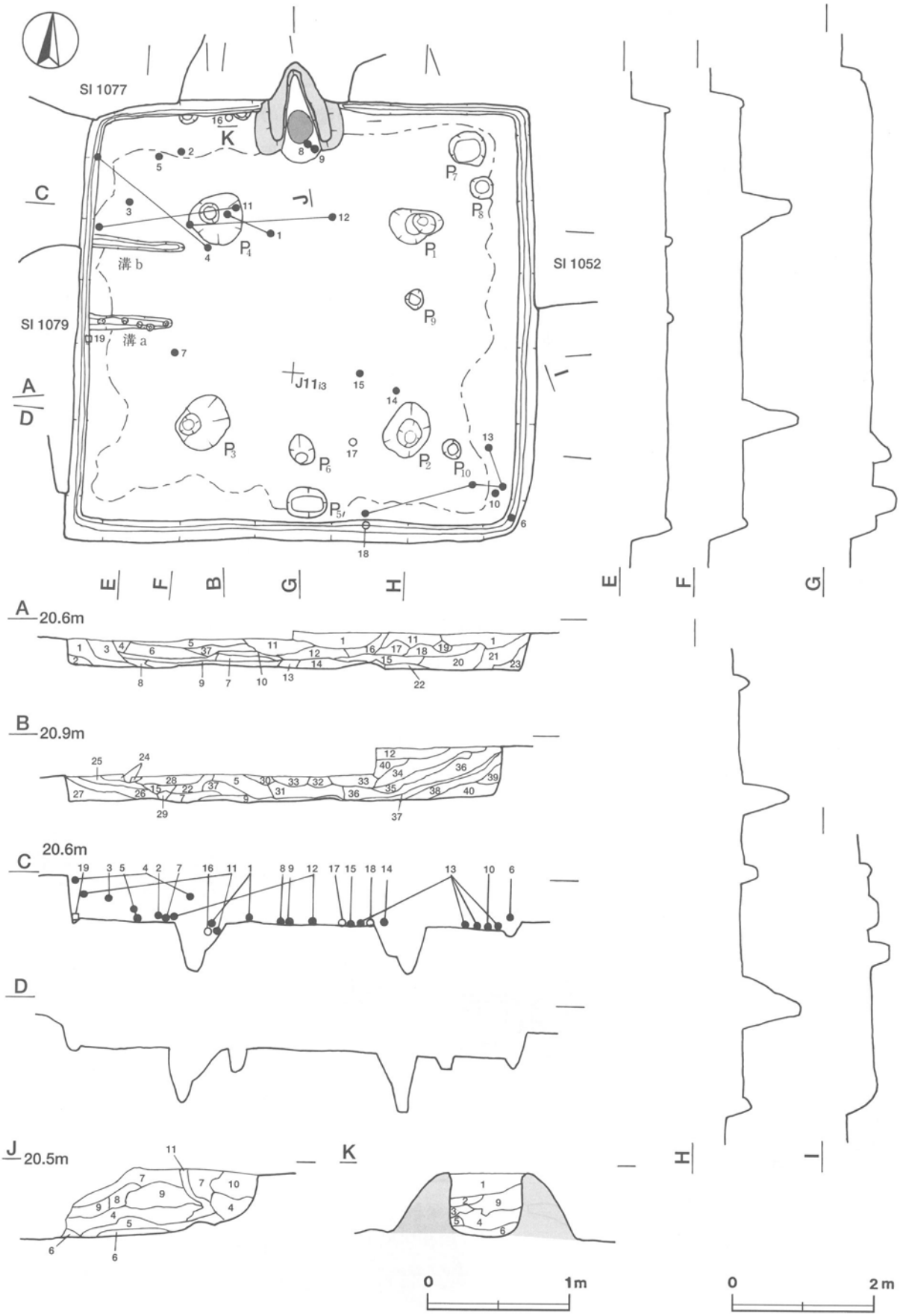
1　にぶい赤褐色　砂粒多量，粘土粒子中量，粘土小ブロック少量
2　極暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
3　極暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，焼土大ブロック・粘土粒子・砂粒微量
4　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・粘土粒子微量
5　赤褐色　粘土大ブロック・焼土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量，焼土中ブロック微量
7　にぶい赤褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　褐灰色　砂粒多量，粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
9　にぶい橙色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　にぶい赤褐色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
11　暗褐色　砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック微量

ピット　10か所（Ｐ１～Ｐ10）。北東コーナーからやや中央寄りに位置するＰ１は，長径71cm，短径52cmの不整楕円形で，深さ68cmである。南東コーナーからやや中央寄りに位置するＰ２は，長径74cm，短径60cmの楕円形で，深さ83cmである。南西・北西コーナーからやや中央寄りに位置するＰ３とＰ４は，それぞれ径64cmと75cmのほぼ円形で，深さ77cmと70cmである。Ｐ１～Ｐ４は，規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央部に位置するＰ５とＰ６は，それぞれ長径56cmと44cm，短径44cmと34cmの楕円形で，深さ37cmと31cmである。規模と位置から出入り口に伴うピットと考えられる。北東コーナー部に位置するＰ７とＰ８，Ｐ１とＰ２の間にあるＰ９，Ｐ２の東側にあるＰ10は，径26～47cmの円形で，深さ18～33cmである。規模と位置から補助柱穴と考えられる。

覆土　40層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

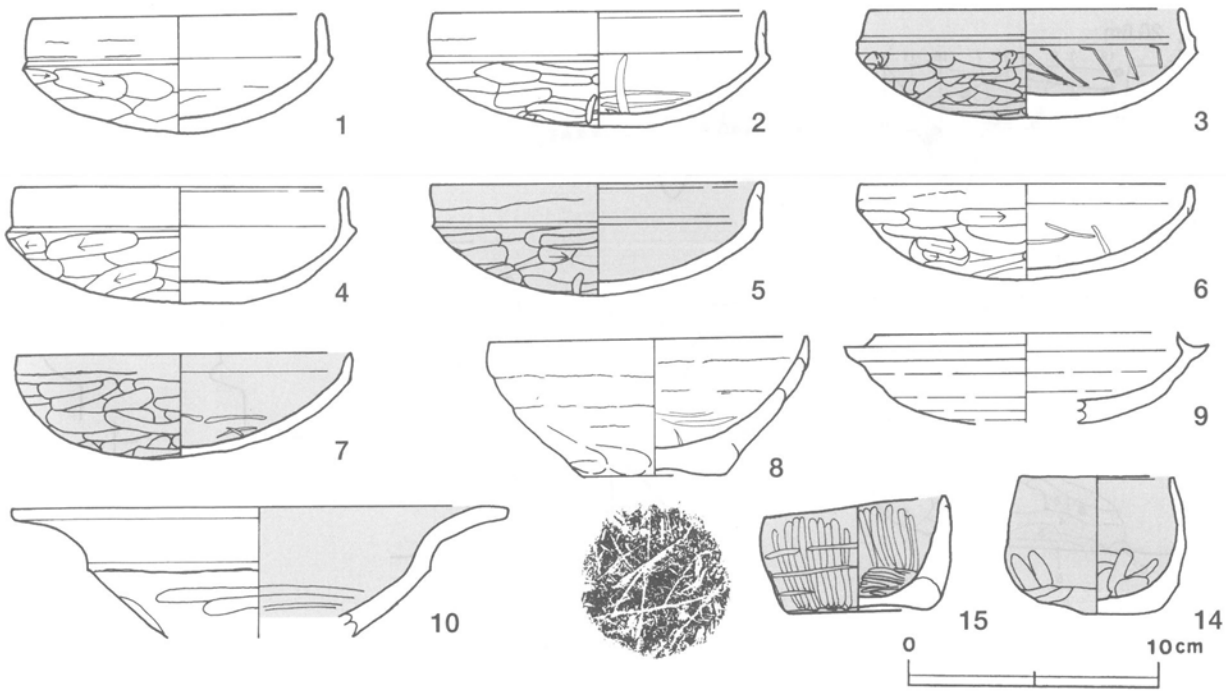
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化材微量
3　極暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・炭化材・粘土小ブロック微量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土粒子微量
5　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・炭化材微量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・炭化材・灰塊少量，ローム小ブロック微量
7　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，灰少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材微量
8　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・炭化材・灰少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
9　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・灰少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化材微量
10　黒褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化材・灰塊少量，ローム小ブロック微量
11　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化材微量
13　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・灰塊少量，ローム小ブロック・炭化材微量
14　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子少量，ローム小ブロック・灰塊微量
15　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
16　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土粒子微量
17　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
18　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
19　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
20　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土小ブロック微量
21　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化材微量
22　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子・ローム中ブロック微量
23　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
24　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
25　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化材微量
26　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化材微量
27　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，粘土小ブロック微量
28　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・炭化材微量
29　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
30　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
31　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・灰塊少量，炭化材微量。しまりが強く硬質。
32　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
33　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子微量
34　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
35　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子・灰塊少量，粘土粒子微量
36　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化材微量
37　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，炭化材微量
38　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量
39　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化材微量
40　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



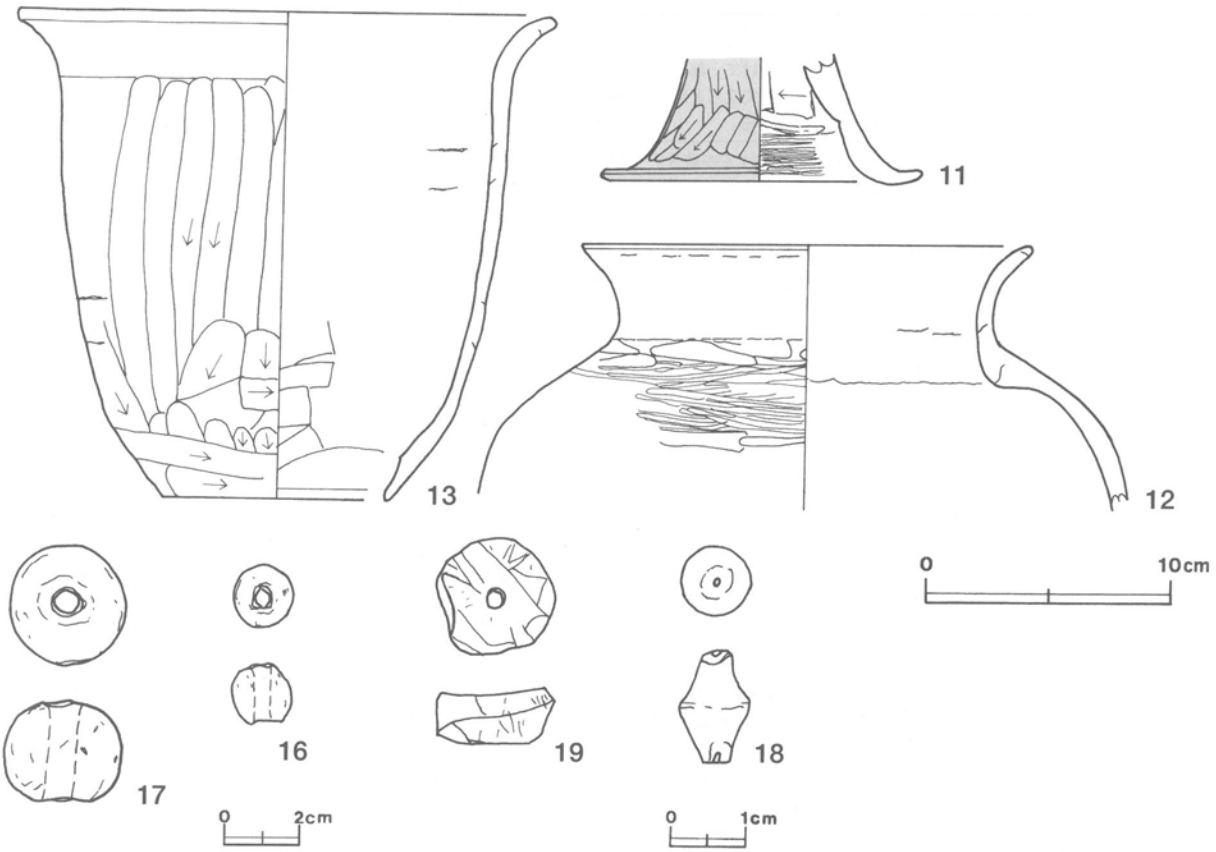
第120図　第1080号住居跡実測図

遺物　土師器片2459点，須恵器片５点，土製品４点（土玉３，支脚片），石製品１点（臼玉），鉄器１点（鏃），炭化種子４点，馬歯３本が出土している。第123・124図１～８・10～15はすべて土師器である。１の坏は，北西部のやや中央部寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。２と５の坏は，北西コーナーの北壁寄りから逆位と正位で出土している。３の坏は，北西コーナーの西壁寄りの覆土中層から正位で出土している。４の坏は，北西部の覆土中層と北西部の西壁際の覆土上層から出土した破片が接合したものである。６の坏は南東コーナー部の壁際の覆土下層から正位で，７の坏は西部の中央部の覆土下層から正位で，８の坏は煙道部から横位で，それぞれ出土している。９の須恵器坏身片は，竈の西袖手前の覆土中層から出土している。10の高坏は，南東コーナーの床面から破片で出土している。11の高坏は，北西部の床面と北西コーナーの西壁際の覆土中層から出土した破片が接合したものである。12の甕は，北西部の覆土下層と竈手前の覆土中層から出土した破片が接合したものである。13の甑は，南東コーナー部から南壁際の中央部にかけて出土した破片が接合したものである。14の手捏土器は南東部のやや中央寄りの覆土下層から逆位で，15の手捏土器は中央部の覆土下層から正位で，それぞれ出土している。16～18の土玉は，それぞれ北西部の北壁際の覆土下層，南東部の覆土下層，Ｐ５付近の床面から出土している。19の臼玉は，西壁際の中央部の床面から出土している。支脚は破損しており，図示不可能である。炭化種子は竈手前の覆土下層から２点，南西部の南壁際の覆土中層から１点，北西部の西壁際の覆土下層から１点が，それぞれ出土している。馬歯３本は，ほぼ中央部の覆土下層から出土している。須恵器片４点はいずれも細片であり，うち３点は撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡は，2400点を越える土師器片が出土しているが，そのほとんどが破片である。器種の内訳は，土師器坏768点，高坏14点，甕・甑1663点であり，古墳時代後期の様相を呈している。覆土には，比較的多量の焼土・炭化材・炭化物が含まれるほか，灰塊・馬歯・炭化種子等も検出されている。地形的にも，ロームの地山が最も低く，黒色土が広がる谷部となっており，短期間ではあるが，土器片や灰・焼土を投棄した土器・灰捨て場となっていたことが推測できる。時期は，出土土器と重複関係から７世紀前半と考えられる。



第121図　第1080号住居跡出土遺物実測図（１）



第122図　第1080号住居跡出土遺物実測図（2）

第1080号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第121図 1	坏 土師器	A 11.6 B 4.5	体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P41397 80% PL213
2	坏 土師器	A 13.1 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ後，不定方向のヘラ磨き。	砂粒 浅黄橙色 普通	P41398 95% PL213
3	坏 土師器	A［12.4］ B 4.3	体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 黒褐色 普通	P41399 50% PL214
4	坏 土師器	A 13.0 B 4.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。	砂粒 にぶい褐色 普通	P41400 80% PL214
5	坏 土師器	A［13.1］ B 4.4	体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P41401 80% PL214 外面剥離
6	坏 土師器	A 13.2 B 3.9	体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ後，横ナデ。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P41402 70% PL214
7	坏 土師器	A 13.3 B 4.1	体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ後，横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 灰褐色 普通	P41403 60% PL214

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第121図 8	坏 土師器	A [12.5] B 5.4 C 5.5	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面輪積み痕を残すナデ。内面ヘラナデ後，横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P41404 70% PL214
9	坏身 須恵器	A [12.0] B (3.5)	体部から受け部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，受け部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒 灰色 普通	P41394 10% PL213
10	高坏 土師器	A [19.7] B (5.2)	坏部の破片。坏部は内彎ぎみに立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横位ナデ。坏部外面横位のヘラ削り後，ナデ，内面ヘラナデ後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色 普通	P41405 15% PL214 一部外面剥離
第122図 11	高坏 土師器	B (5.0) D 12.8	脚部下半の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のヘラ削り，内面横位のヘラ削り。裾部外面横ナデ，内面横ナデ後，横位のヘラ磨き。外面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	P41406 20% PL214
12	甕 土師器	A [18.0] B (10.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P41407 10%
13	甑 土師器	A [21.4] B 19.3 C [9.0]	底部から口縁部にかけての破片。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。端部は丸く収めている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上縦位のヘラ削り，下位横位のヘラ削り。内面横位のヘラナデ後，輪積み痕を残すナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P41408 40% PL213
第121図 14	手捏土器 土師器	A [6.2] B 5.5	坏形。体部から口縁部にかけて一部欠損。丸底気味の平底。体部から内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面指ナデ。外面凸凹。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 灰褐色 普通	P41409 70% PL214
15	ミニチュア土器 土師器	A 7.2 B 4.6 C 5.8	坏形。底部から口縁部にかけての破片。平底。体部はわずかに外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面指ナデ後，縦位と横位のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 灰褐色 普通	P41410 50% PL214

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第122図16	土玉	1.6～1.7	1.8	0.5	4.1	球体，表面ナデ	細砂粒，褐色	DP41022 100% PL220
17	球状土錘	3.1～3.2	2.7	0.7	27.8	球体，表面磨き	細砂粒，にぶい褐色	DP41023 100% PL220
18	土玉	0.9	1.7	0.1	1.1	棗形に近い。ナデ調整。表面滑らか。	細砂粒，黒色	DP41024 100% PL220

図版番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第122図19	臼玉	1.5	0.7	0.2	2.8	滑石	扁平な円筒形。表面凸凹，未調整カ。暗灰色	Q41036 100% PL222

第1102号住居跡（第123～125図）

位置　調査4区の北東部，H11d7区。

重複関係　北部で第1103号住居跡を掘り込んでいる。南部を第1100号住居に，南東部を第1101号住居に掘り込まれている。

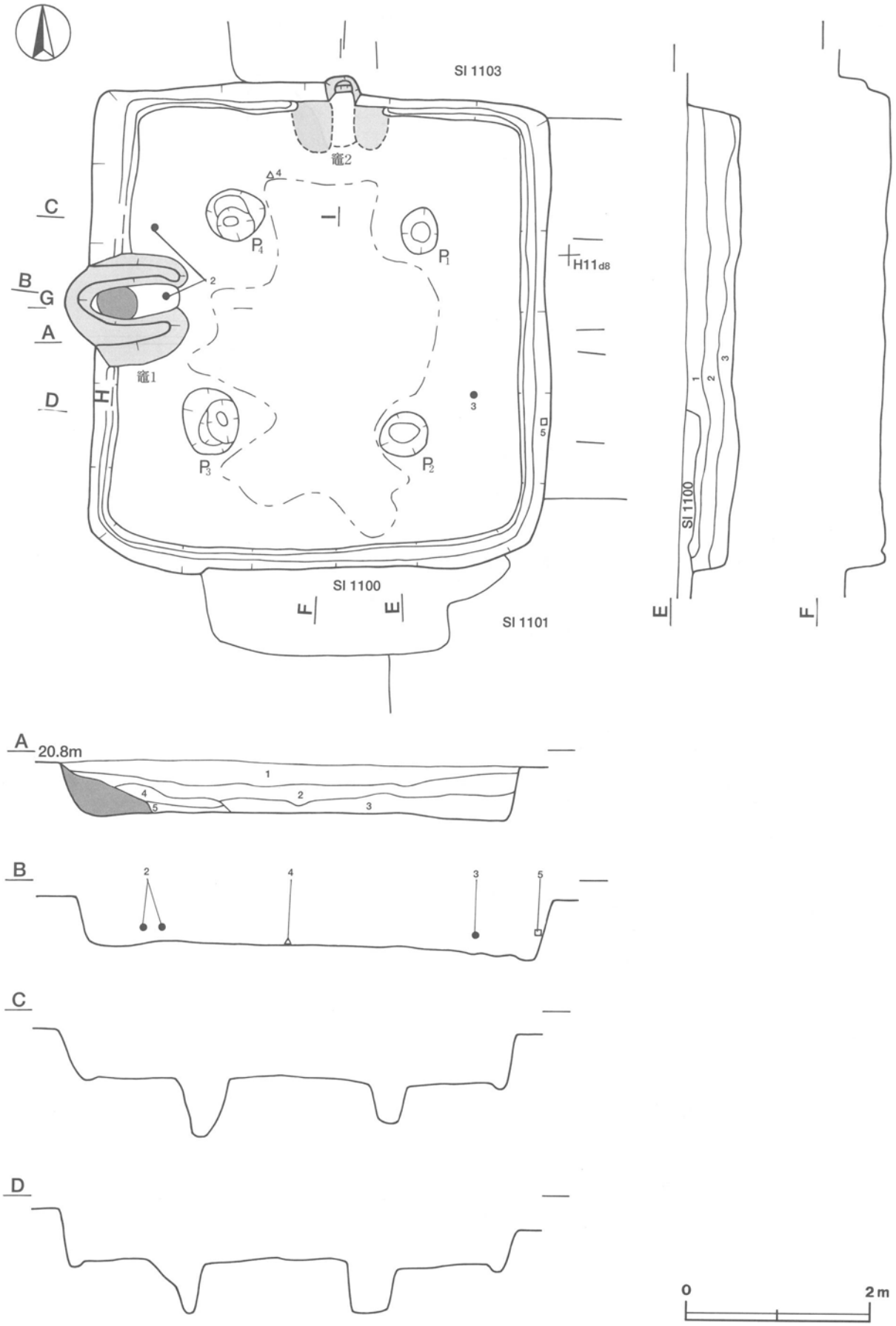
規模と平面形　長軸5.33m，短軸4.93mの方形である。

主軸方向　出入り口に伴う施設が検出されず，竈が2か所付設されているため，遺存状態から竈2を本跡の構築時の竈と推定し，竈2を通る軸線を主軸と判断した。この軸線の方位は，N－3°－Eである。

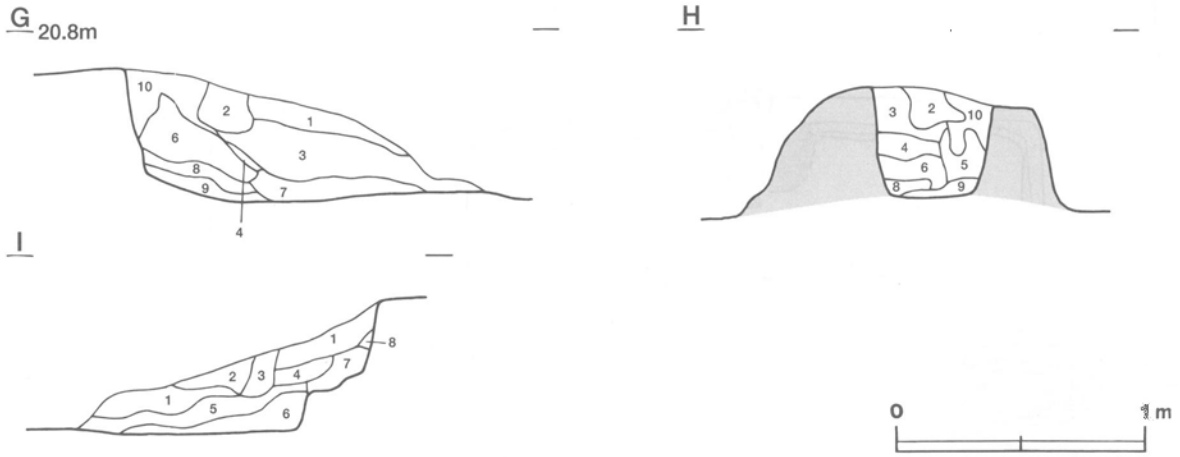
壁　壁高は48～50cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　2か所（竈1・竈2）。竈1は，西壁中央部を壁外に31cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで109cm，両袖部幅118cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第4層が粘土粒子を多量に含んでいることから，崩落土と考えられる。また，第9層は焼土ブロックや灰を含み，



第123図　第1102号住居跡実測図（1）



第124図　第1102号住居跡実測図（2）

下面が赤変硬化していることから，火床面と考えられる。火床面は，床面から5㎝ほど掘りくぼめられ，浅い皿状を呈している。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。竈2は，北壁中央部に付設されており，壁外への掘り込みは5㎝ほどである。袖部の遺存状態が悪く，両袖部ともに痕跡が確認できただけである。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用しており，火熱を受けて赤変している。煙道は，火床部から階段状に立ち上がる。竈の遺存状態から，竈2の破棄後，竈1を付設したと考えられる。

竈1土層解説

1	褐　　色	ローム粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
2	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，砂粒少量
3	にぶい赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量
4	にぶい黄褐色	粘土粒子多量，ローム粒子・砂粒微量
5	暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
6	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，粘土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック微量
7	にぶい赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
8	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
9	灰　褐　色	炭化粒子・灰中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
10	黒　褐　色	焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量

竈2土層解説

1	にぶい赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・砂粒微量
2	褐　　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
3	にぶい褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
4	暗赤褐色	焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
5	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
6	にぶい赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
7	暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，砂粒微量
8	暗赤褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・砂粒微量

ピット　4か所（P1～P4）。P1～P4は径48～59㎝のほぼ円形で，深さ44～61㎝である。いずれも各コーナー寄りに位置することから，主柱穴と考えられる。

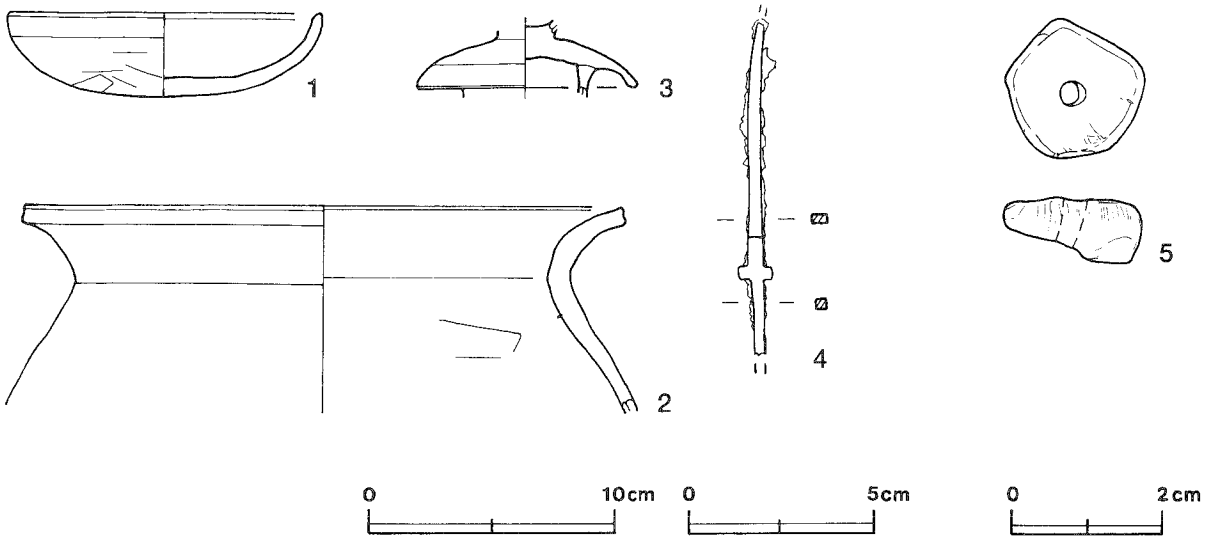
覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・炭化物少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量
3	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
4	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック微量
5	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

遺物　土師器片192点，須恵器片1点，鉄器1点（鏃），石製品1点（臼玉），撹乱により混入した須恵器片8点が出土している。第125図1の土師器坏の底部から口縁部片は，南西部の覆土中から出土している。他の土器と時期差がないことから，本跡に伴う可能性が高い。2の土師器甕の口縁部片は，竈1内の覆土下層から出土している。3の須恵器蓋は，長頸壺に対応するものと考えられ，東壁寄りの覆土下層から出土している。4の鉄鏃は，北部の床面から出土している。5の臼玉は，東壁際の覆土中層から出土している。2～5の遺物は，出土位置から，いずれも本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡は，竈の作り替えが行われ，廃絶時には西壁に竈を有していたと考えられる。時期は，出土土器から，7世紀代と考えられる。



第125図　第1102号住居跡出土遺物実測図

第1102号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第125図 1	坏 土師器	A [12.5] B 3.2	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ，内面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40018 15%
2	甕 上師器	A [24.0] B (8.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は緩やかに屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色，普通	P40020 10%
3	壺蓋 須恵器	A [8.8] B (3.1) F (2.4) G (0.8)	つまみ・口縁部・かえり一部欠損。天井部はドーム状を呈し，口縁部内面に長いかえりが付く。	天井部，口縁部内・外面ロクロナデ。つまみ・かえり貼り付け後，ロクロナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P40019 70%

図版番号	器種	計測値							材質	特徴	備考
		全長(cm)	篦被部長(cm)	篦被部幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第125図4	鏃	(8.9)	(6.6)	0.4	(2.3)	0.3	(0.3)	(6.9)	鉄	鏃身部欠損，棘状関	M40005　PL221

図版番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		径 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第125図5	臼玉	1.8	0.7	0.3	3.2	滑石	剥離面無調整，青灰色，片側穿孔	Q40004　100%　PL221

第1103号住居跡（第126・127図）

位置　調査4区の北東部，H11b7区。

重複関係　南西部を第1102号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　北部が調査区域外へ延びているため，全容は不明である。東西軸は8.66mで，南北軸は4.55mだけが確認できた。南東コーナーと南西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推測される。

主軸方向　N－8°－E

壁　壁高は38～48cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁際を巡っている。上幅12～14cm，下幅6～9cm，深さ8～10cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き，よく踏み固められている。

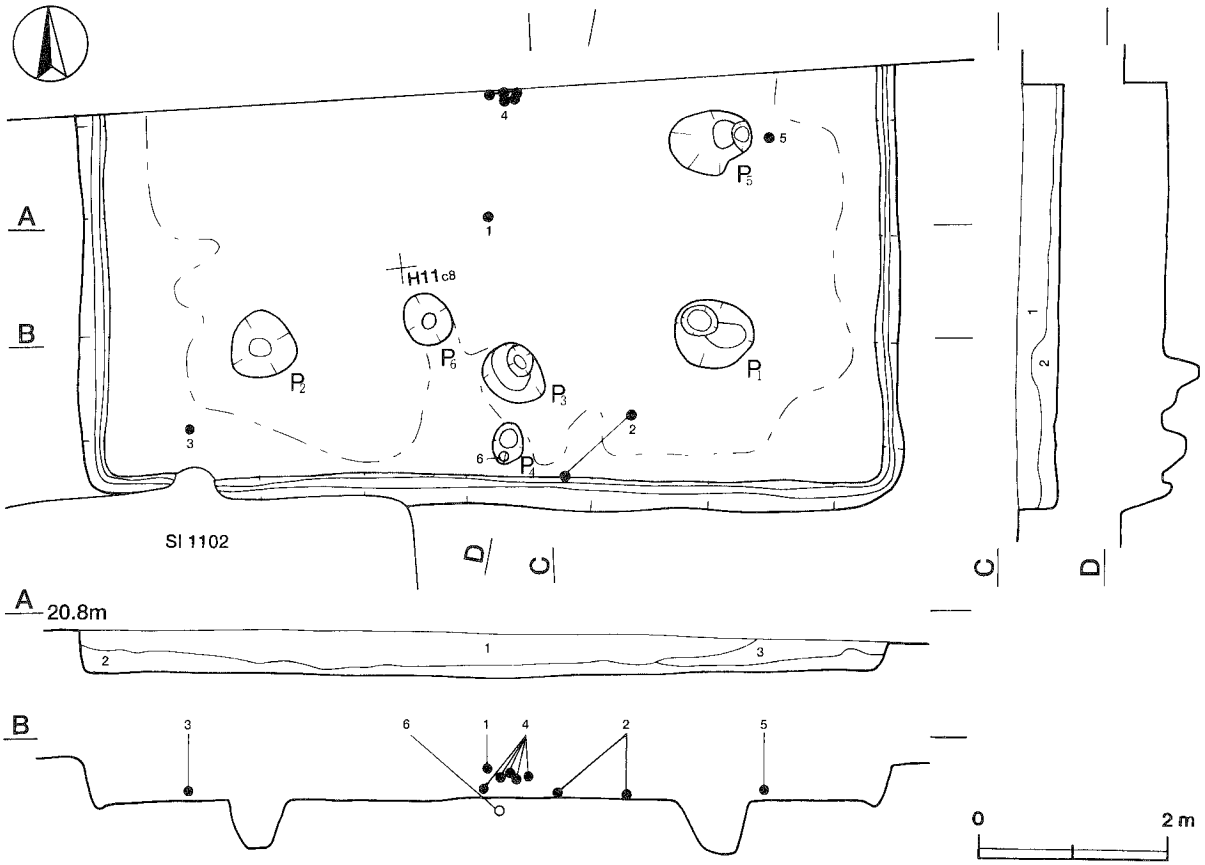
ピット　6か所（P 1～P 6）。P 1は径73cmのほぼ円形，深さ66cmで，P 2は径65cmのほぼ円形，深さ54cmである。それぞれ南東コーナー寄り，南西コーナー寄りに位置することから，主柱穴と考えられる。P 3は長径67cm，短径59cmの楕円形，深さ38cmで，P 4は長径44cm，短径31cmの楕円形，深さ26cmである。いずれも南壁中央部の壁際に位置し，住居の主軸線上に並ぶことから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 5は，長径89cm，短径71cmの楕円形，深さ70cmで，P 1の北側1.95mの距離に位置する。P 1とP 5は住居の主軸方向と同じ線上に並ぶものの，住居の規模に対して間隔が狭すぎることから，補助柱穴と考えられる。P 6は径52cmほどの円形，深さ54cmで，P 1とP 2を結ぶ線上に位置することから，補助柱穴と考えられる。

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

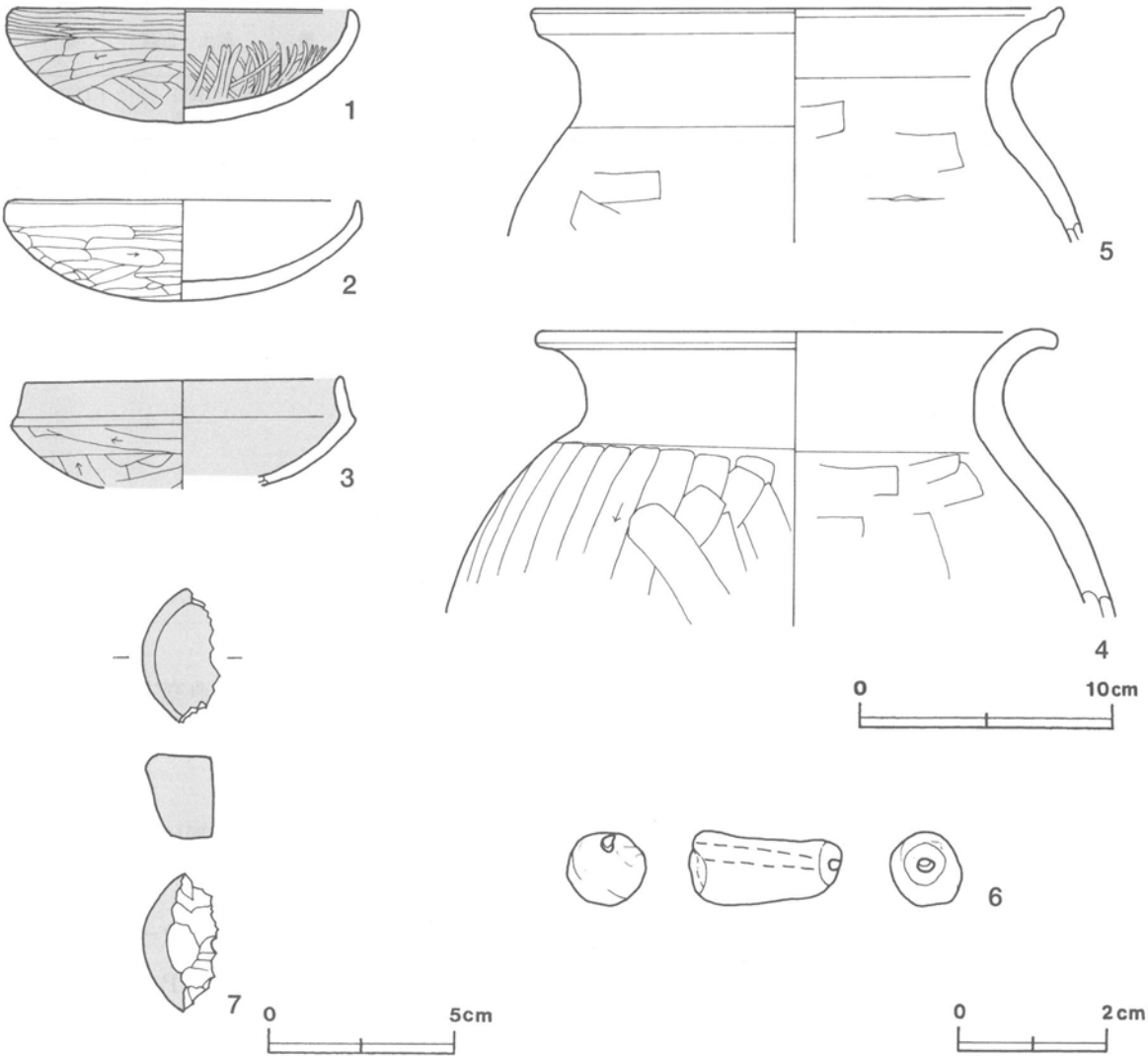
土層解説
1　黒褐色　焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片240点，土製品2点（管玉1，紡錘車1），撹乱により混入した須恵器片6点，陶器片4点が出土している。第127図1の土師器坏は，中央部の覆土中層から破片の状態で出土している。出土位置から，本跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。2の土師器坏は，南壁際とP 3の東側の床面から出土した破片が接合したものである。3の土師器坏の口縁部片は，南西コーナー部の覆土下層から出土している。4の土師器甕の口縁部片は，中央部の覆土下層及び中層から出土した破片が接合したものである。5の土師器甕の口縁部片は，P 5の東側の覆土下層から出土したものである。6の土製管玉は，P 4の覆土上層から出土している。2～6は，出土位置から本跡に伴うものと考えられる。7の土製紡錘車は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から，6世紀後半と考えられる。



第126図　第1103号住居跡実測図



第127図　第1103号住居跡出土遺物実測図

第1103号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第127図 1	坏 土師器	A 13.8 B 4.6	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部外面横位のヘラ磨き，内面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P40021 70%
2	坏 土師器	A [14.2] B 4.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色 普通	P40022 60%
3	坏 土師器	A [12.8] B (4.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り,内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P40023 30%
4	甕 土師器	A [21.1] B (11.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は緩やかに屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P40024 25% PL213
5	甕 土師器	A [21.4] B (9.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は外上方へわずかにつまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部内・外面横位のヘラナデ。体部内面に輪積み痕を残す。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色 普通	P40025 5%